

設置の趣旨等を記載した書類

目次

設置の趣旨及び必要性.....	2
学部・学科等の特色.....	4
学部・学科等の名称及び学位の名称.....	6
教育課程の編成の考え方及び特色.....	7
教員組織の編成の考え方及び特色.....	12
教育方法、履修指導方法及び卒業要件.....	15
施設、設備等の整備計画.....	19
入学者選抜の概要.....	24
取得可能な資格.....	27
実習の具体的計画.....	27
2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画.....	37
管理運営.....	38
自己点検・評価.....	38
情報の公表.....	39
教育内容の改善を図るための組織的な研修等.....	40
社会的・職業的自立に関する指導等及び体制.....	43
実務の経験を有する教員の配置に関する考え方や計画.....	45
実務実習が、実際にどのように行われるのか.....	45

① 設置の趣旨及び必要性

1 和歌山県立医科大学の基本理念

和歌山県立医科大学は、医学、保健看護学及び薬学に関する基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究するとともに、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材を育成することにより、和歌山県の医療・保健の充実を図り、もって文化の進展と人類の健康福祉の向上に寄与する。

2 「県内での進学機会」の提供

和歌山県内には大学が少なく大学進学者収容力※が4割を切っており（資料1）、県内の高等学校から県外の大学（短大含む）へ進学した学生の割合が著しく高い（資料2）。また、近畿においては奈良県と和歌山県には薬学部がなく（資料3）、毎年90人程度の学生が県外の薬学部に進学している（資料4）。

このような状況にあるため、和歌山県薬剤師会と和歌山県病院薬剤師会といった医療界から薬学部設置に対する大きな期待が寄せられている。（資料5）

本学における学部新設による大学の収容力増加は、地元出身者の進学ニーズに応えるとともに、県内（地元）に就職する人材を輩出するという観点において、地域の活性化と発展及び地方創生に貢献するものであり、それは地方大学が担う重要な役割であると認識している。

※大学進学者収容力＝（各県の大学入学定員／各県に所在する高等学校の卒業者のうち大学進学者の数）×100

3 地域における薬剤師需要

和歌山県が平成30年3月に大学等卒業予定者を対象とした「大学生等の就職意識調査」によると、「県内で就職したい」と回答したものが49.5%であった（資料6）が、大学卒業後に県内に戻ってくる若者は3割程度で、地域の活力低下や人口減少にもつながっている。

上述の調査において希望する業種で「医療・福祉」は「公務員・教員」に次いで2位（資料6）であり、潜在的な薬剤師志望者は少なくないと考えられる。人口当たり薬剤師数はようやく全国平均値に達したものの、地域偏在が顕著であり、特に紀中・紀南地域において薬剤師不足が深刻である。（資料7）。

また、急激に少子高齢化が進展する中、在宅医療の充実、地域包括ケアシステムの構築は喫緊の課題となっている。在宅医療では、薬剤師を含む、医療・保健・福祉・行政などの専門職によるチームでの活動が重要であり、地域包括ケアシステムの構築においても、切れ目のないサポートを実現するため、多職種連携が求められている。このような状況において薬剤師が果たす役割は大きく、重要な責務を担うこととなる。

本学で薬学部を開学し、学部の特色の項目で記載している医学部・保健看護学部・附属病院と連携できる強みを活かした多職種連携教育を推進することにより、

地域包括ケア推進の一翼を担うことができる。

4 養成する人材像

薬剤師は、チーム医療の一員として薬物治療に参画するとともに、地域包括ケアシステムの担い手として他職種・関連機関と連携し、患者に対して一元的・継続的に薬物を提供し支援することが求められている。

加えて、未曾有の超高齢社会を迎え、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう地域包括ケアシステムの更なる推進が必要であるが、本県では県南部の薬剤師が不足するなど医療資源に偏在があり、地域において医療体制を築いていくうえでも薬剤師不足地域の解消が急務である。

このような全国的・地域的な状況を踏まえ、以下のような薬剤師を養成する。

(1) 高い実践能力を有する薬剤師

医療の担い手としての責務を果たすべく、医療倫理を身に付け、薬剤師として求められる基本的な資質を備えた上で、先進的で高度な専門知識と技能、高い実践能力を有する薬剤師を養成する。

(2) 地域で活躍できる薬剤師

研究を通して問題解決能力を培うとともに、多職種連携教育を推進しチーム医療の一員として他の職種と協働・連携できる協調性や対話能力を養うことにより、地域の問題を解決することができる薬剤師を養成する。

(3) 国際的に活躍できるファーマシスト・サイエンティスト

新たな発展へのシーズを見出し結実させることができるよう、実務・研究を通じて培った能力をもとに国際的に研究成果を発信できるファーマシスト・サイエンティストを養成する。

5 ディプロマ・ポリシー

和歌山県立医科大学薬学部は所定の単位数を習得し、以下の能力を獲得した者に学士（薬学）の学位を授与する。

- (1) 人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの
- (2) 総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践能力や研究を行うに足る技能を有しているもの
- (3) 単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの
- (4) 国際的視野を有し、地域での医療に貢献できるもの

6 養成する人材像とディプロマ・ポリシーの相関

高い実践能力を有する薬剤師に必要な医療人としての専門的な知識と技能の修得及び活用、倫理観、患者の社会心理的背景への配慮、国際的に活躍できるフ

ファーマシスト・サイエンティストに必要な国際的視野、専門知識、技能、また地域で活躍できる薬剤師に必要な実践能力、患者の社会心理的背景への配慮、倫理観等について、ディプロマ・ポリシーで求めている。(資料 8)

7 組織として研究対象とする中心的な学問分野

本県において重点的に取り組むべき喫緊の課題として、本県の死因第一位である「がん」対策や、高齢化が進展している本県において患者の増加が懸念される「認知症」対策などが挙げられる。

本学では、これらの課題に対して、質の高い最先端の研究を行い、その研究成果を医療水準の向上に繋げ、地域への還元を目指している。

こうした先進的・独創的な研究を推進するため、既存学部である医学部と連携しながら、基礎から臨床まで幅広く研究対象として治療法・予防法の確立に取り組んでいく。

また、養成する人材像で掲げる地域で活躍できる薬剤師の育成につながる研究として、薬局薬剤師による糖尿病や高血圧の患者へのコンサルテーション（生活習慣改善支援）研究があげられる。これまで、糖尿病患者に対する薬局薬剤師の介入による血糖値の改善や、薬局薬剤師の生活習慣改善支援による高血圧患者の血圧改善効果が示されてきた。

これらの研究により、特に医師が不足しがちな山間部等の過疎地において、薬局薬剤師が地域住民の生活習慣改善支援に貢献し、地域包括ケアシステムにおける薬局薬剤師のロールモデルとなることが期待される。

② 学部・学科等の特色

設置する薬学部には 6 年制の薬学科のみ一学科を置く。本学は 2025 年に創立 80 周年を迎えるに当たり「地域とともに世界に羽ばたく大学へ」をスローガンに更なる飛躍を目指している。教育の充実、研究の充実、最先端医療と地域医療の充実を図るため、教職員が一丸となって鋭意努力を積み重ねている。この度、薬学部新設の認可申請を行うに当たり、本学が 3 学部からなる医療系総合大学として生まれ変わる絶好の契機であると認識している。

国際的な視点を持つことは当然であるが、一方で県内の薬剤師の状況を見ると、和歌山市を含む和歌山保健医療圏では人口 10 万人当たりの薬剤師数は全国平均を約 80 人上回っているが（資料 7、平成 30 年 12 月現在）、それ以外の紀北地域や紀南地域では平均を下回っている。今後特に県南部では高齢化が進展し、過疎化がいつそう進展する見込みであり、地域医療や地域包括ケアシステムの構築においてより多くの薬剤師の確保が喫緊の課題となっている。薬学部の新設はそういった地域課題の解決を最も重要なミッションと考えている。

上記の状況を踏まえ、薬学部が養成しようとする人材は、①高い実践能力を有する薬剤師、②地域で活躍できる薬剤師、③国際的に活躍できるファーマシスト・

サイエンティストの3つの人材である。薬剤師に求められる専門能力の高度化・複雑化に対応できる人材、また、実務や研究の中で見出した問題とその解決策を国際的に発信できる人材の養成を行う。

本学薬学部の特色は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」が提言する「高等教育の多様な機能と個性の特色の明確化」において示された方針を踏まえ「高度専門職業人養成」に比重を置き、研究面でも活躍できる薬剤師養成である。

まず、教育面の「高度専門職業人養成」については、医療人として総合的な知識・技能・態度を備えた、医療現場の第一線で活躍できる薬剤師養成であると考えている。そのためには薬学に関する幅広い専門知識と高い実践能力はもちろん、チーム医療の一員として多職種のチーム員と連携協働できる協調性や対話能力を身につける必要がある。本学には医学部、保健看護学部が先行しており、また高度先進医療で地域医療を支える附属病院が併設されている。このような環境を最大限に活かして多職種連携教育を推進することで、互いの専門性を理解し、協動的に職務が遂行できる薬剤師養成を行う。

具体的には、1年次から、医学部、保健看護学部、薬学部の合同授業であるケア・マインド教育や早期体験学習等を行うことにより、早期から医療マインドの醸成に全学で取り組む。2年次以降は「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」に沿った教育を行うとともに、他の国公立大学（平均14%）と比較して臨床系教員の割合（教員定数54名中18名で約33%）が高い特色を活かし、2年次前期で地域に根ざした薬学を学ぶ地域医療薬学、2年次後期から3年次でバイタルサインの項目とそれらの仕組みを理解し、測定方法、正常値を学ぶ病態生理学や医師の資格をもった教員による薬物治療学、4年次前期からは、「医療安全学Ⅰ」や「臨床感染制御学」など臨床系科目を中心に行い、事前学習、「病院・薬局実習」とつなげ、6年次前期で実務の集大成となる「病院・薬局薬学」を配置する。特に、実務上の倫理教育の徹底を意識し、時期は初年度と卒業直前に分け、それぞれの段階に対応した倫理教育を行い、実務家教員もこの教育に参画する。

次に、研究面において、薬学が対象とする領域は、基礎薬学から臨床薬学まで広範にわたるが、いずれの領域でも科学の視点から自ら問題を発見し、解決する能力が求められる。このような科学的思考力は、将来、研究者の道を歩む人のみならず薬剤師として臨床現場で働く人にとって極めて重要な能力の一つとなる。本薬学部では、研究マインドを兼ね備えたファーマシスト・サイエンティストを育成するため、基礎科目から臨床科目まで幅広い教育を徹底し、3年次後期から研究室配属を行い、卒業研究の質と量を確保し、研究力の向上を図る。また、研究者としての視野を広げるためには、英語科学論文を読みこなすことや国際学会を経験するなど、様々な場面で英語力が不可欠となるため、全学年において「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の英語4技能の向上が図れるカリキュラム編成を

行う。具体的には、1年次から3年次前期まで基礎的な英語教育に加え科学英語の学習を行い、3年次後期から6年次にかけて研究室に所属して実施する「特別実習Ⅰ」、「特別実習Ⅱ」で英語論文の輪読や実際の論文作成等を行う。

さらに、医療系3学部体制の特長を活かし、医学部、保健看護学部、薬学部による共同研究を推進するため、薬学部新設に合わせ、医学部と附属病院がある紀三井寺キャンパスに医薬看共同研究施設（仮称）を建設する。この施設を拠点とし、学部間・病院が連携した創薬研究や治験を含む臨床研究の活性化を図るとともに、民間企業等と連携した共同研究講座・寄附講座を設置するなど、医療系総合大学として研究力の更なる向上を図る。

③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

学部・学科等の名称及び学位の名称については、文部科学省高等教育長（通知）「臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とする薬学を履修する大学の設置等の認可の申請手続き等について」に従い、薬学部、薬学科、学士（薬学）とする。

英語名称については以下のとおりとする。

学部名 薬学部 School of Pharmaceutical Sciences

学科名 薬学科 Division of Pharmacy

学位 学士（薬学） Bachelor of Pharmacy

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

1 カリキュラム・ポリシー

養成する人材像及びディプロマ・ポリシーに基づき、カリキュラム・ポリシーを下記のとおりとする。

和歌山県立医科大学薬学部は以下の教育を通じて社会に貢献できる医療人を育成する。

- (1) 社会人として必要な教養とともに、医療人として必要な倫理観、共感的態度、コミュニケーション能力、ケア・マインドが育成できるよう、早期体験や医療福祉施設での参加型による教育
- (2) 薬学に必要な自然科学、人文、社会科学及び外国語に関する教養を修得できる教育
- (3) 薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した「基本事項」、「薬学と社会」、「薬学基礎」、「衛生薬学」、「医療薬学」、「薬理・病態、薬物治療」、「薬学臨床」、「薬学研究」などの薬学の基盤となる領域から専門領域まで着実に身につけることができる教育
- (4) 実務実習において薬局、病院や在宅の場で参加型実習を行い、臨床実践能力が獲得できる教育
- (5) 地域実習及び国際交流を積極的に行い、広い視野を養い、地域社会及び国際社会で活躍できる資質を修得できる教育
- (6) 卒業研究を通して、研究能力や問題解決能力が獲得できる教育

全ての開講科目について、それぞれの学習目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知し、学修成果を厳格かつ公正に評価する。

2 教育課程の体系的な編成方針、編成方法

本薬学部は、未曾有の超高齢化社会を迎え、地域包括ケアシステムの担い手としてチーム医療に参画し、高い実践能力を発揮し、地域で活躍できる薬剤師を養成するとともに、あわせて研究マインドを持った国際的に活躍できるファーマシスト・サイエンティストを養成し、地域に貢献する人材養成はもとよりこれからの薬学の発展を支える人材を送り出すことを使命と考える。

1年次は特に医薬看3学部合同の「ケア・マインド教育Ⅰ」、「ケア・マインド教育Ⅱ」や「英語」、「国家・社会と法」、「文学」、「心理学」などの語学や人文社会系の教養科目、化学系、物理系、生物系の基礎的科目を学び、あわせて薬学基礎実習を学ぶ。2年次から4年次にかけて薬学教育モデル・コアカリキュラムをメインに、2年次において「地域医療薬学Ⅰ」、「地域医療薬学Ⅱ」を学習するとともに、3年次後期からそれぞれが各研究室に配属される特別実習（卒業研究）

を行う。5年次は「病院・薬局実習」を実施する。6年次は5年次の実務実習の経験をさらに発展させるため「病院・薬局薬学」や6年間の総括である「臨床薬学演習」などを学ぶ。以上の教育を通じて、医療人として高い使命感・倫理観を有し、高度な専門的知識と研究マインドをもった地域医療の現場で活躍できる薬剤師を養成する。(資料9)

必修科目、選択科目の設定にあたっては、薬学教育モデル・コアカリキュラムに記載されている「薬剤師として求められる基本的な資質」を身に付けるための一般目標と到達目標を含む科目は必修科目としている。その上で、本学部の特色となる教育を実現するために設けた科目も必修科目としている。例えば、地域薬局のあり方や在宅医療における薬剤師の役割、ヘルスプロモーションの手法などを学ぶ「地域医療薬学Ⅰ」、「地域医療薬学Ⅱ」、台風などの災害が多い本県において、災害時の薬剤師の役割を学習する「災害薬学」などである。

また、学生が幅広く教養を身に付けられるよう、第二外国語(フランス語、ドイツ語、中国語)を含む人文社会系科目を選択科目として設けている。

(1) 1年次

医薬看3学部合同の「ケア・マインド教育Ⅰ」、「ケア・マインド教育Ⅱ」を履修する。この科目は多職種連携の基礎を培うこととし、多職種の中で説得力のある有益な発言ができるコミュニケーション力、患者に寄り添い、患者の目線で考えることのできる薬剤師としての土台を築く。合わせて、「薬学入門Ⅰ」「薬学入門Ⅱ」を履修し、「薬学入門Ⅰ(早期体験学習Ⅰ)」、「薬学入門Ⅱ(早期体験学習Ⅱ)」を行うことにより、薬剤師としての使命感、倫理観を身につけさせ、将来への心構えを持てるようにする。

英語、第二外国語の語学や「国家・社会と法」、「文学」、「心理学」などの人文社会系の科目を履修する。第二外国語は、「フランス語」、「ドイツ語」、「中国語」から1科目を選択する。

自然科学系の科目として、「有機化学」、「有機化学演習」、「無機化学」、「基礎物理学」、「生物学」、「情報基礎」、「統計基礎」等を履修する。

また、専門科目として、有機化学、物理化学、生物系の科目を履修する。特に有機化学、物理化学の科目ではそれぞれに関連する演習を行う。また実験の基礎を学ぶため「薬学基礎実習Ⅰ」、「薬学基礎実習Ⅱ」を行う。

「保健体育」は1年次前期の必修科目となっている。薬学の様々な分野で健康の維持増進に関わる薬学部生には、自ら保健体育を学ぶことにより、将来その効用を健康増進活動に活かしていくことが求められる。

(2) 2年次

1年次で学んだ英語を元に、薬学関連分野の専門用語や専門的事項の英語表

現などを含む薬学・科学英語の基本的知識と技能を修得するため、「薬学英語Ⅰ」、「薬学英語Ⅱ」を学習する。専門科目では有機化学、物理化学系などの基礎科目を学習する。さらに免疫学、感染防御学、薬理学など、より専門性の高い分野の学習をし、これに合わせて、関連科目に相当する物理・化学系、生物系の専門実習を行う。

また、地域における薬剤師の役割や活動について学習する「地域医療薬学Ⅰ」、「地域医療薬学Ⅱ」を学習する。

(3) 3年次

「薬学英語Ⅱ」の講義で修得した知識をベースに「薬学英語Ⅲ」を半期履修する。専門科目において、2年次から引き続き、免疫学や薬理学の分野を学習し、加えて製剤学や衛生化学といったより専門性の高い分野を学習する。合わせて「がん・化学療法学」、「薬物動態学Ⅰ」、「薬物動態学Ⅱ」など、より臨床に近い科目を学習する。薬剤師にとって重要となる倫理観を身につけさせる「医療倫理」を履修する。合わせて、医療系の専門実習を行う。

また、台風などの災害が多い本県において、災害時の薬剤師の役割を学習する「災害薬学」を履修する。

研究室配属に先立ち、「特別実習（入門）」を3年次前期に履修し、各研究室の研究内容を把握し、3年次後期から「特別実習Ⅰ」として研究室に配属する。

(4) 4年次

「臨床薬剤学Ⅰ」、「臨床薬剤学Ⅱ」、「臨床コミュニケーション」、「臨床感染制御学」など、より臨床に近い科目を履修する。また、事前学習や病院・薬局実習に先立ち「医療安全学Ⅰ」を履修する。後期から「事前学習Ⅰ」、「事前学習Ⅱ」を行う。また、3年次後期から引き続き「特別実習Ⅰ」を合わせて行う。

(5) 5年次

病院や薬局での実務実習を通じ、薬剤師の仕事を学ぶ。本学附属病院や協力医療機関などで行う。合わせて「特別実習Ⅱ」を行う。

(6) 6年次

病院・薬局実習終了後、病院や薬局の専門的な機能や仕組み、それらの薬剤師の実践的な役割に関するアドバンスト的な知識を修得する「病院・薬局薬学」を履修する。また、6年間の総括である「臨床薬学演習」を履修する。5年次から引き続き「特別実習Ⅱ」を行い、卒業論文をまとめ、発表を行う。

3 各科目区分の科目構成とその理由

教養科目は、薬剤師であり社会人であり、また一人の人間として広い視野で物

事が考えられる能力を養うとともに、英語を中心とする外国語のほか、人文社会系の科目を配置し、専門基礎となる自然科学系の科目なども併せて配置する。

専門科目は、総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践力や研究力を身につけるための科目を配置している。

4 設置の趣旨を実現するための科目構成と考え方

本学部は、未曾有の超高齢化社会を迎え、地域包括ケアシステムの担い手としてチーム医療に参画し、高い実践能力を発揮し、地域で活躍できる薬剤師を養成するとともに、あわせて研究マインドを持った国際的に活躍できるファーマシスト・サイエンティストを養成し、地域に貢献する人材養成はもとよりこれからの薬学の発展を支える人材を送り出すことを使命と考える。これらを実現するため以下の特色ある教育を行うこととし、必要な科目を設定した。

(1) 高い実践能力を有する薬剤師

1年次～2年次の教養教育を基礎的な土台とし、その上に2年次から本格的に始まる専門教育をモデル・コアカリキュラムに準拠しつつ、臨床系教育も手厚く配置することで実現する。特に1年次の「ケア・マインド教育Ⅰ」、「ケア・マインド教育Ⅱ」で多職種連携の基礎を培うこととし、多職種の中で説得力のある有益な発言ができるコミュニケーション力、患者に寄り添い、患者の目線で考えることのできる薬剤師としての土台を築く。また、2年次の「地域医療薬学Ⅰ」、「地域医療薬学Ⅱ」において地域において求められる薬剤師像を身に付け、医療現場で高い実践能力を発揮しうる人材を養成する。

(2) 地域で活躍できる薬剤師

和歌山県は少子高齢化が進展し推計人口は平成31年4月1日現在で約92万人で23年連続で減少傾向にある。高齢化率は平成31年1月1日現在で32.0%、最も高齢化率が高いのは県南部の古座川町で52.3%となっている（資料10）。都市部と比べ高齢化の進展が一足早く進んだ状態で、今後この状態が当分持続するものと推定される。

よって本学部は、現状を正しく認識し、適切に対処できる薬剤師、つまり地域で活躍できる薬剤師の養成を目指すものである。

具体的には、上記(1)と重複することとなるが、「ケア・マインド教育Ⅰ」、「ケア・マインド教育Ⅱ」、「地域医療薬学Ⅰ」、「地域医療薬学Ⅱ」において地域に出て通用する薬剤師を養成するとともに、早期体験学習、「病院・薬局実習」などの臨床系科目で、地域で即座に役立つ知識、技術を体得し地域のリーダーとなる薬剤師養成を目指す。なお、「病院・薬局実習」は基本的に和歌山県内の主要病院や薬局に配属することとし、県内医療現場の実態を自らの目で実体験させる。

(3) 国際的に活躍できるファーマシスト・サイエンティスト

国際性と地域性は別概念と捉えられがちだが、本学部が考える国際性は、地域に根差した課題を解決する手法が世界的にも通用するものという信念に基づいている。外国から日本の地域を見ることももちろん重要ではあるが、まずは自らの足元である地域社会、地域医療の現状を見て、そこから導き出される課題解決策を世界に研究論文として発信する。そういった学部内での活動を通して、ファーマシスト・サイエンティスト＝薬剤師科学者を養成する。

具体的には、学生を3年次後期から研究室に配属し、6年次まで研究を行うこととする。配属に先立って3年次前期で「特別実習（入門）」を実施する。6年次には国際学会での発表を学生に推奨する。また、国際性の基礎となる英語能力の向上と研究能力、そして研究成果を世界に伝える論文作成能力の修得を目指す。加えて、教員の中には外国で研究活動を行った経験のある者が多数いるため、講義や特別実習その他様々な機会にその経験を学生に伝える。学生には世界の中での和歌山県といった視点を常に持てるよう教育を進めていく。

5 教養教育の実施方針

まず、教養教育は薬学にとらわれることなく、これからの大学生活や社会人生活を包含する大きな意味での人生のプラスになるような勉強という意味での教養を学ばせたいと考えている。また、国際的に活躍できる人材を育成するため、語学教育も充実させている。そういった趣旨のもと、人文社会系科目は、「哲学」、「文学」、「心理学」、「国家・社会と法」、「経済学」、英語、第二外国語（フランス語、ドイツ語、中国語）といった科目を設定する。

自然科学系科目については、統計学、物理、化学、生物学を中心に設定をし、自然科学領域における教養を身に付けさせることを目的としている。

研究、論文作成等に必須となる英語であるが、2～3年次に薬学英语を配置し、1年次の英語を元に、薬学論文作成能力の修得を主目的とした授業を提供する。

6 地域包括ケアシステムへの参画意欲を高める取り組み

本学は地域で活躍できる薬剤師の育成を重要な目的としている。地域で活躍できる薬剤師になり得るには、それぞれの地域で日々生活をしている老若男女の暮らしを想起できなければならない。自分らしく安心した生活を送るためには、まず健康が第一であり、薬剤師は他の医療関係者と密接に連携し、地域の人々の健康を守る使命がある。その使命感を修得し、地域のために役立つことの重要性を認識させることは重要な目標である。具体的には、1年次では「保健体育」で健康の維持増進や生涯スポーツの重要性を理解し、「ケア・マインド教育Ⅰ」、「ケア・マインド教育Ⅱ」で将来、チーム医療のメンバーとなる医師や看護師を目指す学生とともに患者目線で考えることの重要性やコミュニケーション方法を学

び、早期体験学習で医療現場等で働く医療職の姿や患者の受けるサービスについて学習する。2年次では「地域医療薬学Ⅰ」、「地域医療薬学Ⅱ」で薬剤師が地域において果たすべき役割や活動について学ぶ。5年次では「病院・薬局実習」で計22週の現場実習を通じそれぞれの指導薬剤師から現場の生の声を聴きながら薬剤師業務に必要な知識・技術を学ぶ。6年次では「病院・薬局薬学」で実務の集大成となるまとめの学習を行う。これらの地域医療・臨床に重点を置いた科目により、地域の中でリーダーとなって地域包括ケアシステムをけん引することができる薬剤師の養成を目指す。

⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色

1 教員編成及び教員配置の考え方

薬学部薬学科の教員編成においては、特定の分野に偏らないよう配慮するとともに、教員の年齢構成にも十分配慮した。

開設予定年度である令和3年度における専任教員数は30人である。開設3年目にあたる令和5年度までに54人の専任教員(うち教授22人。また、実務の経験を有する専任教員10人を含む。)を授業科目の開講にあわせ、段階的に配置することとする。この教員構成は、大学設置基準上の必要専任教員数(専任教員28人以上、うち14人以上が教授、実務の経験を有する専任教員5人以上。)を十分に満たしている。

教員組織に関しては、教育及び研究分野に応じて18研究室を編成する。それぞれの研究室には専任の教授、准教授(講師)、助教を各1名配置する3名体制を基本としつつ、例えば薬学実務実習に関わる臨床薬学系の研究室には手厚い配置を行うなど、適切な教育研究を実施する観点から弾力的な教員配置を行っている。なお、各研究室に博士号の学位を有しかつ十分な研究業績と教育能力を有する専任の教授を必置し、学生への教育指導に遺漏のないよう配慮した。

講義・演習・実習の実施にあたっては、各研究室の教員(教授、准教授、講師、助教)がそれぞれの役割分担及び連携の下で、組織的に学生の教育指導を行う体制を確保する。すなわち、教授が統括的・中心的役割を果たしつつ、准教授以下の教員は個々の教育能力に応じた教育指導を担当する。その際、教育経験の浅い教員に配慮し、若手とベテランの連携(例えば演習や実習を教授と助教のペアで担当)を意識した体制作りを行うことで、研究室における学生指導能力の維持向上に努める。

なお、講師以上の専任教員は38人いることから、講師以上の専任教員だけでも授業科目の多くは担当可能であるが、助教については、次代を担う若手教員を育成するという観点から、実習関係を中心に授業科目に参加させることとし、学生への教育指導に支障が生じないように、講師以上が助教に対し十分なサポートを行う。また、若手教員の教育能力を高める方策として、大学や学部単位でのFD活動を通じ、「わかりやすく知識を伝える能力」、「学生の意欲を引き出

す能力」、「適切に学生を評価する能力」あるいは「大学や学部の教育目標を理解し共有する能力」など身につける機会を設ける。

2 教員負担や学生指導に不具合を生じさせない科目分担の考え方

特定の教員に担当科目が偏重しないよう、科目の割当において十分配慮した。その結果、全研究室で共通となる特別実習Ⅰと特別実習Ⅱを除いた1研究室あたりの担当科目数は、4～8科目の範囲内に収まっている（なお、医療教育企画室は19科目と比較的負担割合が大きい、2名の専任教授を配置するため教授1人当たり換算では9～10科目となり他の研究室と大差はない。）。

また、「薬学入門Ⅰ」、「薬学入門Ⅱ」、「ケア・マインド教育Ⅰ」、「ケア・マインド教育Ⅱ」、「事前学習Ⅱ」、「臨床薬学演習」、「薬学特別演習」等は共同授業やオムニバス方式で実施することで、教員負担や学生指導に不具合が生じないように配慮した。

3 実務家教員の配置

6年制の薬学部薬学科では高い実践能力を有する薬剤師を養成すべく10人（基準上は5人以上。）の専任実務家教員を配置する。（教員組織全体に占める割合は18.5%。）

実務実習に必要な基本的知識・技能・態度を修得する「事前学習」はもとより、薬剤師の各活動分野における役割と責任を初年次の段階で理解する「薬学入門」「薬学入門（早期体験学習）」等科目にも実務家教員を配置し、豊富な実務経験に基づいた効果的な教育を展開する。

また、臨床・社会薬学分野を担当する「病院薬学」「社会・薬局薬学」「医療薬剤学」「医療開発薬学」にそれぞれ実務家教員を配置する。中でも、「社会・薬局薬学」の教員には保険薬局での薬剤師勤務経験を有する実務家教員を採用し、地域包括ケアシステムの中で進められてきた「かかりつけ薬局・薬剤師」「健康サポート薬局」制度など、地域医療連携における薬剤師の役割について経験に基づいた指導を実施する。

4 中心となる研究分野

本県において重点的に取り組むべき喫緊の課題として、本県の死因第一位である「がん」対策や、高齢化が進展している本県において、患者の増加が懸念される「認知症」対策などが挙げられる。

これらの課題に対し、本学の既存の医学部では先端医学分野における研究体制の強化を図っているところである。

薬学部においても、こうした医学部の研究と連携を図りつつ、物理・化学薬学、生命薬学、医療薬学及び臨床・社会薬学の4分野で、疾病の治療や予防及び健康維持・増進に貢献しうる研究を実践していく。

がん対策に関しては、病態生理学の視点からがん発生メカニズムの究明、天然物化学に基づいたツール分子・創薬シーズ開発、さらに臨床薬学の立場から抗がん剤の適正使用や副作用対策に向けたリバーstransレーショナルリサーチなどに取り組む。

認知症対策に関しては、ケミカルバイオロジック的手法を用いたアミロイドβの凝集阻害剤の開発、認知症の原因究明に向けた脳神経科学からのアプローチ、さらに認知症治療における薬剤師介入の有用性の検証など、基礎から臨床まで幅広い薬学領域で取り組みを進めていく。

また、既存の保健看護学部とも連携し、例えば薬剤師と看護師の積極関与による健康維持・増進に貢献する研究開発など、臨床系薬学と保健看護学の学際的研究を推進する。

5 研究体制について

上記のような研究を展開するための組織体制として、薬学部では4つの「部門」を設ける。すなわち、物理・化学薬学部門、生命薬学部門、医療薬学部門、臨床・社会薬学部門の4部門である。

物理・化学薬学部門は、薬品物理化学研究室、薬品化学研究室、生薬・天然物化学研究室からなる。

生命薬学部門は、病態解析学研究室、生物化学研究室、分子生物薬学研究室、生体機能解析学研究室、衛生薬学研究室からなる。

医療薬学部門は、病態生理学研究室、薬品作用学研究室、薬物治療学研究室、薬剤学研究室からなる。

臨床・社会薬学部門は、病院薬学研究室、社会・薬局薬学研究室、医療薬剤学研究室、医療情報薬学研究室、医療開発薬学研究室からなる。

また、これらの部門とは別に医療教育企画室を設置する。ここでは薬学教育そのものを研究対象とし、教育プログラムの改善や充実に向けた科学的アプローチに取り組む。こうした研究のアウトカムとして、学部教育の質的向上や地域や時代のニーズに対応した新しい薬剤師教育プログラムの構築を目指す。

医療教育企画室には教授2名（基礎担当・臨床担当各1名）、准教授2名（教養英語・科学英語各1名）及び助教2名（基礎担当・臨床担当各1名）を配置し、6名体制とする。教授2名については、いずれも博士の学位があり、既設大学の薬学部において10年程度の教育実績を有している。准教授2名についても博士の学位があり、大学での教育実績を有している。助教2名はいずれも薬剤師としての実務歴（非常勤を含む）があり、今後博士の学位を取得する予定である。なお、医療教育企画室長は学部長が兼務することになっており、学部長をトップとして2名の教授を中心に運営を行う。（資料11）

6 年齢構成について

薬学部薬学科の専任教員の年齢構成は、開設年度（令和3年度）の3月31日時点において、29歳以下が10名、30～39歳が11名、40～49歳が18名、50～59歳が10名、60～65歳が2名、66歳以上が3名となっており、40歳代をピークに幅広い年齢層から構成している。

また、完成年度（令和8年度）の3月31日時点において、30～39歳が17名、40～49歳が14名、50～59歳が14名、60～65歳が4名、66歳以上が5名となる見込みであり、中核的年齢層ともいえる30歳代～50歳代において年代毎にほぼ均等に配置され、研究教育水準の維持向上及び研究教育の活性化に支障がない年齢構成となっている。

7 定年に関する学内規程との関係

本学の教員の定年は、職員就業規則第21条第1項第1号において「満65歳」と定められている。その例外として、同規則第21条の2において「法人が教育研究上特に必要と認めるときは、別に定めるところにより前条第1項第1号に規定する定年によらず、又は定年を超えた教員を新たに採用することができる。」と定められている。

この規定を根拠に制定された「教員の定年の特例及び定年を超えた者の採用の特例に関する規程」では、薬学部設置認可における教員審査の対象となる教員を新たに採用する場合は完成年度まで定年を延長することができる旨規定されている。

従って、この特例の対象となる5名（専任教員に占める割合は10%未満。）は65歳を超えて完成年度まで勤務することができる。

なお、定年延長する教員の後任となるべき教員については、研究教育水準の維持向上及び研究教育の活性化に支障がないよう、完成年度終了後の年齢構成に十分配慮した教員補充を行うこととする。

資料12に「公立大学法人和歌山県立医科大学就業規則」を、資料13に「公立大学法人和歌山県立医科大学教員の定年の特例及び定年を超えた者の採用の特例に関する規程」をそれぞれ示す。

⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1 教育方法

(1) 授業の方法

設置する薬学部薬学科の授業は、教育目的により講義、演習、実習の3つの授業形態で実施する。講義は知識の修得及び理解を目的とする。演習は講義で得た知識の理解を深めることを目的とし、学生は主体性を持って課題に取り組むことにより知識の定着をはかる。学生は、グループディスカッションやロールプレイを通じて、講義で得た知識の定着を図る。実験実習では、講義や演習

で学習した知識や技能の定着を図り、実務実習では加えて病院や薬局において実践的な臨床現場を経験するとともに薬剤師としての態度を統合的に学習することを目的とする。

(2) 単位数の考え方

本学部は、1 時限 70 分で授業を実施するため、1 時限 70 分の授業を 15 回実施した場合、講義、演習は 1 単位、実験・実習は 0.5 単位の設定としている。

(3) 学生数の設定

学生数の設定は、教育内容や授業形態に応じて適切な学生数を設定する。1 学年 100 名を基本とする。少人数で実施することが望ましい科目(薬学英語Ⅰ、薬学英語Ⅱ、薬学英語Ⅲ、保健体育、情報基礎演習、地域医療薬学Ⅰ、地域医療薬学Ⅱ)については、100 名を 2 組に分けて 50 名ずつ実施する。また「英語ⅠA」、「英語ⅠB」、「英語ⅡA」、「英語ⅡB」に関しては、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の 4 要素を取り入れた実践的な講義を少人数で行うため、100 名を 4 組に分けて 25 名ずつで実施する。特別実習(卒業研究)については、18 研究室に別れて実施する。

(4) 配当年次

大学卒業時に薬剤師として求められる基本的資質と能力を修得するために、カリキュラムは薬学教育モデル・コアカリキュラムに示された内容を確実に修得したうえで、設置する薬学部薬学科の人材養成及び教育目的に基づき、「薬学準備教育ガイドライン(例示)」及び「薬学アドバンスト教育ガイドライン(例示)」を参考とした特色のある大学独自のカリキュラムを設定する。薬学教育モデル・コアカリキュラムに示された内容の履修に 7 割、大学独自のカリキュラムに 3 割を充て、体系的・効果的に学ぶことができるように授業科目を配置している。

「教育課程編成の考え方及び特色」に示したとおり、1 年次には、医薬看 3 学部合同のケア・マインドを育成する科目を履修する。この科目は多職種連携の基礎を培うこととし、多職種の中で説得力のある有益な発言ができるコミュニケーション力、患者に寄り添い、患者目線で考えることのできる薬剤師としての土台を築くことを目的とする。合わせて、薬学入門を履修し、早期体験学習を行うことにより、薬剤師としての使命感、倫理観を身につけさせ、将来への心構えを持てるようにする。

また、語学教育として、英語を設けるとともに、第二外国語として、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」から選択できるよう設定している。語学教育以外の教養教育として、「国家・社会と法」、「文学」、「心理学」などの人文系科目を配置するとともに、「有機化学」、「無機化学」、「基礎物理学」、「生物学」、「情

報基礎」、「統計基礎」など薬学教育の基礎となる自然科学系科目も配置している。

1年次から2年次にかけて配置している専門科目は、段階を追った学習ができるよう有機化学、物理化学、生物系の科目を配置するとともに、知識の定着を図るため、講義だけでなく演習も合わせて配置をしている。2年次からは、専門科目の講義と合わせて、関連科目の実習を行う。また、本学部の特色でもある、地域における薬剤師の役割を学習する「地域医療薬学Ⅰ」、「地域医療薬学Ⅱ」を配置している。

2年次と3年次前期では、1年次で学習した英語を基に、より専門的な英語を学習する薬学英语を配置している。3年次は、2年次から引き続き、免疫学や薬理学等を学習し、加えて製剤学や衛生化学といったより専門性の高い分野の科目を配置している。合わせて「がん・化学療法学」、「薬物動態学」など、より臨床に近い科目を配置している。また、薬剤師にとって重要となる倫理観を身につけさせる「医療倫理」を配置している。4年次では、5年次に配置している「病院・薬局実習」に先立ち、「医療安全学Ⅰ」を配置し、「病院・薬局実習」における知識、技能及び態度を統合的に修得する事前学習を配置している。「病院・薬局実習」終了後の6年次は、病院や薬局の専門的な機能や仕組み、それらの薬剤師の実践的な役割に関するアドバンス的な知識を修得する「病院・薬局薬学」を配置している。また、6年間の総括として「臨床薬学演習」を配置している。

特別実習（卒業研究）は、3年次後期及び4年次の「特別実習Ⅰ」と5年次及び6年次の「特別実習Ⅱ」とし、3年次後期から研究室への配属を行う。研究室への配属にあたり、3年次前期に各研究室の研究内容の把握を目的とした「特別実習（入門）」を配置している。特別実習では、修得した基礎及び専門知識を活用し、薬学分野に関する研究課題に対して、学生自らが主体的に取り組むこととする。配属学生数は、概ね各研究室に対して5名から6名とし、配属学生への指導は、研究室内の教員による集団指導とする。3年次後期から「特別実習Ⅰ」を開始する。開始時に特別実習の意義・目的、研究に求められる倫理、遵法性、実験研究における安全教育などを行う。3年次後期～4年次では、特別実習指導教員の下での、特別実習遂行に必要な文献購読、実験研究に必要な器具・装置の操作方法を修得する。また、実験計画の立案を行い、計画に基づく実験を実施し、毎週、進捗状況の報告を行う。4年次の後期末には中間発表会を学部全体で実施する。5年次では、「病院・薬局実習」を行わない期間はすべて「特別実習Ⅱ」を実施する。「特別実習Ⅰ」を踏まえ、実験計画に基づく実験の継続、指導教員とのディスカッションやセミナー形式での経過報告、関連論文の発表会を行い、問題解決能力、情報処理能力及びプレゼンテーション能力を養成する。6年次では、5年次修了時点で抽出された問題点を修正し、研究活動を継続する。研究成果のまとめとして6年次12月に卒業研究発表会

を学部全体で行い、ここでの質疑で得られた成果などを反映させ、卒業研究論文の作成を行う。成績評価については、卒業研究発表会における発表内容に関して、全薬学部教員により定量的評価を行う。さらに、指導教員による総研究時間の確認と、他講座からの教員2名及び指導教員による卒業研究論文の評価を行う。単位数は、特別実習に係る総時間から、「特別実習Ⅰ」の10単位と「特別実習Ⅱ」の20単位とする。

履修モデルを資料14、時間割を資料15に示す。

2 学修成果の評価方法

全ての開講科目について、それぞれの学習目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知し、学修成果を厳格かつ公正に評価する（カリキュラム・ポリシー）。特に、知識だけではなく学部教育においてさらなる高度化を図るべき技能や思考力・判断力・表現力、協働して学ぶ態度の修得・醸成を行う演習科目や実習科目、さらにはヒューマニズム教育科目、長期課題研究等については、科目の学習目標や修得すべき資質・能力に合わせた適正な学修成果の評価を行う。

さらに科目担当教員はすべての授業の始講日に学生にシラバスを配布し、授業内容、成績評価法・評価基準等を説明する。成績評価は、5段階成績評価【S（95点以上）、A（80点以上95点未満）、B（70点以上80点未満）、C（60点以上70点未満）、D（60点未満）】により行うこととする。

3 履修指導の方法

(1) ガイダンス

入学時と年度初めのガイダンスを実施する。ガイダンスではカリキュラム、履修上の留意事項などについて説明し、学生が教務事項について理解したうえで学修に臨めるように指導する。

(2) クラス担任制度について

各学生に一人の教員を割り当て、修学上の指導や学生生活上の相談などを行うクラス担任制度を導入する。

クラス担任が学生の出欠状況を把握し、欠席が続く学生に対しては授業担当教員とクラス担任が連携して指導を行う。

(3) 学修支援

学生の学修相談、健康相談、生活相談等に応じる場として「学生相談室」を設ける。「学生相談室」には女性教員を含む教職員を配置する。相談内容に応じ、部局内の教務委員会等に報告するとともに、健康管理センターなど学内の関係機関などとも連携をする。

また、授業担当教員は学生から講義内容などの質問を受け付けるためのオフィスアワーをシラバスに明記し、学生に周知する。

4 卒業要件

設置する薬学部薬学科の卒業要件は、必修科目 179 単位（外国語 7 単位、教養科目 11.5 単位、専門科目 160.5 単位）、選択必修科目 7 単位（第二外国語 2 単位、教養科目 4 単位、専門科目 1 単位）の合計 186 単位を修得することとする。

カリキュラム構成は、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠し、コアカリキュラムに示された到達目標を基礎目標から専門的目標へと体系的に達成できるように配置している。また、科目の関連性を示し、学年ごとの取得単位数に大きな差がないようにカリキュラム編成を行っている。

また、授業科目の 3 割は大学独自の授業科目により構成され、残りの 7 割は薬学教育モデル・コアカリキュラムの一般目標を全て網羅するカリキュラムとなっている。大半が必修科目となるが、人文社会系科目、専門科目の選択科目を履修するにあたり、自学自習時間の確保を考慮し、年間 44 単位の年間登録上限（CAP 制）を設ける。

なお、他大学における授業科目の履修等については、薬学部開設時に特に設けないが、将来的には海外の大学との語学を中心とした履修科目などを設けたいと考えている。

⑦ 施設、設備等の整備計画

1 校地、運動場の整備計画

和歌山県、和歌山市との間で 3 者協定を締結し、和歌山県からは薬学部校舎建築費の補助を、和歌山市からは伏虎キャンパスの立地する土地の無償貸与を受けての薬学部開設となる。

本学薬学部は、周辺環境に調和共生し、まちの賑わい創出、地域との交流、地域の活性化に貢献できる開かれたキャンパスを目指す。

(1) 伏虎（フッコ）キャンパス

- ・敷地面積 6,855 m²（設置上必要な敷地面積 6,000 m²）
- ・校舎敷地面積 3,760 m²（北棟 5 階、南棟 11 階）
- ・校舎延床面積 26,064 m²（設置上必要な建築延床面積 6,776.5 m²）

伏虎キャンパスは和歌山市の中心市街地に位置し、かつて大学本部が置かれていた場所の隣接地であり、和歌山市のランドマークである和歌山城に近接した土地でもある。

和歌山城や周辺環境に調和する白黒を基調とした現代的なキャンパスで薬学に関する先進的で高度な専門知識と技能を教授し、国際的に活躍できるフェーマシスト・サイエンティストを育成する。

伏虎キャンパスはJR和歌山駅より約1,700m、南海和歌山市駅より約800mの距離に位置し、JR和歌山駅からはバスを利用し、最寄りのバス停より徒歩2分、南海和歌山市駅からは徒歩12分で通学することができ、県内の学生だけでなく、県外の学生にも通学しやすいキャンパスとなっている。交通の利便性が良いことから、通学時間の短縮により学生の学習時間の確保につなげることができる。

(2) 薬草園

和歌山県が指定管理している和歌山県植物公園緑花センター（和歌山県岩出市）の薬草園を使用する。薬草園面積は659㎡。伏虎キャンパスから車で約40分（公共交通機関も利用可能）の距離に位置する。（資料16）

(3) 学生の休息その他の利用のための適当な空地の整備状況

学生が休息、交流できるスペースについては、建物中央エリア（北棟3階）にラーニングcommonsを設けており、学生のグループ学習や討論などの多種多様な活動ができる場所としている。

その他には、休息エリアは、北棟1階と南棟4階にラウンジを設け、自習スペースは、北棟4階に自習室を2室、南棟4階に自習室を1室設けている。

敷地面積の約55%が校舎敷地面積となっているが、校舎中央エリア1階のエントランスピロティは開かれた空間となっており、正門から東西への通行だけではなく、休息、交流スペースとしても利用できる。その他にも敷地内の各所にサークルベンチを設け、北棟エントランス付近にはウッドデッキにベンチ、北棟東側にベンチとテーブルを設置している。また、北棟5階の屋上庭園も学生が休息できる場として開放する。

(4) 運動場

学生の運動については、北棟5階のアリーナを利用する。

アリーナは面積629.59㎡となっており、バスケットボールやバレーボール等のスポーツに対応可能である。また、器具庫も備えており、様々な運動に対応可能な設備としている。

北棟4階にはトレーニング室、更衣室、シャワー室、クラブ室を設け、全ての学生が心身ともに豊かな学生生活を送ることができる施設としている。

課外活動やサークル活動については、伏虎キャンパスのアリーナだけでなく、三葛キャンパス等の運動場も活用する。

2 校舎等施設の整備計画

(1) 教員研究室

教授を含めた教員3名、研究室配属の学生等24名を1単位の研究室として

いる。

教員研究室の重要文書の管理については、各研究室内の書庫に鍵をかけ厳重な管理を行い、インターネット接続に関しては、学内LAN端末登録申請を行い、学内LAN ウィルス対策ソフト（ESET）をインストールし利用することとする。

教員研究室は全部で19室設け、各研究室に対応する実験室として実験台4台を基本とした32名収容の実験室を19室設けている。また、収容36名のセミナー室も7室設けている。

学生と教員が1対1で相談できる部屋として南棟1階に面談室を設置している。

(2) 講義室

大講義室を1室、中講義室を4室、小講義室を1室、グループ研究室2室を設け、多様な講義に対応できる設備としている。実験関係の実習については120名が入る実習室を2室設けている。

講義系の授業が最も多い時限の場合は、1年生から4年生までは中講義室4室（収容180名が2室、収容130名が2室）を使用する。

語学の授業は中講義室に加え小講義室（収容60名）を使用し、4年生の事前学習はOSCE講義室（収容84名）、6年生の授業は大講義室（収容360名）も使用する計画としている。

また、実験実習については、1年生から3年生までが実習の授業となる時限があるが、2年生と3年生の実習を半期（6ヶ月）の中で前半（3ヶ月）、後半（3ヶ月）に分け、半分を別の講義授業とすることにより実習室2室で実習系の授業を行うことを可能としている。

また、ケア・マインド授業（医学部・薬学部・保健看護学部の3学部合同）については、三葛キャンパスの講義室等も使用する。薬学部生100名、医学部生100名、保健看護学部生80名が22グループに分かれて、講義室や、演習室、ゼミ室等の22室を使用する。1グループあたり約13名のワーキンググループになるが、それぞれの部屋の収容人数は30名程度であり、3学部合同のグループワークを行う収容スペースを確保している。

(3) OSCE、CBT

OSCEについては、小部屋を14室、講義室を1室、無菌操作の実習室を2室、調剤監査の実習室を1室、模擬薬局の実習室を1室設けている。

CBTについては、120名が入るコンピュータ室を1室設けている。

(4) 動物実験室

南棟の2階が動物実験施設となっており、コンベエリア、SPFエリア、感染エリアの3エリアからなる。

(5) その他居室

4 階には共同研究室、6 階には共同機器室を設け、それぞれに対応する共同実験室を設置し、学生の育成面だけでなく、薬学の研究面でも発展できる施設としている。

また、講義室や実習室といった部屋以外にも、保健室や面談室を設け学生を心身ともにケアできる環境を整えている。

(6) 研究備品

機器備品の整備計画としては、各研究室で使用する機器備品、薬学部共通で使用する機器備品に分かれる。

薬学部共通で使用する研究備品は、共同機器室や、質量分析室、NMR 室、生物系機器室、X 線構造解析室、培養室、低温室に設置する。

主な高額共通機器としては、NMR、LC/MS/MS、共焦点レーザー顕微鏡、蛍光顕微鏡、FACS、超遠心機、X 線構造解析を取り揃える。(資料 17)

(7) 医薬看共同研究施設（仮称）

医学部、薬学部、保健看護学部共同の研究施設を紀三井寺キャンパス敷地内に設置し、3 学部及び附属病院と連携した研究を行うとともに、産官学連携講座等を設置する。

3 図書等の資料及び図書館の整備計画

薬学部図書館としては、情報リテラシー支援を主な機能とし、医学部図書館（紀三井寺キャンパス）、保健看護学部図書館（三葛キャンパス）と連携し、各キャンパス間での資料・文献複写配送や職員派遣を行う計画としている。

図書は、薬学系の図書を中心に整備し、医療系のジャーナルも取り揃えることにより、学生が薬学の専門知識だけでなく医療系全般の学習や研究に取り組める体制を整える。

電子ジャーナルについては、既存の医学系のジャーナルに加え、新たに薬学系のジャーナルを契約する。

図書の収容可能冊数は約 4.3 万冊であり、初年度に 1,900 冊（うち 150 冊は外国書）と視聴覚資料 32 本を取り揃える。(資料 18)

図書室には 4 階と 5 階合わせて 89 席設置し、うち 12 席は 6 席のグループ学習室 2 部屋としている。図書の検索コーナーとしては 4 席を設けている。

図書館の運営時間は平日の 9 時～17 時 30 分だが、平日の夜間（17 時 30 分～22 時）や、土曜日（10 時～17 時）は無人開館（自動貸出機で対応）とする。

無人開館時は、キャンパス内への入館制限（北棟、南棟それぞれに IC カード

による施錠システム有り)、入退館ゲート、監視カメラ、緊急連絡用の内線配置によりセキュリティ対策を行っている。

⑧ 入学者選抜の概要

1 アドミッション・ポリシー

和歌山県立医科大学薬学部では養成する人材像に基づき、またディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて次のような人を求める。

(1) 科学的探究心と豊かな人間性・高邁な倫理観を希求する人

薬学を志す人には、旺盛な科学的探究心とともに豊かな人間性、高い倫理観が必要です。豊かな感性と高邁な人間性を常に求め、社会と深く関わり、高い倫理観を磨こうと努める人を求めます。

(2) 薬学を修得するための幅広い能力を有する人

薬学の修得には、自然科学のほか人文・社会科学に関する学問の修得も必要です。そのためには高等学校で学習する全科目にわたって基礎的な学力を身につけていなければいけません。それに立脚し、自然・人間・社会に関する幅広い理解と知識を獲得しようとする向学心と問題解決能力を持つ人を求めます。

(3) コミュニケーション能力と指導力を備えた協調性の高い人

薬剤師には医療チームの一員として患者および家族と十分にコミュニケーションできる能力が必要です。医療人として自己研鑽ができ、自己の理念を堅持するとともに協調性に優れ、指導力を発揮できる人を求めます。

(4) 地域医療に関心があり、国際的視野を希求する人

本学は県民の医療を支えるとともに、国際的にも活躍できる医療人を育成します。地域医療への奉仕に励むとともに地球規模で医療を俯瞰し国際社会で活躍する医療人になることを目指す人を求めます。また薬のスペシャリストとして医療機関、製薬企業、研究・教育機関、行政機関など幅広い分野で活躍する意欲のある人を求めます。

2 入学者選抜の基本方針

和歌山県立医科大学薬学部のアドミッション・ポリシーに基づき、本学の教育を受けるに相応しい能力・適性などを備えた入学者を受け入れるために、学力の3要素等を多面的・総合的に評価し、入学者を選抜する。

一般選抜（前期日程）では、高等学校で履修した教科の幅広い基礎学力を大学入学共通テストで評価するとともに、本学での学修に適合する知識・技能や思考力などを測る個別学力試験と、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度や医療人としての適性などを測る面接試験を実施し、総合的に審査する。

学校推薦型選抜では、高等学校で履修した教科の幅広い基礎学力を大学入学共通テストで、思考力・判断力・表現力及び主体的に学習に取り組む態度を自己推薦書と面接試験でそれぞれ評価するとともに、面接試験においては医療人としての適性も評価し、総合的に審査する。

選抜区分	選抜方法	学力の3要素		
		① 知識・技能	② 思考力・判断力・ 表現力	③ 協働して学ぶ態度
一般選抜 (前期日程)	大学入学共通テスト	◎	○	
	個別学力試験	◎	◎	
	自己推薦書		◎	
	面接		○	◎
学校推薦型選抜	大学入学共通テスト	◎	○	
	自己推薦書		◎	
	面接	○	◎	◎

◎：特に評価する ○：評価する

選抜区分	選抜方法	アドミッション・ポリシー			
		(1) 科学的探究心 人間性 倫理観	(2) 幅広い能力 向学心 問題解決能力	(3) コミュニケーション能力 指導力・協調性	(4) 地域医療への関心 国際的視野
一般選抜 (前期日程)	大学入学共通テスト		◎		
	個別学力試験	◎	○		
	自己推薦書	◎	○	○	○
	面接	◎		◎	◎
学校推薦型選抜	大学入学共通テスト		◎		
	自己推薦書	◎	○	○	○
	面接	◎	○	◎	◎

3 入学者定員・選抜方法

(1) 入学者定員

進路就職の見込み、入学志願者予測等を勘案して100名とする。

- ・一般選抜 定員70名程度。学力試験と面接を実施。
- ・学校推薦型選抜 定員30名程度。うち全国枠15名程度、県内枠15名程度。

県内枠には出願資格に和歌山県内の高等学校に在籍する者又は扶養義務者が和歌山県に住所を有する者という要件を課している。選抜方法は全国枠と同じであるが、卒後2年間、県内の主要病院等で卒後研修を実施することにより、地域で活躍できる薬剤師を養成するものである。

(2) 選抜方法

ア 一般選抜

一般選抜では、大学入学共通テストの利用と、個別学力検査、面接を組み合わせ実施することにより合格者を判定する。面接においては、アドミッション・ポリシーに従って医療人及び薬学研究者としての適性を評価する。一般選抜の日程は前期日程により実施する。

一般選抜の試験教科・科目の詳細は資料 19 に示す。

イ 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜入試では大学入学共通テストの利用と、出身学校長の推薦に基づき、調査書、推薦書、志望理由等の書類審査と面接を総合して合格者を判定する。

出願要件については、高等学校を入学年の 3 月に卒業見込みの者又は入学年前年の 3 月に卒業した者で、人物・学力ともに優秀であり、出身学校長が責任をもって推薦できる者とする。

⑨ 取得可能な資格

薬学部薬学科の卒業要件に含まれている所定の単位を修得し卒業（卒業見込みも含む）することで、薬剤師国家試験受験資格が取得可能となる。

⑩ 実習の具体的計画

1 実習の目的

豊かな人間性と高い使命感を持った医療人として薬局や病院の臨床現場で活躍できるよう、患者や来局者、他の医療スタッフとの日々の接点により「高い倫理観、社会人としての良識」「患者の社会的、心理的背景にも配慮」（本学部ディプロマ・ポリシー）する能力を学生に獲得させる。

また、大学では経験することができない臨場感、緊張感のある医療現場で身を置き、患者個々の事例や症例を体験することにより「総合的、専門的な薬学の知識」「単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用できる」（本学部ディプロマ・ポリシー）資質の修得を目指す。さらに、臨機応変に対応しなければならない医療現場での 22 週間の参加・体験型教育により「薬剤師としての実践能力」（本学部ディプロマ・ポリシー）を獲得する効果的な実習を行う。

本学での実務実習は和歌山県内を中心とした病院や薬局を予定している。地域医療の現場を実際に体験することで、学生を「地域での医療に貢献」（本学部ディプロマ・ポリシー）できる人材としても養成していく。

【和歌山県立医科大学薬学部ディプロマ・ポリシー】

- ア 人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの
- イ 総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践能力や研究を行うに足る技能を有しているもの
- ウ 単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの
- エ 国際的視野を有し、地域での医療に貢献できるもの

2 実習先の確保の状況

原則、和歌山県内を中心とした近畿地区の病院や薬局で実務実習を行う。実習先確保の状況として、本学部は令和 2 年 4 月から実習の調整機関である薬学教育協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構（以下、近畿地区調整機構と記す）にオブザーバーとして加入することが決定している。そして、本学部開設予定の令和 3 年 4 月には近畿地区調整機構に正式加入する予定である。このような経緯により、本学は、近畿地区調整機構から薬学実務実習施設の調整実施について承諾を受けている（資料 20）。本学部は近畿地区調整機構の調整結果に従い実務実

習を実施する。

和歌山県では平成30年3月に第七次和歌山県保健医療計画（資料21）を策定し、その中で薬剤師に対する施策の方向として「病院や薬局における薬学生長期実務実習を円滑に受け入れられるよう、和歌山県薬剤師会、和歌山県病院薬剤師会など関係団体と連携し体制整備を図ります。」と明示している。

以上のとおり、本県では行政、職能団体、病院、薬局、そして本学が実務実習先の確保を積極的に取り組んでいる。

3 実習先との契約内容

近畿地区調整機構が提示している「薬学部学生の病院／薬局実習に関する契約書（ひな形）」を基に実習先との契約書を作成する。この契約書に、個人情報保護や学生への規則遵守の徹底、損害賠償等の取り決めを記載する。

4 実習水準の確保の方策

実習施設が実習水準を確保できる施設かどうかは、薬学実務実習に関する連絡会議が策定した「薬学実務実習に関するガイドライン」に準拠して、薬学教育協議会が示す「病院における長期実務実習に対する基本的な考え方」及び「6年制薬局実習の受入薬局に対する基本的な考え方」に記載されている受入施設の全ての要件を基に近畿地区調整機構が適格性を確認している。本学部でも上記の受入施設の要件に基づき、実習を行う施設が要件を満たしているか事前に確認する。要件を満たしていないことが判明した場合は近畿地区調整機構に速やかに報告する。

実習施設の要件については、「薬学実務実習に関するガイドライン」の改訂に合わせて逐次見直しを行っていく。

学生が実務実習を受講するには、本学部が開講する事前学習を履修し、薬学共用試験に合格することが要件となる。この要件により、実務実習を受けるに当たって学生に必要な知識・技能・態度の修得が確保される。本学は学生に対し実習に当たっての心構えや実習中の態度についても適切な指導を行い、学生の円滑な学習に向け責任を持って支援する。

実務実習の意思決定組織として、学内に実務実習委員会を設置する。医療教育企画室（室長は薬学部長）が実務実習委員会を立ち上げる。実務実習委員会の委員長は薬学部長が指名した者、委員は薬学部専任教員、事務局職員とする。

実務実習委員会は、医療教育企画室から実務実習に関する企画立案を受けて、近畿地区調整機構との連携、実習施設への学生配属、学生の単位認定、教員の訪問指導、危機管理や学生のトラブル対応、感染症予防や損害賠償責任保険等の事項を審議・承認する。実務実習委員会の承認をもって各事項が決定となり、医療教育企画室が実務実習を管理・運営することになる。

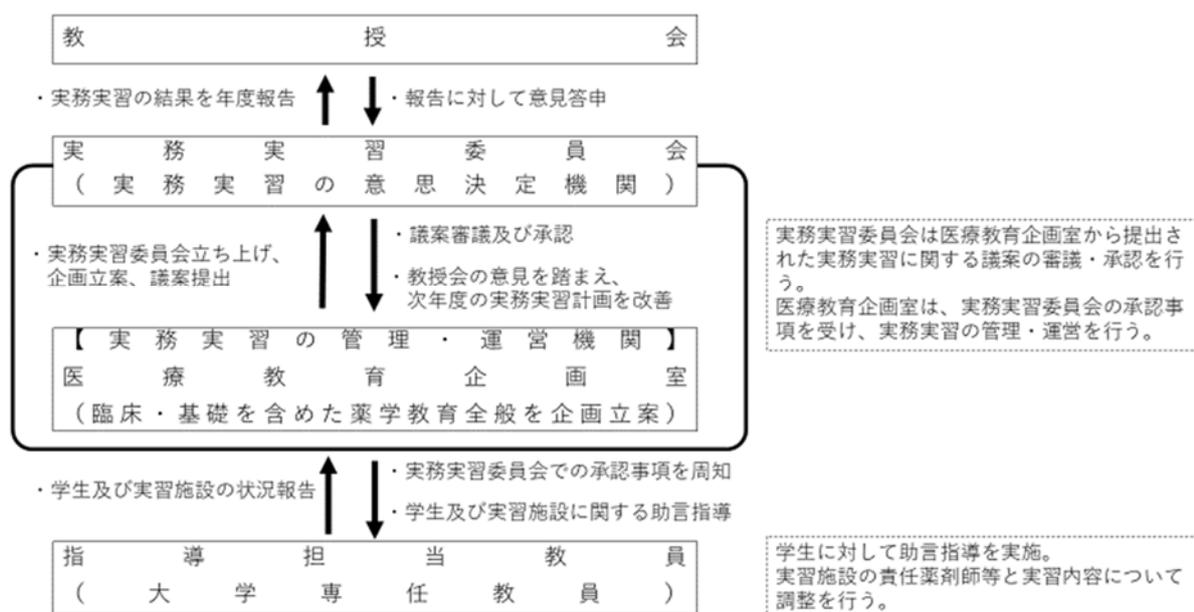
実務実習委員会は実務実習終了後、教授会に対して結果報告を行う。この報告

を受け、教授会は実務実習委員会に対して意見することができる。実務実習の意思決定機関は実務実習委員会であるが、学内別組織からの意見により実務実習の改善が図られ、医療教育企画室が翌年度の実務実習計画を練り直す。このサイクルにより教育の質が担保される仕組みになっている。

大学が指名した指導担当教員は実務実習開始時までには受入施設を訪問し、学生に関するプロフィール情報を施設の責任薬剤師へ伝達する。指導担当教員は、施設から実習スケジュール表の提供を受けることで、薬学系人材養成の在り方に関する検討会が策定した「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」に準拠した実習内容であるかどうか確認する。指導担当教員による確認後、その結果を医療教育企画室へ報告する。医療教育企画室は問題のある実習施設に対して適宜是正指導を行う。これにより本学部は学生にとって不利益が生じないよう施設間における実習内容の格差を可能な限り無くすよう努めていく。

実務実習における学内体制は以下のとおり整備する。

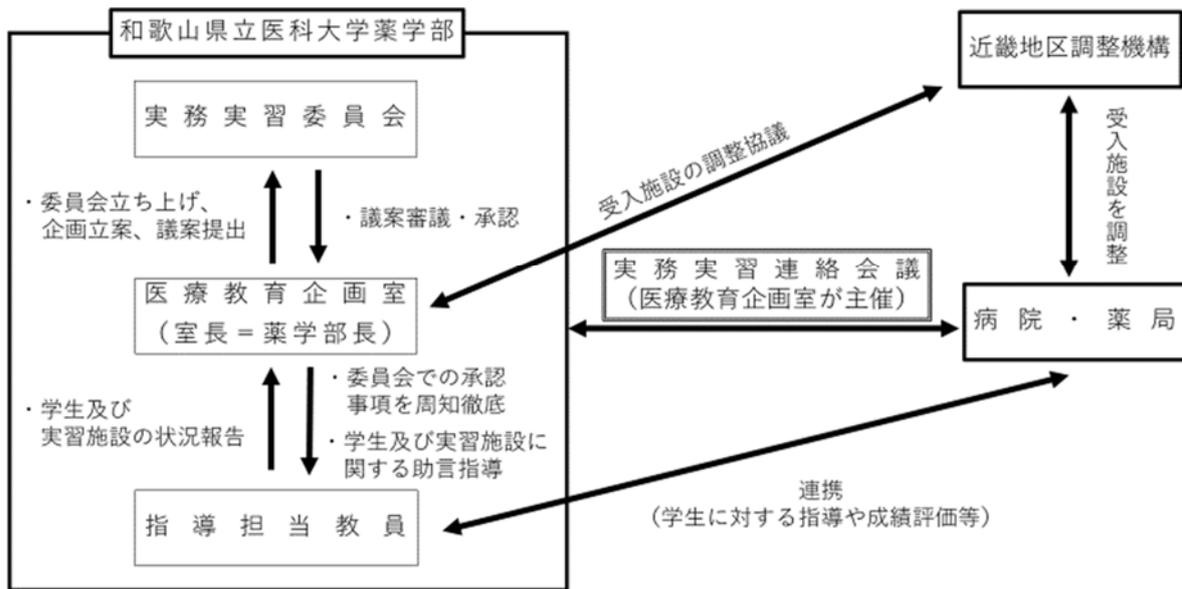
【実務実習における学内体制について】



5 実習先との連携体制

近畿地区調整機構の調整結果に基づき、本学は各実習施設の業務責任者（薬剤部長、薬局の管理者等）となる薬剤師（以下、責任薬剤師と記す）、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師（以下、認定指導薬剤師と記す）、その施設で実習指導に携わる薬剤師（責任指導薬剤師及び認定指導薬剤師を含む。以下、指導薬剤師と記す）と実施計画や情報を共有し、円滑な連携体制を整える（下記参照）。

【実務実習における連携体制】



(1) 本学と実習先との連絡

本学は学生の配属が決定した実習先の責任薬剤師等と実務実習連絡会議を開催し、連携体制を確認する。

ア 実務実習連絡会議

(ア) 目的

薬学実務実習に関する連絡会議が例示した記載事項(資料 22)に準拠して近畿地区調整機構が示した実務実習実施計画書のひな形を基に、本学部の指導担当教員や病院及び薬局の責任薬剤師等が参加協議しながら、医療現場に応じた実務実習実施計画書を作成する。また、各実習施設の責任薬剤師等と指導担当教員がこの会議を通じて情報交換を密に行うことにより、病院・薬局の実習連携やグループ実習における教育内容の充実を図る。

I) 参加者

本学の医療教育企画室が主催する。大学側は、実務実習委員会委員、医療教育企画室教員、指導担当教員が参加する。病院及び薬局側は責任薬剤師あるいは認定指導薬剤師が参加する。

II) 開催時期

学生の実習先配属決定後実務実習開始前、病院や薬局の責任薬剤師等が会議に参加できる日程を調整し、速やかに開催する。今年度における実務実習の振り返り及び翌年度における実務実習向上を目的に実務実習終了後にも開催する。

(イ) 本学と実習先との連絡体制

大学教員と実習先施設の責任薬剤師、認定指導薬剤師、指導薬剤師と

の連絡網を作成して、緊急事態に対応できる体制とする。

指導担当教員と実習施設の責任薬剤師、認定指導薬剤師、指導薬剤師との連絡手段として、電話、メール、近畿地区調整機構が実務実習で利用している「実務実習指導・管理システム」(以下、WEB システムと記す)、実習施設訪問時の面談を活用する。これらの連絡手段により、密な情報の共有化を図る。

(2) 本学と学生との連絡体制

正・副の複数の大学専任教員、すなわち 2 名の指導担当教員が 1 名の学生を指導する。正・副とも 1 教員当たり 2, 3 名の学生を担当する。この体制により学生への密な指導やケアを行う。指導担当教員は、WEB システムを通じて日誌や週報により学生の進捗状況及び各目標の到達度を常に確認する。また、指導担当教員と学生の間で、実習施設訪問時の面談以外にも電話やメール、SNS 等で常に連絡や相談が取れる体制を取り、慣れない実習先での学生のメンタルケアや実習先での問題・トラブルの発生を未然に防止する。

なお、受入施設先での学生に対するセクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメント等の相談については、本学部内で指名された教員がハラスメント相談員として学生からの相談（面談、電話、メール等）に対応する。相談内容によっては、相談者の了承を得た上で、大学内に設置している健康管理センター（体や心に関する悩み）や危機対策室（ハラスメントに関する悩み）等の相談窓口を紹介する。

6 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

感染予防対策として、近畿地区調整機構が定めた「長期実務実習にあたっての抗体検査・ワクチン接種に関するガイドライン」に準拠し、本学の定期健康診断と合わせて、麻疹、風疹、水痘、ムンプス（流行性耳下腺炎）及び B 型肝炎の抗体検査を行う。抗体検査の抗体値が不十分な場合、学生に対してワクチンを接種するよう指導する。その他、結核については、胸部 X 線撮影の結果をもって判定の代用を行う。インフルエンザの予防対策として、学生に実務実習前にワクチン接種を行う。

保険等の加入について、学生が教育研究活動中、通学途中、課外活動中に不慮の事故により災害を被った場合の経済的負担の軽減や、正課、学校行事、及びその往復途中で、他人にケガをさせ、又は他人の財物を破損したことにより被る法律上の損害賠償を補償するため、全ての学生に対し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」及び「学研災付帯賠償責任保険（学研賠）」の加入を義務付ける。

学生が実習中に知り得た情報に関する守秘義務や SNS の利用に係る注意点等の留意事項について、医療教育企画室では、薬学教育協議会が提供している「病

院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等及び病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書」に準拠した個人情報や法人機密等に関する指導を行う。その後、同じく薬学教育協議会が提供している「病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等及び病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書」を学生から大学へ提出させることで、守秘義務を徹底させる。

7 事前・事後における指導計画

(1) 事前指導

学生に対する事前指導として、実務実習開始前に「事前学習 I」、「事前学習 II」の講義及び実習を予定している。これらの科目の履修を通じて実務実習を受講するに値する医療人としての知識・技能・態度を修得させる。なお、「事前学習 I」、「事前学習 II」は4年次後期に開講するものの、共用試験までに授業が終了するため、実務実習第1班第1期に実施される薬局実習のスケジュールとは重複しない。

講義 科目名	開講 時期	区分	単位数	講義等の内容
事前学習 I	4年次 後期	必修	1	医療機関に勤務する薬剤師の職能を解説した上で、患者の薬物療法に携わる薬剤師の役割を理解する。薬を物質として扱うだけでなく、患者の生命・生活を理解する薬剤師として活動できるよう倫理観や社会人としての良識を獲得する。
事前学習 II	4年次 後期	必修	5	薬剤師の活動の基礎となる調剤技術、患者応対における態度ならびにコミュニケーション能力を修得する。処方せんの取り扱い、正確な調剤に必要なとされる情報の収集、処方せんに則った薬剤の取り揃え及び混合調整の基本技術を修得する。 加えて、患者・生活者に適切な薬剤、薬物療法を提供するための薬剤情報、患者情報の収集能力を修得する。投薬時あるいは投薬後の患者の気持ちの理解につながる情報を取得する。そこで得られた情報を他の医療職と共有するためのコミュニケーション能力として、分かりやすい言語、専門用語、態度を修得する。

(2) 事後指導

学生は実務実習終了後、実務実習報告書を本学へ提出する。本学は医療教育企画室主催で実務実習報告会を開催する。開催時期は各期の実務実習終了後とする。学生と指導担当教員は全員出席する。実習受入施設の責任薬剤師又は認定指導薬剤師に対しても出席を求める。指導担当教員は報告会に当たり、改めて学生に「病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等及び病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書」に準拠した個人情報の機密保持に関する指導を行う。指導を受けた学生は患者の症例や薬歴等について個人情報に配慮した実習報告を行う。学生による発表を受けて、教員や実習施設の薬剤師は資質向上につながる助言や指導を行う。これにより、学生は改めて実習内容を振り返るとともに他学生の報告から自分では出来なかった実習内容の共有化を行う。

8 教員の配置並びに巡回指導計画

医療教育企画室の実務家教員が責任教員として学生を指導する。実務実習は、6年制の薬学教育課程において極めて重要な位置付けにある。よって、本学部は実務家教員だけでなく、基礎系教員も含め学部全体で実務実習に取り組む。基礎系教員が実務実習で指導することにより基礎薬学が臨床現場でも問題解決に有用であることを学生に理解してもらう。

本学部では実務実習未経験の専任教員を副担当として、担当経験のある専任教員と共同して学生指導を行う。実務実習未経験の専任教員の教育能力を向上させることにより教育の質を保証する。

指導担当教員は実務実習期間中において適宜、病院及び薬局を訪問し、責任薬剤師あるいは認定指導薬剤師、そして学生との面談を行う。訪問の実施回数は最低1回以上とするが、訪問の実施時期は適宜、責任薬剤師及び学生との相談の上において決定する。訪問面談では、実務実習計画や進捗状況の確認、学生に対する学習到達目標状況の確認及び指導、学生のメンタルケア、問題やトラブルの把握及び対応・措置等を行う。基礎系教員が学生指導する時、実務教育上不明な点があれば、医療教育企画室の実務家教員が支援することで実務実習の教育水準を保っていく。

大学と全く異なる薬局や病院という環境下で慣れない学生を発見した場合、指導担当教員は実習施設への訪問頻度を上げて、学生のメンタルケアを行う。

指導担当教員は学生への指導が自己の他の担当科目に影響を与えないよう、また学生への指導自体が教員への過度な負担にならないよう正・副の教員が分担して学生をケアする。

実務実習期間中、指導担当教員は学生が作成した日報や週報をWEBシステムで確認して、学生を指導する指導薬剤師との情報の共有化を行う。そして、指導担当教員は学生によるWEBシステムの記載内容に応じて学生へ適切な指導を行う。

その後、指導担当教員は学生や指導薬剤師との意見交換や情報共有の状況を適宜、医療教育企画室へ報告する。医療教育企画室は各指導担当教員からの学生及び受入施設の情報を集約することで、有益となる指導方法を各指導担当教員へフィードバックする。このような組織的対応により指導担当教員に対する教育の質を確保する。

9 実習施設における指導者の配置計画

実務実習の受入施設である病院について、薬学教育協議会が示している「病院における長期実務実習に対する基本的な考え方」では、認定指導薬剤師が1名以上配置されていること、そして、認定指導薬剤師の指導を補完するに相応しい指導薬剤師が配置されていることが施設の受入要件としている。一方、薬局では「6年制薬局実習の受入薬局に対する基本的な考え方」において、認定指導薬剤師が常勤していることを受入施設の要件としている。

認定指導薬剤師は薬剤師の実務経験が5年以上求められ、薬学教育者ワークショップや講習会の参加が認定要件となっている。このように、実務指導者である認定指導薬剤師は、臨床現場において高い見識及び十分な実務経験を有し、実習指導に当たって必要な能力が担保されている。

以上、実習受入施設となる病院や薬局では、学生の指導者として認定指導薬剤師を実習指導者として選任する。指導担当教員は、認定指導薬剤師に対し実務実習開始前までに実務実習実施計画の確認、学習成果の評価方法（総括的評価）の確認（成績判定の規定や基準）を説明する。これにより、大学と受入施設との間において実習の達成目標を共有する。

10 成績評価体制及び単位認定方法

「薬学実務実習に関するガイドライン」の評価項目に準拠した成績評価を行う。具体的には、薬学実務実習に関する連絡会議「薬学実務実習の評価の観点について（例示）」（平成30年11月27日一部改訂）に基づき、「薬学実務実習に関するガイドライン」F薬学臨床の中項目のうち(1)薬学臨床の基礎、(2)処方せんに基づく調剤、(3)薬物療法の実践、の3項目は到達度を指標とした概略評価を用いる。

(4)チーム医療への参画、(5)地域の保健・医療・福祉への参画、の2項目については、WEBシステムを通じた実務実習記録（日誌・レポート）による評価を行う。

本学部ではディプロマ・ポリシーを踏まえた成績評価も同時並行で行う。ディプロマ・ポリシー「より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの」については、「薬学実務実習に関するガイドライン」の一般目標である(1)臨床における心構えとして、の中に含まれ、ディプロマ・ポリシー「薬剤師としての実践能力や研究に足る技能を有しているもの」については、同じく一般目標(2)処方

せんに基づく調剤及び(3)薬物療法の実践、の中に含まれる。また、ディプロマ・ポリシー「単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの」は(1)薬学臨床の基礎、(2)処方せんに基づく調剤、(3)薬物療法の実践、(4)チーム医療への参画、(5)地域の保健・医療・福祉への参画、全ての一般目標に含まれ、ディプロマ・ポリシー「地域での医療に貢献できるもの」は、(4)チーム医療への参画及び(5)地域の保健・医療・福祉への参画、に含まれる。

よって、各指導担当教員及び受入施設の責任薬剤師・認定指導薬剤師は本学部のディプロマ・ポリシーを意識しながら「薬学実務実習に関するガイドライン」に則って学生の成績評価を行う。

〈概略評価を行う領域と観点〉

(1)薬学臨床の基礎（臨床における心構え）

生命の尊厳と薬剤師の社会的使命及び社会的責任

(2)処方せんに基づく調剤

処方監査と疑義照会、処方せんに基づく医薬品の調製、患者・来局者対応、情報提供・教育、医薬品の供給と管理、安全管理

(3)薬物療法の実践

患者情報の把握、医薬品情報の収集と評価・活用、薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決、薬物療法の効果と副作用モニタリング

責任薬剤師あるいは認定指導薬剤師は、概略評価表を基に学生が実習の振り返りを行うことでどの程度、何が成長したのかを評価する。評価の段階は、原則4段階を設ける。第1段階は、大学での学習を確認し、医療現場で指導薬剤師の指導の下、実際に患者・来局者に対応ができる段階（実習開始から2～4週間程度かけて到達するライン）とする。第2段階を経て、第3段階は、薬剤師として医療現場で働くことができる基礎を身に付けた段階（実習中に到達すべき基本目標の段階）とする。第4段階は、薬剤師の目指すべき使命を実現できる段階とする。また、どの段階かという評価だけでなく、同じ段階の中でも成長度合いを継続的、具体的に確認する。

概略評価における留意点として、上記3項目(1)から(3)に示されている到達目標を具体的なチェックポイントとして活用する。

〈実務実習記録による評価を行う領域と観点〉

(4)チーム医療への参画

医療機関におけるチーム医療、地域におけるチーム医療

(5)地域の保健・医療・福祉への参画

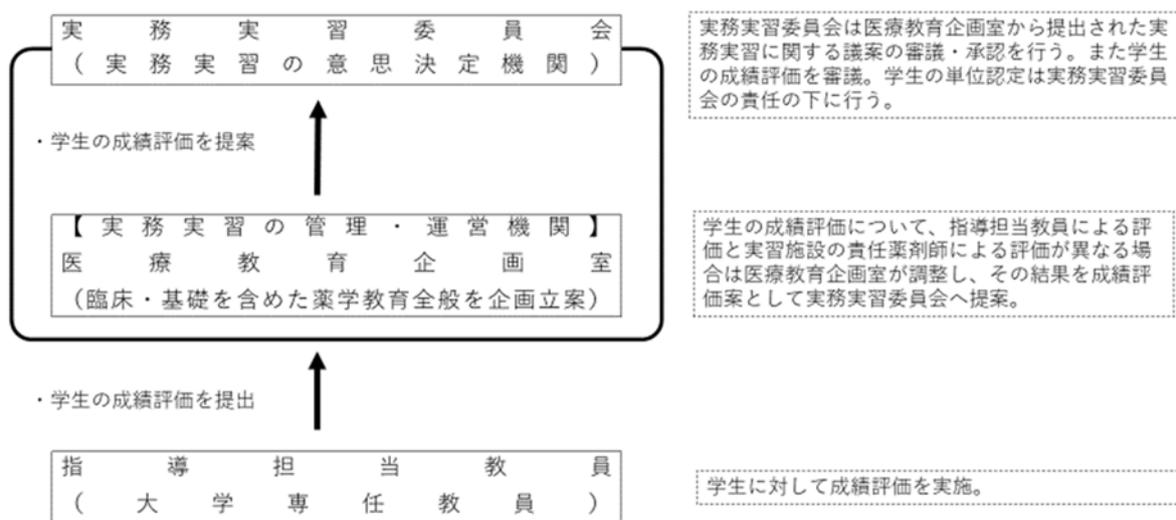
在宅（訪問）医療・介護への参画、プライマリケア、セルフメディケーションの実践、地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画、災害時医療と薬剤師

学生は、日誌に自分がその日学習した内容、体験した事例、修得した能力等を簡潔に WEB システムに記録して認定指導薬剤師、指導薬剤師、教員等の指導者に提示する。指導者は、その日誌の報告から学生の実習の進捗状況を確認するとともに、実習についてフィードバックを行う。学生は、指導者からのアドバイスを受けて薬剤師として求められる臨床能力の成長を確認する。

「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）」では学生に幅広く薬物療法を学修するよう、学修すべき「代表的な疾患」（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）を持つ患者に広く関わりそれらの薬物療法を実際に体験することを促している。学生は、体験した「代表的な疾患」の学習内容を WEB システムの日誌に簡潔に記録することで、認定指導薬剤師や指導薬剤師と実習の振り返りを行い、実習施設で各疾患についてどのように学習が進んだか確認できるようにする。

指導担当教員は、実習施設の責任薬剤師あるいは認定指導薬剤師の評価結果を参考に、薬学臨床の基礎、処方せんに基づく調剤、薬物療法の実践への到達度を指標とした概略評価と WEB システムを通じた実務実習記録（日誌・レポート）による評価を総合して、学生の成績評価を行う。そして、指導担当教員は成績評価の結果を医療教育企画室へ提出する。医療教育企画室が指導担当教員への学生の成績評価を集約し、最終的な成績評価を実務実習委員会へ上申する。指導担当教員による評価結果と受入施設の責任薬剤師による評価結果が大きく乖離した場合、第三者となる医療教育企画室が調整を図り、学生の成績評価を行う。最終的な単位認定は、実務実習委員会の責任の下に行う。なお、成績評価の学内体制は以下のとおりである。

【成績評価における学内体制について】



⑪ 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

1 2以上の校地の概要

本学部は、伏虎キャンパス（和歌山市七番丁）で主に教育研究を実施するが、一部の教養科目について、保健看護学部及び医学部1年次生（主に教養を学習）が在籍する三葛キャンパス（和歌山市三葛）で実施する。

三葛キャンパスと伏虎キャンパスは、主に主要県道でつながっており自動車です約15分、バスは乗り換えなしでそれぞれの停留所までの徒歩を含め約40分、また、バスと鉄道を合わせた利用でも約40分と交通の利便性は高い。

2 実施方法

大学の方針として「教養一元化」があり、教養科目のうち可能なものは学部の垣根を越えて合同で授業を実施することとしている。教員も英語は薬学の所属であるが、他の人文社会系の教養科目は薬学部以外の所属か又は他大学の非常勤講師となる。この方針の下、1年次の必修科目である「ケア・マインド教育Ⅰ」、「ケア・マインド教育Ⅱ」（3学部合同）、選択科目である「国家・社会と法」、「文学」、及び「経済学」（それぞれ保健看護学部との合同）については、薬学部生が三葛キャンパスに移動して合同で授業を受ける体制となる。

「ケア・マインド教育Ⅰ」と「ケア・マインド教育Ⅱ」の実施にあたっては、年間すべての授業を移動させるのではなく、双方向遠隔授業システムを活用することで、三葛キャンパスでの講義形式の授業は伏虎キャンパスでも映像と音声を流し2元的に実施する。また、伏虎キャンパスと三葛キャンパスとの質問や意見発表などのやり取りも可能である。伏虎キャンパスの大講義室に双方向遠隔授業システムを設置し、講義の実施にあたって2会場間の質疑応答のやりとりなどが円滑に行えるよう担当の専任教員が必ず立ち会うこととする。また、システムの管理者は薬学部事務室長が行う。講義形式以外の3学部合同のスモールグループディスカッションの実施時は、学生が移動するだけでなく、担当教員も三葛キャンパスに移動し、医学部、保健看護学部の教員とともに指導を行う。

「ケア・マインド教育Ⅰ」、「ケア・マインド教育Ⅱ」以外の科目は、三葛キャンパスで実施する講義に薬学部生が当キャンパスに移動して保健看護学部生と合同で受講する。

学生の移動は、交通の便がよいことから、公共交通機関により行う。また、教員については、公共交通機関又は自家用自動車等で移動を行う。

3 時間割の工夫

学生及び教員の移動時間を考慮し、時間割編成では、当該授業の後に次の授業を配置しないか、又は配置する場合は1コマ空けて配置する。

⑫ 管理運営

1 教授会

本学では、公立大学法人和歌山県立医科大学組織運営規則第 17 条の 4 にて学部に教授会を設置することを定めている。教授会は、それぞれ各学部の専任教員により構成される。

原則として月 1 回開催し、次の事項について審議する。

- ・ 学生の入学及び卒業
- ・ 学位の授与
- ・ 教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が別に定めるもの

2 教育研究審議会

本学では、公立大学法人和歌山県立医科大学定款第 21 条にて、大学の教育研究に関する重要事項を審議するため教育研究審議会を設置することを定めている。教育研究審議会は、理事長、副理事長、理事長が指名する理事、副学長（教育研究に関する重要事項に関する校務をつかさどる者に限る。）のうち理事長が指名する者、学部長、教育研究上の重要な組織の長のうち理事長が指名する者、教育研究審議会が定めるところにより理事長が指名する職員、法人の役員又は職員以外の者で大学に関し広くかつ高い識見を有するものの中から教育研究審議会の意見を聴いて理事長が任命するものにより構成される。

教育研究審議会は、次の事項を審議する。

- ・ 中期目標についての知事に対して述べる意見に関する事項
- ・ 中期計画及び年度計画に関する事項
- ・ 学則（法人の経営に関する部分を除く。）その他の教育研究に係る重要な規程の制定又は改廃に関する事項
- ・ 教員人事に関する事項
- ・ 教育課程の編成に関する方針に係る事項
- ・ 学生の円滑な修学等を支援するために必要な事項
- ・ 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項
- ・ 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
- ・ その他大学の教育研究に関する重要事項

⑬ 自己点検・評価

本学は、公立大学法人として、地方独立行政法人法（以下「地独法」という。）制度の枠組みの中で、教育・研究・医療・経営等について、社会から求められる一定の水準を確保するために、毎年度自己点検・評価を行っている。自己点検・評価を適切に実施していることについての説明責任を果たすため、地独法第 11

条第 1 項に規定する地方独立行政法人委員会として和歌山県が設置する和歌山県公立大学法人評価委員会による本学に対する評価・提言と合わせて、本学のホームページに掲載し公表を行っている。

また、学校教育法第 109 条第 2 項に定められている認証評価受審の前年度において、認証評価で用いられる点検・評価項目に従って自己点検・評価を行っている。自己点検・評価結果については、次年度、次期の計画や事業実施に反映させ、評価のための評価となることとならないよう学内にフィードバックしている。

⑭ 情報の公表

1 情報公表の方法

本学では、学校教育法施行規則第 172 条の 2「教育研究活動等の状況に関する情報公表」に基づき、大学の公共性、公的な高等教育機関として、社会的な説明責任を果たすとともに、教育研究活動の質的向上を図る観点から積極的に教育研究活動等の情報公表を行っている。

教育研究活動等の公表は、本学ホームページにて広く周知している。掲載ホームページのアドレスは

<https://www.wakayama-med.ac.jp/intro/kyoikujyoho/index.html> としている。

本学のホームページからは、ホーム>大学案内>教育情報の公表、として閲覧できるよう整備している。

2 情報公表の内容

以下の教育研究活動等の情報を公表している。

- (1) 大学の教育研究上の目的・方針
- (2) 教育研究上の基本組織
- (3) 教員数、各教員の学位・業績等
- (4) 入学者受入方針、入学者数・在学生数、卒業・就職状況等
- (5) 授業に関する情報
- (6) 学修評価、卒業等認定の基準等
- (7) 教育研究環境
- (8) 授業料・入学料、その他の費用
- (9) 修学・進路選択・心身の健康等に係る支援等
- (10) 医学教育分野別外部評価

上記の掲載項目に加え、公正かつ透明性の高い運営を情報公開するため、大学基準協会における大学評価結果や和歌山県立公立大学法人評価委員会等による評価結果も本学のホームページに掲載している。

大学評価に関するホームページのアドレスは <https://www.wakayama-med.ac.jp/intro/houjin/hyouka/index.html> である。

これらの事項は本学ホームページにおいて、ホーム>大学案内>法人運営の状況>評価に関する情報、にて閲覧できる。

薬学部も医学部、保健看護学部と同様に、教育研究活動等の情報及び内外機関による評価結果を公表する。また、大学の設置等の認可の申請及び届出に係る手続等に関する規則第12条に基づき、薬学部開設後6年間（完成年度）まで(1)基本計画書、(2)校地校舎等の図面、(3)学則、(4)趣旨等を記載した書類、(5)教員名簿、の5項目も公表する。

3 薬学部独自の情報公表

薬学部開設前の情報公表として、本学の教職員が和歌山県内の高等学校校長会や高等学校の進路指導担当教員対象の説明会、医学部オープンキャンパス、和歌山県薬剤師会主催の薬学部進学セミナーにて薬学部設置構想の説明を行った。令和元年9月以降、和歌山県内の高等学校を中心に生徒を対象とした説明会も行っている。薬学部設置構想だけでなく薬の仕組みや薬剤師の仕事についても説明し、広く薬学部の普及活動を行っている。

また、本学ホームページ内にも薬学部（設置構想中）のサイトを設けており、教育理念、教育目標等を示して情報公表を行っている。

なお、薬学部（設置構想中）のサイトのアドレスは <https://www.wakayama-med.ac.jp/dept/yakugaku/> である。

本学のホームページからは、ホーム>学部・大学院等>薬学部（設置構想中）、で閲覧可能となっている。

薬学部開設後も同上のホームページにて積極的な情報公表に努めていく。

⑮ 教育内容の改善を図るための組織的な研修等

1 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施計画

本学全体の取組として、平成18年度に医学・保健看護学教育をより良く進めるため「教育研究開発センター」を設置している。教育研究開発センター内には、授業の内容及び方法の改善を図るためFD(Faculty Development)部会を設けている。薬学部も本学教育研究開発センターのFD部会に加入して本学全体の教育理念や教育目標を実現できるようFD活動に取り組む。

本学部では、薬学教育の研究・開発・企画及び評価手法の研究を担う医療教育企画室を設置する。同室では、薬学教育そのものを研究対象とし、薬学生に対する教育効果について科学的手法により検証することで、カリキュラムの改善や新たな教育手法・評価手法の確立など、薬学教育の質的向上に繋げていく。さらに、地域医療やへき地医療が抱える課題を踏まえ、地域における薬局や薬剤師の関わり方について調査研究を行い、その成果をもとに、地域や時代のニーズに対応した新しい薬剤師教育プログラムの構築を目指す。

薬学部には、学部独自の教育理念や教育目標があり（下記参照）、それらを実現

するため本学教育研究開発センターの FD 部会の下部組織として、医療教育企画室が「薬学部 FD 委員会(仮称)」を立ち上げる。薬学部 FD 委員会の委員は教員及び事務局職員とする。薬学部 FD 委員会では医療教育企画室による案を基に、1) 熟練教員による新任教員及び実務実習未経験教員への指導、2) 学生による授業評価、3) 教員能力向上を目的とした研修会、を実施する。

【和歌山県立医科大学薬学部 教育理念】

医療人として豊かな人間性、高邁な倫理観を育み、薬学に関する先進的で高度な専門知識と技能を教授することにより、健康や福祉に関する社会の要請に応じ、医療、衛生薬学、創薬などの幅広い分野において、研究面・臨床面で活躍できる人材を育成する。

【和歌山県立医科大学薬学部 教育目標】

- ・薬学に関する幅広い専門知識と医療人としての使命感・倫理観を有し、高い実践能力を養い、医療の現場で活躍できる人材を育成する。
- ・医療現場での多職種協働に対応できる高い能力を備え、意欲的で協調性の高い人材を育成する。
- ・薬学の専門家として医療、衛生薬学、創薬などの領域で高度で専門的な知識と研究マインドを持った人材を育成する。
- ・科学的根拠に基づき判断・解決できる能力を有し、社会の要請に応じた活躍ができる人材を育成する。
- ・地域の医療、健康福祉及び予防医学の向上に寄与できる人材を育成する。
- ・国際的に薬学研究、臨床薬学において活躍できる人材を育成する。

(1) 熟練教員による新任教員及び実務実習未経験教員への指導

新任教員は教育活動の初歩から近年の大学問題に至るまで幅広い知識・技術を学習することが必要である。特に、本学及び本学部の教育理念や教育目標、大学教員としての倫理、教育実践及び学生支援のための基礎的知識や技術を理解して行動できるよう、長年教育に携わった教員が新任教員に対して研修会を実施する。

また、実務実習における学生指導について、本学部では実務家教員のみならず基礎系教員も含めた教員全体で実務実習に携わることとしている。そのため実務実習開始前に、実務実習未経験教員をとした研修会を開催し、学生への教育の質を保証する。

(2) 学生による授業評価

「薬学部 FD 委員会」は全学生による授業評価を各講義終了後に実施する。評価結果は、教員本人へ通知する。各授業担当教員は学生による授業評価に対

して自身の課題を認識し、その改善策を学生にフィードバックをするとともに薬学部 FD 委員会へ報告する。薬学部 FD 委員会は教員からの改善策を共有及び協議する。薬学部 FD 委員会は授業担当教員からの報告に対して、適宜、助言及び指導することができる。学生による授業評価の結果及び教員による改善策については学内で公表する。

教員は授業目標を設定し、医療教育企画室指導の下、自己のシラバスを作成する(Plan)。教員は授業を実施し(Do)、学生からの授業評価(Check)を受けて、改善点を策定し、次年度の授業に反映する(Action)。このような教育活動の PDCA サイクルを活性化することにより、教育の質を持続的に向上させていく。

(3) 教員能力向上を目的とした研修会

教員は学生が大学生活のあらゆる場面を通じて成長できるように本学部の教育理念や教育目標を理解して実践することが求められている。本学部では教育理念及び教育目標の実現のため、教育能力向上や研究能力向上、そして組織管理者としての能力向上を主眼とした研修会を開催する。研修会の参加者は全教員を対象とする。

教育能力向上のための研修会の題目として、学生指導法、学習評価法、学生の心理、障がい学生支援、自死防止等を計画している。研究能力向上のための研修会の題目として、外部資金獲得方法、医療倫理、研究倫理等を計画している。組織管理者の能力向上の研修会として、コンプライアンス、ハラスメント防止、研究費の不正使用防止、化学物質取扱講習等を計画している。

研修会は年 2 回程度の開催を予定している。

2 大学職員に必要な知識・技能を習得させるための研修等の取組

本学の事業運営に当たってその基盤となる職員の育成及び能力開発については、事務局総務課を中心に取り組んでいる。法人経営や病院経営に資する職員を育成するため、国等への職員派遣、プロジェクトチームの意思決定過程への参画、法人独自の階層別研修等により能力及び資質向上を図っている。

平成 31 年度には本学から文部科学省及び厚生労働省、和歌山県庁へ職員を派遣している。階層別研修においては新規採用職員研修、採用後 3, 4 年目の中堅職員研修、30 歳代前半の副主査研修、40 歳前後の主査研修、新任管理職の評価者研修等を継続的に実施している。また、全教職員を対象に人権・同和特別研修を毎年開催している。人権に対する正しい知識を再確認させ、人権を尊重し、人格を重んじる職員を育成している。

公的研究費に係る不正を防止する取組として、本学では平成 27 年に公的研究費不正防止計画及び研究不正防止計画を策定した。これに基づき、全ての関係職員を対象に外部講師を招いてコンプライアンス研修を毎年実施している。

本学の研修以外にも公立大学協会主催の研修会や日本能率協会主催の JAM 大

学 SD フォーラム、和歌山県による特別研修等、外部の関連団体が実施している研修に参加することで、学外における職員の能力開発の場や他職員との交流の機会を充実させている。

本学部においても本学及び外部団体主催の職員研修を受講することにより、職員の資質向上に努めていく。

⑩ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1 教育課程内の取組

本学部では、1年次前期において「薬学入門Ⅰ(早期体験学習Ⅰ)」、1年次後期では「薬学入門Ⅱ(早期体験学習Ⅱ)」を必修科目としている。和歌山県内の病院や薬局、介護施設等の訪問体験を通じて、学生に薬剤師をはじめとする医療職や介護職の仕事内容について理解させる。この演習では、学生に薬剤師としての責任の重さ、患者及び生活者、そして他職種とのコミュニケーションの大切さを認識させるとともに、臨床薬学分野への知的興味を深めることにより自らの職業選択に対する意識の涵養を図っていく。

2年次前期では「地域医療薬学Ⅰ」及び「地域医療薬学Ⅱ」を必修科目として開講する。この講義において、学生は地域の疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーション推進のために薬剤師が果たす役割を理解する。学生自ら薬剤師として地域の公衆衛生にどのような貢献ができるのか考える契機となり、卒業後、先導的な薬局薬剤師として地域に貢献できるキャリア形成を行う。

4年次後期には必修科目として「事前学習Ⅰ」、「事前学習Ⅱ」を開講し、実務実習に向けて薬剤師業務の基本的技能やコミュニケーション能力、態度を学生に教授する。共用試験合格後、5年次通期で開講される必修科目「病院・薬局実習」(実務実習)において、学生は病院や薬局で薬剤師業務を合計22週間実習することになる。学生は臨機応変な状況が次々と生じている医療現場において薬剤師業務を長期間体験することで、「より高い倫理観、社会人としての良識を備えた実践能力を有する薬剤師(本学部ディプロマ・ポリシー)」の資質を身に付けることになる。

最終年度の6年次には「病院・薬局薬学」を必修科目として開講し、実務実習後の学生に対し、国内外における薬剤師の実践的な役割に関するアドバンス的な知識を教えるとともに、今後の病院・薬局薬剤師がそれぞれ果たすべき役割、将来像についてグループディスカッションで議論することにより、「国際的視野を有し、地域での医療に貢献できる(本学部ディプロマ・ポリシー)」人物としての資質・能力を養う。

2 教育課程外の取組

本学部では養成する人材像の一つとして「地域で活躍できる薬剤師」を掲げる。地域医療に貢献する薬剤師になるための意識付けとして、和歌山県内の地域医療

に係わる薬局経営者（薬局薬剤師）や病院薬剤師等による講演会を実施する。和歌山県内の人口が密集している都市部の薬剤師だけでなく、薬剤師不足が顕著な県内地域の薬剤師による講演により、学生の地域医療に貢献する使命感を醸成させる。

「地域で活躍できる薬剤師」養成のシステムとして、学校推薦型選抜に「県内枠」を設定する。和歌山県内の高等学校を卒業した者（見込みの者含む）及び和歌山県外の高等学校を卒業した者（見込みの者含む）でも出願時、扶養義務者が引き続き3年以上和歌山県内に居住していれば県内枠として本学部を受験できる。県内枠で入学した学生は他の学生と同じ教育課程を6年間履修するものの、卒業後2年間、県内医療機関の研修が義務付けられている。本学部は2年間の研修を修了した者に対して県内医療機関への就職斡旋を予定している。和歌山県内で生まれ育った学生を和歌山県内のあらゆる地域において薬剤師として定着する仕組みを立ち上げる。

また「国際的に活躍できるファーマシスト・サイエンティスト」を本学部の目指すべき養成する人材像の一つとして掲げている。国際的な学術視野を持たせるため、研究成果を出した6年次の学生に対し、所属する研究室の教員指導の下、海外での学会発表や国内学会での英語発表を推奨する。その他、本学国際交流センターからの紹介や留学受入実績のある海外の薬系大学や研究機関とのマッチングにより、5年次から6年次の休暇中にかけて学生の短期間留学も推奨する。短期留学では現地での講義及び実習を受け、病院薬剤部や薬局の見学を行う。帰国した学生は学内において海外で経験した研究活動を発表することにより、次世代の学生に世界水準の薬学研究を意識させる。

3 適切な体制の整備

本学部は学生が卒業後、薬剤師として自己実現できる場へ就職及び進学できるよう全学年を通して学生支援の体制を整備する。

本学部は、事務組織として薬学部事務室（仮称）を設置する。事務室には、学生のキャリア支援を担当する職員を配置する。教員の中からも学生のキャリア支援担当教員を指名する。キャリア支援担当の教職員は、学生からの就職相談、企業や医療機関への求人開拓、学生への求人データ提供等の企画運営に取り組む。

また、国際的な研究者になるため大学院進学を希望する学生に対しては、キャリア支援担当教職員から学生へ大学院情報を適宜情報提供することにより進学を支援する。

⑰ 実務の経験を有する教員の配置に関する考え方や計画

本学では薬剤師の養成を目的とする薬学部薬学科の開設を行うことから、薬剤師免許を取得し、概ね5年以上病院又は薬局において常勤薬剤師として勤務経験のある者を実務家教員として配置する。

本学部における専任教員の内、実務家教員を学部開設当初から2年間3名配置し、令和5年には10名の配置を予定している。本学部の実務家教員数10名は、「大学設置基準別表第一イ備考第9号の規定に基づき薬学関係（臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの）の学部に係る専任教員について定める件（平成16年12月15日文科科学省告示第175号）」が定める実務家教員数5名以上（本学部に求められる専任教員数28名に六分の一乗じて算出される額。小数点以下は切り上げ。）を満たしている。

本学部教員における役職の内訳として、教員が全員揃う令和5年には教授22名、准教授10名、講師6名、助教16名となる予定である。その内実務家教員は教授6名、准教授1名、講師1名、助教2名となる。実務家教員10名の配置先として、臨床・社会薬学の部門長に1名、各研究室には医療教育企画室2名、病院薬学2名、社会・薬局薬学1名、医療薬剤学2名、医療開発薬学1名、医療情報薬学1名とする。

教育課程において、実務家教員は最新かつ医療現場の薬剤師業務を学生教育に還元するため「薬学入門Ⅰ」「薬学入門Ⅱ」「薬学入門Ⅰ（早期体験学習Ⅰ）」「薬学入門Ⅱ（早期体験学習Ⅱ）」「ケア・マインド教育Ⅰ」「ケア・マインド教育Ⅱ」「医療倫理」「裁判化学」「災害薬学」「社会薬学Ⅰ」「社会薬学Ⅱ」「社会薬学Ⅲ」「社会薬学Ⅳ」「社会薬学Ⅴ」「社会薬学演習Ⅰ」「地域医療薬学Ⅰ」「地域医療薬学Ⅱ」「臨床感染制御学」「医薬品開発学」「医薬品情報学」「医薬品情報学演習」「医療統計解析学」「医療統計解析学演習」「臨床コミュニケーション」「臨床薬剤学Ⅰ」「臨床薬剤学Ⅱ」「がん・化学療法学」「臨床薬学概論」「臨床薬学演習」「薬学特別演習」「臨床医学」「医療安全学Ⅰ」「医療安全学Ⅱ」「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「病院・薬局薬学」「特別実習（入門）」「特別実習Ⅰ」「特別実習Ⅱ」の授業を担当する。

⑱ 実務実習が、実際にどのように行われるのか

1 実習計画の概要

(1) 実習目標（実習のねらい）

ア 実習全般の目標

「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」に準拠した「薬学実務実習に関するガイドライン」に従い、実務実習修了時の基本的な資質の到達点を示した「患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項の修得」を実習全般の目標とする。

イ 実習目標と本学部ディプロマ・ポリシーの関連性

実務実習では、病院及び薬局にて患者、来局者、施設スタッフ、地域関係者等と関わる機会により医療人としての倫理観が培われ「より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの」「患者の社会的、心理的背景にも配慮することができる」(本学部ディプロマ・ポリシー) 資質の修得を目指す。

また、22週の実習期間を通じて、臨床現場における薬剤師の業務や薬学の研究活動を理解し、「知識、技能を獲得しているのみでなく、それらを統合的に活用でき」「薬剤師としての実践能力や研究に足る技能を有している」(本学部ディプロマ・ポリシー) 水準まで高めていく。

そして、病院及び薬局にて臨床技術を学ぶだけでなく、現場で地域における医療提供施設の役割を理解することが「地域での医療に貢献できるもの」(本学部ディプロマ・ポリシー) としての人物養成につながっていく。

ウ 薬局実習における目標

指導薬剤師指導の下、処方せん調剤、在宅療養支援、セルフメディケーションの推進、地域保健・衛生活動への参加を通じてその意義と地域医療を支える心構えを理解し、地域医療に貢献する実践的能力を身に付ける。

エ 病院実習における目標

指導薬剤師とともに病院の医療チームに参加し、その一員として業務を実践しながら 1) 患者情報の収集と医薬品及び治療法に関する情報収集、2) 医師の治療計画の理解及び評価、それに対する患者情報に基づいた薬物療法の立案、3) 薬物治療計画の実施と評価、4) 医療人としての基盤となる態度の醸成、といった臨床対応能力を身に付ける。

(2) 実習単位

病院・薬局実習として20単位(必修)を割り当てる。

(3) 主な内容

「薬学教育モデル・コアカリキュラム(平成25年度改訂版)」及び「薬学実務実習に関するガイドライン」に準拠したF臨床薬学の中項目(1)薬学臨床の基礎、(2)処方せんに基づく調剤、(3)薬物療法の実践、(4)チーム医療への参画、(5)地域の保健・医療・福祉への参画、である5項目について実習する。

(4) 実習施設

受入施設を調整する近畿地区調整機構の結果に従うことを前提として、実習先には、原則、和歌山県内を中心とした病院や薬局において実務実習を行う。

具体的には、学生の大半を本学の近郊にある和歌山県立医科大学附属病院及び当病院とグループ化している薬局にて実務実習を予定している。本学近郊で実務実習を実施することにより、指導担当教員が病院・薬局の巡回指導を効率的、迅速的に行える。

本学の教職員は薬学部設置に当たり、令和元年6月から7月にかけて和歌山県内の病院、和歌山県薬剤師会、和歌山県病院薬剤師会と協議し、令和7年から開始予定となる実務実習に対する学生の受入依頼を行った。各病院や各薬剤師会の回答では、本学部生100名の受入について概ね了承している。

(5) 時期

「薬学実務実習に関するガイドライン」で示されたとおり、共用試験本試験終了後の4年次2月から5年次2月までの期間を4期に分けて、連続した2期を薬局実習と病院実習の順序で連続性のある実習を行う。実習期間は薬局実習と病院実習ともに11週である。時間は原則、月曜日～金曜日の午前9時～午後5時を目途とする。時間外の実習や、振替日の実習（土曜日等）を行った場合、実習時間に応じて代休とする場合がある。

(6) 学生の配置

指導担当教員が実務実習期間中、学生と密接な連絡が取れるよう、大学所在地近郊にある和歌山県内の薬局・病院での実習を予定している。また、大学から遠距離にある和歌山県内出身の学生からの希望があれば、実家を宿所拠点として薬局や病院への実務実習も可能とする。県内遠隔地への指導について、大学から最も遠い実習場所（県内保健医療圏）まで自動車ですり道3時間を要するが、教育の質を保証するため大学近接地での実習と同じく教員の巡回指導を実施する。

(7) 実習委員会の設置

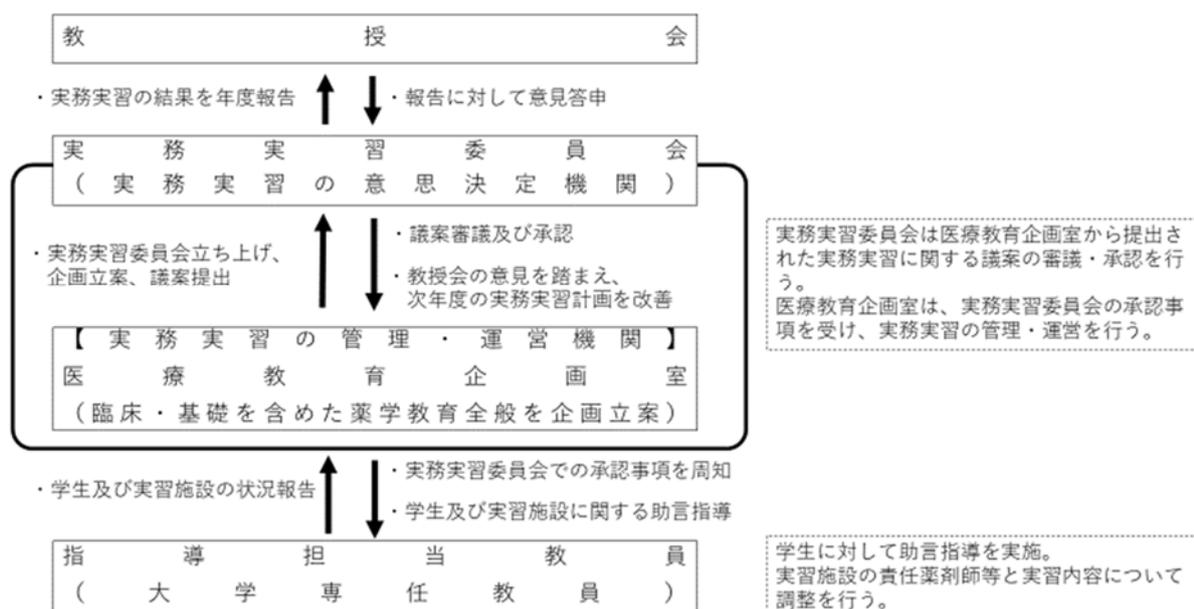
実務実習を統括する組織として、学内に実務実習委員会を設置する。医療教育企画室（室長は薬学部長）が実務実習委員会を立ち上げる。実務実習委員会の委員長は薬学部長が指名した者、委員は薬学部専任教員、事務局職員とする。

実務実習委員会は、医療教育企画室の企画立案を受けて、近畿地区調整機構との連携、実習施設への学生配属、学生の単位認定、教員の訪問指導、危機管理や学生のトラブル対応、感染症予防や損害賠償責任保険等の事項を審議・承認する。実務実習委員会の承認をもって各事項が決定となり、医療教育企画室が実務実習を管理・運営することになる。

実務実習委員会は実務実習終了後、教授会に対して結果報告を行う。この報告を受け、教授会は実務実習委員会に対して意見することができる。実務実習の意思決定機関は実務実習委員会であるが、学内別組織からの意見により実務

実習の改善が図られ、医療教育企画室が翌年度の実務実習計画を練り直す。このサイクルにより教育の質が担保される仕組みになっている（下記参照）。大学が指名した指導担当教員は実務実習開始時までには受入施設を訪問し、学生に関するプロフィール情報を施設の責任薬剤師へ伝達する。指導担当教員は、施設から実習スケジュール表の提供を受けることで、「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）」に準拠した実習内容であるかどうか確認する。指導担当教員による確認後、その結果を医療教育企画室へ報告する。医療教育企画室は問題のある実習施設に対して適宜是正指導を行う。これにより本学部は学生にとって不利益が生じないよう施設間における実習内容の格差を可能な限り無くすよう努めていく。

【実務実習における学内体制について】



(8) 学生へのオリエンテーションの内容、方法

実習は医療現場で行うものであることから、当然、学生には社会人としての節度ある態度が求められる。病院や薬局は患者の生命に直結する医療提供施設である。学生は医療人として相応しい態度で実習に臨むことの重要性を認識しなければならない。そのため、本学では共用試験合格後実務実習前となる 4 年次の学生に対して実務実習に臨むオリエンテーションを実施する。

オリエンテーションでは学生に対し、実務実習の意義や目標、成績評価、薬局及び病院への配属方法、注意事項等を説明する。学生が実習中に知り得た情報に関する守秘義務や SNS の利用に係る注意点について、本学は学生に対し、薬学教育協議会が提供している「病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等及び病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書」に準拠した個人情報や法人機密に関する指導を行う。学生は、個人情報等や法

人機密情報の取り扱いを十分に理解した上で、これらを遵守する証として、薬学教育協議会提供の「病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等及び病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書」を大学へ提出する。

(9) 実習までの抗体検査、予防接種等

近畿地区調整機構が定めた「長期実務実習にあたっての抗体検査・ワクチン接種に関するガイドライン」に準拠し、本学の定期健康診断と合わせて、麻疹、風疹、水痘、ムンプス（流行性耳下腺炎）及びB型肝炎の抗体検査を行う。抗体検査の抗体値が不十分な場合、学生に対してワクチンを接種するよう指導する。その他、結核については、胸部X線撮影の結果をもって判定の代用を行う。インフルエンザの予防対策として、学生に実務実習前にワクチン接種を行う。

(10) 損害賠償責任保険、傷害保険等の対策等

保険等の加入について、学生が教育研究活動中、通学途中、課外活動中に不慮の事故により災害を被った場合の経済的負担の軽減や、正課、学校行事、及びその往復途中で、他人にケガをさせ、又は他人の財物を破損したことにより被る法律上の損害賠償を補償するため、全ての学生に対し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」及び「学研災付帯賠償責任保険（学研賠）」の加入を義務付ける。

2 実習指導体制と方法

(1) 巡回指導計画

指導担当教員は、実習先施設訪問の時期は特に規定しない。しかし、最低1回以上、実習先施設を訪問する。指導担当教員は実習先施設において、実務実習の見学、責任薬剤師又は認定指導薬剤師との面談、学生との面談を行う。

大学と全く異なる薬局や病院という環境下で慣れない学生を発見した場合、指導担当教員は実習施設への訪問頻度を上げて、学生のメンタルケアを行う。

指導担当教員は学生への指導が自己の他の担当科目に影響を与えないよう、また学生への指導自体が教員への過度な負担にならないよう正・副の教員が分担して学生をケアする。

(2) 実習計画全体が掌握できる年次別スケジュール表（各班スケジュール表）

「薬学実務実習に関するガイドライン」に従った近畿地区調整機構の調整結果に基づき、実習施設と協議の上、実務実習のスケジュールを策定する。本学部では学生を3班に分け、実務実習を実施する（資料23）。

(3) 各段階における学生へのフィードバック、アドバイスの方法等

近畿地区調整機構の管轄区域では、大学及び学生、そして実習施設間の連携を図るため WEB システムを利用している。近畿地区調整機構に加入する本学の教員及び学生も実習施設との連携、共有手段として WEB システムを活用する予定である。

ア 通常時

実務実習が始まると、学生は WEB システムを利用して日誌・週報の作成や目標の達成状況を入力する。認定指導薬剤師及び指導薬剤師、指導担当教員は、学生が WEB システムに登録した内容について実習状況を確認し、必要に応じて WEB システムのコメント欄に的確な指導や助言を入力することにより学生に対して学習改善に向けたフィードバックを行う。

イ 指導担当教員訪問時

指導担当教員が WEB システムを通じた学生との指導以外に実習施設へ訪問する。訪問時には、指導担当教員、責任薬剤師あるいは認定指導薬剤師、そして学生の三者面談を行う。面談において、指導担当教員は実際、医療現場で学生の実習状況を把握することで、学生に直接的かつ詳細な指導を行う。また、指導担当教員は学生と 2 人きりで面談を行い、実務実習に慣れない環境で励んでいる学生の不安や悩みの相談を受け、適切な指導助言を行う。

(4) 学生の実習中、実習後のレポート作成・提出等

ア 実習中

学生は 1 日の実習終了時に作成した「日報」や 1 週間の実習終了時に作成した「週報」を WEB システムに入力を行う。学生が入力した WEB システムの内容について、指導担当教員及び認定指導薬剤師あるいは指導薬剤師が評価を行う。また、学生は実習中から認定指導薬剤師又は指導薬剤師からの指導を受けながら、実務実習報告書の作成に取りかかる。

イ 実習後

学生は、実習達成度把握の観点から、施設の概要、実習内容、教育目標毎の考察を記載した「実務実習報告書」を作成し、実務実習終了後に大学へ提出する。

3 施設との連携体制と方法

(1) 施設との連携の具体的方法、内容

実務実習にあたり、本学部指導担当教員が実習施設の責任薬剤師等と協議する場として「実務実習連絡会議」を立ち上げる。ここでは、「薬学実務実習に関するガイドライン」の周知徹底を行う。また、大学側と施設側の間において実務実習の基本方針を共有し、医療現場に即した参加・体験型となる臨床実習の実務実習実施計画書を共同して作成する。

(2) 相互の指導者の連絡会議設置の予定等

本学は学生の配属が決定した実習先の責任薬剤師等と実務実習連絡会議を開催し、連携体制を確認する。

〈実務実習連絡会議〉

1) 目的

薬学実務実習に関する連絡会議が例示した記載事項（資料 22）に準拠して近畿地区調整機構が示した実務実習実施計画書のひな形を基に、本学部の指導担当教員や病院及び薬局の責任薬剤師等が参加協議しながら、医療現場に応じた実務実習実施計画書を作成する。また、各実習施設の責任薬剤師等と指導担当教員がこの会議を通じて情報交換を密に行うことにより、病院・薬局の実習連携やグループ実習における教育内容の充実を図る。

2) 参加者

本学の医療教育企画室が主催する。大学側は、実務実習委員会委員、医療教育企画室教員、指導担当教員が参加する。病院及び薬局側は責任薬剤師あるいは認定指導薬剤師が参加する。

3) 開催時期

学生の実習先配属決定後実務実習開始前、病院や薬局の責任薬剤師が会議に参加できる日程を調整し、速やかに開催する。今年度における実務実習の振り返り及び翌年度における実務実習向上を目的に実務実習終了後にも開催する。

(3) 大学と実習施設との緊急連絡体制

学生、指導担当教員、責任薬剤師、認定指導薬剤師、指導薬剤師の連絡先（電話、メール等）を記した連絡網を作成する。

学内においても、緊急連絡網を作成し、最終的には薬学部長及び学長まで報告が届くシステムを構築する。

(学生が実務実習中に起きた緊急対応)

(順序 1) 学生または実習施設は、緊急事態発生時、直ちに医療教育企画室へ連絡を行う。本学部内では薬学部長まで報告を行う(重大事態の場合、学長まで報告)。医療教育企画室は、学生または実習施設に対し適切な指示を行う。学生が疾病や受傷の場合、実習施設である病院・薬局が直ちに学生を病院や診療所等の医療提供施設へ搬送する。



(順序 2) 実習施設や医療提供施設が学生に適切な指導や医療処置を行う。



(順序 3) 医療教育企画室は、学生の状況を把握するため、実習施設または医療提供施設に状況の確認を行う。状況に応じて、指導担当教員は緊急事態に遭った学生と面会し、心身の支援を行う。



(順序 4) 学生が疾病や受傷した場合、医療提供施設は学生の治療結果について学生並びに学生を搬送した実習施設へ報告する。



(順序 5) 学生及び実習施設は、医療教育企画室へ事後措置の報告を行う。



(順序 6) 医療教育企画室は、学生及び実習施設からの報告を受け、実習施設と協議しながら当該学生の今後における実務実習計画の変更等を検討する。

(4) 各施設での指導者の配置状況

近畿地区調整機構には、和歌山県薬剤師会、和歌山県病院薬剤師会等といった近畿地区内の職能団体、そして本学以外の近畿地区 14 大学の薬学部が加入している。薬局、病院が近畿地区調整機構の実習施設として登録できる要件として、施設内に認定指導薬剤師が 1 名以上確保されていること、そして「薬学教育モデル・コアカリキュラム(平成 25 年度改訂版)」に記載されている全ての到達目標が実施されていることが挙げられている。そのため、近畿地区調整機構に加入予定の本学の学生は、各施設の責任薬剤師管理の下、認定指導薬剤師の指導を受けることになる。

(5) 実習前、実習中、実習後等における施設との調整・連携等

ア 実習前

指導担当教員が実習施設の責任薬剤師又は認定指導薬剤師と面会し、下記の協議事項について実習内容の確認を行う。指導担当教員は学生が体験できる症例や参加できる事例等に不公平が生じないように、各実習施設間における実習内容の格差を可能な限り無くすため、責任薬剤師等と実習内容について調整を行う。

また、大学側と施設側は実務実習連絡会議を通じて、学生に実践的な臨床対応能力が身に付く実習となるよう協議を行う。

(実習前) 指導担当教員による受入施設の責任薬剤師、 認定指導薬剤師との協議事項
1) 実務実習実施計画の確認
2) 学生の実務実習事前学習(臨床準備教育)におけるカリキュラムの履修状況や学習目標到達度等に関する情報の伝達
3) 学習成果の評価方法(総括的評価)について確認 (成績判定の規定や基準)
4) 実務実習における進捗状況の確認方法
5) 実務実習実施過程での学生の学習目標到達状況に対する確認及び指導方法(形成的評価)
6) 実習時における問題・トラブル等の把握と対応・措置
7) その他実務実習の充実を図るため、実習施設の責任薬剤師、認定指導薬剤師に対する必要な事項を伝達、要望

イ 実習中

指導担当教員は学生の実習中に、受入施設を訪問し、下記の協議事項を中心に責任薬剤師又は認定指導薬剤師との面談を行う。指導担当教員は、実習自体の進捗状況や学生の学習到達目標への進捗状況を確認することにより受入施設の責任薬剤師、認定指導薬剤師に対し適宜指導を行う。

(実習中) 指導担当教員による受入施設の責任薬剤師、 認定指導薬剤師との協議事項
1) 実務実習実施計画書どおりに実習が実際に実施されているか進捗状況の確認
2) 実務実習実施過程での学生の学習目標到達状況の確認
3) 実務実習終了に向けた学生の学習目標到達への意識付け
4) 個人情報の保護に十分に配慮した学生のメンタルケア
5) その他実務実習の充実を図るため、実習施設の責任薬剤師、認定指導薬剤師に対する必要な事項を伝達、指導

ウ 実習後

指導担当教員は、学生から受入施設での実務実習における意見や感想を確認の上、各受入施設の責任薬剤師又は認定指導薬剤師から下記の協議事項についてヒアリングを行う。これにより次年度に向けた実務実習の充実を目指していく。

(実習後) 指導担当教員による受入施設の責任薬剤師、 認定指導薬剤師との協議事項
1) 実務実習実施計画書どおりに実習が実際に実施されたか確認
2) 学生に対する学習目標到達度の評価(総括的評価)
3) その他次年度に向けた実務実習の充実を図るため、実習施設の責任薬剤師、認定指導薬剤師に対する必要な事項を伝達、要望

実務実習終了後、本学は医療教育企画室主催で実務実習報告会を開催する。開催時期は各期の実務実習終了後とする。学生と指導担当教員は全員出席する。実習受入施設の責任薬剤師あるいは認定指導薬剤師に対して出席を依頼する。指導担当教員は報告会に当たり、改めて学生に「病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等及び病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書」に準拠した個人情報の機密保持に関する指導を行う。指導を受けた学生は患者の症例や薬歴等について個人情報に配慮した実習報告を行う。学生による発表を受けて、教員や実習施設の薬剤師は資質向上につながる助言や指導を行う。これにより、学生は改めて実習内容を振り返るとともに他学生の報告から自分では出来なかった実習内容の共有化を行う。

4 単位認定等評価方法

(1) 各施設での学生の評価方法

実習施設の責任薬剤師又は認定指導薬剤師が「薬学実務実習に関するガイドライン」における評価項目に準拠した成績評価を行う。具体的には、「薬学実務実習の評価の観点について(例示)」(平成30年11月27日一部改訂)に基づき、「薬学実務実習に関するガイドライン」F 薬学臨床の中項目(1)薬学臨床の基礎、(2)処方せんに基づく調剤、(3)薬物療法の実践、の3項目は、到達度を指標とした概略評価を用いる。

(4)チーム医療への参画、(5)地域の保健・医療・福祉への参画、の2項目については、WEBシステムを通じた実務実習記録(日誌・レポート)による評価を行う。

本学部ではディプロマ・ポリシーを踏まえた成績評価も同時並行で行う。ディプロマ・ポリシー「より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの」については、「薬学実務実習に関するガイドライン」の一般目標である(1)臨床における心構えとして、の中に含まれ、ディプロマ・ポリシー「薬剤師として

の実践能力や研究に足る技能を有しているもの」については、同じく一般目標(2)処方せんに基づく調剤及び(3)薬物療法の実践、の中に含まれる。また、ディプロマ・ポリシー「単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの」は(1)薬学臨床の基礎、(2)処方せんに基づく調剤、(3)薬物療法の実践、(4)チーム医療への参画、(5)地域の保健・医療・福祉への参画、全ての一般目標に含まれ、ディプロマ・ポリシー「地域での医療に貢献できるもの」は、(4)チーム医療への参画及び(5)地域の保健・医療・福祉への参画、に含まれる。

よって、各指導担当教員及び受入施設の責任薬剤師・認定指導薬剤師は本学部のディプロマ・ポリシーを意識しながら「薬学実務実習に関するガイドライン」に則って学生の成績評価を行う。

(2) 各施設の指導者と大学側の指導者との評価における連携方法

実習施設の責任薬剤師あるいは認定指導薬剤師による学生評価だけでなく、指導担当教員も責任薬剤師あるいは認定指導薬剤師と同様の項目で学生の評価を行う。指導担当教員による評価結果と実習施設の責任薬剤師あるいは認定指導薬剤師による評価結果が大きく乖離した場合、第三者となる医療教育企画室が調整を図り、学生の最終的な成績評価を行う。実務実習委員会は、医療教育企画室から上申された成績評価が適切かどうか判断し、単位認定を行う。

(3) 大学における単位認定方法等

指導担当教員は、実習施設の責任薬剤師あるいは認定指導薬剤師の評価結果を参考に、薬学臨床の基礎、処方せんに基づく調剤、薬物療法の実践への到達度を指標とした概略評価とWEBシステムを通じた実務実習記録(日誌・レポート)による評価を総合して、実務実習の単位認定を実施する。指導担当教員は成績評価の結果を医療教育企画室へ提出する。医療教育企画室が指導担当教員への学生の成績評価を集約し、最終的な成績評価を実務実習委員会へ上申する。最終的な単位認定は、実務実習委員会の責任の下に行う。

(4) 薬学教育モデル・コアカリキュラム

「薬学教育モデル・コアカリキュラム(平成25年度改訂版)」F薬学臨床における一般目標(GIO)を達成するための到達目標(SBOs)と本学部が開設する実習科目との対応表について(資料24)に添付する。

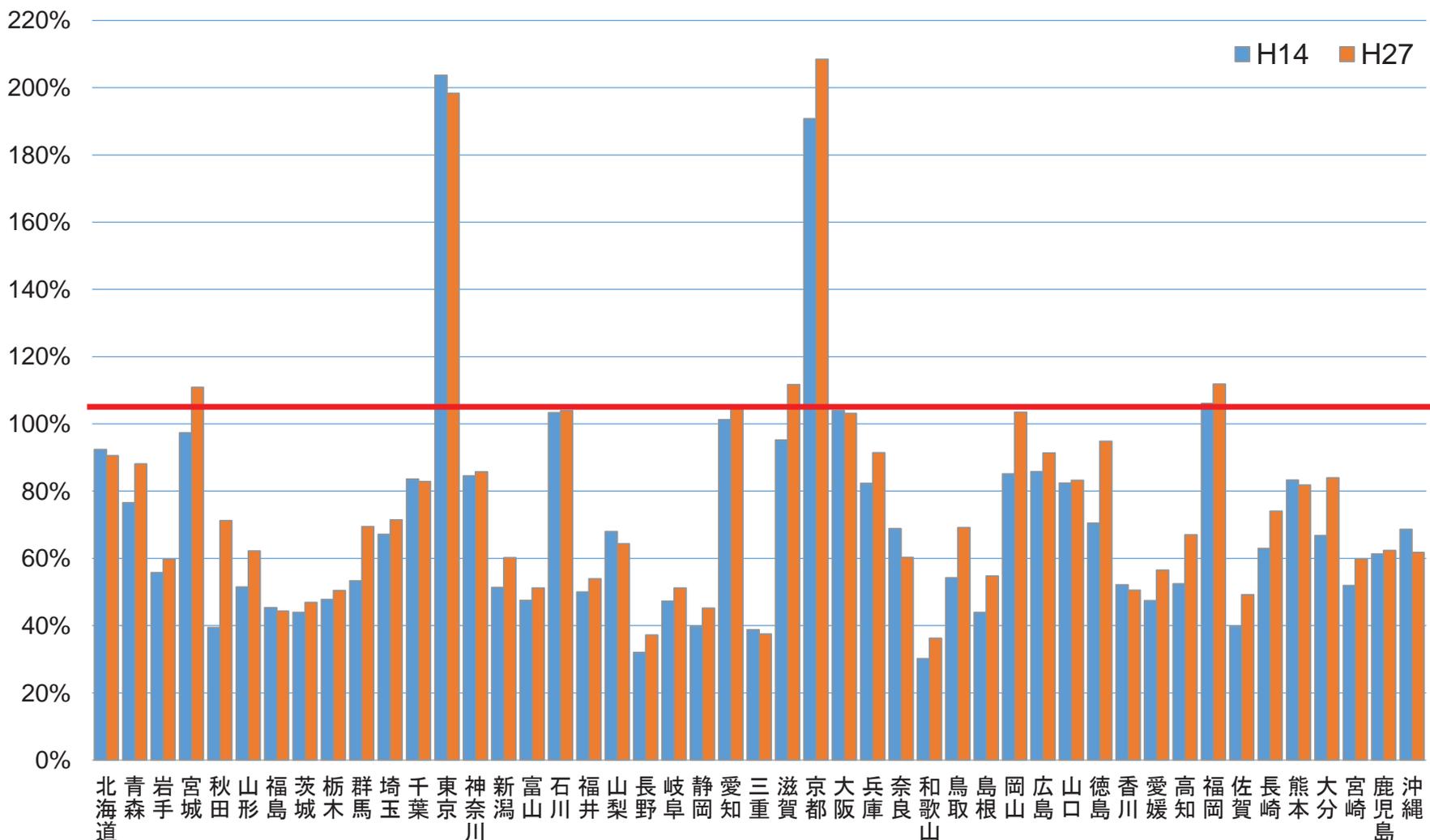
(5) 教育課程と指定規則等との対比表

「薬学教育モデル・コアカリキュラム(平成25年度改訂版)」の一般目標(GIO)に対して、本学部の授業科目がどのように該当するのか、(資料25)のとおり対応表を添付する。

設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

- 資料 1・・・都道府県別大学進学者収容力
- 資料 2・・・県外大学・短大への進学者割合
- 資料 3・・・薬学部設置状況
- 資料 4・・・県内高校からの薬学部進学人数
- 資料 5・・・薬学部増設を求める署名に関する新聞記事
- 資料 6・・・大学生等の就業意識調査結果
- 資料 7・・・和歌山県における薬剤師数
- 資料 8・・・養成する人材像と3ポリシーの相関
- 資料 9・・・カリキュラムマップ
- 資料 10・・・和歌山県における高齢化の状況
- 資料 11・・・薬学部における研究体制
- 資料 12・・・公立大学法人和歌山県立医科大学職員就業規則
- 資料 13・・・公立大学法人和歌山県立医科大学教員の定年の特例及び定年を超えた者の採用の特例に関する規程
- 資料 14・・・履修モデル
- 資料 15・・・時間割
- 資料 16・・・薬草園資料
- 資料 17・・・研究機器リスト
- 資料 18・・・図書・電子ジャーナルリスト
- 資料 19・・・一般選抜について
- 資料 20・・・薬学実務実習施設の調整実施承諾書
- 資料 21・・・第七次和歌山県保健医療計画〈一部抜粋〉
- 資料 22・・・「実務実習実施計画書」の記載事項について（例示）
- 資料 23・・・実務実習スケジュール
- 資料 24・・・一般目標(GIO)を達成するための到達目標(SBOs)と本学部実習科目との対応表
- 資料 25・・・教育課程と指定規則等の対応表

○ 東京都及び京都府の大学進学者収容力が200%程度と突出している一方、長野県、三重県、和歌山県は40%を切っており、大学進学者収容力における両極端の現状の是正が論点。



○大学進学者収容力=(各県の大学入学定員/各県に所在する高校の卒業者のうち大学進学者の数)×100

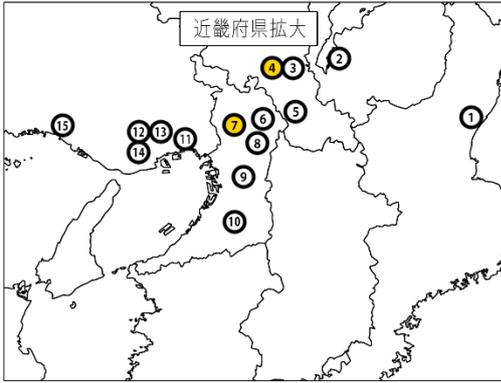
【出典】○大学入学定員数…文部科学省調べ ○大学進学者数…文部科学省「学校基本統計」

105. 県外大学・短大への進学者割合

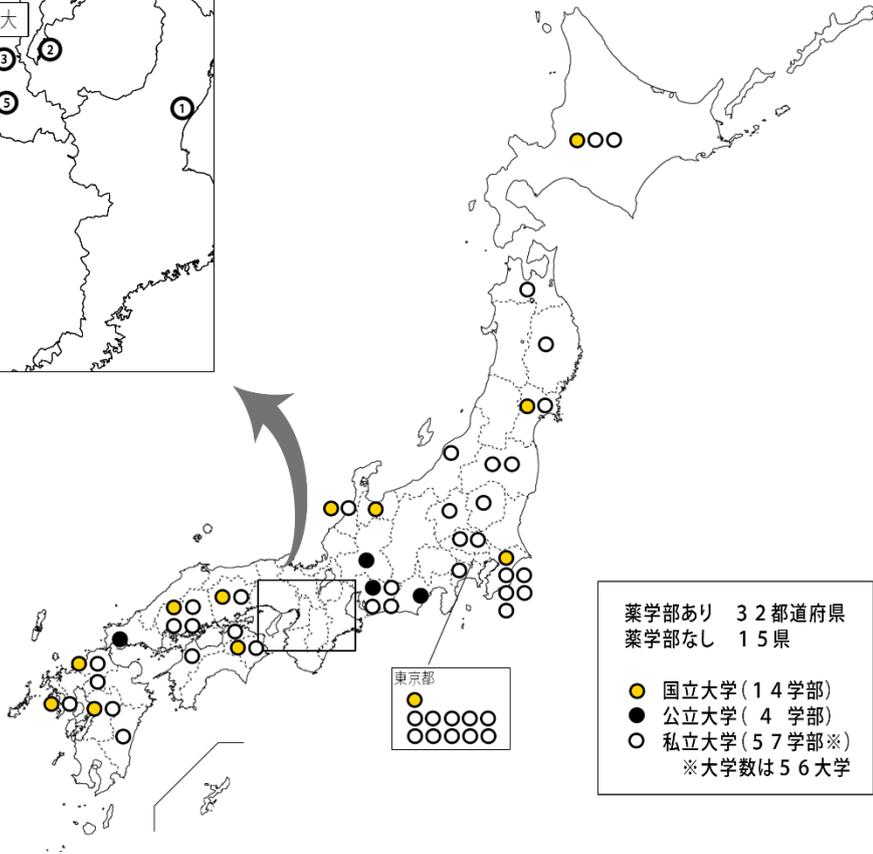
都道府県	順位					進学者割合					%
	05年	10年	15年	16年	17年	05年	10年	15年	16年	17年	
全 国						55.6	54.1	54.1	54.1	53.8	
北海道	47	46	46	46	46	25.4	26.3	29.3	30.5	30.4	
青森県	32	33	33	33	33	59.3	56.5	57.7	58.4	58.0	
岩手県	20	22	20	20	23	71.5	68.3	68.8	69.8	67.9	
宮城県	41	42	43	43	43	44.3	40.6	41.0	41.1	40.1	
秋田県	21	18	17	17	18	71.1	71.6	71.4	72.4	71.6	
山形県	10	11	11	15	12	76.0	74.2	74.7	73.7	73.7	
福島県	18	15	10	11	13	72.4	73.3	75.2	75.2	73.7	
茨城県	12	6	6	6	6	75.4	79.2	78.6	79.3	78.4	
栃木県	16	17	16	13	15	73.9	72.8	73.2	74.1	72.8	
群馬県	22	23	25	25	24	70.5	67.6	66.6	66.1	66.5	
埼玉県	26	25	23	23	22	65.6	66.3	67.8	68.1	68.8	
千葉県	30	28	26	26	27	64.1	64.2	66.0	65.8	65.3	
東京都	44	44	44	44	44	38.4	36.6	34.4	34.2	33.9	
神奈川県	36	36	34	34	34	55.5	53.7	57.7	57.5	57.5	
新潟県	29	30	30	30	30	64.3	62.4	61.1	62.1	61.4	
富山県	14	13	12	9	11	74.7	73.9	74.3	76.3	73.8	
石川県	33	35	36	38	38	57.9	54.5	52.6	51.5	50.2	
福井県	25	26	27	27	26	69.4	65.1	65.3	65.4	65.7	
山梨県	24	21	21	21	19	70.0	68.3	68.4	69.6	70.5	
長野県	15	12	14	14	10	74.6	74.2	73.4	73.9	74.2	
岐阜県	9	10	13	12	14	76.3	74.4	73.7	74.1	73.2	
静岡県	19	20	19	22	21	72.3	70.2	69.5	69.3	69.1	
愛知県	46	47	47	47	47	27.4	25.8	26.6	27.4	26.9	
三重県	8	8	9	10	9	76.9	76.8	75.2	75.7	76.0	
*滋賀県	7	7	8	8	8	77.3	77.2	76.6	77.0	76.0	
*京都府	39	39	39	39	39	51.5	48.1	48.8	47.8	48.5	
*大阪府	42	41	42	42	42	44.2	42.7	42.6	42.1	41.2	
*兵庫県	37	37	38	37	37	52.5	50.6	52.5	51.9	52.0	
*奈良県	3	2	2	2	2	83.0	83.9	83.4	83.2	83.2	
☆和歌山県	1	1	1	1	1	88.8	87.3	86.5	86.1	85.7	
鳥取県	4	4	5	5	5	81.5	81.4	80.0	80.3	78.6	
島根県	2	3	3	3	3	85.1	81.9	82.6	81.1	82.2	
岡山県	34	34	37	36	36	56.4	54.8	52.6	52.9	52.8	
広島県	40	40	41	40	40	50.1	45.4	45.9	46.7	47.0	
山口県	13	14	18	19	17	74.8	73.6	71.4	69.9	72.5	
徳島県	31	31	31	32	32	60.0	60.4	59.8	58.7	58.1	
香川県	5	9	7	7	7	78.3	76.6	77.2	78.0	77.3	
愛媛県	27	29	29	28	29	65.3	63.6	62.5	64.7	62.6	
高知県	11	16	15	16	16	75.5	73.0	73.4	73.0	72.8	
福岡県	45	45	45	45	45	33.7	32.3	33.2	32.5	32.0	
佐賀県	6	5	4	4	4	77.6	80.3	80.8	80.5	79.2	
長崎県	28	27	28	29	28	64.5	64.5	65.1	64.2	63.5	
熊本県	38	38	35	35	35	52.1	49.7	53.3	54.0	54.4	
大分県	23	24	24	24	25	70.1	67.5	67.0	67.7	66.5	
宮崎県	17	19	22	18	20	72.8	70.7	68.1	71.1	70.0	
鹿児島県	35	32	32	31	31	55.8	58.1	58.9	59.6	58.9	
沖縄県	43	43	40	41	41	42.9	38.7	46.3	44.2	44.2	

資料： 文部科学省「学校基本調査報告書」
時期： 2017年4月入学者(5月1日在籍者)，毎年
メモ： 県内高校出身者の入学大学所在地割合

大学	大阪	和歌山	京都	兵庫	東京	奈良
	42.8%	11.4%	10.6%	8.4%	4.6%	2.2%
短大	大阪	和歌山	兵庫	奈良	京都	三重
	39.5%	36.6%	9.9%	4.8%	4.3%	1.6%



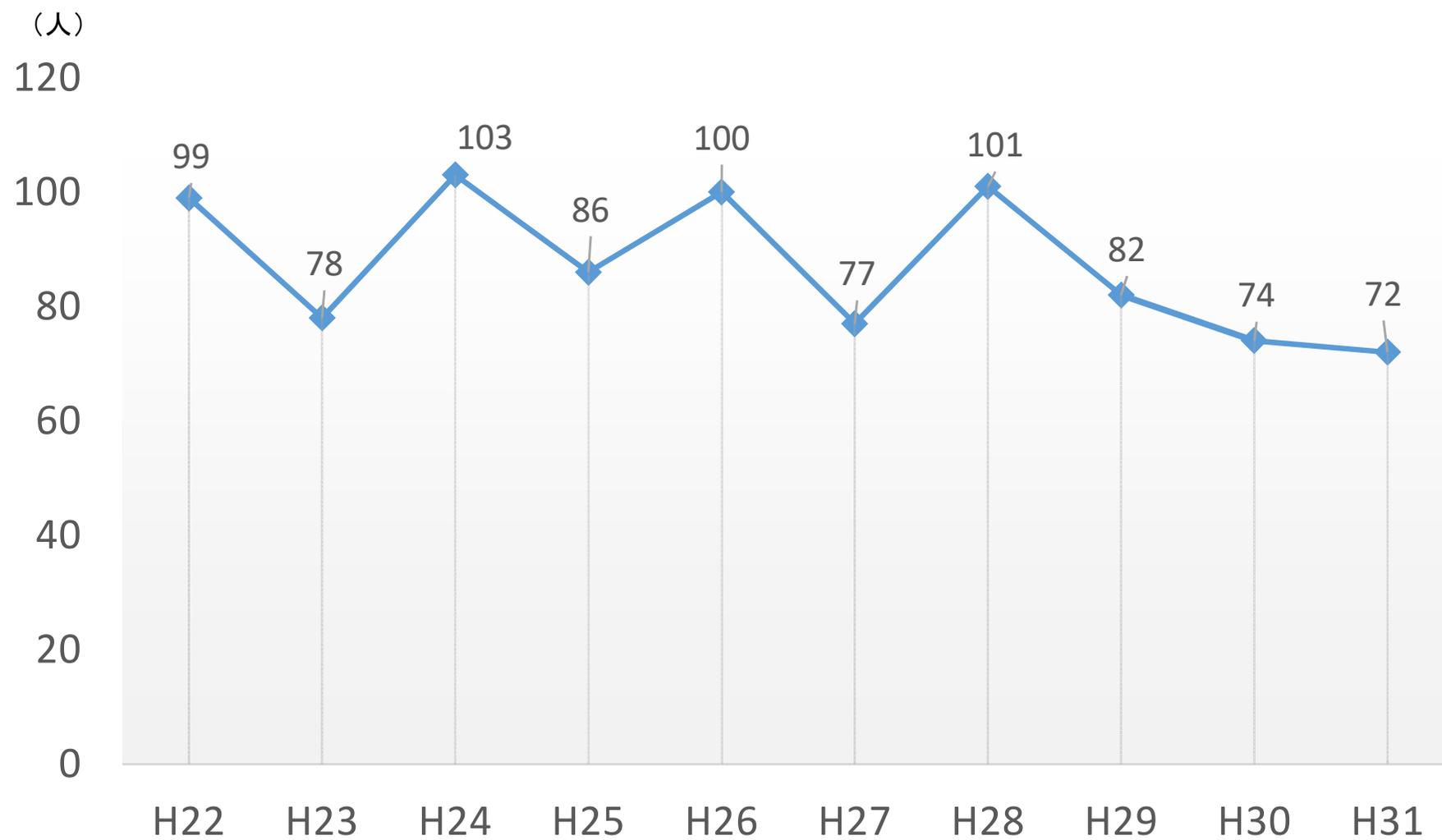
- ① 鈴鹿医療科学大学(鈴鹿市)
- ② 立命館大学(草津市)
- ③ 京都薬科大学(京都市)
- ④ 京都大学(京都市)
- ⑤ 同志社女子大学(京田辺市)
- ⑥ 大阪薬科大学(高槻市)
- ⑦ 大阪大学(吹田市)
- ⑧ 摂南大学(枚方市)
- ⑨ 近畿大学(東大阪市)
- ⑩ 大阪大谷大学(富田林市)
- ⑪ 武庫川女子大学(西宮市)
- ⑫ 神戸薬科大学(神戸市)
- ⑬ 兵庫医療大学(神戸市)
- ⑭ 神戸学院大学(神戸市)
- ⑮ 姫路獨協大学(姫路市)



薬学部あり 32都道府県
 薬学部なし 15県

● 国立大学(14学部)
 ● 公立大学(4学部)
 ○ 私立大学(57学部※)
 ※大学数は56大学

県内高校からの薬学部進学人数



1. 設置の趣旨 資料5

2. 出典:ニュース和歌山

3. 引用範囲:2015年(平成27年)3月21日 土曜日 4ページ

4. 和歌山県薬剤師会と和歌山県病院薬剤師会が2015年3月2日、和歌山県立医科大学に薬学部増設を求める3万2533人分の署名を仁坂吉伸知事に渡した旨の記事を引用した。

平成 29 年 3 月 24 日	
資 料 提 供	
担 当 課	労 働 政 策 課
担 当 者	坂本、下村
電 話	073-441-2807

「大学生等の就職意識調査」集計結果

(平成 30 年 3 月大学等卒業予定者アンケート調査)

和歌山県では、県内産業を支える優秀な人材を確保するため、大学生等のUターン就職の促進に取り組んでいます。施策の参考とするため、本県出身の大学生等がUターン就職についてどのような意識をもっているかについての調査を毎年実施しており、この度今年度の調査結果を取りまとめました。今回の調査で「県内で就職したい」と回答する者は 49.5%となり、約半数の学生がUターン就職を希望している結果となりました。

【ポイント】

- ・ 「県内で就職したい」と回答した者が49.5%
- ・ 県内で就職したい理由は「故郷に愛着があるから」が56.9%でトップ
- ・ 県内での就職を希望しない者のうち、50.6%が将来的にUターンを希望

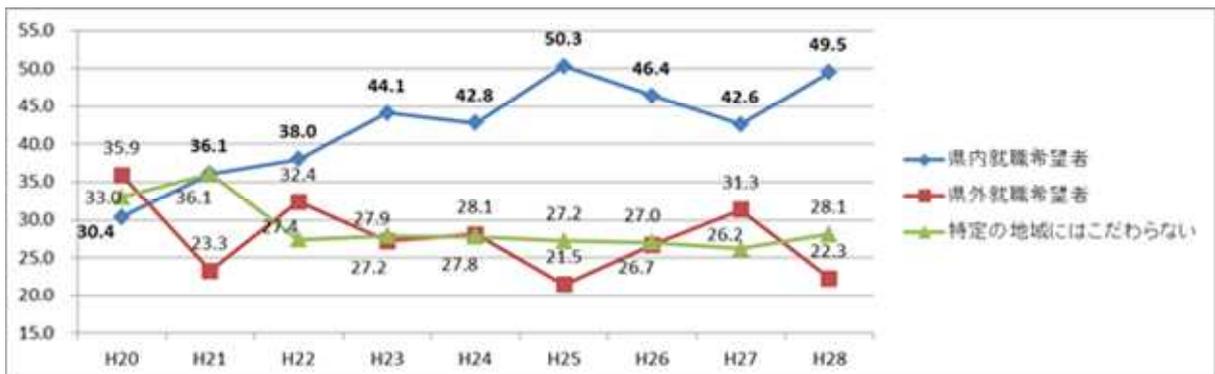
調査の概要

- (1) 調査対象者 県内高校出身者で、平成 30 年 3 月大学・短大・専門学校等卒業予定者
- (2) 調査方法 郵送によるアンケート調査
- (3) 調査期間 平成 28 年 12 月～平成 29 年 1 月
- (4) 回 答 数 309 名 (調査票送付数 5,378 名、回収率 5.7%)

調査結果の概要

1 就職を希望する地域について

- ・ 「県内で就職したい」49.5%、「県外で就職したい」22.3%、「特定の地域にこだわらない」28.2%となりました。
 - ・ 「県内で就職したい」と回答する者は、前回調査 (H27 年度) よりも 6.9 ポイント高い 49.5%であり、H23 年度から連続して回答者の 4 割以上が県内での就職を希望しています。
- ※過去 10 年の推移 (H21、H25 は未公表)



2 「県内で就職したい」（全体の49.5%）と回答した者について

① 「県内で就職したい」と回答した理由（3つまで選択）

- ・上位3項目は「故郷に愛着があるから」（56.9%）、「地元での生活に慣れている」（54.9%）、「家族といっしょに暮らしたい」（39.9%）となりました。

② 「県内で就職したい」と回答した者が県内での就職活動を行うにあたって利用したいサービス（あてはまるもの全て選択）

- ・上位3項目は「県内企業情報の提供」（57.5%）、「就職相談」（37.3%）、「合同企業説明会」（35.9%）となりました。

3 「県外で就職したい」（全体の22.3%）と回答した者の内訳

① 「県外で就職したい」と回答した理由

- ・「県外で就職したい」と回答した理由として、「県内に希望の就職先が無いから」（37.7%）、「都市圏で就職したいから」（27.5%）となりました。

② 「県外で就職したい」と回答した者の就職希望地域

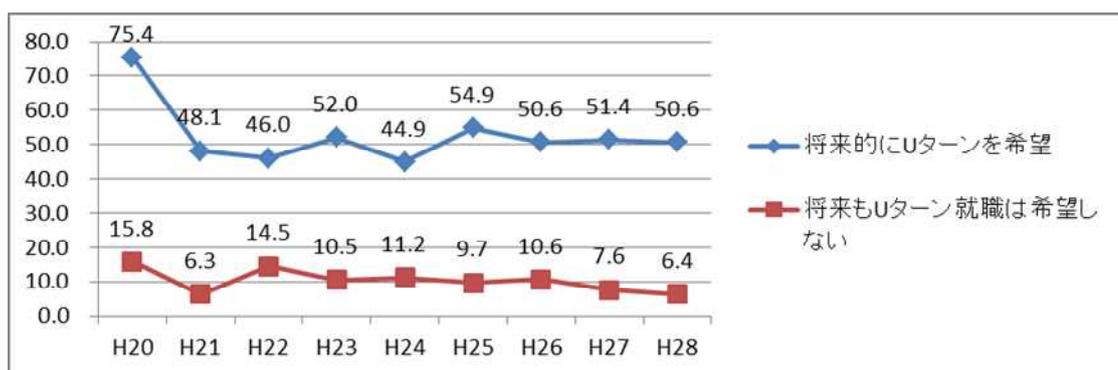
- ・「県外で就職したい」と回答した者の就職希望地域は、関西地域が最も多く、76.8%となりました。

4 「県外で就職したい」、「特定の地域にはこだわらない」と回答した者の将来のUターン志向

- ・「県外で就職したい」、「特定の地域にはこだわらない」と回答した者のうち、「賃金等の労働条件が合えばUターンを希望する」と回答した者が46.8%、「わからない」と回答した者が25.6%で、「将来もUターン就職は希望しない」と回答した者が6.4%、「賃金等の労働条件が多少合わなくても将来はUターンを希望する」と回答した者が3.8%となっています。

※過去10年の推移（H21、H25は未公表）

将来的にUターンを希望＝労働条件が合えばUターン希望＋多少合わなくてもUターン希望



5 希望する職業について

- ・業種別では、上位3項目は「公務員・教員」（37.9%）、「医療・福祉」（23.9%）、「製造業」（15.5%）となりました。
- ・職種別では、上位3項目は「専門・技術」（45.6%）、「事務」（36.6%）、「営業・販売」（19.1%）となりました。

6 就職先選択の基準

- ・上位3項目は「仕事内容」(50.5%)、「賃金」(45.6%)、「職場環境」(45.3%)となりました。
- ・また、就職を希望する地域別にみると、県内での就職を希望する者は、「職場環境」、県外での就職を希望する者は「賃金」と「仕事内容」、特定の地域にはこだわらない者は、「仕事内容」をより重視しています。

7 就職活動の情報を得る方法について

- ・上位3項目は「学校の就職担当窓口(キャリアセンターなど)」(69.3%)、「就職サイト」(52.8%)、「知人・先輩」(32.0%)でした。

和歌山県における薬剤師数

(厚生労働省「平成30年医師・歯科医師・薬剤師統計(平成30年12月末)」による)

【薬剤師総数及び業務種別の薬剤師数】

単位：人

	総数	薬局の従事者	病院・診療所の従事者
全 国	311,289	180,415	59,956
和 歌 山 県	2,326	1,200	554

【人口10万対の各圏域別薬局・医療施設に従事する薬剤師数】

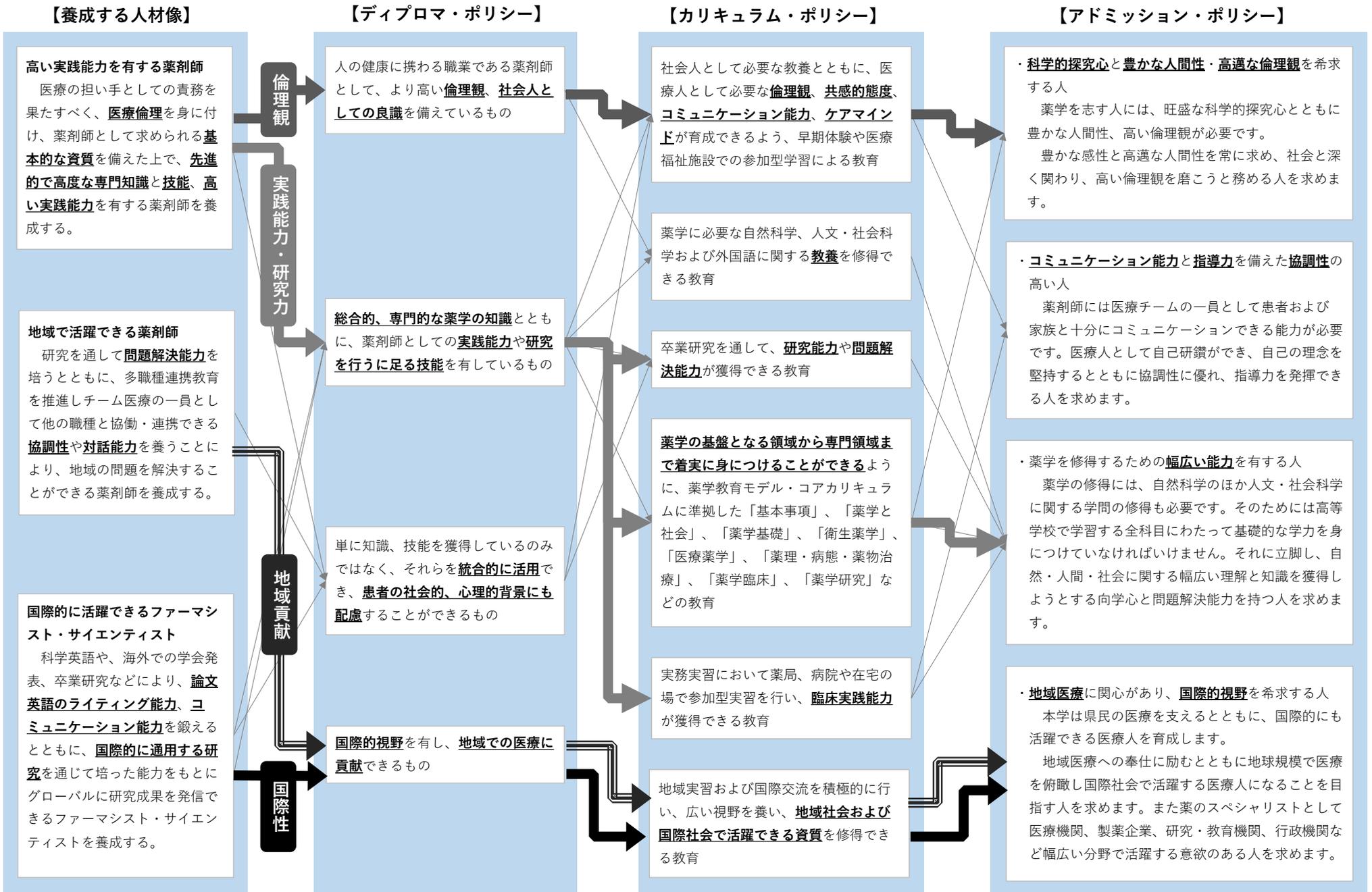
単位：人

圏 域 名		総数	薬局の従事者	病院・診療所の従事者	
全 国		246.2	142.7	47.4	
和 歌 山 県		248.8	128.3	59.3	
県内保健医療圏	紀北地域	和歌山	330.3	167.1	73.8
		那 賀	170.1	92.6	38.8
		橋 本	212.7	141.0	36.4
	紀中地域	有 田	194.1	75.9	53.4
		御 坊	232.3	103.1	76.9
	紀南地域	田 辺	156.4	86.7	48.6
		新 宮	164.3	87.6	42.3

【薬局・医療施設に従事する薬剤師の平均年齢、業務の種別】

単位：歳

	総数 平均年齢	薬局の従事者 平均年齢	病院・診療所の従事者 平均年齢
全 国	46.4	46.7	42.7
和 歌 山 県	50.4(全国1位)	50.3(全国1位)	45.4(全国5位)



和歌山県における高齢化の状況

平成31年1月1日現在の和歌山県高齢者人口の現状(高齢者人口等調査より)

1. 65歳以上人口は308,220人、総人口の32.0%

平成31年1月1日現在における和歌山県の高齢者（65歳以上）は308,220人となり、総人口（平成31年1月1日現在の住民基本台帳人口）に占める割合（高齢人口比率）は、32.0%となった。

前年同期と比較し、65歳以上人口で1,177人の増加、高齢人口比率では0.5ポイント上昇し、高齢化が進行している。

65歳以上人口を男女別にみると、男性130,026人、女性は178,194人で女性の方が多く、女性100人に対する男性の人数（性比）は73.0人と、女性10人に男性7人の割合となっている。

また、75歳以上人口は、161,811人で総人口に占める割合は16.8%となっている。

表1 和歌山県の高齢者（65歳以上）人口の推移

		総人口	65歳以上	高齢人口 比率
		人	人	%
平成	4年 (1992)	1,091,409	175,073	16.0
	5年 (1993)	1,093,057	180,828	16.5
	6年 (1994)	1,094,933	187,594	17.1
	7年 (1995)	1,098,625	193,262	17.6
	8年 (1996)	1,098,682	199,876	18.2
	9年 (1997)	1,098,200	206,118	18.8
	10年 (1998)	1,095,626	213,272	19.5
	11年 (1999)	1,094,120	218,651	20.0
	12年 (2000)	1,091,260	224,196	20.5
	13年 (2001)	1,087,618	230,168	21.2
	14年 (2002)	1,083,391	235,838	21.8
	15年 (2003)	1,079,055	241,166	22.3
	16年 (2004)	1,073,434	244,557	22.8
	17年 (2005)	1,067,114	247,932	23.2
	18年 (2006)	1,061,559	252,860	23.8
	19年 (2007)	1,053,896	259,040	24.6
	20年 (2008)	1,045,973	264,111	25.3
	21年 (2009)	1,038,729	268,871	25.9
	22年 (2010)	1,032,779	272,177	26.4
	23年 (2011)	1,025,613	271,163	26.4
	24年 (2012)	1,018,668	274,509	26.9
	25年 (2013)	1,016,563	284,140	28.0
	26年 (2014)	1,012,236	289,076	28.6
	27年 (2015)	1,003,730	296,593	29.5
	28年 (2016)	994,317	301,020	30.3
	29年 (2017)	984,689	304,735	30.9
	30年 (2018)	975,074	307,043	31.5
	31年 (2019)	964,598	308,220	32.0

注) 上記の数値は、住民基本台帳によるものです。

平成元年から平成25年までは3月31日現在、平成26年から1月1日現在の数値です。

2. 高齢人口比率が25%以上の市町村は29市町村

高齢人口比率は古座川町が52.3%で最も高く、すさみ町（46.9%）、北山村（45.6%）、紀美野町（45.4%）、九度山町（44.7%）、串本町（44.6%）と続いている。

県平均（32.0%）を上回る市町村が21市町村あり、「50%（2人に1人）以上が高齢者」という市町村が1町、「25%（4人に1人）以上が高齢者」という市町村は29市町村ある。

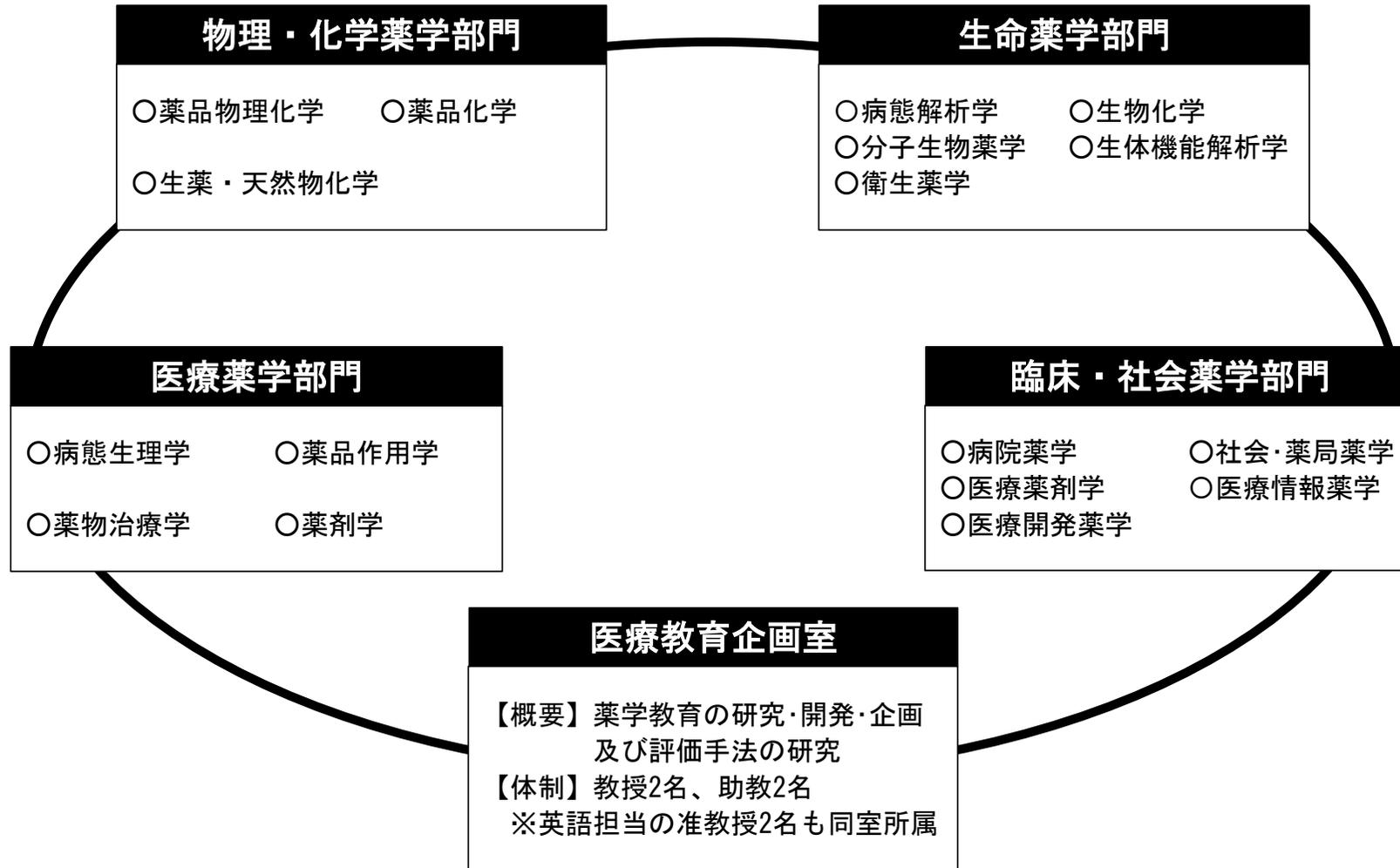
高齢人口比率が低い市町村を順にみると、岩出市（22.4%）、上富田町（26.3%）、日高町（29.3%）、和歌山市（30.0%）、御坊市（30.7%）となっている。

75歳以上人口の割合を市町村別にみると、北山村が31.7%で最も高く、古座川町（31.5%）、すさみ町（28.2%）、高野町（26.3%）、紀美野町（26.0%）と続き、10.0%以上が29市町村に及んでいる。

表2 市町村別高齢人口比率（65歳以上人口比率）

順位	市町村名	高齢人口比率 %	総人口 人	65歳以上人口 人	順位	市町村名	高齢人口比率 %	総人口 人	65歳以上人口 人
1	古座川町	52.3	2,744	1,435	16	美浜町	35.1	7,256	2,549
2	すさみ町	46.9	4,042	1,894	17	日高川町	34.9	9,944	3,467
3	北山村	45.6	436	199	18	湯浅町	34.4	12,078	4,156
4	紀美野町	45.4	8,914	4,046	19	有田市	33.0	28,244	9,326
5	九度山町	44.7	4,324	1,933	20	広川町	32.9	7,054	2,319
6	串本町	44.6	16,245	7,247	21	田辺市	32.2	74,250	23,935
7	高野町	43.1	3,073	1,323	22	有田川町	31.6	26,590	8,412
8	太地町	42.9	3,127	1,341	23	紀の川市	31.6	62,682	19,782
9	那智勝浦町	41.7	15,237	6,355	24	橋本市	31.5	63,024	19,872
10	かつらぎ町	38.0	16,970	6,456	25	みなべ町	31.2	12,804	3,993
11	由良町	37.5	5,788	2,168	26	御坊市	30.7	23,595	7,246
12	白浜町	37.1	21,624	8,033	27	和歌山市	30.0	368,835	110,625
13	新宮市	36.1	28,876	10,415	28	日高町	29.3	7,940	2,323
14	海南市	35.7	51,079	18,252	29	上富田町	26.3	15,593	4,098
15	印南町	35.1	8,322	2,924	30	岩出市	22.4	53,908	12,096

薬学部における研究体制



公立大学法人和歌山県立医科大学職員就業規則

制 定 平成 18 年 4 月 1 日和医大規則第 5 号

最終改正 平成 30 年 5 月 31 日和医大規則第 3 号

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この規則は、労働基準法（昭和22年法律第49号。以下「労基法」という。）第89条の規定に基づき、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）に勤務する職員の就業に関して、必要な事項を定めることを目的とする。

(適用範囲)

第 2 条 この規則は、法人に常時勤務する職員（以下「職員」という。）に適用する。

2 前項の職員は、教員と一般職員とし、教員とは、教授、准教授、講師、助教の職にある者をいう。一般職員とは、教員以外の職員とし、法人の業務に従事する事務職、技術職、医療技術職、看護職、現業職にある者をいう。

3 第 1 項の規定にかかわらず、公立大学法人和歌山県立医科大学職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する規程（平成18年4月1日和医大規程第58号。以下「勤務時間規程」という。）第 2 条第 1 項に規定する勤務時間より短時間で勤務する看護職（第 22 条の規定により再雇用された職員及び第 40 条の規定により育児短時間勤務の適用を受けることができる者で公立大学法人和歌山県立医科大学職員の育児休業等に関する規程（平成 18 年 4 月 1 日和医大規程第 59 号）第 16 条の申出をした職員を除く。）の就業に関する事項については、別に定める。

4 非常勤の職員の就業に関する事項については、別に定める。

(法令との関係)

第 3 条 この規則及びこれに附属する諸規程に定めのない事項については、労基法、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号。以下「地独法」という。）その他の関係法令の定めるところによる。

(規則の遵守)

第 4 条 法人及び職員は、誠意を持ってこの規則を遵守しなければならない。

第 2 章 人事

第 1 節 採用

(採用)

第 5 条 職員の採用は、競争試験又は選考により行う。

2 法人は、期間又は任期を定めて労働契約する場合がある。この場合その他必要な事項については、別に定める。

3 職員として法人に採用されることを希望する者は、次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。

(1) 履歴書

(2) 資格及び免許を必要とする業務に就く者は、当該資格に関する証明書又は免許の写し（資格又は免許を有する者に限る。）

(3) その他法人が必要と認める書類

(欠格条項)

第6条 次の各号の一に該当する者は、職員となり、又は前条第1項に規定する競争試験又は選考を受けることができない。

- (1) 成年被後見人又は被保佐人
- (2) 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わるまで又はその執行を受けることがなくなるまでの者
- (3) 法人において懲戒解雇の処分を受け、当該処分の日から2年を経過しない者
(労働条件の明示)

第7条 職員の採用に際しては、採用をしようとする職員に対して、あらかじめ次の事項を記載した文書を交付する。

- (1) 労働契約の期間に関する事項
- (2) 就業の場所及び従事する業務に関する事項
- (3) 始業及び終業の時刻、所定労働時間を超える労働の有無、休憩時間、休日、休暇並びに労働者を2組以上に分けて就業させる場合における就業時転換に関する事項
- (4) 給与に関する事項
- (5) 退職に関する事項（解雇の事由含む。）
(採用時提出書類)

第8条 職員に採用された者は、次の各号に掲げる書類を速やかに提出しなければならない。

- (1) 誓約書
- (2) 住民票記載事項の証明書
- (3) その他法人が必要と認める書類

2 前項第2号及び第3号に掲げる提出書類の記載事項に変更が生じたときは、その都度速やかに届け出なければならない。

(提出書類の利用目的)

第9条 法人は本規則および関連諸規程に基づき提出された書類を、下記の目的のため利用する。

- (1) 採用の決定
- (2) 配属先の決定
- (3) 給与、退職手当の決定
- (4) 給与、退職手当の支払いに必要な手続き
- (5) 共済組合、雇用保険の加入・変更等に必要な手続き
- (6) 人事異動（出向の場合も含む。）
- (7) 人事考課
- (8) 健康管理
- (9) 表彰・懲戒
- (10) 退職・解雇
- (11) 災害補償
- (12) 福利厚生
- (13) 教育訓練
- (14) 前各号の他、法人の諸規程を実施するため必要な事項

(試用期間)

第10条 職員として新たに採用された日から6箇月間は、試用期間とする。ただし、職務の遂行のため必要な知識、技能又は経験等を有すると認められる者で法人が別に定めるものについては、

この限りではない。

- 2 前項の試用期間は、法人が必要と認めたときは、これを延長することができる。ただし、試用期間開始後1年を超えて延長することができない。
- 3 試用期間中の職員が、第23条第4号若しくは第24条第3項第4号に掲げる事由に該当する場合又は勤務成績の不良なこと、心身に故障があることその他の事実に基づいてその職に引き続き留まらせることが適当でないと認めた場合は、降任させ、又は解雇することができる。
- 4 試用期間は、勤続年数に通算する。

(赴任)

第11条 赴任の命令を受けた職員及び新たに採用された職員は、直ちに赴任しなければならない。ただし、住居の移転を伴う等やむを得ない事情があり法人の承認を得た場合は、この限りでない。

(職員の配置)

第12条 職員の配置は、法人の業務上の必要、本人の適性等を考慮して行う。

第2節 評価

(勤務評価)

第13条 職員の勤務成績については、評価を実施する。

第3節 昇任

(昇任)

第14条 職員の昇任は、選考により行う。

- 2 前項の昇任は、勤務成績その他の能力の評価に基づいて行う。

第4節 異動

(異動)

第15条 職員は、業務上の都合により配置換、兼務又は出向を命ぜられることがある。

- 2 出向を命ぜられた職員の取扱いについては、公立大学法人和歌山県立医科大学職員出向規程(平成18年和医大規程第51号)による。

第5節 休職

(休職の事由)

第16条 職員が次の各号のいずれかに該当する場合は、休職とすることができる。

- (1) 心身の故障のため、長期の休養を必要とする場合
- (2) 刑事事件に関し起訴された場合
- (3) 職務に関連のあると認められる学術上の研究、調査等に従事する場合
- (4) 水難、火災等の災害により、生死不明又は所在不明となった場合
- (5) 労働組合業務に専従する場合
- (6) その他休職にすることが適当と認められる場合

- 2 試用期間中の職員には、前項の規定は適用しない。

(休職の期間)

第17条 前条第1項の休職(第2号及び第5号を除く。)の期間は、3年を超えない範囲内において、法人が定める。

- 2 前項の休職の期間が3年に満たない場合には、休職した日から引き続き3年を超えない範囲内において、これを更新することができる。
- 3 前項により休職の期間を更新する場合において、前条第1号の規定に該当するものとして休職にした職員で既に復職をしているものを、再び同号の規定に該当することにより休職にしたとき

の当該職員の休職の期間は、次の各号のいずれかに該当する場合を除き、当該復職前の休職の期間に引き続いたものとみなして通算するものとする。

- (1) 当該職員の復職の日から起算して6月を経過した場合
- (2) 当該職員の復職前の休職の事由とした心身の故障に係る負傷又は疾病の症状等と明らかに異なる負傷又は疾病により再び休職となる場合

4 前条第1項第2号の休職の期間は、当該刑事事件が裁判所に係属する間とする。

5 前条第1項第5号の休職の期間は、職員としての在職期間を通じて5年を超えることができない。

(復職)

第18条 休職中の職員の休職事由が消滅したときは、速やかに復職させるものとする。ただし、第16条第1項第1号による休職については、医師の診断書により休職事由の消滅が確認されたときに限る。

第6節 退職

(退職)

第19条 職員は、次の各号のいずれかに該当するときは、当該各号に定める日をもって退職とし、職員としての身分を失う。

- (1) 退職を申し出て、法人から承認されたとき 法人が退職日と認めた日
- (2) 定年に達したとき 定年に達した日以後における最初の3月31日
- (3) 労働契約期間が満了したとき 労働期間満了の日
- (4) 死亡したとき 死亡日
- (5) 公職選挙法(昭和25年法律第100号)第3条の公職に就いたとき 公職に就いた日の前日
- (6) 法人の役員に就任したとき 就任の前日

2 前項第6号の場合において、当該職員の職責が重大で、第21条第2項第1号に記載する理由に該当すると認めるときは、前項の規定にかかわらず、引き続き職員としての身分を兼ねることができる。

3 前項の規定の適用を受ける職員については、役員として在任する期間は、第29条の規定を適用しない。

(自己都合による退職手続)

第20条 職員は、自己の都合により退職しようとするときは、退職を予定する日の1か月前までに、文書をもって法人に申し出なければならない。

(定年及び定年による退職の特例)

第21条 職員の定年は、満60歳とする。ただし、次の各号に掲げる職員の定年は、当該各号に定める年齢とする。

- (1) 教員 満65歳
- (2) 用務員(施設の清掃等の業務に従事する者) 満63歳

2 定年に達した職員が第19条第2号の規定により退職すべきこととなる場合(以下「定年退職日」という。)において、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、その職員に係る定年退職日の翌日から起算して1年を超えない範囲内で期限を定め、その職員を当該職務に従事させるため引き続き勤務させることができる。

- (1) 当該職務が高度の知識、技能又は経験を必要とするものであるため、その職員の退職により業務の運営に著しい支障が生ずるとき。

- (2) 当該職務に係る勤務環境その他の勤務条件に特殊性があるため、その職員の退職による欠員を容易に補充することができないとき。
- (3) 当該職務を担当する者の交替がその業務の遂行上重大な障害となる特別の事情があるため、その職員の退職により業務の運営に著しい支障が生じるとき。
- 3 前項の期限又はこの項の規定により延長された期限が到来する場合において、前項の事由が引き続き存すると認めるときは、1年を超えない範囲内で期限を延長することができる。ただし、その期限は、その職員に係る定年退職日の翌日から起算して3年を超えることができない。
- 4 第2項の規定により職員を引き続いて勤務させる場合又は前項の規定により期限を延長する場合には、当該職員の同意を得なければならない。
- 5 第2項の期限又は第3項の規定により延長された期限が到来する前に第2項の事由が存しなくなったと認めるときは、当該職員の同意を得て、期日を定めてその期限を繰り上げて退職させることができる。
- 6 前各項の規定を実施するために必要な手続きは、別に定める。

(教員の定年の特例及び定年を超えた者の採用の特例)

第21条の2 法人が教育研究上特に必要と認めるときは、別に定めるところにより前条第1項第1号に規定する定年によらず、又は定年を超えた教員を新たに採用することができる。

(再雇用)

第22条 前条の規定により退職した職員（第1号の教員を除く。）については、別に定めるところにより再雇用することができる。

第7節 降任及び解雇

(降任)

第23条 職員が次の各号のいずれかに該当する場合は、降任させることができる。

- (1) 勤務成績がよくない場合
- (2) 心身の故障のため職務の遂行に支障がある場合、又は職務に堪えない場合
- (3) その他職務に必要な適格性を欠く場合
- (4) 事業の縮小その他経営上やむを得ない事由がある場合

2 試用期間中の職員については、前項の規定は適用しない。

(解雇)

第24条 職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、解雇する。

- (1) 成年被後見人又は被保佐人となった場合
- (2) 禁錮以上の刑に処せられた場合

2 前項第2号の規定にかかわらず、職務執行中又は通勤途上の過失による交通事故にかかる罪のため、禁錮以上の刑に処せられ、その刑の執行を猶予された職員について、情状を考慮して特に必要と認めるときは、解雇しないものとする。ただし、解雇しないものとされた職員が、その刑の執行猶予を取り消されたときは、その取消しの日に解雇するものとする。

3 職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、解雇することができる。

- (1) 勤務成績が著しくよくない場合
- (2) 心身の故障のため、職務の遂行に著しく支障があり、又はこれに堪えない場合
- (3) 前2号に規定する場合のほか、その職に必要な適格性を著しく欠く場合
- (4) 事業の縮小その他経営上やむを得ない事由により、配置転換その他の措置が困難な場合
- (5) その他前各号に準ずるやむを得ない事由がある場合

4 試用期間中の職員については、前項の規定は適用しない。

(解雇制限)

第25条 前条の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する期間は解雇しない。

(1) 業務上負傷し、又は疾病にかかり療養のため休業する期間及びその後30日間。ただし、療養開始後3年を経過した日において、地方公務員災害補償法（昭和42年法律第121号）に基づく傷病補償年金を受けている場合若しくは同日後において傷病補償年金を受けることとなった場合はこの限りでない。

(2) 労基法第65条に規定された産前産後の休業期間及びその後30日間

2 天変事変その他やむを得ない事由のために事業の継続が不可能となった場合で、所轄労働基準監督署長の解雇制限除外認定を受けた場合は、前項の規定は適用しない。

(解雇予告)

第26条 法人は、職員を解雇するときは、少なくとも30日前に本人に予告するか、又は労基法第12条に規定する平均賃金の30日分に相当する解雇予告手当を支給する。

2 予告の日数は、平均賃金を支払った日数に応じて短縮することができる。

3 前2項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、予告することなく即時に解雇するものとする。

(1) 試用期間中の職員（14日を超えて引き続き雇用された者を除く。）を解雇する場合

(2) 第44条第1項第4号に定める懲戒解雇を行う場合で所轄労働基準監督署長の解雇制限除外認定を受けた場合

(3) 天変事変その他やむを得ない事由のため事業の継続が不可能となった場合で所轄労働基準監督署長の解雇制限除外認定を受けた場合

(退職後の責務)

第27条 職員が退職し、又は解雇された場合は、法人から貸与された物品を返還しなければならない。

2 退職し、又は解雇された者（以下次項において「退職者等」という。）は、在職中に知り得た秘密を漏らしてはならない。

3 退職者等は、法令による証人、鑑定人等となり、職務上の秘密に属する事項を公表する場合においては、法人の許可を受けなければならない。

4 前項の許可は、法律に特別の定がある場合を除く外、拒むことができない。

(退職証明書の交付)

第28条 退職し、又は解雇された者が、退職証明書の交付を請求した場合には、遅滞なくこれを交付する。

2 前項の証明書に記載する事項は、次に掲げる事項のうち、請求を受けた事項とする。

(1) 雇用期間

(2) 業務の種類

(3) その事業における地位

(4) 給与

(5) 退職の事由（解雇の場合は、その理由）

第3章 給与

(給与)

第29条 法人は、職員に対し、給料を支給しなければならない。

- 2 法人は、職員に扶養手当、地域手当、住居手当、通勤手当、単身赴任手当、特殊勤務手当、超過勤務手当、夜勤手当、宿日直手当、休日勤務手当、管理職手当、管理職員特別勤務手当、初任給調整手当、期末手当、勤勉手当及び退職手当を支給することができる。
- 3 給料及び手当（退職手当を除く。）の額、支給方法その他支給に関して必要な事項は、公立大学法人和歌山県立医科大学職員給与規程（平成18年和医大規程第65号）で定める。
- 4 退職手当の額、支給方法その他支給に関して必要な事項は、公立大学法人和歌山県立医科大学職員退職手当規程（平成18年和医大規程第53号）で定める。

第4章 服務

（誠実義務）

第30条 職員は、地独法に定める公立大学法人の使命と業務の公共性を自覚し、誠実かつ公正に職務を遂行しなければならない。

- 2 職員は、法人の利益と相反する行為を行ってはならない。

（職務に専念する義務）

第31条 職員は、この規則及びこれに基づく関係規程又は関係法令の定める場合を除いては、その勤務時間及び職務上の注意力のすべてをその職責遂行のために用い、法人がなすべき責を有する業務にのみ従事しなければならない。

（服務心得）

第32条 職員は、職務を遂行するに当たり、法令、法人の規則及び規程に従い、かつ、上司の職務上の指示に従わなければならない。

（信用失墜行為の禁止）

第33条 職員は、法人の名誉若しくは信用を失墜させ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

（守秘義務）

第34条 職員は、職務上知ることのできた秘密を漏らしてはならない。

- 2 職員が、法令による証人、鑑定人等となり、職務上の秘密に属する事項を発表する場合には、法人の許可を受けなければならない。
- 3 前項の許可は、法律に特別の定がある場合を除く外、拒むことができない。

（集会及び文書の配布等）

第35条 職員は、法人の敷地又は施設内（以下「法人内」という。）で文書又は図画を配布しようとする場合には、あらかじめ届け出なければならない。

- 2 職員は、法人内で、次のいずれかに該当する文書又は図画を配布してはならない。

- (1) 法人の業務の正常な運営を妨げるおそれのあるもの
- (2) 第33条に該当するおそれのあるもの
- (3) 他人の名誉を毀損し、又は誹謗中傷等に該当するおそれのあるもの
- (4) 公の秩序に違反するおそれのあるもの
- (5) その他、法人の業務に支障をきたすおそれのあるもの

- 3 職員は、法人内で、文書又は図画を、業務の正常な遂行を妨げる方法や態様で配布してはならない。

- 4 職員は、法人内で文書又は図画を掲示する場合には、許可を得た上で、あらかじめ指定された場所に掲示しなければならない。この場合においても、第2項に該当する文書又は図画を掲示してはならない。

5 職員は許可なく、法人内で業務外の集会、演説、放送又はこれらに類する行為を行ってはならない。

(ハラスメントの防止)

第36条 職員は、公立大学法人和歌山県立医科大学ハラスメント防止規程（平成18年和医大規程第55号）を遵守し、人権侵害及び性差別としてのセクシャル・ハラスメントをいかなる形でも行ってはならず、これの防止及び排除に努めなければならない。

2 職員は、勤務時間規程、公立大学法人和歌山県立医科大学職員の育児休業等に関する規程に規定する育児や介護に関する制度の申出・利用に関して、当該申出・利用する職員の就業環境を害する言動を行ってはならない。

(兼業)

第37条 職員が兼業を行おうとする場合は、公立大学法人和歌山県立医科大学職員兼業規程（平成18年和医大規程第56号）の定めるところにより法人の許可を得なければならない。

(職員倫理)

第38条 職員は、公立大学法人和歌山県立医科大学役職員倫理規程（平成30年和医大規程第13号）の定めるところにより、その職務にかかる倫理を遵守しなければならない。

第5章 勤務時間、休日、休暇等

(勤務時間、休日、休暇等)

第39条 職員の勤務時間、休日及び休暇等については、勤務時間規程の定めるところによる。

(育児休業及び育児部分休業)

第40条 職員のうち、満3歳に満たない子の養育を必要とする者は、育児休業、育児短時間勤務又は育児部分休業の適用を、満3歳に達してから小学校就学の始期に達するまでの子の養育を必要とする者は、育児短時間勤務又は育児部分休業の適用を受けることができる。

2 育児休業、育児短時間勤務及び育児部分休業については、公立大学法人和歌山県立医科大学職員の育児休業等に関する規程（平成18年和医大規程第59号）の定めるところによる。

第6章 研修

(研修)

第41条 職員は、業務に関する必要な知識及び技能を向上させるため、研修に参加することを命ぜられた場合には、研修を受けなければならない。

2 法人は、職員の研修機会の提供に努めるものとする。

第7章 賞罰

(表彰)

第42条 職員が、次の各号のいずれかに該当する場合には、公立大学法人和歌山県立医科大学職員表彰規程（平成18年和医大規程第60号）の定めるところにより、これを表彰する。

- (1) 法人の名誉となり、又は職員の模範となる善行を行ったとき
- (2) 職務上特に顕著な功績があったとき
- (3) その他特に他の職員の模範として、推奨すべき功績があったとき

(懲戒の事由)

第43条 職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、懲戒処分を行う。

- (1) 正当な理由なく無断欠勤した場合
- (2) 正当な理由なく頻繁に遅刻、早退する等勤務を怠った場合
- (3) 故意又は重大な過失により法人に損害を与えた場合

- (4) 刑法上の犯罪に該当する行為があった場合
- (5) 法人の名誉又は信用を著しく傷つけた場合
- (6) 素行不良で法人の秩序又は風紀を乱した場合
- (7) 重大な経歴詐称をした場合
- (8) その他法令、この規則及び法人の定める規程等に違反し、又は前各号に準ずる不適切な行為があった場合

(懲戒の種類)

第44条 懲戒は、前条各号に掲げる非違行為の程度に応じ、次の区分によるものとする

- (1) 戒告は、始末書を提出させ、将来を戒める。
 - (2) 減給は、始末書を提出させ、給与の一部を減額する。ただし、1回の額は、労基法第12条に規定する平均賃金の額の半日分又はその総額が1給与支払期間の給与総額の10分の1を限度とする。
 - (3) 停職は、始末書を提出させ、1日以上6か月以下の期間、勤務を停止する。その期間給与を支給しない。
 - (4) 懲戒解雇は、予告期間を設けず、また解雇予告手当を支払わないで即時に解雇する。ただし、所轄労働基準監督署長の解雇制限除外認定を受けないときは、解雇予告手当を支払って即時に解雇する。
- 2 職員の懲戒について必要な事項は、公立大学法人和歌山県立医科大学職員懲戒規程（平成18年和医大規程第61号）の定めるところによる。

(訓告等)

第45条 前条に規定する場合のほか、サービスを厳正にし、規律を保持するため必要があるときには、訓告又は厳重注意を行う。

(損害賠償)

第46条 職員が故意又は重大な過失により法人に損害を与えたときは、前2条の規定とは別に、損害の全部又は一部を賠償させるものとする。

第8章 安全及び衛生

(安全衛生管理)

第47条 法人は、労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）及びその他の関係法令に基づき、職員の健康増進と危険防止のために必要な措置を講じるものとする。

- 2 職員は、安全、衛生及び健康確保について、関係法令のほか、上司等の指示を守るとともに、法人が行う安全及び衛生に関する措置に協力しなければならない。
- 3 職員の安全、衛生及び健康の確保については、公立大学法人和歌山県立医科大学安全衛生管理規程（平成18年和医大規程第62号）の定めるところによる。

第9章 出張

(出張)

第48条 業務上必要がある場合は、職員に出張を命じることができる。

- 2 出張を命じられた職員が出張を終えたときは、速やかに出張先での業務内容を報告しなければならない。

(旅費)

第49条 出張又は赴任を命ぜられた場合の旅費については、公立大学法人和歌山県立医科大学職員旅費規程（平成18年和医大規程第66号）の定めるところによる。

第10章 福利・厚生

(宿舎)

第50条 職員の宿舎の利用については、公立大学法人和歌山県立医科大学附属病院看護師独身寮管理規程（平成7年和医大規程第1号）の定めるところによる。

(事業所内託児施設)

第51条 小学校就学の始期に達するまでの子を養育する附属病院に勤務する職員は、法人が設置する事業所内託児施設を利用することができる。ただし、既に定員に達しているときは、この限りでない。

2 職員の事業所内託児施設の利用については、和歌山県立医科大学附属病院託児施設管理運営規程（平成22年1月1日和医大規程第10号）及び和歌山県立医科大学託児施設管理運営要綱の定めるところによる。

第11章 災害補償

(業務災害)

第52条 職員の業務上の災害については、地方公務員災害補償法（昭和42年法律第121号）の定めるところにより補償する。

(通勤災害)

第53条 職員の通勤途上における災害については、地方公務員災害補償法の定めるところにより補償する。

第12章 勤務発明

(勤務発明)

第54条 職員の勤務発明については、公立大学法人和歌山県立医科大学勤務発明規程（平成18年和医大規程第63号）の定めるところによる。

第13章 雑則

(適用除外)

第55条 任期を付して採用された職員の再任又は昇任において、第5条、第8条及び第10条の規定は適用しない。

2 再雇用において、第5条、第8条及び第10条の規定は適用しない。

附 則

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 昭和16年4月1日以前に出生した教員であつて、平成18年4月1日から平成22年3月31日までの間に保健看護学部の教員として採用される者の定年は、第21条第1項第1号の規定にかかわらず、満73歳とする。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年1月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正後の第 17 条第 3 項の規定は、この規則の施行の日（以下「施行日」という。）以後に新たに休職する職員から適用する。
- 3 前項の規定にかかわらず、施行日において現に休職にしている職員であって、施行日以後に休職の期間を更新した後に復職し、再び休職にして改正後の第 17 条第 3 項の規定の適用を受けることとなるものに対する同項の規定の適用については、同項中「当該復職前の休職の期間」とあるのは、「施行日以後において最初に休職の期間を更新した日から起算した休職の期間」とする。

附 則

この規則は、平成 24 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 29 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 30 年 6 月 1 日から施行する。

公立大学法人和歌山県立医科大学教員の定年の特例及び定年を超えた者の採用の特例に
関する規程

制 定 平成30年4月1日和医大規程第3号

(趣旨)

第1条 この規程は、公立大学法人和歌山県立医科大学職員就業規則（平成18年4月1日和医大規則第5号。（以下「就業規則」という。）第21条の2の規定に基づき、教員の定年の特例及び定年を超えた者の採用の特例について必要な事項を定める。

(定年の特例)

第2条 薬学部の設置に伴い、学校教育法（昭和22年法律第26号）第4条の規定に基づく認可（以下「認可」という。）に際し教員審査の対象となる教員を新たに採用する場合で、平成33年4月1日から起算して6年以内にその者が満65歳に達するときは、就業規則第21条第1項第1号の規定にかかわらず、その教員の定年を完成年度（薬学部の開設後、学年進行が終了する年度をいう。）の末日におけるその者の年齢とする。ただし、薬学部教員選考時において、本学教員であるものは除く。

(定年を超えた者の採用の特例)

第3条 薬学部の設置に伴い、前条に規定する認可に際し教員審査の対象となる教員は、就業規則第21条第1項第1号に規定する定年の年齢を超えて採用することができる。

2 前項の規定により採用される教員の定年は、完成年度の末日におけるその者の年齢とする。

附 則

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成39年3月31日限り、その効力を失う。

薬学部薬学科 履修モデル

学 期	教養科目				専門科目								
	必修		選択必修		必修		選択必修		特別実習		自由		
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
1 年	前 期	英語ⅠA	1	ドイツ語Ⅰ	1	薬学入門Ⅰ	1						
		英語ⅠB	1	フランス語Ⅰ		薬学入門Ⅰ(早期体験学習Ⅰ)	1						
		保健体育	0.5	中国語Ⅰ		薬学基礎実習Ⅰ	1						
		情報基礎	1	心理学									
		統計基礎	1	哲学									
	基礎物理学	1	文学										
	有機化学	1											
	有機化学演習	1											
	生物学	1											
	ケア・マインド教育Ⅰ	1.5											
	前期計	10	前期計		前期計	3	前期計	0	前期計	0	前期計	0	
1 年	後 期	英語ⅡA	1	ドイツ語Ⅱ	1	薬学入門Ⅱ	1						
		英語ⅡB	1	フランス語Ⅱ		薬学入門Ⅱ(早期体験学習Ⅱ)	1						
		情報基礎演習	1	中国語Ⅱ		物理化学Ⅰ	1						
		無機化学	1	法学		物理化学演習Ⅰ	1						
		ケア・マインド教育Ⅱ	1.5	経済学		有機薬化学Ⅰ	1						
			※5科目から 4科目選択		有機薬化学演習Ⅰ	1							
					機能形態学Ⅰ	1							
					生理学Ⅰ	1							
					生命科学Ⅰ	1							
					生命科学Ⅱ	1							
				社会薬学Ⅰ	1								
				薬学基礎実習Ⅱ	1								
	後期計	5.5	後期計		後期計	12	後期計	0	後期計	0	後期計	0	
	1年次計	15.5	1年次計	6	1年次計	15	1年次計	0	1年次計	0	1年次計	0	
2 年	前 期	薬学英語Ⅰ	1			物理化学Ⅱ	1						
						物理化学演習Ⅱ	1						
						放射化学	1						
						有機薬化学Ⅱ	1						
						天然物化学・生薬学Ⅰ	1						
					機能形態学Ⅱ	1							
					生理学Ⅱ	1							
					生命科学Ⅲ	1							
					生命科学演習	1							
					分子生物学	1							
				地域医療薬学Ⅰ	1								
				地域医療薬学Ⅱ	1								
				社会薬学Ⅱ	1								
				社会薬学演習Ⅰ	1								
				専門実習(物理・化学系)	5.5								
	前期計	1	前期計	0	前期計	19.5	前期計	0	前期計	0	前期計	0	
2 年	後 期	薬学英語Ⅱ	1			機器分析化学	1						
						医薬品化学Ⅰ	1						
						有機薬化学Ⅲ	1						
						天然物化学・生薬学Ⅱ	1						
						毒性学	1						
					感染防御学Ⅰ	1							
					感染防御学Ⅱ	1							
					免疫学Ⅰ	1							
					病態生理学Ⅰ	1							
					薬理学Ⅰ	1							
				薬理学演習Ⅰ	1								
				薬物治療学Ⅰ	1								
				専門実習(生物系)	7								
	後期計	0	後期計	0	後期計	19	後期計	0	後期計	0	後期計	0	
	2年次計	1	2年次計	0	2年次計	38.5	2年次計	0	2年次計	0	2年次計	0	

学年	教養科目				専門科目									
	必修		選択必修		必修		選択必修		特別実習		自由			
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
3年	前期	薬学英語Ⅲ	1			医薬品化学Ⅱ	1							
						衛生化学Ⅰ	1							
						感染防御学Ⅲ	1							
						免疫学Ⅱ	1							
						病態生理学Ⅱ	1							
						薬物治療学Ⅱ	1							
						薬理学Ⅱ	1							
						薬理学演習Ⅱ	1							
						がん・化学療法学	1							
						製剤学Ⅰ	1							
				医療倫理	1									
				薬物動態学Ⅰ	1									
				臨床薬学概論	1									
				専門実習(医療系)	3.5									
				特別実習(入門)	3.5									
		前期計	1	前期計	0	前期計	20	前期計	0	前期計	0	前期計	0	
3年	後期					衛生化学Ⅱ	1			特別実習Ⅰ (3年後期 ～4年)	10			
						衛生化学Ⅲ	1							
						衛生化学演習	1							
						薬物動態学Ⅱ	1							
						病態生理学Ⅲ	1							
						薬物治療学Ⅲ	1							
						製剤学Ⅱ	1							
						薬理学Ⅲ	1							
						薬理学演習Ⅲ	1							
						裁判化学	1							
				社会薬学Ⅲ	1									
				医薬品情報学	1									
				医薬品情報学演習	1									
				災害薬学	1									
		後期計	0	後期計	0	後期計	14	後期計	0			後期計	0	
		3年次計	1	3年次計	0	3年次計	34	3年次計	0			3年次計	0	
4年	前期					薬物治療学演習	1							
						医療安全学Ⅰ	1							
						社会薬学Ⅳ	1							
						社会薬学Ⅴ	1							
						臨床感染制御学	1							
						臨床コミュニケーション	1							
						臨床薬剤学Ⅰ	1							
						臨床薬剤学Ⅱ	1							
						医薬品安全性学	1							
						医療統計解析学	1							
				医療統計解析学演習	1									
				医薬品開発学	1									
		前期計	0	前期計	0	前期計	12	前期計	0			前期計	0	
4年	後期					事前学習Ⅰ	1							
						事前学習Ⅱ	5							
						後期計	6	後期計	0	特別実習Ⅰ	10	後期計	0	
		4年次計	0	4年次計	0	4年次計	18	4年次計	0			4年次計	0	

学年	期	教養科目				専門科目								卒業要件 単位数 合計
		必修		選択必修		必修		選択必修		特別実習		自由		
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
5年	前期					病院・薬局実習 (通年)	20			特別実習Ⅱ (5年～6年)	20			
	後期													
	5年次計	0	5年次計	0	5年次計	20	5年次計	0			5年次計	0		
6年	前期					病院・薬局薬学 臨床薬学演習	1 4	医療安全学Ⅱ 臨床医学	1					
	前期計	0	前期計	0	前期計	5	前期計	1				前期計	0	
	後期											薬学特別演習	5	
	後期計	0	後期計	0	後期計	0	後期計	0				後期計	5	
	6年次計	0	6年次計	0	6年次計	5	6年次計	1	特別実習Ⅱ	20	6年次計	5		
単位数	計	18.5	計	6	計	130.5	計	1	計	30	計	5	186	

薬学部時間割

曜日	時限	1年						2年						3年											
		前期			後期			前期			後期			前期			後期								
月	1 8:50~10:00	有機化学	安原	中講義室301	有機化学Ⅰ	田村	中講義室301	有機化学Ⅱ	相馬、澤崎	中講義室302	医薬品化学Ⅰ	相馬、佐々木	中講義室302	医療倫理	中川、松本、田井	中講義室303	社会薬学Ⅲ	江頭、山田	中講義室303						
	2 10:10~11:20	有機化学演習	安原、田中	中講義室301	有機化学演習	田村、田中	中講義室301							医薬品化学Ⅱ	相馬、佐々木	中講義室303	医薬品情報学	齋藤、岩井	中講義室303						
	3 11:30~12:40	哲学	小関	中講義室301	社会薬学Ⅰ	須野	中講義室301	天然物化学・生薬学Ⅰ	田村	中講義室302	免疫学Ⅰ	佐藤	中講義室302	がん・化学療法学	須野、伊藤	中講義室303	医薬品情報学演習	齋藤、岩井	中講義室303						
	4 13:40~14:50				無機化学	安原	中講義室301	社会薬学Ⅱ	須野	中講義室302							裁判化学	松原、太田	中講義室303						
	5 15:00~16:10	薬学基礎実習Ⅰ	相馬、田村、佐々木、田中、澤崎、氏家	5階実験室 中講義室301	薬学基礎実習Ⅱ	太田、長野、佐能、山下(琢)、堤	4階実験室 中講義室301	社会薬学演習Ⅰ (物理・化学系)	須野、伊藤	※1	中講義室302	4階実験室 中講義室302	5階実験室 中講義室302	専門実習(生物系)	※2	中講義室302	専門実習(医療系)	特別実習(入門)	※3	太田、赤池、平田、松原	4階実験室 中講義室303	中講義室303・各研究室	特別実習Ⅰ	※4	各研究室
	6 16:20~17:30																								
火	1 8:50~10:00	基礎物理学	岩尾	中講義室301	物理化学Ⅰ	岩尾、福田	中講義室301	物理化学Ⅱ	中津	中講義室302	機器分析化学	中津、大西	中講義室302				特別実習Ⅰ	※4	各研究室						
	2 10:10~11:20	情報基礎	中津	中講義室301	物理化学演習Ⅰ	岩尾、福田	中講義室301	物理化学演習Ⅱ	入江	中講義室302	天然物化学・生薬学Ⅱ	田村	中講義室302	製剤学Ⅰ	岩尾、福田、池田(真)	中講義室303									
	3 11:30~12:40							放射化学	中津、大西	中講義室302				薬物動態学Ⅰ	齋藤	中講義室303	製剤学Ⅱ	岩尾、福田、池田(真)	中講義室303						
	4 13:40~14:50	ケア・マインド教育Ⅰ(90分授業)	安原、須野、永田、伊藤	大講義室 三葛キャンパス	ケア・マインド教育Ⅱ(90分授業)	安原、須野、永田、伊藤	大講義室 三葛キャンパス	専門実習(物理・化学系)	※1	5階実験室 中講義室302	専門実習(生物系)	※2	4階実験室 中講義室302	専門実習(医療系)	特別実習(入門)	※3	太田、赤池、平田、松原	4階実験室 中講義室303	中講義室303・各研究室	特別実習Ⅰ	※4	各研究室			
	5 15:00~16:10																								
	6 16:20~17:30																								
水	1 8:50~10:00	生物学	三宅	中講義室301	生命科学Ⅰ	菱田	中講義室301	生命科学Ⅲ	長田	中講義室302	有機化学Ⅲ	相馬、澤崎	中講義室302	薬学英語Ⅲ①	朱	中講義室303	薬物動態学Ⅱ	佐能	中講義室303						
	2 10:10~11:20	ドイツ語Ⅰ フランス語Ⅰ 中国語Ⅰ	持竹、藤本、中尾	小講義室 中講義室301 中講義室304	ドイツ語Ⅱ フランス語Ⅱ 中国語Ⅱ	持竹、藤本、中尾	小講義室 中講義室301 中講義室304	生命科学演習	長田、菱田	中講義室302	感染防御学Ⅰ	長田	中講義室302	臨床薬学概論	須野、伊藤	中講義室303	特別実習Ⅰ	※4	各研究室						
	3 11:30~12:40	英語ⅠA①	辻	小講義室	英語ⅡB①	辻	小講義室	分子生物学	三宅	中講義室302	感染防御学Ⅱ	長田、中西	中講義室302	免疫学Ⅱ	佐藤	中講義室303	衛生化学Ⅱ	長野、山下(琢)、堤	中講義室303						
	4 13:40~14:50				機能形態学Ⅰ	那波、木口、難波	中講義室301																		
	5 15:00~16:10	薬学入門Ⅰ	平田、安原、須野、永田、伊藤	中講義室301	薬学入門Ⅱ	赤池、安原、須野、永田、伊藤	中講義室301	専門実習(物理・化学系)	※1	5階実験室 中講義室302	専門実習(生物系)	※2	4階実験室 中講義室302	専門実習(医療系)	特別実習(入門)	※3	太田、赤池、平田、松原	4階実験室 中講義室303	中講義室303・各研究室	特別実習Ⅰ	※4	各研究室			
	6 16:20~17:30	薬学入門Ⅰ(早期体験学習Ⅰ)	安原、須野、永田、伊藤	中講義室301	薬学入門Ⅱ(早期体験学習Ⅱ)	安原、須野、永田、伊藤	中講義室301																		
木	1 8:50~10:00	英語ⅠA②	辻	小講義室	経済学	柴田	【三葛】大講義室	機能形態学Ⅱ	那波、木口、難波	中講義室302	病態生理学Ⅰ	佐藤	中講義室302	薬理学Ⅱ	新谷、岩田	中講義室303	薬理学Ⅲ	那波、木口、難波	中講義室303						
	2 10:10~11:20	英語ⅠA③ 保健体育①	辻、池田(拓)	小講義室 体育館	国家・社会と法	神谷	【三葛】大講義室	生理学Ⅱ	那波、木口、難波	中講義室302	薬理学Ⅰ	新谷、岩田	中講義室302	薬理学演習Ⅱ	新谷、岩田、野口	中講義室303	薬理学演習Ⅲ	那波、木口、難波	中講義室303						
	3 11:30~12:40	保健体育② 英語ⅠA④	池田(拓) 辻	体育館 小講義室								薬理学演習Ⅰ	新谷、岩田、野口	中講義室302	病態生理学Ⅱ	佐藤	中講義室303	病態生理学Ⅲ	佐藤	中講義室303					
	4 13:40~14:50	統計基礎	下川	中講義室301	生命科学Ⅱ	長田	中講義室301	社会薬学Ⅱ	須野	中講義室302															
	5 15:00~16:10	心理学	増田、石井、恒松	中講義室301	生理学Ⅰ	那波、木口、難波	中講義室301	社会薬学演習Ⅰ (物理・化学系)	須野、伊藤	※1	中講義室302	5階実験室 中講義室302	専門実習(生物系)	※2	中講義室302	専門実習(医療系)	特別実習(入門)	※3	太田、赤池、平田、松原	4階実験室 中講義室303	中講義室303・各研究室	特別実習Ⅰ	※4	各研究室	
	6 16:20~17:30				英語ⅡB②	辻	小講義室																		
金	1 8:50~10:00	文学	山東	【三葛】大講義室	情報基礎演習① 英語ⅡA①	入江、辻	CBT室 小講義室	地域医療薬学Ⅰ① 薬学英語Ⅰ①	岡田、朱	中講義室302 小講義室	薬物治療学Ⅰ	岩倉、延生、上田	中講義室302	薬物治療学Ⅱ	岩倉、延生、上田	中講義室303	特別実習Ⅰ	※4	各研究室						
	2 10:10~11:20				英語ⅡA② 情報基礎演習②	辻、入江	小講義室 CBT室	薬学英語Ⅰ② 地域医療薬学Ⅰ②	朱、岡田	小講義室 中講義室302	毒性学	長野、山下(琢)、堤	中講義室302	衛生化学Ⅰ	長野、山下(琢)、堤	中講義室303	衛生化学Ⅲ	太田、佐能	中講義室303						
	3 11:30~12:40	英語ⅠB①	辻	小講義室	英語ⅡB③	辻	小講義室	地域医療薬学Ⅱ①	岡田	中講義室302	薬学英語Ⅱ①	朱	中講義室302	感染防御学Ⅲ	長田、藤林	中講義室303	衛生化学演習	太田、佐能	中講義室303						
	4 13:40~14:50	英語ⅠB②	辻	小講義室	英語ⅡA③	辻	小講義室	地域医療薬学Ⅱ②	岡田	中講義室302	薬学英語Ⅱ②	朱	中講義室302	薬学英語Ⅲ②	朱	中講義室303	薬物治療学Ⅲ	岩倉、延生、上田	中講義室303						
	5 15:00~16:10	英語ⅠB③	辻	小講義室	英語ⅡA④	辻	小講義室																		
	6 16:20~17:30	英語ⅠB④	辻	小講義室	英語ⅡB④	辻	小講義室	専門実習(物理・化学系)	※1	5階実験室 中講義室302	専門実習(生物系)	※2	4階実験室 中講義室302	専門実習(医療系)	特別実習(入門)	※3	太田、赤池、平田、松原	4階実験室 中講義室303	中講義室303・各研究室	特別実習Ⅰ	※4	各研究室			
																	【集中】災害薬学	安原、土井、永田	中講義室303						

※1 担当教員：中津、相馬、田村、岩尾、入江、田中、佐々木、福田、大西、澤崎、氏家、池田(真)

※2 担当教員：太田、長野、長田、三宅、那波、木口、佐能、山下(琢)、難波、菱田、堤、中西、藤林

※3 担当教員：佐藤、新谷、岩倉、岩田、野口、延生、上田

※4 担当教員：太田、安原、須野、中津、相馬、田村、長野、長田、三宅、那波、佐藤、新谷、岩倉、岩尾、中川、岡田、江頭、齋藤、今井、入江、田中、木口、佐能、松本、山田、山下(哲)、佐々木、山下(琢)、菱田、難波、岩田、福田、土井、永田、伊藤、大西、澤崎、氏家、堤、中西、藤林、野口、延生、上田、池田(真)、荻原、射場、岩井、小柳

曜日	時限	4年			5年			6年							
		前期		後期	前期		後期	前期		後期					
月	1 8:50 ~ 10:00	社会薬学Ⅳ	岡田	中講義室 304	事前学習Ⅰ※5/ 事前学習Ⅱ※6/ 特別実習Ⅰ※4	病院・薬局実習Ⅰ※7 特別実習Ⅱ※4	特別実習Ⅱ	※4	各研究室	薬学特別演習	太田、赤池 平田、松原	大講義室			
	2 10:10 ~ 11:20	社会薬学Ⅴ	岡田	中講義室 304						特別実習Ⅱ	※4	各研究室	特別実習Ⅱ	※4	各研究室
	3 11:30 ~ 12:40	医薬品開発学	今井、山下(哲)	中講義室 304						病院・薬局薬学	中川、松本、土井	中講義室 304			
	4 13:40 ~ 14:50	特別実習Ⅰ	※4	各研究室						特別実習Ⅱ	※4	各研究室			
	5 15:00 ~ 16:10														
	6 16:20 ~ 17:30														
火	1 8:50 ~ 10:00	臨床薬理学Ⅰ	江頭、山田	中講義室 304	事前学習Ⅰ※5/ 事前学習Ⅱ※6/ 特別実習Ⅰ※4	病院・薬局実習Ⅰ※7 特別実習Ⅱ※4	特別実習Ⅱ	※4	各研究室	薬学特別演習	太田、赤池 平田、松原	大講義室			
	2 10:10 ~ 11:20	臨床薬理学Ⅱ	江頭、山田	中講義室 304						医療安全学Ⅱ	岡田	中講義室 304	特別実習Ⅱ	※4	各研究室
	3 11:30 ~ 12:40	特別実習Ⅰ	※4	各研究室											
	4 13:40 ~ 14:50														
	5 15:00 ~ 16:10														
	6 16:20 ~ 17:30														
水	1 8:50 ~ 10:00	臨床コミュニケーション	江頭	中講義室 304	事前学習Ⅰ※5/ 事前学習Ⅱ※6/ 特別実習Ⅰ※4	病院・薬局実習Ⅰ※7 特別実習Ⅱ※4	特別実習Ⅱ	※4	各研究室	薬学特別演習	太田、赤池 平田、松原	大講義室			
	2 10:10 ~ 11:20	特別実習Ⅰ	※4	各研究室						臨床医学	今井	中講義室 304	特別実習Ⅱ	※4	各研究室
	3 11:30 ~ 12:40	医療安全学Ⅰ	松原、岡田	中講義室 304											
	4 13:40 ~ 14:50	特別実習Ⅰ	※4	各研究室											
	5 15:00 ~ 16:10	薬物治療学演習	岩倉、延生、上田	中講義室 304											
	6 16:20 ~ 17:30	特別実習Ⅰ	※4	各研究室											
木	1 8:50 ~ 10:00	医薬品安全性学	齋藤	中講義室 304	事前学習Ⅰ※5/ 事前学習Ⅱ※6/ 特別実習Ⅰ※4	病院・薬局実習Ⅰ※7 特別実習Ⅱ※4	特別実習Ⅱ	※4	各研究室	薬学特別演習	太田、赤池 平田、松原	大講義室			
	2 10:10 ~ 11:20	医療統計解析学	齋藤、岩井	中講義室 304						臨床薬学演習	須野、中川、 岡田、江頭、 齋藤、今井	中講義室 304	特別実習Ⅱ	※4	各研究室
	3 11:30 ~ 12:40	医療統計解析学演習	齋藤、岩井	中講義室 304											
	4 13:40 ~ 14:50	特別実習Ⅰ	※4	各研究室											
	5 15:00 ~ 16:10														
	6 16:20 ~ 17:30														
金	1 8:50 ~ 10:00	臨床感染制御学	江頭、山田	中講義室 304	事前学習Ⅰ※5/ 事前学習Ⅱ※6/ 特別実習Ⅰ※4	病院・薬局実習Ⅰ※7 特別実習Ⅱ※4	特別実習Ⅱ	※4	各研究室	薬学特別演習	太田、赤池 平田、松原	大講義室			
	2 10:10 ~ 11:20	特別実習Ⅰ	※4	各研究室						臨床薬学演習	須野、中川、 岡田、江頭、 齋藤、今井	中講義室 304	特別実習Ⅱ	※4	各研究室
	3 11:30 ~ 12:40														
	4 13:40 ~ 14:50														
	5 15:00 ~ 16:10														
	6 16:20 ~ 17:30														

※5 担当教員：須野 実施場所：中講義室304

※6 担当教員：須野、岡田、江頭、齋藤、今井、松本、山田、山下(哲)、土井、伊藤、荻原、射場、岩井、小柳

※7 担当教員：須野、伊藤 実施場所：原則県内医療機関

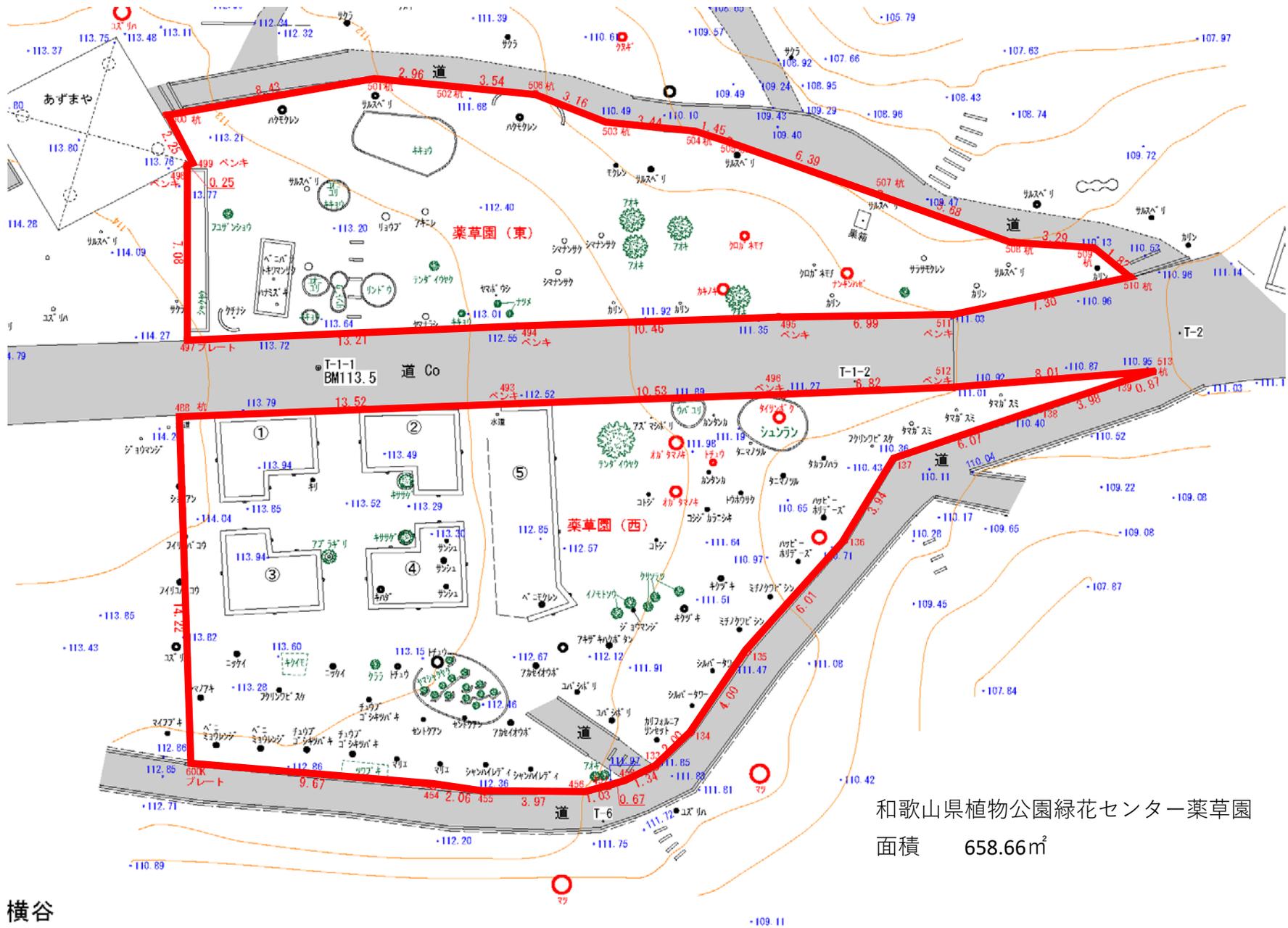
実施場所：中講義室304、実習室301(OSCE講義室)、実習室302、実習室303、実習室304、実習室305

和歌山県植物公園緑花センターと和歌山県立医科大学伏虎キャンパスとの距離

【直線距離】 約 15.5km

【移動時間】 和歌山県立医科大学伏虎キャンパスから和歌山県植物公園緑花センターまで
借り上げバスで約40分

※和歌山県植物公園緑花センターと和歌山県立医科大学伏虎キャンパスとの
距離や位置関係を示すため、地図上に所要の事項を記載した。



和歌山県植物公園緑花センター薬草園
面積 658.66㎡

横谷

薬用植物一覧

植物名	科名	使用部位	薬効
アイ	タデ	葉・果実	消炎・解毒・解熱
アオキ	アオキ	葉	腫れ物・火傷・傷に塗布、健胃
アブラギリ	トウダイグサ	果実	峻下剤
アマドコロ	ユリ	根茎	滋養強壯
アミガサユリ	ユリ	鱗茎	滋養強壯
イソギク	キク	花	耳薬・目薬
イヌホウズキ	ナス	果実、全草	消腫、解熱・利尿；果実は有毒
ウイキョウ	セリ	果実	芳香性健胃
ウツボグサ	シソ	花穂	利尿
ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	根	利尿；副作用（腎障害）強く使用しない
オトギリソウ	オトギリソウ	地上部・葉	止血・切傷
オニユリ	ユリ	鱗茎	滋養・強壯
オミナエシ	オミナエシ	根	利尿
オモト	ユリ	根茎	強心、利尿
カラスビシャク	サトイモ	塊根	つわり、鎮吐；生はえぐみが強い
カリン	バラ	果実	鎮咳・痰出し
カワラケツメイ	マメ	地上部	胃腸薬・便秘
カワラナデシコ	ナデシコ	種子	利尿
キカラスウリ	ウリ	塊根	利尿；天花粉の原料
キキョウ	キキョウ	根	膿出し、咳出し、咳止め
ククイモ	キク	根	糖尿、滋養
ククニガナ	キク	根、花、葉	肝臓疾患
キササゲ	ノウゼンカズラ	果実	利尿
キハダ	ミカン	樹皮	胃腸薬；陀羅尼助の原料
キリ	ゴマノハグサ	果実	油を採る
クコ	ナス	根皮、果実	強壯
クサスギカズラ	ユリ	塊根	鎮咳、痰出し
クサソテツ	オシダ	葉	新芽を食用
クチナシ	アカネ	果実	胆石；食品の色着ける
クララ	マメ	根	痛止、皮膚殺虫剤
ゲンノショウコ	フウロソウ	地上部	下痢止め
サボンソウ	ナデシコ	根茎	鎮咳、痰出し
サフラン	アヤメ	雄しべ	鎮静、鎮痛
サンザシ	バラ	果実	滋養強壯
サンシュユ	ミズキ	果実	強壯
ジギタリス	ゴマノハグサ	葉	強心剤（作用強い）
シラン	ユリ	根茎	滋養強壯
シャクヤク	ユリ	塊根	痛止
ジャノヒゲ	ユリ	根茎	鎮咳、痰出し
スイセン	ヒガンバナ	鱗茎、花	消腫、女性病
ステビア	キク	葉	甘味料（砂糖の200倍）
スマレ	スマレ	地上部	解熱
セイヨウオトギリソウ	オトギリソウ	地上部	ハーブとして使用、うつ
セイヨウノコギリソウ	キク	地上部	健胃・発汗
セリバオウレン	キンボウゲ	根	健胃（苦味）・殺菌
センニンソウ	キンボウゲ	根	鎮痛
センブリ	リンドウ	地上部	健胃（苦味）
チョウセンゴミシ	マツブサ	果実	滋養
ツリガネニンジン	キキョウ	根	痰出し、滋養
ツルドクダミ	タデ	塊根	健胃、強壯、便秘
ツワブキ	キク	根茎	健胃、下痢止

薬用植物一覧

植物名	科名	使用部位	薬効
トウゴマ	トウダイグサ	種子	峻下剤（作用が強い）
ドクダミ	ドクダミ	地上部	解毒、排膿
トチュウ	トチュウ	樹皮、葉	強壯薬；トチュウ茶は葉を使用
トリカブト類	キンポウゲ	塊根	痛止；猛毒のため使用しない
ナツメ	クロウメモドキ	果実	滋養
ニッケイ	クスノキ	樹皮、葉柄	芳香性健胃
ノシラン	ユリ	塊根	鎮咳、痰出し
ハッカ	シソ	地上部	芳香剤、ハッカ油の原料
ハナスゲ	ユリ	地下茎	鎮咳、痰出し
ハナミョウガ	ショウガ	種子	健胃
ハブソウ	マメ	全草	健胃、緩下
ヒオウギ	アヤメ	根茎	口内炎
ヒキオコシ	シソ	全草	健胃（苦味）、強壯
ピナンカズラ	マツブサ	種子	滋養
ビャクブ	ビャクブ	根茎	鎮咳、駆虫
フジバカマ	キク	地上部	利尿、浴剤
フタマタマオウ	トクサ	地上部	鎮咳、気管支拡張、風邪
ベニバナ	キク	花卉	通経、冷え性
ホップ	クワ	果実	苦味健胃
マタタビ	マタタビ	果実	強壯・滋養
マツブサ	マツブサ	果実	強壯
ミシマサイコ	セリ	根	肝臓病
モクレン	モクレン	花蕾	風邪、鼻詰まり
ヤマシャクヤク	ボタン	葉	鎮痛
ユキノシタ	ユキノシタ	葉	火傷、虫刺され
リンドウ	リンドウ	根	健胃
レンギョウ	モクセイ	果実	膿出し、利尿
ワレモコウ	バラ	根	利尿

部屋名	主な機器・備品名	備品区分	数量
実験室(薬品化学)	ドラフトチャンバー	固定	2
	卓上フード	固定	1
	エバポレーター冷却システム	可動	1
	高速液体クロマトグラフ(分取用)	可動	1
	ペプチド自動合成機	可動	1
実験室(薬品物理化学)	高速液体クロマトグラフ	可動	1
	大型遠心機	可動	1
	紫外可視分光光度計	可動	1
	連続的菌体破碎装置	可動	1
	菌体培養装置	可動	1
	ナノリッター分注システム	可動	1
	低温チャンバー	可動	1
	超音波破碎機	可動	1
	ドラフトチャンバー	固定	1
実験室(生薬・天然物化学)	薬用冷蔵ショーケース	可動	2
	ドラフトチャンバー	固定	3
	ロータリーエバポレーター	可動	2
	旋光度計	可動	1
	高速液体クロマトグラフ	可動	1
	高速液体クロマトグラフ	可動	1
	IR	可動	1
	低温反応装置	可動	1
	凍結乾燥機	可動	1
	微量遠心機	可動	1
	プレートリーダー	可動	1
	ルミノイメージアナライザー	可動	1
実験室(病態解析学)	ハイブリッドマルチモードプレートリーダー	可動	1
	超純水製造装置	可動	1
	微量分光光度計	可動	1
	高速冷却遠心機	可動	1
	薬用保冷库	可動	1
	超低温フリーザー	可動	1
	中型恒温振とう培養機	可動	1
	ゲル撮影装置	可動	1
	サーモサイクラー	可動	1
	倒立顕微鏡	可動	1
	高速液体クロマトグラフ	可動	1
	リアルタイムPCR	可動	1
	臨床化学分析装置	可動	1
実験室(生物化学)	ドラフトチャンバー	固定	1
	バイオクリーンベンチ	可動	1
	CO2インキュベーター	可動	1
	超低温フリーザー	可動	1
	微量高速冷却遠心機	可動	2
	微量高速冷却遠心機	可動	1
	オートクレーブ	可動	1
	恒温震盪培養機(冷却付き)	可動	1
	リアルタイムPCR	可動	1
	微量分光光度計	可動	1
	電気泳動撮影装置DNA/FAS5	可動	1
	化学発光イメージングシステム	可動	1
	倒立顕微鏡	可動	1
	蛍光顕微鏡	可動	1
	オールインワン蛍光顕微鏡システム	可動	1
	クリオスタット	可動	1
マイクロプレートリーダー	可動	1	

研究機器リスト

部屋名	主な機器・備品名	備品区分	数量
実験室(分子生物薬学)	ドラフトチャンバー	固定	1
	研究用保冷库	可動	1
	薬用冷蔵ショーケース	可動	1
	微量高速冷却遠心機	可動	2
	紫外可視分光光度計	可動	1
	クリオスタット	可動	1
	リアルタイムPCR装置	可動	1
	マイクロプレートリーダー	可動	1
	サーマルサイクラー	可動	1
	ゲル撮影装置	可動	1
	オートクレーブ	可動	1
	回転式マイクロトーム	可動	1
	高感度化学発光撮影装置	可動	1
	超低温フリーザー	可動	1
	抗原賦活化装置	可動	1
	蛍光顕微鏡	可動	1
	顕微鏡デジタルカメラ	可動	1
実験室(生体機能解析学)	超低温フリーザー	可動	1
	超低温フリーザー	可動	1
	オールインワン蛍光顕微鏡	可動	1
	ラット運動量測定装置	可動	1
	ドラフトチャンバー	固定	1
	クリオスタット	可動	1
実験室(衛生薬学)	ドラフトチャンバー	固定	1
	バイオハザード対策用キャビネット	可動	1
	超低温フリーザー	可動	1
	CO2インキュベーター	可動	1
	オートクレーブ	可動	1
	超純水製造装置	可動	1
	卓上微量高速遠心機	可動	1
	高速冷却遠心機	可動	1
	冷却遠心機	可動	1
	ビーズ型細胞破碎機	可動	1
	ポリトロンホモジナイザー	可動	1
	超微量分光光度計	可動	1
	画像解析システム	可動	1
	リアルタイムPCR	可動	1
	マイクロプレートリーダー	可動	1
高速液体クロマトグラフ	可動	1	
倒立型顕微鏡	可動	1	
実験室(病態生理学)	クリオスタット	可動	1
	超低温フリーザー	可動	2
	安全キャビネット	固定	2
	クリーンベンチ	可動	2
	微量高速冷却遠心機	可動	2
	多本架冷却遠心機	可動	2
	マルチプレートリーダー	可動	1
	リアルタイムPCR	可動	1
	CO2インキュベーター	可動	2
	製氷機	可動	1
	クロマトチャンバー	可動	1

研究機器リスト

部屋名	主な機器・備品名	備品区分	数量
実験室(薬品作用学)	分光光度計	可動	1
	サーマルサイクラー	可動	1
	超低温フリーザー	可動	1
	ルーチン検査用回転式マイクローム	可動	1
	中型恒温振とう培養機 バイオシェーカー	可動	1
	ゲル撮影装置	可動	1
	ドラフトチャンバー	固定	1
	安全キャビネット	可動	1
	リアルタイム PCR 解析システム	可動	1
	オールインワン蛍光顕微鏡	可動	1
	多本架冷却遠心機	可動	1
	トラッキングソフトウェア (+PC)	可動	1
	マイクロプレートリーダー	可動	1
	ルミノイメージアナライザー	可動	1
実験室(薬物治療学)	超低温フリーザー	可動	2
	微量高速冷却遠心機	可動	3
	冷却遠心機	可動	1
	シェーキングインキュベーター大	可動	1
	オートクレーブ	可動	1
	ドラフトチャンバー	固定	1
	定量PCR	可動	1
	核酸濃度測定機器	可動	1
	UVゲル撮影装置	可動	1
	蛍光顕微鏡システム	可動	1
	遺伝子導入装置	可動	1
	ルミノ・イメージアナライザー	可動	1
	プレートリーダー	可動	1
	凍結乾燥機	可動	1
遠心濃縮器	可動	1	
実験室(薬剤学)	高速液体クロマトグラフ	可動	2
	微量高速冷却遠心機	可動	1
	ロータリーエバポレーター	可動	1
	ゼータサイザーナノ ZS	可動	1
	パウダーテスター	可動	1
	粉末X線回折装置	可動	1
実験室(病院薬学)	遠心機	可動	1
	倒立型顕微鏡	可動	1
	パラフィン切片作製用 ミクローム	可動	1
	ドラフトチャンバー	固定	1
	超微量分光光度計	可動	1
	リアルタイムPCR	可動	1
	微量高速冷却遠心機	可動	1
	脳定位固定装置+固定装置用マイクロマニピュレーター	可動	1
	ホット/コールドプレート式鎮痛効果測定装置	可動	1
	プランター式鎮痛効果測定装置	可動	1
マウス用ロータロッド	可動	1	

研究機器リスト

部屋名	主な機器・備品名	備品区分	数量
実験室(医療薬剤学)	ドラフトチャンバー	固定	1
	バイオメディカルフリーザー	可動	1
	薬用冷蔵ショーケース	可動	1
	冷却遠心機	可動	1
	小型冷却遠心機	可動	1
	超純水製造装置	可動	1
	オートクレーブ 乾熱滅菌器	可動	1
	マルチ検出マイクロプレートリーダー	可動	1
	高速液体クロマトグラフ	可動	1
	化学発光検出装置	可動	1
	微量分光光度計	可動	1
	バイオアナライザー	可動	1
	血液分析器	可動	1
	製氷機	可動	1
実験室(医療開発薬学)	生物顕微鏡	可動	1
	安全キャビネット	可動	1
	生理信号解析装置	可動	1
	CO2インキュベーター	可動	1
	超低温フリーザー	可動	1
	3D イメージング&解析システム(ソフトウェア)	可動	1
	凍結切片作製用マイクロトーム(クリオスタット)	可動	1
	大型冷却遠心機	可動	1
実験室(医療教育企画室/臨床)	マイクロプレートリーダー	可動	1
	オートクレーブ	可動	1
	遠心機	可動	1
	PCR装置	可動	1
	超低温フリーザー	可動	1
実験室(医療情報薬学)	ドラフトチャンバー	固定	1
	高速液体クロマトグラフ	可動	1
	微量遠心機	可動	1
	冷却遠心機	可動	1
	遠心エバポレーター	可動	1
共同培養室	安全キャビネット	可動	3
	CO2インキュベーター	可動	4
	オートクレーブ	可動	1
	超純水製造装置	可動	1
	製氷機	可動	1
	遠心機	可動	1
低温室	プレハブ低温室設備	固定	1
	超低温フリーザー	可動	3

研究機器リスト

部屋名	主な機器・備品名	備品区分	数量
NMR室	核磁気共鳴装置(400MHz)	固定	1
質量分析室	LC/MS/MS	可動	1
	LC/MS	可動	1
生物系機器室	共焦点レーザー顕微鏡	可動	1
	蛍光顕微鏡	可動	1
	セルソーター	可動	2
X線構造解析室	X線結晶構造解析装置	可動	1
OSCE模擬薬局	集塵機付散薬調剤台	可動	1
	散薬調剤台	可動	3
	水剤台	可動	2
	錠剤台(シャッターなし)	可動	4
	全自動分割分包機 印字装置付	可動	1
	自動分割分包機パックメイトStala21 印字装置付	可動	3
	流し付作業台	固定	1
OSCE無菌操作室	クリーンベンチ	可動	1
	OSCE用クリーンベンチ	可動	4
	流し付作業台	固定	1
動物実験施設共通備品	フリーザー	可動	1
	天秤	可動	2
	代謝ケージ	可動	5
	安楽死装置	可動	1
	小動物用麻酔装置	可動	2
	製氷機	可動	1
	薬物保管冷蔵冷凍庫	可動	1
基礎実習備品(化学・生物)	実習用生物顕微鏡	可動	40
	ズーム式双眼実体顕微鏡	可動	15
	微量高速冷却遠心機	可動	1
	電子上皿天秤	可動	24
	電子分析天秤	可動	4
	ポータブルpH計	可動	25
	マグネチックスターラ	可動	50
	純水製造装置	可動	2
	熱風定温乾燥器	可動	4
	卓上型超音波洗浄器	可動	4
	薬用冷蔵ショーケース	可動	2
	紫外可視分光光度計	可動	4
	多目的冷却遠心機	可動	2
	ロータリーエバポレーター	可動	4

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1	ブラディジェスパーセン一般化学: 下			東京化学同人	2017.10
2	ブラディジェスパーセン一般化学: 上			東京化学同人	2017.03
3	演習・基礎から学ぶ大学の化学	梅本宏信		培風館	2018.03
4	化学: 物質の構造と性質を理解する	新しい化学教育研究会		学術図書出版社	2019.04
5	化学のちから: 生命・環境・エネルギーの理解のために			裳華房	2018.03
6	化学の世界への招待, 第2版			三共出版	2019.03
7	化学概論: 物質の誕生から未来まで			共立出版	2018.09
8	教養の化学: 暮らしのサイエンス			東京化学同人	2019.02
9	現代を生きるための化学 (放送大学教材)			放送大学教育振興会	2018.03
10	大学生の化学, 新版 第2版			三共出版	2019.01
11	理工系学生のための化学基礎, 第7版	野村浩康/川泉文男		学術図書出版社	2017.10
12	理工系学生のための基礎化学			培風館	2018.03
13	マクマリー一般化学: 上			東京化学同人	2010.11
14	マクマリー一般化学: 下			東京化学同人	2011.02
15	マクマリー一般化学: 演習編			東京化学同人	2011.05
16	スペンサー基礎化学: 物質の成り立ちと変わりかた: 上			東京化学同人	2012.01
17	スペンサー基礎化学: 物質の成り立ちと変わりかた: 下			東京化学同人	2012.03
18	スペンサー基礎化学: 物質の成り立ちと変わりかた: 演習編			東京化学同人	2012.07
19	ズンデル基礎化学			東京化学同人	2013.03
20	ケケル化学の基礎		(翻訳)千原秀昭	東京化学同人	2012.12
21	アトキンス一般化学: 上			東京化学同人	2014.09
22	アトキンス一般化学: 下			東京化学同人	2015.07
23	マッカーリー一般化学: 上			東京化学同人	2015.04
24	マッカーリー一般化学: 下			東京化学同人	2015.10
25	実感する化学: 上巻 地球感動編, 改訂		(翻訳)廣瀬千秋	エヌ・ティー・エス	2015.12
26	実感する化学: 下巻 生活感動編, 改訂		(翻訳)廣瀬千秋	エヌ・ティー・エス	2015.12
27	化学史事典	化学史学会		化学同人	2017.03
28	化学便覧 応用化学編, 第7版	日本化学会		丸善出版	2014.01
29	計算分子生物学: 物質科学からのアプローチ (物質・材料テキストシリーズ)			内田老鶴圃	2018.12
30	分子生物学: ゲノミクスとプロテオミクス			東京化学同人	2018.09
31	ワトソン遺伝子の分子生物学, 第7版			東京電機大学出版局	2017.01

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
32	遺伝子発現制御機構: クロマチン転写制御, エピジェネティクス			東京化学同人	2017.03
33	基礎分子遺伝学・ゲノム科学			裳華房	2018.09
34	医工薬連携科学が果たす役割と可能性: 高槻家の成長に寄り添う医療			ライフサイエンス出版	2018.03
35	医療人の底力実践, 第2版	鈴鹿医療科学大学底力教育推進センター/鈴鹿医療科学大学		三重大学出版会	2017.03
36	医学・薬学用語インデックス: 現場で役立つ!		(監修)吉尾隆/厚田幸一郎	じほう	2017.03
37	医学略語コンパクト, 第2版		(監修)富野康日己	医歯薬出版	2018.10
38	医療英会話キーワード辞典: そのまま使える16000例文			医学書院	2019.04
39	デカルト医学論集		(翻訳)山田弘明	法政大学出版局	2017.03
40	コメディカルスタッフのための論文の書き方: 初心者から上級者まで			インテルナ出版	2018.07
41	できる臨床研究最短攻略50の鉄則			金原出版	2017.09
42	なぜあなたの発表は伝わらないのか: できてるつもり?そこが危ないプレゼンテーション			メディカルレビュー社	2017.08
43	もしあなたが臨床研究を学んだら医療現場はもっとときめく			じほう	2019.02
44	やさしいメディカル英語			講談社	2018.06
45	医学教育の歴史: 古今と東西	坂井建雄		法政大学出版局	2019.03
46	医師・看護師の英語論文スタイルブック (「ジェネラリスト・マスターズ」シリーズ 12)			カイ書林	2017.07
47	医療者教育のビデオ・エスノグラフィ: 若い学生・スタッフのコミュニケーション能力を育む		(監修)藤崎和彦	晃洋書房	2018.03
48	医療従事者のための情報リテラシー, 第2版		(監修)中村健壽	日経BP社	2018.04
49	研究的思考法: 想いを伝える技術			三輪書店	2019.02
50	国際誌にアクセプトされる医学論文: 一流誌査読者調査に基づく「再現性のある研究」時代の論文ガイド, 第2版		(翻訳)木原正博	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2019.02
51	査読者が教える医学論文のための研究デザインと統計解析			中山書店	2017.04
52	臨床論文のMethodsを読むMethod: 臨床家が知っておきたいPICOと統計解析の基本のキ			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2019.05
53	医療・福祉系学生のための専門基礎科目, 改訂2版	河野公一		金芳堂	2013.03
54	FLASH薬理学	丸山 敬		羊土社	2018
55	くすりと薬理 —臨床工学テキスト—	海本 浩一		東京電機大学出版局	2017
56	なぜ効く?どう違う?を理解し処方するための治療薬の臨床薬理データブック	渡邊 裕司		日本医事新報社	2018
57	ベッドサイドの薬理学	笹栗 俊之		丸善出版	2018
58	ライフステージや疾患背景から学ぶ臨床薬理学 —テラーメイド薬物治療の基本知識と処方の実践—	大井 一弥		羊土社	2017
59	医薬品副作用アセスメント	宇野 勝次		南山堂	2018
60	時間治療学 —投薬のタイミングと効果— 第2版	藤村 昭夫		日本医事新報社	2014
61	新薬理学, 改訂第6版 フルカラー新装版 (Qシリーズ)		(監修)安原一	日本医事新報社	2015.06
62	薬剤禁忌ハンドブック	梅田 悦生		中外医学社	2018

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
63	薬物治療総論/症候・臨床検査/個別化医療 (臨床薬学テキストシリーズ・薬理・病態・薬物治療) (※)	赤池, 昭紀		中山書店	2018
64	疾患への理解を深める病態生理学	副島, 昭典		東京医学社	2013
65	ER-ICUに必要な循環器薬の知識と使い方 一日米のエビデンスの狭間で—(救急・集中治療 Vol25, No3・4(2013))	香坂, 俊		総合医学社	2013
66	フローチャートによるトリアージ実践マニュアル —その時、薬剤師はどのように判断するか—	佐仲, 雅樹		丸善出版	2014
67	薬剤師のトリアージ実践ガイド —視診・バイタルサイン・問診による病態の捉え方—	佐仲, 雅樹		丸善出版	2012
68	病態で考える薬学的フジカルアセスメント —41の主訴と症候から行うべきアセスメントがわかる—	鈴木, 孝		羊土社	2018
69	ER-ICUでの薬の使い方・考え方 2016~17 —エキスパートの実践と秘訣に学ぶ—(救急・集中治療 Vol27 臨時増刊号)	岡元, 和文		総合医学社	2015
70	ER-ICUの薬剤121 —看護師・研修医必携、パッと見てサッと使える処方箋に学ぶ—(救急・集中治療 Vol27 臨時増刊号)	大野, 博司		メディカ出版	2018
71	緩和治療薬の考え方、使い方 ver.2	森田, 達也		中外医学社	2017
72	症状と患者背景にあわせた頻用薬の使い分け 改訂版	藤村, 昭夫		羊土社	2015
73	頻用薬の落とし穴 —何気ない処方にも潜む罠—	宮地, 良樹		文光堂	2015
74	薬効力: 72の分子標的と薬の作用	システム薬学研究機構		オーム社	2012.08
75	抗菌薬の考え方、使い方 —魔弾よ、ふたたび…—Ver. 4	岩田, 健太郎		中外医学社	2018
76	ここが知りたい利尿薬の選び方、使い方	北風, 政史		中外医学社	2014
77	痛みの薬物治療 (痛みのscience & practice 2)	山本, 達郎		文光堂	2013
78	薬剤ごとの違いがわかるステロイドの使い分け: 豊富な薬剤情報と症例	山本一彦/鈴木洋史		羊土社	2010.02
79	高齢者における糖尿病治療薬の使い方 —新たなカテゴリー別目標値への適切な対応のために—	稲垣, 暢也		フジメディカル出版	2017
80	糖尿病治療薬最新メソッド —まずはこうする!次の一手はこれだ!—3版	内野, 泰		日本医事新報社	2019
81	リウマチ・膠原病治療薬ハンドブック —エキスパートが教える極意—	川畑, 仁人		文光堂	2018
82	頭痛治療薬の考え方、使い方 改訂2版	竹島, 多賀夫		中外医学社	2016
83	キャラクタ!抗菌薬データ	黒山, 政一		羊土社	2017
84	抗菌薬ドリル —感染症診療に強くなる問題集—	羽田野, 義郎		羊土社	2019
85	筋弛緩薬: MUSCLE RELAXANT (FOR PROFESSIONAL ANESTHESIOLOGISTS)	岩崎寛		克誠堂出版	2010.09
86	分子標的治療薬マスターガイド	弦間, 昭彦		中外医学社	2014
87	眼科点眼薬Note 2018-2019年 —ジェネリックがわかる!市販薬もわかる!—改訂3版	加藤, 浩晃		メディカ出版	2018
88	みみ・はな・のど感染症への上手な抗菌薬の使い方 —知りたい、知っておきたい、知っておくべき使い方—	鈴木, 賢二		全日本病院出版社	2016
89	衛生薬学 —健康と環境—第6版 (※)	永沼, 章		丸善出版	2018
90	■ビジュアル薬剤師実務シリーズ 全4巻セット			羊土社	
91	薬のデギュスタシオン —製薬メーカーに頼らずに薬を勉強するために—	岩田, 健太郎		金芳堂	2015
92	薬学と社会 —医療経済・多職種連携とチーム医療・地域医療・在宅医療—(臨床薬学テキストシリーズ) (※)	望月, 眞弓		中山書店	2017
93	薬学倫理・医薬品開発・臨床研究・医療統計学 (臨床薬学テキストシリーズ) (※)	安原, 眞人		中山書店	2017

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
94	医薬品開発部員のための和英・英和・翻訳辞典 改訂2版	内田, たけみ		金芳堂	2011
95	薬学英語基本用語用例集 = A manual of pharmaceutical terms and expressions	瀬谷, 幸男		南雲堂	2017
96	薬剤師のための医学論文活用ガイド —エビデンスを探して読んで行動するために必要なこと—	薬剤師のジャーナルクラブ		中外医学社	2016
97	薬価基準制度 2018年版			薬事日報社	2018
98	■最近の新薬 (1950—2008) 総索引+総集編 全62冊			薬事日報社	
99	ジェネリック —それは新薬と同じなのか—	ジェレミー・A・グリーン		みすず書房	2017
100	根拠からよくわかる注射薬・輸液の配合変化 —基礎から学ぶ、配合変化を起さないためのコツとポイント—第2版	赤瀬, 朋秀		羊土社	2017
101	薬のデギュスタシオン 2 —製薬メーカーに頼らずに薬を勉強するために—	岩田, 健太郎		金芳堂	2017
102	薬局ですぐに役立つ薬の比較と使い分け100	児島, 悠史		羊土社	2017
103	薬剤と画像 —画像所見から薬剤による変化を想起する—(画像診断 vol. 36, no. 12(2016-10))			学研メディカル秀潤社	2016
104	つまづき症例で学ぶ薬の処方徹底トレーニング: これだけは知っておきたい"つまづきポイント"と"処方のコツ"	藤村昭夫/安藤仁		羊土社	2011.10
105	ドラッグキャリア設計入門 —DDSからナノマシンまで— (※)	片岡, 一則		丸善出版	2019
106	核酸医薬・抗体医薬・ワクチン医療を支えるDDS技術 (ファインケミカルシリーズ・ドラッグデリバリーシステムの新展開 2)	永井, 恒司		シーエムシー出版	2012
107	次世代経皮吸収型製剤の開発と応用 (ファインケミカルシリーズ)	杉林, 堅次		シーエムシー出版	2011
108	難吸収性薬物の吸収性改善と新規投与製剤の開発 (ファインケミカルシリーズ)	山本, 昌		シーエムシー出版	2012
109	難水溶性薬物の物性評価と製剤設計の新展開: Recent Progress in Physicochemical Characterization and Formulation Technologies for Poorly Soluble Drugs (ファインケミカルシリーズ)	(監修)川上亘作		シーエムシー出版	2010.01
110	薬用植物辞典	NTS薬用植物辞典編集委員会		エヌ・ティー・エス	2016
111	■目で見る薬理学入門 第3版 全12巻 【動画】(※)			医学映像教育センター	
112	改訂・増補 日本薬用植物圖譜			科学書院	
113	わかりやすい薬学系の数学入門	都築稔		講談社	2011.11
114	薬学の基礎としての数学・統計学 (プライマリー薬学シリーズ 5)	日本薬学会		東京化学同人	2012.04
115	薬学系学生のための微分積分			ムイスリ出版	2016.03
116	基礎統計 (薬学系学生のための基礎シリーズ 4)	本間浩		培風館	2012.01
117	人間科学のための統計分析: ここに関心があるすべての人のために			医歯薬出版	2014.09
118	生物系のためのやさしい基礎統計学			講談社	2016.10
119	マッカーリ化学数学	(翻訳)藤森裕基		丸善出版	2014.03
120	化学現象から学ぶ化学の数学: 基礎から応用まで	(監修)田中裕之		オーム社	2018.08
121	はじめての電子状態計算: DV-X α 分子軌道計算への入門, 新版			三共出版	2017.11
122	巨大分子系の計算化学: 超大型計算機時代の理論化学の新展開 (CSJ Current Review 08)	日本化学会		化学同人	2012.03
123	分子マシンの科学: 分子の動きとその機能を見る (CSJ Current Review 26)	日本化学会		化学同人	2017.08
124	元素の名前辞典: LEXICON NOMINUM ELEMENTORUM: STAT REPERTIO PRISTINA NOMINE.NOMINA ELEMENTORUM TENEMUS			九州大学出版会	2017.08

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
125	興味が湧き出る化学結合論: 基礎から論理的に理解して楽しく学ぶ			共立出版	2014.04
126	錯体化学: 基礎から応用まで (エキスパート応用化学テキストシリーズ)			講談社	2014.03
127	すぐできる量子化学計算ビギナーズマニュアル, 新版		(監修)平尾公彦	講談社	2015.03
128	実はおもしろい化学反応: 世界は化学反応でできている (知りたい!サイエンス 115)			技術評論社	2012.10
129	プラスモンの化学 (化学の要点シリーズ 29)			共立出版	2019.02
130	光化学: 基礎から応用まで (エキスパート応用化学テキストシリーズ)			講談社	2014.09
131	光化学: 基礎と応用			東京化学同人	2013.03
132	光化学: 光反応から光機能性まで			裳華房	2012.09
133	光化学の事典: ENCYCLOPEDIA OF PHOTOCHEMISTRY	光化学協会光化学の事典編集委員会		朝倉書店	2014.06
134	光化学フロンティア: 未来材料を生む有機光化学の基礎 (DOJIN ACADEMIC SERIES 9)	水野一彦/宮坂博		化学同人	2018.12
135	半導体ナノシートの光機能 (化学の要点シリーズ 28)	日本化学会		共立出版	2018.12
136	分子光化学の原理			丸善出版	2013.07
137	NEW放射化学・放射薬品学, 第2版	佐治英郎		廣川書店	2011.12
138	新放射化学・放射性医薬品学, 改訂第4版	佐治英郎/前田稔		南江堂	2016.08
139	放射化学・放射性医薬品学 (薬学テキストシリーズ)			朝倉書店	2011.05
140	放射化学概論, 第4版			東京大学出版会	2018.09
141	薬学領域の放射科学	飯田靖彦	(監修)佐治英郎	廣川書店	2015.02
142	しっかり学ぶ化学熱力学: エントロピーはなぜ増えるのか			裳華房	2019.05
143	化学熱力学: 基本の考え方15章			東京化学同人	2012.09
144	基本化学熱力学: 基礎編			三共出版	2016.01
145	基本化学熱力学: 展開編			三共出版	2016.06
146	見える!使える!化学熱力学入門			オーム社	2013.08
147	材料の熱力学入門			コロナ社	2019.01
148	コンパクト電気化学			丸善出版	2019.05
149	電気化学: 基礎と応用			東京化学同人	2015.01
150	電気化学インピーダンス法: 原理・測定・解析, 第2版			丸善出版	2011.07
151	電気化学便覧, 第6版	電気化学会		丸善出版	2013.01
152	電子移動 (化学の要点シリーズ 5)	日本化学会		共立出版	2013.02
153	界面と分散コロイドの基礎と応用: Interfaces and Dispersion Colloids Basic Principles and Applications (CMC Books)			シーエムシー出版	2017.09
154	現代界面コロイド化学の基礎: 原理・応用・測定ソリューション, 第4版	日本化学会		丸善出版	2018.04
155	現代界面コロイド科学の事典	日本化学会		丸善	2010.05

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
156	新しい局面を迎えた界面の分子科学: 機能デザインと計測技術の展開 (GSJ Current Review 04)	日本化学会		化学同人	2011.03
157	固体表面の濡れ性: 超親水性から超撥水性まで (化学の要点シリーズ 12)	日本化学会		共立出版	2014.12
158	高分子科学: 合成から物性まで (エキスパート応用化学テキストシリーズ)			講談社	2016.09
159	はじめての基礎化学実験			オーム社	2018.10
160	基礎化学実験, 第2版増補	京都大学大学院人間・環境学研究科化学部会		共立出版	2019.04
161	基礎化学実験, 第3版	東京大学教養学部化学部会		東京化学同人	2012.10
162	理系基礎化学実験, 第2版			学術図書出版社	2018.02
163	理工系基礎化学実験			共立出版	2014.09
164	化学安全ノート: 安全な実験室管理のための, 第3版	日本化学会		丸善出版	2016.07
165	化学系のための安全工学: 実験におけるリスク回避のために			化学同人	2017.10
166	化学実験の心得: 失敗から安全を学ぶ			化学同人	2013.02
167	キーワードで学ぶ機器分析問題集: 紫外可視吸収・赤外吸収・MS・NMR		(監修)尾能満智子/渡邊敏子	詳言社	2019.03
168	クリスチャン分析化学: 1 基礎編			丸善出版	2016.12
169	クリスチャン分析化学: 2 機器分析編			丸善出版	2017.01
170	スクーグ分析化学		(翻訳)小澤岳昌	東京化学同人	2019.01
171	スタンダード分析化学			裳華房	2018.11
172	パートナー分析化学: 1, 改訂第3版	萩中淳/能田均		南江堂	2017.03
173	パートナー分析化学: 2, 改訂第3版	能田均/萩中淳		南江堂	2017.03
174	ハリス分析化学: 下		(翻訳)宗林由樹	化学同人	2017.09
175	ハリス分析化学: 上		(翻訳)宗林由樹	化学同人	2017.02
176	フローインジェクション分析 (分析化学実技シリーズ 機器分析編 10)			共立出版	2014.02
177	よくわかる最新分析化学の基本と仕組み: 現場で必要とされる分析法のノウハウ, 第2版 (図解入門-How-nual- Visual Guide Book)			秀和システム	2016.05
178	よくわかる薬学分析化学, 第2版	二村典行/大庭義史		廣川書店	2019.04
179	演習を中心とした薬学生の分析化学, 第5版	嶋田健次		廣川書店	2012.02
180	基礎から学ぶ機器分析化学	井村久則/樋上照男		化学同人	2016.04
181	基礎から学ぶ分析化学	井村久則/樋上照男		化学同人	2015.04
182	基礎分析化学, 新訂版 (新・物質科学ライブラリ 7)			サイエンス社	2018.02
183	基礎分析化学: 解説と問題	田中秀治/金田典雄		廣川書店	2016.01
184	基礎薬学分析化学: 1, 第4版	中村洋		廣川書店	2011.08
185	基礎薬学分析化学: 2, 第4版	中村洋		廣川書店	2011.09
186	機器分析 (エキスパート応用化学テキストシリーズ)			講談社	2015.09

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
187	元素の分析 (試料分析講座)	日本分析化学会		丸善出版	2011.11
188	熱分析 (分析化学実技シリーズ 機器分析編 13)			共立出版	2012.11
189	分析・測定データの統計処理: 分析化学データの扱い方		①高津章子	朝倉書店	2014.09
190	分析化学 (ベーシックマスター)	鎌川芳子/小熊幸一		オーム社	2013.08
191	分析化学 (化学はじめの一歩シリーズ 5)			化学同人	2014.12
192	分析化学: 1 定量分析編, 第2版 (薬学テキストシリーズ)			朝倉書店	2018.04
193	分析化学: 2 機器分析編, 第2版 (薬学テキストシリーズ)			朝倉書店	2018.03
194	分析化学における測定値の信頼性: 考え方と記載方法			日刊工業新聞社	2013.04
195	分析化学の基礎: 定量的アプローチ			化学同人	2012.11
196	分析科学, 第3版 (ベーシック薬学教科書シリーズ 2)	萩中淳		化学同人	2016.11
197	薬学生のための分析化学, 第4版	楠文代/洪澤庸一		廣川書店	2017.02
198	薬学分析化学の基礎と応用: 薬学教育モデル・コアカリキュラム準拠, 第3版	片岡洋行/田和理市		廣川書店	2011.11
199	分析化学便覧, 改訂6版	日本分析化学会		丸善出版	2011.09
200	現代質量分析学: 基礎原理から応用研究まで (DOJIN ACADEMIC SERIES 2)	高山光男/早川滋雄		化学同人	2013.01
201	LC/MS.LC/MS/MS Q & A100獅子の巻	日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究会	(監修)中村洋	オーム社	2018.11
202	LC/MS.LC/MS/MSの基礎と応用	日本分析化学会	(監修)中村洋	オーム社	2014.09
203	液体クロマトグラフィーを使いこなす: その基礎と計算力			技報堂出版	2013.05
204	NMR入門: 必須ツール基礎の基礎 (Chemistry Primer Series 2)		(翻訳)岩下孝	化学同人	2017.03
205	X線光電子分光法 (分光法シリーズ 6)			講談社	2018.12
206	X線分光法 (分光法シリーズ 5)			講談社	2018.09
207	吸光・蛍光分析 (分析化学実技シリーズ 機器分析編 1)			共立出版	2011.07
208	蛍光X線分析 (分析化学実技シリーズ 機器分析編 6)			共立出版	2012.09
209	原子吸光分析 (分析化学実技シリーズ 機器分析編 5)			共立出版	2011.04
210	電気化学分析 (分析化学実技シリーズ 機器分析編 12)			共立出版	2012.08
211	電子スピン共鳴分光法 (化学の要点シリーズ 20)			共立出版	2017.06
212	演習で学ぶ有機化合物のスペクトル解析			東京化学同人	2010.03
213	有機化学のためのスペクトル解析法: UV,IR,NMR,MSの解説と演習, 第2版			化学同人	2010.03
214	JMPIによる医療・医薬系データ分析: 分散分析・反復測定・傾向スコアを中心に			東京図書	2017.09
215	イチから使う医薬統計教室: SPSS			メジカルビュー社	2017.10
216	できる傾向スコア分析SPSS・Stata・Rを用いた必勝マニュアル			金原出版	2018.06
217	ヒト臨床研究のための統計解析ハンドブック: 目で見てわかる統計手法の選び方			化学工業日報社	2017.09

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
218	みんなの医療統計: 多変量解析編 10日間で基礎理論とEZRを完全マスター!			講談社	2017.05
219	わかりやすいデータ解析と統計学: 医療系の解析統計をExcelで始めてみよう			オーム社	2017.11
220	基礎医学統計学, 改訂第7版			南江堂	2019.03
221	統計モデル入門, 新版 (医学統計学シリーズ 2)			朝倉書店	2019.03
222	統計解析なんかこわくない: データ整理から学会発表まで, 第2版			医学書院	2019.01
223	薬学・看護学・保健学に役立つ生物統計・疫学・臨床研究デザインテキストブック	山田浩/大野ゆう子		メディカル・パブリケーションズ	2018.11
224	臨床試験のためのアダプティブデザイン (統計ライブラリー)			朝倉書店	2018.09
225	わかりやすい薬学系の統計学入門	小林賢/佐古兼一		講談社	2015.02
226	薬学生・薬剤師のための基礎統計学	松野純男		ムイスリ出版	2016.09
227	はじめての構造化学: 構造化学のなぜに答える			オーム社	2013.06
228	フロンティア軌道論で理解する有機化学			化学同人	2018.12
229	立体化学 (有機化学スタンダード)			裳華房	2017.11
230	詳解量子化学の基礎			東京電機大学出版局	2012.09
231	演習でもできる化学濃度計算: 実験・実習の基礎			丸善出版	2018.07
232	薬学生のための化学平衡ノート (※)	荒川, 秀俊		丸善出版	2015
233	放射化学の事典	日本放射化学会		朝倉書店	2015.09
234	分子熱統計力学: 化学平衡から反応速度まで			東京大学出版会	2014.11
235	電気化学インピーダンス: 数式と計算で理解する基礎理論		(監修)桑畑進	化学同人	2019.04
236	有機電気化学: 基礎から応用まで			コロナ社	2012.06
237	基礎スラリー工学			丸善出版	2016.01
238	理工系のための化学実験: 基礎化学からバイオ・機能材料まで		(監修)岩村秀/角五正弘	共立出版	2016.03
239	化学実験における事故例と安全	田村昌三		オーム社	2013.04
240	化学実験の事故事例・事故防止ハンドブック			丸善出版	2014.01
241	基礎からわかる機器分析 (物質工学入門シリーズ)	加藤, 正直		森北出版	2010
242	基礎分析化学 (※)	小熊, 幸一		朝倉書店	2015
243	機械屋のための分析装置ガイドブック	日本塑性加工学会		コロナ社	2012
244	生命科学における分析化学	中村, 洋		朝倉書店	2015
245	失敗しない液クロ分析 — 試料前処理と溶離液作成のコツ —	松下, 至		化学同人	2018
246	ラマン分光法 (分光法シリーズ 1)	瀧口, 宏夫		講談社	2015
247	近赤外分光法 (分光法シリーズ 2)	尾崎, 幸洋		講談社	2015
248	蛍光X線分析の実際 第2版	中井, 泉		朝倉書店	2016

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
249	赤外分光30講(やさしい化学30講シリーズ4)	山崎, 鮎		朝倉書店	2016
250	ここから学ぼう! 図解医療統計: 本気で統計を始めたい人のための入門書			総合医学社	2016.03
251	スッキリわかる! 臨床統計はじめの一歩: 統計のイロハからエビデンスの読み解き方・活かし方まで, 改訂版			羊土社	2018.05
252	ぜんぶ絵で見る医療統計: 身につく研究手法と分析力			羊土社	2017.03
253	なぜベイズを使わないのか?: 臨床試験デザインのために			金芳堂	2017.08
254	フリーソフトRを使ったらくらく医療統計解析入門: 高額な統計ソフトはもういらぬ!			中山書店	2016.03
255	医学統計学ハンドブック 新版	丹後俊郎/松井茂之		朝倉書店	2018.07
256	医療統計学入門: エビデンスを正しく見分けるための考え方			オーム社	2014.08
257	親切な医療統計学, 第2版			金芳堂	2019.02
258	生存時間解析: SASによる生物統計: 応用編			東京大学出版会	2016.07
259	短期集中! オオサンショウウオ先生の医療統計セミナー論文読解レベルアップ30			羊土社	2016.11
260	統計学のセンス: デザインする視点・データを見る目, 新版(医学統計学シリーズ1)			朝倉書店	2018.10
261	独習統計学応用編24講: すべての医療系学生・研究者に贈る			朝倉書店	2016.10
262	無作為化比較試験: デザインと統計解析, 新版(医学統計学シリーズ5)			朝倉書店	2018.06
263	有機スペクトル解析: テキストブック			裳華房	2015.11
264	有機化合物のスペクトルによる同定法: MS, IR, NMRの併用, 第8版		(翻訳): 岩澤伸治	東京化学同人	2016.12
265	有機化合物のスペクトルによる同定法: 演習編, 第8版			東京化学同人	2018.02
266	有機機器分析: 構造解析の達人を目指して(化学の要点シリーズ10)	日本化学会		共立出版	2014.02
267	有機構造解析(分析化学実技シリーズ 応用分析編3)			共立出版	2010.08
268	ウォーレン有機合成: 逆合成からのアプローチ			東京化学同人	2014.03
269	キラル化学: その起源から最新のキラル材料研究まで(CSJ Current Review 13)	日本化学会		化学同人	2013.10
270	トロンやさいい! クロスカップリング反応の本(B&Tボックス 今日からモノ知りシリーズ)		(監修): 鈴木章	日刊工業新聞社	2017.05
271	メタセシス反応(化学の要点シリーズ2)	日本化学会		共立出版	2012.01
272	基礎から学ぶ有機合成		(翻訳): 伊藤喬	東京化学同人	2013.12
273	最新グリーンケミストリー: 持続的社會のための化学	御園生誠/村橋俊一		講談社	2011.03
274	最新有機合成法: 設計と戦略, 第2版			化学同人	2018.03
275	若手研究者のための有機合成ラボガイド			講談社	2010.03
276	天然物合成で活躍した反応: 実験のコツとポイント	有機合成化学協会		化学同人	2011.10
277	天然有機化合物の全合成: 独創的なものづくりの反応と戦略(CSJ Current Review 27)	日本化学会		化学同人	2018.03
278	天然有機分子の構築: 全合成の魅力(化学の要点シリーズ26)			共立出版	2018.06
279	有機合成における人名反応750			東京化学同人	2014.03

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
280	酸化還元反応(化学の要点シリーズ1)			共立出版	2012.01
281	活性酸素・フリーラジカルの科学: 計測技術の新展開と広がる応用(CSJ Current Review 21)	日本化学会		化学同人	2016.03
282	ウェイド有機化学: 下		(翻訳): 中村浩之	丸善出版	2014.12
283	ウェイド有機化学: 上		(翻訳): 中村浩之	丸善出版	2014.12
284	ウォーレン有機化学: 下, 第2版			東京化学同人	2015.09
285	ウォーレン有機化学: 上, 第2版			東京化学同人	2015.03
286	ウレット・ロン基本有機化学			東京化学同人	2017.09
287	キーノート有機化学, 第2版		(翻訳): 村田滋	東京化学同人	2016.06
288	クライン有機化学: 下		(翻訳): 岩澤伸治	東京化学同人	2018.01
289	クライン有機化学: 上		(翻訳): 岩澤伸治	東京化学同人	2017.04
290	ジョーンズ有機化学: 下, 第5版			東京化学同人	2016.10
291	ジョーンズ有機化学: 上, 第5版			東京化学同人	2016.03
292	スミス有機化学: 下		(翻訳): 山本尚	化学同人	2018.02
293	スミス有機化学: 上		(翻訳): 山本尚	化学同人	2017.11
294	ソロモンの新有機化学: 1, 第11版			廣川書店	2015.02
295	ソロモンの新有機化学: 2, 第11版			廣川書店	2015.03
296	ソロモンの新有機化学: 3 スペクトル解析法, 第11版			廣川書店	2015.03
297	ブラウン有機化学: 下		(翻訳): 村上正浩	東京化学同人	2014.09
298	ブラウン有機化学: 上		(翻訳): 村上正浩	東京化学同人	2014.01
299	ブルース有機化学: 下		(翻訳): 大船泰史	化学同人	2015.02
300	ブルース有機化学: 上		(翻訳): 大船泰史	化学同人	2014.11
301	ブルース有機化学概説, 第3版		(翻訳): 富岡清	化学同人	2016.12
302	ベーシック有機化学, 第2版			化学同人	2010.11
303	ポルハルト・ショアー現代有機化学: 下, 第6版			化学同人	2011.12
304	ポルハルト・ショアー現代有機化学: 上, 第6版			化学同人	2011.08
305	ポルハルト・ショアー現代有機化学問題の解き方, 第6版		(翻訳): 大島幸一郎	化学同人	2011.12
306	マクマリー有機化学: 下, 第9版		(翻訳): 伊東【ショウウ】	東京化学同人	2017.02
307	マクマリー有機化学: 上, 第9版		(翻訳): 伊東【ショウウ】	東京化学同人	2017.01
308	マクマリー有機化学: 中, 第9版		(翻訳): 伊東【ショウウ】	東京化学同人	2017.02
309	マクマリー有機化学概説, 第7版		(翻訳): 伊東【ショウウ】	東京化学同人	2017.12
310	マクマリー有機化学概説問題の解き方: 英語版, 第7版			東京化学同人	2017.12

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
311	マクマリー有機化学問題の解き方. 英語版. 第8版			東京化学同人	2013.02
312	ラウドン有機化学. 下			東京化学同人	2019.01
313	ラウドン有機化学. 上			東京化学同人	2018.03
314	基礎有機化学 (薬学生のための基礎シリーズ 5)	小林進/三巻祥浩		培風館	2012.03
315	薬学・生命科学のための有機化学・天然物化学			東京化学同人	2012.04
316	薬系有機化学	安藤章/山口泰史		南江堂	2018.03
317	有機化学. 第2版 (ベーシック薬学教科書シリーズ 5)	夏刃英昭/高橋秀依		化学同人	2016.04
318	有機化学の基本: 電子のやりとりから反応を理解する			化学同人	2013.11
319	ビギナーズ有機化学. 第2版			化学同人	2013.04
320	知っておきたい有機反応100. 第2版	日本薬学会		東京化学同人	2019.03
321	不活性結合・不活性分子の活性化: 革新的な分子変換反応の開拓 (CSJ Current Review 05)	日本化学会		化学同人	2011.04
322	有機化学の理論: 学生の質問に答えるノート. 第4版補訂			三共出版	2013.05
323	有機反応論			東京化学同人	2013.01
324	有機化学命名法: IUPAC2013勧告および優先IUPAC名			東京化学同人	2017.04
325	研究室で役立つ有機実験のナビゲーター. 実験ノートのとり方から機器分析まで. 第3版		(翻訳)上村明男	丸善出版	2018.03
326	現代有機硫黄化学: 基礎から応用まで (DOJIN ACADEMIC SERIES 6)	高田十志和/村井利昭		化学同人	2014.03
327	ハートウィグ有機遷移金属化学. 下		(翻訳)小宮三四郎	東京化学同人	2015.03
328	ハートウィグ有機遷移金属化学. 上		(翻訳)小宮三四郎	東京化学同人	2014.04
329	有機金属化学 (化学の要点シリーズ 6)	日本化学会		共立出版	2013.01
330	有機金属化学. 第2版 (錯体化学会選書 6)			三共出版	2014.06
331	有機金属化学: 基礎から触媒反応まで			東京化学同人	2015.09
332	NEW医薬品化学. 増補版	日比野剛/夏刃英昭		廣川書店	2010.01
333	パートナー医薬品化学. 改訂第3版	堀口よし江	(監修)佐野武弘	南江堂	2017.03
334	化学系薬学. 1 化学物質の性質と反応 (スタンダード薬学シリーズ 2-3)	日本薬学会		東京化学同人	2015.02
335	化学系薬学. 2 生体分子・医薬品の化学による理解 (スタンダード薬学シリーズ 2-3)	日本薬学会		東京化学同人	2016.03
336	化学系薬学. 3 自然が生み出す薬物 (スタンダード薬学シリーズ 2-3)	日本薬学会		東京化学同人	2016.10
337	核酸医薬の最前線: Frontier of Development of Nucleic acid Medicine. 普及版 (ファインケミカルシリーズ)		(監修)和田猛	シーエムシー出版	2014.10
338	革新的医薬品の科学: 薬理・薬物動態・代謝・安全性から合成まで	J.J.Li/D.S.Johnson		化学同人	2017.12
339	新編医薬化学	日比野剛/石倉稔		廣川書店	2018.03
340	製剤への物理化学. 第2版	齋藤博幸/田中秀治		廣川書店	2012.02
341	くすりのかたち: もし薬剤師が薬の化学構造式をもう一度勉強したら			南山堂	2013.05

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
342	日本の医薬品構造式集. 2019	日本医薬情報センター		日本医薬情報センター	2019.03
343	薬がわかる構造式集	林良雄/青柳裕		廣川書店	2013.12
344	キラル医薬品・医薬中間体の研究・開発: Research and Development of Chiral Drugs and its Intermediates. 普及版 (CMCテクニカルライブラリー 362 ファインケミカルシリーズ)		(監修)大橋武久	シーエムシー出版	2010.07
345	新薬合成マニュアル: Synthetic Manual of New Drugs. 2018			シーエムシー出版	2017.11
346	新有機医薬品合成化学	田口武夫/小林進		廣川書店	2012.11
347	有機医薬品合成化学. ターゲット分子の合成	西出喜代治/前崎直容		廣川書店	2011.01
348	エッセンシャル天然薬物化学. 第2版 (薬学セレクト)			医歯薬出版	2017.03
349	カンナビノイドの科学: 大麻の医療・福祉・産業への利用	日本臨床カンナビノイド学会	(監修)佐藤均	築地書館	2015.10
350	医療を指向する天然物医薬品化学. 第2版	北中進/船山信次		廣川書店	2011.03
351	海の生き物からの贈り物: 薬と毒と			化学工業日報社	2016.03
352	分子エレクトロニクス基礎: 有機伝導体の電子論から応用まで (DOJIN ACADEMIC SERIES 4)			化学同人	2013.10
353	有機スペクトル解析 —MS・IR・NMRデータを読む—	臼杵 克之助		丸善出版	2014
354	有機合成化学入門: 基礎を理解して実践に備える			丸善	2010.09
355	基礎有機化学 (有機化学スタンダード)			裳華房	2017.10
356	困ったときの有機化学. 下. 第2版		(翻訳)竹内敬人	化学同人	2019.03
357	困ったときの有機化学. 上. 第2版		(翻訳)竹内敬人	化学同人	2018.11
358	有機化学 (化学マスター講座)	大高幸一郎		丸善	2010.11
359	有機化学: ORGANIC CHEMISTRY. 改訂2版			丸善出版	2016.01
360	有機化学1000本ノック: 命名法編			化学同人	2019.03
361	有機化学1000本ノック: 立体化学編			化学同人	2019.03
362	『有機反応機構』ワークブック: 巻矢印で有機反応を学ぶ!	奥山裕		丸善出版	2016.12
363	有機合成のためのフリーラジカル反応: 基礎から精密有機合成への応用まで			丸善出版	2015.01
364	有機反応・合成 (有機化学スタンダード)			裳華房	2018.05
365	有機反応機構: 有機反応を深く理解するために			丸善出版	2017.11
366	有機分子の分子間力: Ab initio分子軌道法による分子間相互作用エネルギーの解析			東京大学出版会	2015.03
367	有機合成実験法ハンドブック. 第2版	有機合成化学協会		丸善出版	2015.11
368	わかりやすい薬学系の物理学入門	小林賢/金長正彦		講談社	2015.09
369	基礎物理学 (薬学生のための基礎シリーズ 3)	本間浩		培風館	2011.11
370	薬学のための物理学入門			日科技連出版社	2011.12
371	薬学の基礎としての物理学 (プライマリー薬学シリーズ 2)	日本薬学会		東京化学同人	2013.04
372	薬学生のための基礎物理	中山尋量		廣川書店	2016.03

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
373	音のピッチ知覚 (音響サイエンスシリーズ 15)			コロナ社	2016.12
374	分子間力と表面力, 第3版		(翻訳)大島広行	朝倉書店	2013.01
375	放射光が拓く化学の現在と未来: 物質科学にイノベーションをもたらす光 (CSJ Current Review 14)	日本化学会	化学同人	化学同人	2014.01
376	グリーンケミストリー: 社会と化学の良い関係のために (化学の要点シリーズ 3)	日本化学会		共立出版	2012.02
377	環境と化学: グリーンケミストリー入門, 第3版	荻野和子/竹内茂彌		東京化学同人	2018.01
378	アトキンス基礎物理化学: 分子論的アプローチ: 下, 第2版			東京化学同人	2018.11
379	アトキンス基礎物理化学: 分子論的アプローチ: 上, 第2版			東京化学同人	2018.05
380	アトキンス物理化学: 下, 第10版			東京化学同人	2017.09
381	アトキンス物理化学: 上, 第10版			東京化学同人	2017.03
382	アトキンス物理化学入門		(翻訳)渡辺正	東京化学同人	2014.11
383	アトキンス物理化学要論, 第6版			東京化学同人	2016.02
384	ウエスト固体化学: 基礎と応用		(翻訳)後藤孝	講談社	2016.02
385	エピソード物理化学, 第2版			京都廣川書店	2015.03
386	エンゲル・リード物理化学: 下			東京化学同人	2016.01
387	エンゲル・リード物理化学: 上			東京化学同人	2015.06
388	コンパス物理化学, 改訂第2版	遠藤和豊/與石一郎		南江堂	2014.11
389	ボール物理化学: 下, 第2版		(翻訳)田中一義	化学同人	2016.01
390	ボール物理化学: 上, 第2版		(翻訳)田中一義	化学同人	2015.08
391	レファレンス物理化学	米持悦生/近藤伸一		廣川書店	2017.04
392	わかりやすい物理化学, 第2版	中村和郎		廣川書店	2010.09
393	化学の基本概念: 理系基礎化学			裳華房	2013.09
394	基礎コース物理化学: 1 量子化学			東京化学同人	2018.03
395	基礎コース物理化学: 2 分子分光学			東京化学同人	2018.12
396	基本物理化学			東京化学同人	2018.03
397	現代物理化学			化学同人	2015.12
398	固体化学, 第2版			東京化学同人	2019.06
399	大学院講義物理化学: 3 固体の化学と物性, 第2版	幸田清一郎		東京化学同人	2012.03
400	物理化学 (ベーシックマスター)	築山光一/近藤寛		オーム社	2012.04
401	物理化学, 第2版 (ベーシック薬学教科書シリーズ 3)	石田寿昌		化学同人	2018.03
402	物理化学実習書, 第2版			廣川書店	2016.03
403	物理系薬学: 1 物質の物理的性質, 第2版 (スタンダード薬学シリーズ 2)	日本薬学会		東京化学同人	2011.03

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
404	物理系薬学: 2 化学物質の分析, 第3版 (スタンダード薬学シリーズ 2)	日本薬学会		東京化学同人	2012.02
405	物理系薬学: 3 機器分析・構造決定 (スタンダード薬学シリーズ 2-2)	日本薬学会		東京化学同人	2016.11
406	薬学物理化学, 第5版	小野行雄	(監修)松島美一	廣川書店	2010.09
407	薬学物理化学演習, 第3版	小野行雄		廣川書店	2011.09
408	物理化学実験法, 第5版	徂徠道夫	(監修)千原秀昭	東京化学同人	2011.09
409	機能性配糖体の合成と応用: 糖転移酵素を中心に (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)濱田博喜	シーエムシー出版	2013.06
410	生命の起源をさぐる: 宇宙からよみとく生物進化	日本宇宙生物科学会/奥野誠		東京大学出版会	2010.12
411	ZEROからの生命科学, 改訂4版			南山堂	2015.03
412	エッセンシャル・キャンベル生物学, 原書6版		(翻訳)池内昌彦	丸善出版	2016.12
413	カラー生物・生命科学大図鑑: 未知への探求		(監修)パディラ/ミアオーリス	西村書店	2019.01
414	キャンベル生物学		(翻訳)池内昌彦	丸善出版	2018.03
415	ケイン基礎生物学			東京化学同人	2012.03
416	ケイン生物学, 第5版			東京化学同人	2014.09
417	スター生物学			東京化学同人	2013.10
418	ビギナーズ生物学: Biology for Beginners			化学同人	2017.09
419	ビジュアルコア生物学		(翻訳)八杉貞雄	東京化学同人	2019.04
420	プログレッシブ生命科学	米田悦啓/岡村康司		南山堂	2014.09
421	ベーシック生物学			裳華房	2014.04
422	まるわかり基礎生物学 (教養基礎シリーズ)		(監修)小林直人	南山堂	2014.03
423	みんなの生命科学			化学同人	2016.01
424	やさしい基礎生物学, 第2版			羊土社	2014.11
425	ライフサイエンスのための生物学	森誠	(監修)麓谷いづみ	培風館	2015.03
426	ワークブックで学ぶ生物学の基礎, 第3版			オーム社	2015.11
427	わかる!身につく生物・生化学・分子生物学, 改訂2版			南山堂	2018.04
428	医歯薬系のための生物学: コアカリキュラムを基礎から学ぶ			講談社	2010.04
429	演習で学ぶ生命科学: 物理・化学・数理からみる生命科学入門, 第2版	東京大学生命科学教科書編集委員会		羊土社	2017.03
430	環境生物学: 地球の環境を守るには (これからの生命科学)			共立出版	2010.03
431	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学, 第3版			羊土社	2015.12
432	基礎生物科学	高橋純夫	(監修)麓谷いづみ	培風館	2016.07
433	京大発!フロンティア生命科学	京都在大学院生命科学研究所		講談社	2018.03
434	現代生命科学, 第2版	東京大学生命科学教科書編集委員会		羊土社	2019.03

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
435	好きになる生物学: 12カ月の楽しいエピソード: 第2版(好きになるシリーズ)			講談社	2012.08
436	自分を知らないのちの科学: 改訂版			培風館	2016.03
437	新しい生物学	弥益恭/中尾啓子		培風館	2018.05
438	図説生物学: Biology Illustrated	東京大学教養学部図説生物学編集委員会		東京大学出版会	2010.01
439	生物と科学: 生物に挑む科学の歩み			培風館	2018.04
440	生物学: カレッジ版: 第2版			医学書院	2019.02
441	生物学と生命観: BIOLOGY and PHILOSOPHY: 新訂			培風館	2013.06
442	生物学の基礎: 生き物の不思議を探る			東京化学同人	2012.12
443	生物学入門: 第2版(大学生のための基礎シリーズ 2)	石川統/大森正之		東京化学同人	2013.02
444	生物機械工学: 数理モデルで生物の不思議に迫る			コロナ社	2018.11
445	生命と環境			三共出版	2011.05
446	生命科学: 改訂版(専門基礎ライブラリー)		(監修)金原稔(O)矢尾板仁	実教出版	2013.09
447	生命科学: 生命の星と人類の将来のために(これからの生命科学)			共立出版	2013.05
448	生命科学の基礎			学建書院	2011.02
449	生命科学概論: 環境・エネルギーから医療まで: 第2版	早稲田大学先進理工学部生命医科学科		朝倉書店	2019.03
450	生命科学入門(理工系の基礎)			丸善出版	2016.04
451	大学1・2年生のためのすぐわかる生物: 改訂版			東京図書	2012.04
452	大学1年生のなっとく!生物学			講談社	2014.07
453	大学で学ぶ身近な生物学			羊土社	2015.11
454	大学生のための考えて学ぶ基礎生物学			共立出版	2015.01
455	定量生物学: 生命現象を定量的に理解するために(DOJIN BIOSCIENCE SERIES 30)	小林徹也		化学同人	2018.08
456	薬学生のための基礎生物			廣川書店	2019.03
457	理系なら知っておきたい生物の基本ノート: 生化学・分子生物学編: カラー改訂版			KADOKAWA	2014.04
458	理系総合のための生命科学: 分子・細胞・個体から知る"生命"のしくみ: 第4版	東京大学生命科学教科書編集委員会		羊土社	2018.03
459	理工系学生のための生命科学・環境科学	榑佳之/平石明		東京化学同人	2011.05
460	オックスフォード生物学辞典: Oxford DICTIONARY OF BIOLOGY	Robert S.Hine/Elizabeth Martin		朝倉書店	2014.06
461	ヘンダーソン生物学用語辞典	Eleanor Lawrence	(翻訳)生物学用語辞典編集委員会	オーム社	2012.09
462	岩波生物学辞典: 第5版	巖佐庸/倉谷滋		岩波書店	2013.02
463	バイオバンク: DIY科学者たちのDNAハック!		(翻訳)矢野真千子	NHK出版	2012.02
464	ポール・アンダーセンの生命科学英語入門			講談社	2012.07
465	生命科学データベース・ウェブツール: 図解と動画で使い方がわかる! 研究がはかどる定番18選		(監修)坊農秀雅/小野浩雅	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2018.11

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
466	生命科学とバイオセキュリティ: デュアルユース・ジレンマとその対応			東信堂	2013.12
467	バイオ研究のための実験デザイン: あなたの実験を成功に導くために		(翻訳)白石英秋	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2011.12
468	顕微鏡の使い方ノート: はじめての観察からイメージングの応用まで: 改訂第3版(無敵のバイオテクニカルシリーズ)	野島博		羊土社	2011.04
469	顕微鏡学ハンドブック: ライフサイエンス	山科正平/高田邦昭		朝倉書店	2018.01
470	生命科学の実験デザイン			名古屋大学出版会	2019.06
471	Dr.北野の0から始めるシステムバイオロジー		(絵)北野宏明	羊土社	2015.04
472	理論生物学: 生命科学の新しい潮流	望月敦史		共立出版	2011.02
473	医学・薬学系のための生物統計学入門: 第4版			ムイスリ出版	2019.01
474	生物学のための計算統計学: 最尤法・ブートストラップ・無作為化法		(翻訳)野間口真太郎	共立出版	2011.03
475	生物数学入門: 差分方程式・微分方程式の基礎からのアプローチ		(翻訳)竹内康博	共立出版	2011.10
476	Essential細胞生物学: 原書第4版			南江堂	2016.03
477	カーブ分子細胞生物学: 第7版		(翻訳)山本正幸	東京化学同人	2016.03
478	これだけは知っておきたい図解細胞生物学			オーム社	2011.09
479	ブロッパー細胞生物学: 細胞の基本原理解を学ぶ		(翻訳)中山和久	化学同人	2013.03
480	メカノバイオロジー: 細胞が力を感じ応答する仕組み(DOJIN BIOSCIENCE SERIES 21)	曾我部正博		化学同人	2015.08
481	基礎コース細胞生物学		(翻訳)永田恭介	東京化学同人	2013.09
482	基礎細胞生物学			東京化学同人	2010.04
483	細胞のマルチスケールメカノバイオロジー			森北出版	2017.05
484	細胞の分子生物学: 第6版			ニュートンプレス	2017.10
485	細胞生物学			化学同人	2012.04
486	細胞内共生説の謎: 隠された歴史とポストゲノム時代における新展開			東京大学出版会	2018.06
487	新細胞生物学	竹鼻真/高橋悟		廣川書店	2013.03
488	生命分子と細胞の科学: 改訂版(放送大学教材)			放送大学教育振興会	2019.03
489	分子細胞生物学: 第7版		(翻訳)石浦章一	東京化学同人	2016.04
490	細胞培養入門ノート: 改訂(無敵のバイオテクニカルシリーズ)			羊土社	2010.06
491	翻訳シグナル伝達・制御の生化学: 細胞の働きを支配する情報交換ネットワーク		(翻訳)津本浩平	エヌ・ティー・エス	2017.06
492	ウォルバート発生生物学			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2012.09
493	発生の数理			京都大学学術出版会	2015.12
494	発生生物学: 基礎から応用への展開			培風館	2019.04
495	時間生物学(DOJIN BIOSCIENCE SERIES 02)	海老原史樹文/吉村崇		化学同人	2012.03
496	動植物の受精学: 共通機構と多様性(DOJIN BIOSCIENCE SERIES 13)	澤田均		化学同人	2014.04

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
497	ここまで進んだバイオセンシング・イメージング: 1分子から細胞・脳まで (GSJ Current Review 10)	日本化学会		化学同人	2012.11
498	現代人のための放射線生物学: Contemporary Radiobiology			京都大学学術出版会	2017.03
499	放射線生物学			コロナ社	2018.09
500	NATURE'S ROBOTS: それはタンパク質研究の壮大な歴史			エヌ・ティー・エス	2018.03
501	エッセンシャルタンパク質工学: Essential Protein Engineering			講談社	2018.02
502	エッセンシャル構造生物学: Essential Structural Biology			講談社	2018.02
503	タンパク質のアモルファス凝集と溶解性: 基礎研究からバイオ産業・創薬研究への応用まで (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)黒田裕/有坂文雄	シーエムシー出版	2019.02
504	構造生物学		(翻訳)田中勲	化学同人	2012.09
505	進化を続ける構造生物学: 新たなタンパク質機能の解明と創出 (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 15)	松島正明/伊中浩治		化学同人	2014.09
506	生体分子の統計力学入門: タンパク質の動きを理解するために		(翻訳)藤崎弘士	共立出版	2014.08
507	膜タンパク質構造研究	岩田想		化学同人	2013.10
508	ゲノムを司るインターメア: 非コードDNAの新たな展開 (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 23)	小林武彦		化学同人	2015.12
509	ノンコーディングRNA: RNA分子の全体像を俯瞰する (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 25)	廣瀬哲郎/泊幸秀		化学同人	2016.07
510	機能性RNAの分子生物学	河合剛太/清澤秀孔		クハプロ	2010.12
511	二重螺旋: 完全版	アレクサンダー・ガン		新潮社	2015.05
512	コールドスプリングハーバー糖鎖生物学 第2版	Ajit Varki	(翻訳)鈴木康夫	丸善	2010.12
513	生体膜の分子機構: リピッドワールドが先導する生命科学 (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 18)	梅田真郷		化学同人	2014.10
514	酵素: 科学と工学 改訂			講談社	2012.12
515	メラニン色素の合成 (大阪大学新世紀レクチャー 計算機マテリアルデザイン先端研究事例 3)			大阪大学出版会	2019.01
516	生物ナノフォトリクス: 構造色入門 (シリーズ《生命機能》1)			朝倉書店	2010.11
517	生物学と医学のための物理学		(翻訳)曾我部正博	共立出版	2015.01
518	生物学のための水と空気の物理		(翻訳)下澤橋夫	エヌ・ティー・エス	2016.02
519	トコトみやさいい微生物の本 (B&Tブックス 今日からモノ知りシリーズ)			日刊工業新聞社	2018.07
520	バイオのための微生物基礎知識: ヒトをとりまくマイクロ生命体			講談社	2012.03
521	基礎・応用・臨床微生物学と実験			光生館	2014.03
522	新・微生物学 新装第2版 (新バイオテクノロジーテキストシリーズ)		(監修)日本バイオ技術教育学会	講談社	2014.09
523	闘う微生物: 抗生物質と農薬の濫用から人体を守る		(翻訳)小山重郎	築地書館	2018.03
524	微生物の科学と応用			三共出版	2012.03
525	微生物学			東京化学同人	2016.01
526	環境と微生物の事典	日本微生物生態学会		朝倉書店	2014.07
527	コリンズとラインの微生物学実験法			緑風出版	2013.02

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
528	ピギナーのための微生物実験ラボガイド 新版 (生物工学系テキストシリーズ)			講談社	2019.05
529	遺伝子: 遺伝子から見た生物	桂勲	(監修)鷗谷いづみ	培風館	2017.01
530	ゲノム科学への道: ノーベル賞講演でたどる (岩波現代全書 047)			岩波書店	2014.11
531	遺伝子図鑑: Visual Reference Book of GENE	国立遺伝学研究所「遺伝子図鑑」編集委員会		悠書館	2013.10
532	ショウジョウバエの再発見: 基礎遺伝学への誘い (新・生命科学ライブラリ 生物再発見 8)			サイエンス社	2010.08
533	せめぎ合う遺伝子: 利己的な遺伝子因子の生物学			共立出版	2010.03
534	RNA工学の基礎と応用: Basic and Application of RNA Engineering. 普及版 (CMCテクニカルライブラリー 368 バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)中村義一/大内将司	シーエムシー出版	2010.09
535	トコトみやさいいゲノム編集の本 (B&Tブックス 今日からモノ知りシリーズ)			日刊工業新聞社	2019.03
536	遺伝子工学: GENETIC ENGINEERING (基礎生物学テキストシリーズ 10)			化学同人	2012.03
537	遺伝子工学: 基礎から医療まで	根岸和雄	(監修)早津彦哉	廣川書店	2017.04
538	遺伝子工学の原理			三共出版	2012.05
539	遺伝子工学実験ノート: 下 遺伝子の発現・機能を解析する 改訂第3版 (無敵のバイオテクノロジーシリーズ)	田村隆明		羊土社	2010.01
540	遺伝子工学実験ノート: 上 DNA実験の基本をマスターする 改訂第3版 (無敵のバイオテクノロジーシリーズ)	田村隆明		羊土社	2010.01
541	基礎から学ぶ遺伝子工学 第2版			羊土社	2017.11
542	基礎講義遺伝子工学: アクティブラーニングにも対応: 2	深見希代子/山岸明彦		東京化学同人	2018.10
543	基礎講義遺伝子工学 I: アクティブラーニングにも対応			東京化学同人	2017.09
544	新しい遺伝子工学 新版			朝倉書店	2014.09
545	Dr.Bonoの生命科学データ解析			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2017.09
546	エビジェネティクス (新・生命科学シリーズ)			養華房	2016.09
547	エビジェネティクス: その分子機構から高次生命機能まで (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 12)	田嶋正二		化学同人	2013.12
548	ゲノム情報解析: 次世代シーケンサーの最新の方法及び応用	Maria S.Poptsova	(翻訳)石井一夫	エヌ・ティー・エス	2016.03
549	よくわかるバイオインフォマティクス入門	藤博幸		講談社	2018.11
550	進んで読み解くバイオインフォマティクス入門			森北出版	2019.06
551	生命のビッグデータ利用の最前線: Frontier of Utilization of Big Data in Life Sciences (CMC Books)		(監修)植田充美	シーエムシー出版	2014.04
552	生命科学データ解析を支える情報技術			技術評論社	2019.02
553	染色体と細胞核のダイナミクス: DNAを操る細胞の仕組み (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 11)	平岡泰/原口徳子		化学同人	2013.11
554	ダーウィンの遺産: 進化学者の系譜 (岩波現代全書 077)			岩波書店	2015.11
555	生物への周期律: 自然界のリズムと進化		(監修)松野孝一郎	工作舎	2010.03
556	生命の歴史は繰り返すのか?: 進化の偶然と必然のナゾに実験で挑む		(翻訳)地的場知之	化学同人	2019.06
557	遺伝子・多様性・循環の科学: 生態学の領域融合へ	門脇浩明/立木佑弥		京都大学学術出版会	2019.02
558	種間関係の生物学: 共生・寄生・捕食の新しい姿 (種生物学研究 第35号)	種生物学会/川北篤		文一総合出版	2012.03

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
559	生物多様性概論: 自然のしくみと社会のとらえ			朝倉書店	2017.03
560	繁殖干渉: 理論と実態	高倉耕一/西田隆義		名古屋大学出版会	2018.11
561	生物環境の科学 (放送大学教材)			放送大学教育振興会	2016.03
562	生物群集の理論: 4つのルールで読み解く生物多様性		(翻訳)松岡俊将	共立出版	2019.03
563	感じる花: 薬効・芸術・ダーウィンの庭		(翻訳)片岡夏実	築地書館	2017.08
564	草の辞典: 野の花・道の草		(絵)ささきみえこ	雷鳥社	2017.01
565	野に咲く花便利帳: 身近な雑草から山野草まで248種	主婦の友社	(監修)稲垣栄洋	主婦の友社	2016.11
566	日本の固有植物 (国立科学博物館叢書 11)	加藤雅啓/海老原淳		東海大学出版会	2011.03
567	野草図鑑: 身近な野草が見分けられる. 新装版 (Boutiquebooks)			ブティック社	2019.05
568	植物の多次元コミュニケーション	長谷川宏司/広瀬克利		大学教育出版	2019.07
569	基礎から学ぶ植物代謝生化学	水谷正治/土反伸和		羊土社	2019.01
570	森を食べる植物: 腐生植物の知られざる世界			岩波書店	2016.05
571	邪悪な植物: リンカーンの母殺し植物のさまざまな変行		(翻訳)山形浩生	朝日出版社	2012.10
572	世界毒草百科図鑑			原書房	2018.10
573	日本の有毒植物 (フィールドベスト図鑑 Vol.16)		(監修)佐竹元吉	学研教育出版	2012.05
574	キューガーデンの植物誌			原書房	2015.06
575	図説日本の植生. 第2版			朝倉書店	2017.06
576	菌類の事典	日本菌学会		朝倉書店	2013.10
577	現代菌類学大鑑			共立出版	2016.02
578	ギルバート発生生物学		(翻訳)阿形清和	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2015.03
579	ゼブラフィッシュの発生遺伝学 (新・生命科学シリーズ)	太田次郎		裳華房	2015.09
580	化学受容の科学: 匂い・味・フェロモン 分子から行動まで (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 01)	東原和成		化学同人	2012.02
581	遺伝子と性行動: 性差の生物学			裳華房	2012.04
582	汽水域に生きる巻貝たち: その生態研究史と保全			東海大学出版部	2018.01
583	新編世界イカ類図鑑: Cuttlefishes and Squids of the World			東海大学出版部	2015.01
584	一寸の虫にも十分の毒			講談社エディトリアル	2018.11
585	毒魚の自然史: 毒の謎を追う			北海道大学出版会	2015.03
586	毒ヘビのやさしいサイエンス: 咬まれるとアブナイ話			化学同人	2014.06
587	家族進化論			東京大学出版会	2012.06
588	再生医療・創薬のための3次元細胞培養技術: Novel Technology for Three Dimensional Culture of Stem Cells toward Regenerative Medicine and Drug Screening (イイ科学クワダシリーズ-2)		(監修)紀ノ岡正博	シーエムシー出版	2018.04
589	シグナル伝達キーワード事典: イラストで徹底理解する	山本雅/仙波憲太郎		羊土社	2012.08

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
590	長寿回廊をONにせよ! 見えてきた抗老化薬		(翻訳)寺町朋子	シーエムシー出版	2012.07
591	老化の生物学: その分子メカニズムから寿命延長まで (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 14)	石井直明/丸山直記		化学同人	2014.08
592	老化生物学: 老いと寿命のメカニズム		(翻訳)近藤祥司	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2015.09
593	コンパス分子生物学: 創薬・テラーメイド医療に向けて. 改訂第2版	荒牧弘範/大戸茂弘		南江堂	2015.09
594	医薬分子生物学: MOLECULAR BIOLOGY FOR PHARMACY AND MEDICINE. 改訂第3版			南江堂	2014.03
595	動物実験代替安全性試験プロトコル集: The Protocols for the Alternative Toxicological Tastings		(監修)小島肇夫	シーエムシー出版	2013.05
596	毒をめぐる生物学		(監修)芳賀英吾	アドスリー	2018.06
597	世界で一番美しい病原体と薬のマイクロ図鑑		(翻訳)石黒千秋	エクスマレッジ	2018.12
598	実験動物発生異常アトラス: 外表面異常	日本先天異常学会用語委員会		薬事日報社	2015.03
599	実験動物発生異常アトラス: 骨格異常	日本先天異常学会用語委員会		薬事日報社	2015.10
600	実践でわかる! IRによる統計遺伝学		(翻訳)西山毅	丸善出版	2016.01
601	21世紀の考える薬学微生物学. 第3版	天野富美夫		廣川書店	2011.08
602	イラストレイテッド微生物学 (リッピンカットシリーズ)			丸善出版	2014.08
603	クイックマスター微生物学. 新訂版			サイオ出版	2015.03
604	コンパクト微生物学. 改訂第4版	小熊恵二/堀田博		南江堂	2015.09
605	シンプル微生物学. 改訂第6版	小熊恵二/堀田博		南江堂	2018.03
606	バイオセーフティの原理と実際	バイオメディカルサイエンス研究会		みみずく舎	2011.06
607	はじめの一歩のイラスト感染症・微生物学: はじめて学ぶ人のための目で見える教科書	本田武司		羊土社	2011.07
608	ブラック微生物学. 第3版		(翻訳)神谷茂	丸善出版	2014.03
609	やさしい微生物学			廣川書店	2011.01
610	レビシン微生物学・免疫学 (Lange Textbookシリーズ)		(翻訳)吉開泰信	丸善出版	2012.10
611	化学療法学: 病原微生物・がんと戦う. 改訂第2版	供田洋	(監修)大村智	南江堂	2018.02
612	戸田新細菌学. 改訂34版	吉田眞一/柳雄介		南山堂	2013.08
613	好きになる微生物学: 感染症の原因と予防法 (好きになるシリーズ)			講談社	2015.11
614	失われてゆく、我々の内なる細菌		(翻訳)山本太郎	みずす書房	2015.07
615	新しい微生物学. 第5版	大野尚仁/野口雅久		廣川書店	2016.03
616	微生物と免疫. 新版			建帛社	2014.03
617	微生物学: 基礎から臨床へのアプローチ			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2012.04
618	微生物学: 細菌・真菌・ウイルスと感染症 (初めの一歩は絵で学ぶ- DOCTOR'S illustration-)			じほう	2014.07
619	微生物学: 病原微生物と治療薬. 改訂第7版	今井康之/増澤俊幸		南江堂	2016.08
620	微生物学・感染症学. 第2版 (ベーシック薬学教科書シリーズ 15)	塩田澄子/黒田照夫		化学同人	2016.04

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
621	微生物学実践問題: 基礎と臨床をつなぐ500題			南江堂	2011.08
622	標準微生物学, 第13版 (Standard Textbook)	神谷茂	(監修)中込治	医学書院	2018.03
623	病原細菌・ウイルス図鑑: Atlas and Textbook of Pathogenic Bacteria and Viruses	新居志郎/倉田毅		北海道大学出版会	2017.11
624	病原微生物学: 基礎と臨床	荒川宜親/神谷茂		東京化学同人	2014.12
625	薬科微生物学, 第6版	加藤文男/西川朱實		丸善出版	2013.01
626	薬学領域の微生物学・免疫学, 第2版	辻勉	〇黒田久実	廣川書店	2015.05
627	薬学領域の病原微生物学・感染症学・化学療法学, 第4版	増澤俊幸/河村好章		廣川書店	2018.03
628	微生物の簡易迅速検査法: Guidebook of Easy and Rapid Microbial Test Methods		(監修)五十君静信/江崎孝行	テクノシステム	2013.11
629	生命科学のためのウイルス学: 感染と宿主応答のしくみ, 医療への応用		(翻訳)下邊野邦忠	南江堂	2015.02
630	JANEWAY'S 免疫生物学			南江堂	2019.03
631	アブスーリックマンービレ分子細胞免疫学, 原著第9版 (Student Consult)			エルゼビア・ジャパン	2018.03
632	イラストレイテッド免疫学 (リッピンコトシリーズ)		(翻訳)矢田純一	丸善出版	2013.11
633	エッセンシャル免疫学, 第3版		(翻訳)笹月健彦	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2016.08
634	シンプル免疫学, 改訂第5版			南江堂	2017.09
635	ヒトの免疫学: 基本から疾患理解につなげる		(翻訳)松島綱治	エルゼビア・ジャパン	2019.06
636	ロアット カラー基本免疫学			西村書店	2011.09
637	感染症と生体防御, 改訂版 (放送大学教材)			放送大学教育振興会	2018.03
638	好きになる免疫学: 「私」が「私」であるしくみ, 第2版 (好きになるシリーズ)		(監修)山本一彦	講談社	2019.03
639	図説免疫学入門		(翻訳)山本一夫	東京化学同人	2018.03
640	標準免疫学, 第3版 (Standard Textbook)	宮坂昌之	(監修)谷口克	医学書院	2013.03
641	免疫: からだを護る不思議なしくみ, 第5版			東京化学同人	2015.01
642	免疫学: 基礎と臨床			東京化学同人	2014.03
643	免疫学: 巧妙なしくみを解き明かす		(翻訳)山本一夫	東京化学同人	2010.10
644	免疫学・微生物学 (インテグレートッドシリーズ 2)		(翻訳)大沢利昭	東京化学同人	2010.03
645	免疫学Update: 分子病態の解明と治療への展開 (The Frontiers in Life Sciences)	審良静男/熊ノ郷淳		南山堂	2012.12
646	免疫学コア講義, 改訂4版	熊ノ郷淳/阪口薫雄		南山堂	2017.11
647	免疫学の基本 (運動から図解)		(監修)松本健治	マイナビ出版	2018.12
648	免疫学の基本がわかる事典: カラー図解			西東社	2015.07
649	免疫学概説, 第3版	宿前利郎/大野尚仁		廣川書店	2010.08
650	微生物プラチナアトラス			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2018.03
651	マクロライド系薬の新しい使い方: 実践の秘訣25	門田淳一		南江堂	2015.06

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
652	わかる! 身につく病原体・感染・免疫, 改訂3版			南山堂	2017.03
653	感染と免疫			東京化学同人	2017.09
654	新・感染と微生物の教科書			研成社	2012.09
655	進化するがん創薬: がん科学と薬物療法の最前線 (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 32)	清宮啓之		化学同人	2019.06
656	次世代医薬開発に向けた抗体工学の最前線: Frontier of Antibody Engineering for Next-generation Therapeutics (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)熊谷泉	シーエムシー出版	2012.12
657	身近な薬草活用手帖: 100種類の見分け方・採取法・利用法		(監修)寺林進	誠文堂新光社	2014.01
658	科学技術英語徹底トレーニング(バイオテクノロジー): 世界で活躍する理工系研究者を目指して (理系たまごシリーズ 10)		(監修)近藤哲男	アルク	2010.09
659	科学技術英語徹底トレーニング(ライフサイエンス): 世界で活躍する理工系研究者を目指して (理系たまごシリーズ 11)		(監修)米田悦啓	アルク	2011.03
660	抗菌ペプチドの機能解明と技術利用: Functional Analysis and Technological Application of Antimicrobial Peptides (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)長岡功	シーエムシー出版	2017.05
661	グリーンバイオケミストリーの最前線: The Frontier of Green Bio Industrial Chemistry, 普及版 (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)瀬戸山亨/穴澤秀治	シーエムシー出版	2016.06
662	バイオテクノロジー入門			建帛社	2016.04
663	バイオビルダー: 合成生物学をはじめよう (Make:PROJECTS)			オライリー・ジャパン	2018.11
664	バイオ英語入門 (新バイオテクノロジーテキストシリーズ)			講談社	2013.03
665	ビジュアルバイオテクノロジー		(翻訳)福井希一	化学同人	2017.04
666	マリンバイオテクノロジー: 海洋生物成分の有効利用, 普及版 (CMC テクニカルライブラリー 369 バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)伏谷伸宏	シーエムシー出版	2010.09
667	マリンバイオテクノロジーの新潮流: Trends in Marine Biotechnology, 普及版 (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)伏谷伸宏	シーエムシー出版	2017.12
668	もう少し深く理解したい人のためのバイオテクノロジー: 基礎から応用展開まで, 第2版	平井輝生	(監修)高木正道	地人書館	2014.04
669	持続可能性社会を拓くバイオメティクス: 生物学と工学が築く材料科学 (GSJ Current Review 28)	日本化学会		化学同人	2018.03
670	自然をまねる、世界が変わる: バイオミミクリーが起こすイノベーション		(翻訳)小坂惠理	化学同人	2014.08
671	進化分子工学: 高速分子進化によるタンパク質・核酸の開発		(監修)伏見謙	エヌ・ティー・エス	2013.10
672	生物反応工学, 新版			産業図書	2016.09
673	日経バイオ年鑑: 研究開発と市場・産業動向: 2018 (BIOFILE)	日経バイオテック		日経BP社	2017.12
674	遺伝子工学, 第2版 (新バイオテクノロジーテキストシリーズ)		(監修)日本バイオ技術教育学会	講談社	2013.11
675	遺伝子工学: 基礎から応用まで			東京化学同人	2013.06
676	細胞の特性計測・操作と応用 (組織工学ライブラリー・マイクロロボティクスとバイオの融合-1)			コロナ社	2016.12
677	極限環境生物の産業展開: Industrial Application of Extremophiles, 普及版 (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)今中忠行	シーエムシー出版	2019.06
678	微生物によるものづくり: 化学法に代わるホワイトバイオテクノロジーの全て, 普及版 (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)榎田充美	シーエムシー出版	2015.05
679	微生物を活用した新世代の有用物質生産技術: Advanced Technology for Microbiological Production in Japan (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)穴澤秀治	シーエムシー出版	2012.09
680	微生物機能学: 微生物リソースと遺伝子リソースの応用			三共出版	2012.03
681	物理化学 —SI単位— 3訂版	白井 道雄		実教出版	1995
682	物理化学 (化学の基本シリーズ 3)	安藤 耕司		化学同人	2019

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
683	モダンアプローチの生物科学: A Modern Approach to Biological Science			共立出版	2015.11
684	医療・看護系のための生物学. 改訂版			裳華房	2016.09
685	新しい教養のための生物学			裳華房	2017.02
686	生命科学: Life Science: 1 生物個体から分子へ	生命科学編集委員会		コロナ社	2012.05
687	生命科学: Life Science: 2 生物個体から生態系へ	生命科学編集委員会		コロナ社	2013.04
688	生物科学の歴史: 現代の生命思想を理解するために		(翻訳)佐藤直樹	みすず書房	2017.03
689	バイオ画像解析手とり足とりガイド: バイオイメージングデータを定量して生命の形態や動態を理解する!	小林徹也/青木一洋		羊土社	2014.12
690	英語で学ぶ生物学: The Second Volume of Endeavors in Biological Science: 続 生物科学の新しい挑戦			コロナ社	2013.11
691	実験で使うとこだけ生物統計: 1 キホンのキ. 改訂版			羊土社	2017.03
692	実験で使うとこだけ生物統計: 2 キホンのホン. 改訂版			羊土社	2017.03
693	バイオサイエンスのための数学超入門講座			化学同人	2018.08
694	図解分子細胞生物学			裳華房	2010.02
695	分子細胞生物学事典	村上康文		みみずく舎	2013.01
696	最新バイオ論文解説総集編: 今、この論文が熱い: 1 (細胞工学別冊)	細胞工学JOURNAL CLUB	学研メディカル秀潤社		2015.09
697	新・生細胞蛍光イメージング	原口徳子/木村宏		共立出版	2015.11
698	生物センシング工学: 光と音による生物計測			コロナ社	2016.09
699	見てわかる構造生命科学: 生命科学研究へのタンパク質構造の利用	中村春木		化学同人	2014.04
700	光と生命の事典	日本光生物学協会光と生命の事典編集委員会		朝倉書店	2016.02
701	実践有用微生物培養のイロハ: 試験管から工業スケールまで. 改訂増補版		(監修)片倉啓雄/大政健史	エヌ・ティー・エス	2018.08
702	進化する遺伝子概念		(翻訳)佐藤直樹	みすず書房	2015.09
703	遺伝学辞典	Robert C.King/Pamela K.Mulligan		慶應義塾大学出版会	2018.06
704	ゲノム編集の基本原理と応用: ZFN,TALEN,CRISPR-Cas9			裳華房	2018.06
705	エピジェネティクス革命: 世代を超える遺伝子の記憶		(翻訳)中山潤一	丸善出版	2015.07
706	シングルセル解析プロトコール: わかる!使える!細胞特有の実験のコツから最新の応用まで (最強のステップUPシリーズ)	菅野純夫		羊土社	2017.10
707	バイオインフォマティクス入門: 学会公認	日本バイオインフォマティクス学会		慶應義塾大学出版会	2015.08
708	ビッグデータ時代のゲノミクス情報処理			コロナ社	2014.10
709	安定同位体を用いた餌資源・食物網調査法 (生態学フィールド調査法シリーズ 6)			共立出版	2016.03
710	生命科学が解き明かす体の秘密			大学教育出版	2017.06
711	細菌が人をつくる (TEDブックス)			朝日出版社	2018.05
712	新微生物学 (Qシリーズ)			日本医事新報社	2016.06
713	スタンダード免疫学: Standard IMMUNOLOGY. 第5版	小林芳郎/笠原忠		丸善出版	2018.11

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
714	もっとよくわかる免疫学: Immunology			羊土社	2011.02
715	リーズナブル免疫生物学			中外医学社	2019.03
716	医系免疫学: TEXTBOOK OF IMMUNOLOGY FOR MEDICAL STUDENTS AND PHYSICIANS. 改訂15版			中外医学社	2018.12
717	免疫ベディア: 101のイラストで免疫学・臨床免疫学に強くなる!	熊ノ郷淳		羊土社	2017.07
718	免疫学の入門. 第8版			金芳堂	2018.11
719	臨床医のための免疫キーワード'110. 4版			日本医事新報社	2017.07
720	臨床粘膜免疫学: Clinical Mucosal Immunology	清野宏		シナジー	2010.12
721	ナノメソセラピー: 免疫を制御するナノメディシン			コロナ社	2015.02
722	プロセスバイオテクノロジー入門: Introduction to Process Biotechnology			コロナ社	2014.05
723	生命工学概論 (バイオテクノロジー教科書シリーズ 1)			コロナ社	2010.05
724	アルケンの合成: どのように立体制御するか (化学の要点シリーズ 27)	日本化学会		共立出版	2018.10
725	パートナー天然物化学. 改訂第3版	海老塚豊/森田博史		南江堂	2016.09
726	天然物の化学: 2 自然からの贈り物 (科学のとびら 64)	上村大輔		東京化学同人	2018.07
727	天然物の化学: 魅力と展望 (科学のとびら 60)	上村大輔		東京化学同人	2016.06
728	天然物化学: Natural Products Chemistry			コロナ社	2019.01
729	アルカロイドの科学: 生物活性を生み出す物質の探索から創薬の実験まで (DOJIN ACADEMIC SERIES 8)	高山廣光		化学同人	2017.08
730	環境化学 (エキスパート応用化学テキストシリーズ)			講談社	2015.10
731	X線結晶構造解析入門: 強度測定からCIF投稿まで			化学同人	2014.09
732	結晶化学: 基礎から最先端まで			裳華房	2014.01
733	細胞のシグナル伝達: システムとしての共通原理にもとづく理解			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2016.05
734	アトキンス生命科学のための物理化学. 第2版			東京化学同人	2014.09
735	イラストレイテッドハーバー・生化学. 原書30版 (Lange Textbookシリーズ)		(翻訳)清水孝雄	丸善出版	2016.11
736	ヴォート基礎生化学. 第5版			東京化学同人	2017.09
737	ヴォート生化学. 下. 第4版			東京化学同人	2013.03
738	ヴォート生化学. 上. 第4版			東京化学同人	2012.12
739	エッセンシャル生化学. 第3版			東京化学同人	2018.07
740	エリオット生化学・分子生物学. 第5版			東京化学同人	2016.10
741	カラー生化学. 第4版			西村書店	2015.03
742	クーパー生物物理化学: 生命現象への新しいアプローチ		(翻訳)有坂文雄	化学同人	2014.08
743	ケミカルバイオロジー: 成功事例から学ぶ研究戦略	Herbert Waldmann/Petra Janning		丸善出版	2013.01
744	ケミカルバイオロジー: 入り口?出口?回り道!			米田出版	2014.05

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
745	ケミカルバイオロジー化合物集: 研究展開のヒント	日本学術振興会ケミカルバイオロジー第189委員会		オーム社	2018.10
746	ストライヤー生化学			東京化学同人	2018.08
747	バイオサイエンスのための物理化学, 第5版		(翻訳)猪飼篤	東京化学同人	2015.06
748	バイオチップの基礎と応用: 原理から最新の研究・開発動向まで (CMC Books)		(監修)伊藤嘉浩	シーエムシー出版	2015.10
749	はじめの一歩の生化学・分子生物学, 第3版			羊土社	2016.12
750	ひとりでマスターする生化学			講談社	2015.09
751	ブラウン生化学		(翻訳)新井洋由	化学同人	2019.03
752	ホートン生化学, 第5版		(翻訳)鈴木絃一	東京化学同人	2013.09
753	マクマリー生化学反応機構: ケミカルバイオロジーによる理解, 第2版			東京化学同人	2018.03
754	マクマリー生物有機化学: 基礎化学編, 第4版		(翻訳)菅原二三男	丸善出版	2015.01
755	マクマリー生物有機化学: 生化学編, 原書8版		(翻訳)菅原二三男	丸善出版	2018.01
756	マクマリー生物有機化学: 有機化学編, 原書8版		(翻訳)菅原二三男	丸善出版	2018.01
757	よくわかるスタンダード生化学			裳華房	2015.11
758	演習で学ぶ生化学: 全問解答付き, 第3版	岡本洋/木南英紀		三共出版	2013.06
759	基礎からしっかり学ぶ生化学			羊土社	2014.11
760	基礎から学ぶケミカルバイオロジー (化学の要点シリーズ 18)	日本化学会		共立出版	2016.11
761	基礎ケミカルバイオロジー			化学同人	2011.03
762	見てわかる生化学: カラー図解, 第2版			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2015.04
763	元素からみた生化学, 第4版			金芳堂	2011.10
764	元素の生物化学: 翻訳			エヌ・ティー・エス	2014.02
765	生化学, 第2版 (新バイオテクノロジーテキストシリーズ)			講談社	2014.03
766	生化学・分子生物学演習, 第2版			東京化学同人	2011.09
767	生化学の論理: 物理化学の視点 (化学の要点シリーズ 25)	日本化学会		共立出版	2018.04
768	生体有機化学			東京化学同人	2012.10
769	生物を知るための生化学, 第4版			丸善出版	2017.11
770	生物活性分子のケミカルバイオロジー: 標的特定と作用機構 (CSJ Current Review 19)	日本化学会		化学同人	2015.04
771	生物有機化学: 生物活性物質を中心に, 第2版			東京化学同人	2019.06
772	生命科学のための物理化学15講: Physical Chemistry for Life Science 15 Lectures			講談社	2018.01
773	生命機能に迫る分子化学: 生命分子を真似る、飾る、超える (CSJ Current Review 30)	日本化学会		化学同人	2018.08
774	生命現象を理解する分子ツール: イメージングから生体機能解析まで (化学フロンティア 22)	浜地格/二木史朗		化学同人	2010.09
775	生命理工学のための大学院基礎講座ー生物化学	梶原将		工学図書	2014.04

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
776	入門生化学			裳華房	2019.03
777	Essentialタンパク質科学		(翻訳)津本浩平	南江堂	2016.02
778	タンパク質結晶の新展開: 新しい育成技術から構造解析・応用研究へ, 普及版 (ファインケミカルシリーズ)		(監修)高野和文	シーエムシー出版	2013.10
779	アミノ酸・生体アミン分析 (試料分析講座)	日本分析化学会		丸善出版	2012.06
780	機能性ペプチドの最新応用技術: 食品・化粧品・ベトフードへの展開, 普及版 (食品シリーズ)		(監修)有原圭三	シーエムシー出版	2015.10
781	核酸化学のニュートレンド: DNA-RNAの新たな可能性を拓く (CSJ Current Review 06)	日本化学会		化学同人	2011.07
782	糖鎖とレクチン			日刊工業新聞社	2016.08
783	糖鎖の新機能開発・応用ハンドブック: 創薬・医療から食品開発まで	津本浩平	(監修)秋吉一成	エヌ・ティー・エス	2015.08
784	糖質分析 (試料分析講座)	日本分析化学会		丸善出版	2019.06
785	複合糖質の化学と最新応用技術: Glycoconjugate Chemistry and Modern Applied Technology, 普及版 (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)正田晋一郎/稲津敏行	シーエムシー出版	2015.10
786	脂質分析 (試料分析講座)	日本分析化学会		丸善出版	2011.12
787	クライトン生物無機化学		(翻訳)塩谷光彦	東京化学同人	2016.03
788	レーダー生物無機化学		(翻訳)塩谷光彦	東京化学同人	2017.11
789	基礎生物無機化学			丸善出版	2014.03
790	化学にとっての遺伝子操作 (化学の要点シリーズ 13)			共立出版	2015.08
791	スタンダードフローサイトメトリー, 第2版	日本サイトメトリー技術者認定協議会		医歯薬出版	2017.06
792	痛みと鎮痛の基礎知識, 増補改訂新版			技術評論社	2016.12
793	イラストレイテッド生化学 (リッピンコットシリーズ)		(翻訳)石崎泰樹	丸善出版	2019.01
794	コンパクト生化学, 改訂第4版	大久保岩男/賀佐伸省		南江堂	2017.02
795	コンパス生化学	前田正知/浅野真司		南江堂	2015.01
796	シンブル生化学, 改訂第6版		(監修)林典夫/廣野治子	南江堂	2014.03
797	デブリン生化学: 臨床の理解のために	Thomas M.Devlin	(翻訳)上代淑人	丸善出版	2012.12
798	ヒトの基礎生化学			アイ・ケイコーポレーション	2016.09
799	ペインズ・ドミニチャク生化学 (Student Consult)			エルゼビア・ジャパン	2018.12
800	リーバーマンカラーコア生化学			西村書店	2018.07
801	レーニンジャーの新生化学: 生化学と分子生物学の基本原理解, 下, 第7版			廣川書店	2019.05
802	医学系のための生化学			裳華房	2017.10
803	活性酸素の本当の姿	鈴木敬一郎		ナッブ	2014.02
804	酸化ストレスの医学, 改訂第2版	内藤裕二	(監修)吉川敏一	診断と治療社	2014.09
805	集中講義生化学: カラーイラストで学ぶ, 改訂2版			メジカルビュー社	2017.04
806	生化学 (インテグレートッドシリーズ 1)		(翻訳)堅田利明	東京化学同人	2010.10

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
807	生化学 (ベーシック薬学教科書シリーズ 8)	中西義信		化学同人	2012.04
808	生化学 第2版 (エキスパート管理栄養士養成シリーズ 4)	村松陽治		化学同人	2012.03
809	生化学: 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、第2版 (新食品・栄養科学シリーズ)	福田満		化学同人	2012.03
810	生化学基礎: 管理栄養士国家試験対策 (食物と栄養学基礎シリーズ 2)	高畑京也	(監修)吉田勉	学文社	2012.01
811	生化学実践問題: 基礎と臨床をつなぐ420題			南江堂	2011.08
812	生体イメージング研究Update: 光が描く免疫・がん・神経系の時空間動態 (The Frontiers in Life Sciences)	石井優		南山堂	2014.12
813	生物系薬学 1 生命現象の基礎 (スタンダード薬学シリーズ 2-4)	日本薬学会		東京化学同人	2015.03
814	生物系薬学 3 生体防御と微生物 (スタンダード薬学シリーズ 2-4)	日本薬学会		東京化学同人	2016.07
815	標準生化学 (Standard Textbook)		○藤田道也	医学書院	2012.08
816	薬学領域の生化学 第2版	伊東晃		廣川書店	2013.08
817	ラクトフェリン: 2019 ラクトフェリンの基礎的基礎研究の深化と応用開発研究の進化	日本ラクトフェリン学会第8回学術集会実行委員会		アイ・ケイコーポレーション	2019.04
818	機能的アミノ酸5-アミノレブリン酸の科学と医学応用: がんの診断・治療を中心に (現代化学増刊 45)	ポルフィリン-ALA学会		東京化学同人	2015.10
819	臨床プロテオミクス: バイオマーカー探索から個別化医療へ	日本臨床プロテオーム研究会	(監修)加藤治文	金原出版	2012.05
820	代謝ナビゲーション: ミトコンドリアを中心とする代謝ネットワーク		(翻訳)大竹明	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2017.09
821	薬学で学ぶ病態生化学 第2版	林秀徳/渡辺泰裕		朝倉書店	2012.03
822	臨床遺伝に関わる人のためのマイクロアレイ染色体検査			診断と治療社	2012.01
823	サイトカイン・増殖因子キーワード事典: 膨大なデータを徹底整理する	宮園浩平/秋山徹		羊土社	2015.04
824	次世代医療のための高分子材料工学: Polymeric Biomaterial Engineering for Future Medicine. 普及版 (新材料・新素材シリーズ)		(監修)秋吉一成/岸田晶夫	シーエムシー出版	2014.05
825	コンパス衛生薬学: 健康と環境 改訂第2版	鍛冶利幸/佐藤雅彦		南江堂	2016.03
826	衛生薬学 第3版			朝倉書店	2013.02
827	衛生薬学: 基礎・予防・臨床 改訂第2版	今井浩孝/小椋康光		南江堂	2018.09
828	衛生薬学: 健康と環境 (スタンダード薬学シリーズ 2-5)	日本薬学会		東京化学同人	2016.02
829	衛生薬学: 新しい時代 第3版	井手達雄/井上義雄		廣川書店	2011.11
830	衛生薬学新論 改訂2版	新井洋由/成松鎮雄		南山堂	2012.08
831	健康と環境 第2版 (スタンダード薬学シリーズ 5)	日本薬学会		東京化学同人	2012.01
832	新しい衛生薬学 第7版	小野菊菊夫/小嶋仲夫		廣川書店	2010.02
833	新衛生化学・公衆衛生学	大沢基保/福井哲也		南江堂	2011.03
834	薬学領域の環境衛生学	石井一行/松野康二		廣川書店	2017.03
835	予防薬学としての衛生薬学: 健康と環境 第3版	山野茂	(監修)吉原新一	廣川書店	2016.03
836	新毒物劇物取扱の手引	益山光一	(監修)大野泰雄	時事通信出版局	2018.06
837	毒物劇物取締法事項別例規集 第12版		(監修)毒物劇物関係法令研究会	業務公報社	2016.10

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
838	化学物質と正しく付き合う方法: 不安を安心に変えるための基礎知識			化学工業日報社	2014.03
839	食品分析学: 機器分析から応用まで 改訂版	松井利郎/松本清		培風館	2015.07
840	食品分野における非加熱殺菌技術			エヌ・ティー・エス	2013.11
841	アミノ酸の科学と最新応用技術: Frontier of Amino Acid Science and Newly Applications for Better Human Life. 普及版 (食品シリーズ)		(監修)門脇基二/鳥居邦夫	シーエムシー出版	2013.10
842	定量的構造活性相関: Hansch法の基礎と応用			地人書館	2014.02
843	アートのプロセスストーリー: メルク社プロセス研究所での実例	N.Yasuda	(翻訳)安田修祥	化学同人	2012.04
844	ジェネリック医薬品合成マニュアル: Synthetic Manual of Generic Medicines: 2012			シーエムシー出版	2012.03
845	医薬品のプロセス化学 第2版	日本プロセス化学会		化学同人	2012.04
846	実践プロセス化学	日本プロセス化学会		化学同人	2013.08
847	新規素材探索: 医薬品リード化合物・食品素材を求めて 普及版 (ファインケミカルシリーズ)		(監修)上村大輔	シーエムシー出版	2013.12
848	中分子創薬に資するペプチド・核酸・糖鎖の合成技術: Synthesis Technology of Peptides, Nucleic Acids and Sugar Chains for Medium Molecule Drug Discovery (ファインケミカルシリーズ)		(監修)千葉一裕	シーエムシー出版	2018.02
849	最新天然物化学 第2版	奥田拓男		廣川書店	2013.02
850	バイオ医薬品: 開発の基礎から次世代医薬品まで (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 08)	西島正弘/川崎ナナ		化学同人	2013.08
851	バイオ医薬品ハンドブック: Biologicsの製造から品質管理まで 第3版	日本PDA製薬学会バイオウイルス委員会		じほう	2018.11
852	医薬品原薬・中間体製造におけるスケールアップとトラブル対策: How to Scale up and Avoid Troubles for Drugs and its Intermediates Production. 普及版 (ファインケミカルシリーズ)		(監修)橋本光紀	シーエムシー出版	2013.11
853	医薬品原薬・中間体製造の開発と市場: Development and Market of Drugs and its Intermediates Production			シーエムシー出版	2017.12
854	抗体医薬の最前線: Frontier of Development of Antibody Medicine. 普及版 (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)植田充美	シーエムシー出版	2013.05
855	抗体医薬品の開発と市場: Development and Market of Antibody Drugs			シーエムシー出版	2012.07
856	新機能抗体開発ハンドブック	津本浩平	(監修)浜窪隆雄	エヌ・ティー・エス	2012.08
857	封じ込め技術: ケミカルハザード対策の基本			森北出版	2013.06
858	有効性・安全性確保のためのバイオ医薬品の品質管理戦略: クオリティ・バイ・デザインを取り入れた製造・品質管理		(監修)川西徹	じほう	2015.07
859	ドラッグデリバリーシステム: バイオ医薬品創成に向けた組織・細胞内・核内送達技術の開発 (ファインケミカルシリーズ)		(監修)杉林聖次	シーエムシー出版	2018.06
860	医薬品製剤開発のための次世代微粒子コーティング技術: Next-Generation Particulate Coating Technologies for the Development of Pharmaceutical Preparations (ファインケミカルシリーズ)		(監修)市川秀喜	シーエムシー出版	2012.12
861	医薬品添加剤の処方設計と物性評価: Formulation Design and Physicochemical Characterization for Pharmaceutical Excipients (ファインケミカルシリーズ)		(監修)寺田勝英	シーエムシー出版	2016.01
862	次世代吸入製剤とデバイスの開発: Development of Formulations and Devices of Next-Generation Inhalations (ファインケミカルシリーズ)		(監修)岡本浩一	シーエムシー出版	2018.11
863	産業応用を目指した無機・有機新材料創製のための構造解析技術: Structural Analysis of Novel Organic-Inorganic Materials for Industrial Applications (CMC Books)		(監修)米澤徹/陣内浩司	シーエムシー出版	2015.08
864	未来を拓く元素戦略: 持続可能な社会を実現する化学 (CSJ Current Review 11)	日本化学会		化学同人	2013.01
865	未来材料を創出するπ電子系の科学: 新しい合成・構造・機能化に向けて (CSJ Current Review 12)	日本化学会		化学同人	2013.03
866	機能的無機膜: 開発技術と応用 普及版 (CMCテクニカルライブラリー 403 新材料・新素材シリーズ)		(監修)上條榮治	シーエムシー出版	2011.09
867	表面分析 (分析化学実技シリーズ 応用分析編 1)			共立出版	2011.08
868	これからの環境分析化学入門: Introduction to Environmental Analytical Chemistry			講談社	2013.11

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
869	環境分析 (分析化学実技シリーズ 応用分析編 6)			共立出版	2012.03
870	環境分析化学			裳華房	2014.05
871	バイオフィナリー技術の工業最前線:自動車用バイオ燃料の技術開発、普及版 (地球環境シリーズ)		(監修)湯川英明	シーエムシー出版	2013.10
872	走査型プローブ顕微鏡 (分析化学実技シリーズ 機器分析編 15)			共立出版	2017.12
873	17019の化学商品: 2019年版			化学工業日報社	2019.01
874	化学品ハンドブック: 2018	重化学工業通信社・化学チーム		重化学工業通信社	2018.06
875	新化学インデックス: 2019年版			化学工業日報社	2018.08
876	企業研究者たちの感動の瞬間:ものづくりに賭けるケミストの夢と情熱	有機合成化学協会/日本プロセス化学会		化学同人	2017.03
877	フローマイクロ合成の実用化への展望: Prospects for Practical Applications of Flow Microreactor Synthesis (ファインケミカルシリーズ)		(監修)吉田潤一	シーエムシー出版	2017.01
878	リスクに基づくプロセス安全ガイドライン	CENTER FOR CHEMICAL PROCESS SAFETY	(翻訳)化学工学会安全部会	丸善出版	2018.12
879	基礎からの化学工学			東京化学同人	2014.01
880	基礎化学工学: Fundamentals of Chemical Engineering			共立出版	2012.12
881	最新の化学工学			産業図書	2010.09
882	事例に学ぶ化学プロセス安全: Beaconの教訓と事故防止の知恵			丸善出版	2015.03
883	新編化学工学		(監修)栗谷昌信	共立出版	2012.03
884	反応工学 改訂増補版			培風館	2019.05
885	反応工学解析 (シリーズ〈新しい化学工学〉2)	太田口和久		朝倉書店	2012.11
886	標準化学工学: 1 収支・流体・伝熱・平衡分離	日秋俊彦		朝倉書店	2018.02
887	標準化学工学: 2 反応・制御・速度差分離	日秋俊彦		朝倉書店	2018.02
888	はじめて学ぶ化学工学のための熱力学			日刊工業新聞社	2012.01
889	ベーシック移動現象論			化学同人	2015.01
890	流体移動解析 (シリーズ〈新しい化学工学〉1)	小川浩平		朝倉書店	2011.10
891	化学工学便覧 改訂7版	化学工学会		丸善出版	2011.09
892	プロセスケミストのための化学工学: 基礎編	日本プロセス化学会		化学工業日報社	2015.11
893	プロセス速度: 反応装置設計基礎論			共立出版	2010.04
894	例題で学ぶ化学プロセスシミュレータ: フリーシミュレータ COCO/ChemSepとExcelによる解法	化学工学会		コロナ社	2018.11
895	基礎粉体工学			日刊工業新聞社	2014.07
896	入門粒子・粉体工学 改訂第2版			日刊工業新聞社	2016.12
897	有機分散系の分散・凝集技術: Dispersion and Aggregation Technology for Organic Dispersions、普及版 (ファインケミカルシリーズ)		(監修)川口春馬	シーエムシー出版	2013.12
898	ベーシック分離工学			化学同人	2013.03
899	現場の疑問を解決する乾燥技術実務入門			日刊工業新聞社	2012.11

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
900	GHS分類演習: GHS分類ができる人材育成へ	GHS分類演習研究会		化学工業日報社	2019.01
901	REACHで学ぶ化学物質のリスク評価			オーム社	2012.10
902	テキスト化学物質リスクアセスメント	中央労働災害防止協会		中央労働災害防止協会	2016.05
903	はじめようリスクアセスメント!! 実践職場の化学品管理			化学工業日報社	2016.07
904	よくわかるSDS、ラベル作成実務入門: GHS、JIS Z 7253対応			化学工業日報社	2013.12
905	よくわかる製造業の化学物質管理 改訂2版	傘木和俊		オーム社	2016.09
906	ラベル・SDSの読み方・活かし方 第3版	中央労働災害防止協会		中央労働災害防止協会	2016.08
907	化学品の安全管理と情報伝達SDSとGHSがわかる本: GHS国連文書・JIS対応	化学物質評価研究機構		丸善出版	2014.04
908	化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)、改訂7版		(翻訳)GHS関係者庁連絡会議	化学工業日報社	2018.01
909	化学品管理の国際動向と各国の規制: グローバル対応のリスク管理必携	日本化学工業協会		化学工業日報社	2013.03
910	化学物質による爆発・火災を防ぐ	中央労働災害防止協会		中央労働災害防止協会	2018.03
911	化学物質管理法の成立と発展: 科学的不確実性に挑んだ日米欧の50年			北海道大学出版会	2016.03
912	化学物質取扱いマニュアル 改訂			労働調査会	2013.04
913	化学物質総合管理法制: 官主導に促された半鎖国状態をたどる方策			日本評論社	2016.06
914	化学物質総合経営学: 規制から管理そして価値創造へ (知の市場シリーズ)			丸善プラネット	2016.06
915	実務家のためのREACHマニュアル: JAMPツールで業務効率化			日刊工業新聞社	2012.10
916	実務家のための化学物質等法規制便覧 2018年版	化学物質等法規制便覧編集委員会		化学工業日報社	2018.06
917	毒物・劇物 9訂 (フトグラフィックガイド)			東京法令出版	2016.10
918	次亜塩素酸の科学: 基礎と応用			米田出版	2012.03
919	臭素およびヨウ素化合物の有機合成: 試薬と合成法		(監修)鈴木仁美	丸善出版	2017.01
920	バイオガスの最新技術: Recent Developments in Biogas Technology、普及版 (地球環境シリーズ)		(監修)西尾尚道/中島田豊	シーエムシー出版	2014.05
921	新編火薬学概論			産業図書	2014.04
922	爆発物探知・CBRNEテロ対策ハンドブック	火薬学会爆発物探知専門部会		丸善出版	2016.01
923	機能性脂質のフロンティア: Frontier of Functional Lipids、普及版 (ファインケミカルシリーズ)		(監修)佐藤清隆/柳田晃良	シーエムシー出版	2014.03
924	脂質の機能性と構造・物性: 分子からマスカラ・チョコレートまで			丸善出版	2011.06
925	現場で役立つCOVID-19-界面現象の測定ノウハウ			日刊工業新聞社	2016.04
926	化粧品安全・安心の科学: パラベン・シリコーン・新原料 (ファインケミカルシリーズ)		(監修)島田邦男	シーエムシー出版	2014.08
927	化粧品技術者のための素材開発実験プロトコル集: Experimental Protocols for Developing Cosmetic Ingredients		(監修)正木仁/岩瀬徳郎	シーエムシー出版	2015.10
928	パウダーコーティング技術の開発と応用: Development and Application of Powder Coating Technology、普及版 (CMCテクニカルライブラリー 421 ファインケミカルシリーズ)		(監修)大西和彦	シーエムシー出版	2012.04
929	図解でなっとく!接着力の基礎と理論			日刊工業新聞社	2012.01
930	1分子ナノバイオ計測: 分子から生命システムを探る革新的技術 (化学フロンティア 23)	野地博行		化学同人	2014.06

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
931	酵素の開発と応用技術: Technologies of Development and Application of Enzyme. 普及版 (CMCテクニカルライブラリー 401 バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)今中忠行	シーエムシー出版	2011.08
932	産業酵素の応用技術と最新動向: Application Technologies and New Trends in Industrial Enzymes. 普及版 (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)井上國世	シーエムシー出版	2015.06
933	新生物化学工学, 第3版			三共出版	2017.09
934	生物化学工学の基礎: Basics of Biochemical Engineering			コロナ社	2018.08
935	微生物機能を活用した革新的生産技術の最前線: ミニマムゲノムファクトリーとシステムバイオロジー. 普及版 (CMCテクニカルライブラリー 426 バイオテクノロジーシリーズ)	清水昌/大竹久夫		シーエムシー出版	2012.06
936	資源天然物化学, 改訂版	秋久俊博/小池一男		共立出版	2017.04
937	マッキー生化学 —分子から解き明かす生命—第6版	Trudy McKee		化学同人	2018
938	ライフサイエンスのための化学	安藤, 祥司		化学同人	2017
939	教養のための図説生化学	紺野, 邦夫		実教出版	1986
940	生体高分子の基礎 —はじめてのバイオ分子化学—(専門基礎ライブラリー) (※)	長谷川, 慎		実教出版	2014
941	次世代シーケンス解析スタンダード: NGSのポテンシャルを活かすWET&DRY	二階堂愛		羊土社	2014.09
942	ラボ必携フローサイトメトリー-Q&A: 正しいデータを出すための100箇条	戸村道夫		羊土社	2017.11
943	臨床栄養にすぐ活かせるイラスト生化学入門 —栄養素の役割がみるみるわかる—	川崎, 英二		メディカ出版	2013
944	バイオマテリアル (化学マスター講座)	大高幸一郎		丸善出版	2013.07
945	バイオ医薬品製造の効率化と生産基材の開発: Development of Efficient Manufacturing Process for Biotechnology Products and Novel Production Processes (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)山口照英	シーエムシー出版	2012.04
946	先端計測: 研究を支える機器開発 (CSJ Current Review 23)	日本化学会		化学同人	2016.08
947	機能構造科学入門: 3D活性サイトと物質デザイン		(監修)大門賢/佐々木裕次	丸善出版	2016.07
948	分子アーキテクニクス: 単分子技術が拓く新たな機能 (CSJ Current Review 31)	日本化学会		化学同人	2018.12
949	ベーシック反応工学			化学同人	2015.08
950	化学工学の基礎, 新版			朝倉書店	2016.10
951	化学工学概論 (First Stageシリーズ 化学工学)		(監修)小菅人慈	実教出版	2015.09
952	基礎式から学ぶ化学工学: Excelによるモデル解法で直観的にわかる			化学同人	2017.11
953	■目で見る生化学入門 第3版【動画】 全5巻 (※)			医学映像教育センター	
954	基礎生命科学 (薬学生のための基礎シリーズ 6)	辻勉/入村達郎		培風館	2014.02
955	医療に役立つ遺伝子関連Web情報検索: 手とり足とり教えますガイド			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2016.05
956	エビジェネティクスキーワード事典: イラストで徹底理解する	牛島俊和/眞貝洋一		羊土社	2013.12
957	ゲノム: 生命情報システムとしての理解, 第4版		(翻訳)石川冬木	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2018.09
958	研究者が教える動物実験: 第2巻 感覚	尾崎まみこ/村田芳博		共立出版	2015.07
959	研究者が教える動物実験: 第2巻 神経・筋	尾崎まみこ/村田芳博		共立出版	2015.07
960	研究者が教える動物実験: 第3巻 行動	尾崎まみこ/村田芳博		共立出版	2015.07
961	基礎から学ぶ神経生物学			オーム社	2012.05

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
962	新・海洋動物の毒: フグからイソギンチャクまで			成山堂書店	2013.01
963	生物毒の科学 (大英自然史博物館シリーズ 3)			エクスナレッジ	2018.09
964	毒々生物の奇妙な進化		(翻訳)垂水雄二	文藝春秋	2017.02
965	野外毒木: 被害事例から知る日本の危険生物, 新装版			山と溪谷社	2014.07
966	医療にみる伝統と近代: 生きている伝統医学			明石書店	2018.06
967	これからの医療コミュニケーションへ向けて		(監修)石崎雅人/野呂幾久子	森原出版新社	2013.07
968	医師のためのアンガーマネジメント	日本医事新報社		日本医事新報社	2019.05
969	医療者の心を贈るコミュニケーション: 患者さんと一緒に歩きたい			医歯薬出版	2016.02
970	バイオエッセンス: その継承と発展			川島書店	2018.05
971	バイオバンクの展開: 人間の尊厳と医学研究 (ライフサイエンスと法政策)	奥田純一郎/深尾立		Sophia University Press 上智大学出版	2016.12
972	医療における公共的決定: ガイドラインという制度の条件と可能性 (学術選書 151 医療法)			信山社	2016.10
973	医療につける薬: 内田樹・藤田清一に聞く (筑摩選書 0092)		内田樹	筑摩書房	2014.06
974	死を前にした人: あなたは何が出来ますか?			医学書院	2017.08
975	死亡直前と看取りのエビデンス			医学書院	2015.10
976	脳死・臓器移植と向き合うために: 医療者・レシビエント・ドナー家族への聞き取り調査から			晃洋書房	2019.02
977	医療統計のための生存時間データ解析		(翻訳)宮岡悦良	共立出版	2013.05
978	生存時間解析がこれでわかる臨床統計まるごと図解: 臨床家と統計家が2人で書いた			中山書店	2013.07
979	近代日本の医療と患者: 学用患者の誕生			法政大学出版局	2016.01
980	「いのち」の現場でとまどう: 臨床医学概論講義	徳永進		岩波書店	2019.06
981	国際・未来医療学—健康・医療イノベーション	中田研/山崎慶太		大阪大学出版会	2017.09
982	生命科学クライシス: 新薬開発の危ない現場		(翻訳)寺町朋子	白揚社	2019.03
983	生老病死の医療をみつめて: 医師と宗教者が語る, その光と影 (シリーズ)ともに生きる科学)			ミネルヴァ書房	2016.06
984	医療に必ず役立つiPhone/iPad: 日常診療・文献管理・勉強・学会などにアプリやWebサービスを徹底活用!			羊土社	2012.10
985	マウス組織アトラス			医学書院	2019.01
986	ラットの行動解析ハンドブック	Ian Q. Whishaw/Bryan Kolb		西村書店	2015.10
987	実験動物の感染症と微生物モニタリング	日本実験動物協会	日本実験動物協会 モニタリング技術 小委員会	アドスリー	2015.04
988	金匱要略を読み解く			たにぐち書店	2018.09
989	金匱要略訳注			緑書房	2013.07
990	傷寒論訳注			緑書房	2013.02
991	環ころんで読む傷寒論・温熱論			中外医学社	2017.01
992	臓腑経絡からみた薬方と鍼灸: 黄帝内経明堂の解説と経穴の主治症・治療法 (漢方医術講座 第3巻)			漢方陰陽会	2012.08

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
993	脳神経絡からみた薬方と鍼灸: 黄帝内経明堂の病症の用語解説篇 (漢方医術講座 第4巻)			漢方陰陽会	2012.08
994	脳神経絡からみた薬方と鍼灸: 湯液証・鍼灸証篇 (漢方医術講座 第2巻)			漢方陰陽会	2014.03
995	カラー図解人体の正常構造と機能: 1 呼吸器, 改訂第3版	坂井建雄/河原克雅		日本医事新報社	2017.02
996	カラー図解人体の正常構造と機能: 10 運動器, 改訂第3版	坂井建雄/河原克雅		日本医事新報社	2017.02
997	カラー図解人体の正常構造と機能: 2 循環器, 改訂第3版	坂井建雄/河原克雅		日本医事新報社	2017.02
998	カラー図解人体の正常構造と機能: 3 消化管, 改訂第3版	坂井建雄/河原克雅		日本医事新報社	2017.02
999	カラー図解人体の正常構造と機能: 4 肝・胆・膵, 改訂第3版	坂井建雄/河原克雅		日本医事新報社	2017.02
1000	カラー図解人体の正常構造と機能: 5 腎・泌尿器, 改訂第3版	坂井建雄/河原克雅		日本医事新報社	2017.02
1001	カラー図解人体の正常構造と機能: 6 生殖器, 改訂第3版	坂井建雄/河原克雅		日本医事新報社	2017.02
1002	カラー図解人体の正常構造と機能: 7 血液・免疫・内分泌, 改訂第3版	坂井建雄/河原克雅		日本医事新報社	2017.02
1003	カラー図解人体の正常構造と機能: 8 神経系 1 中枢神経系の構造・高次神経機能・運動系, 改訂第3版	坂井建雄/河原克雅		日本医事新報社	2017.02
1004	カラー図解人体の正常構造と機能: 9 神経系 2 末梢神経系の構造・自律神経機能・感覚系, 改訂第3版	坂井建雄/河原克雅		日本医事新報社	2017.02
1005	カラーで学ぶ解剖生理学, 第2版			エルゼビア・ジャパン	2017.12
1006	からだの動きの解剖生理学	加藤征治		金芳堂	2011.02
1007	グレイ解剖学, 原著第3版			エルゼビア・ジャパン	2016.02
1008	トートラ人体の構造と機能, 第5版			丸善出版	2019.03
1009	トートラ人体解剖生理学, 原書10版			丸善出版	2017.01
1010	なるほどなっとく解剖生理学			南山堂	2017.04
1011	ネッター解剖学カラーリングテキスト		(翻訳):相磯貞和	南江堂	2011.05
1012	はじめての解剖生理学: 人体の構造と機能			南江堂	2013.04
1013	ヒューマンボディ: からだがわかる解剖生理学		(翻訳):坂井建雄	エルゼビア・ジャパン	2017.12
1014	プロメテウス解剖学アトラス: 解剖学総論/運動器系, 第3版			医学書院	2017.01
1015	プロメテウス解剖学アトラス: 頭頸部/神経解剖, 第3版			医学書院	2019.03
1016	プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト		(絵):Markus Voll	医学書院	2019.04
1017	プロメテウス解剖学コアアトラス, 第3版			医学書院	2019.01
1018	ムーア臨床解剖学, 第3版			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2016.05
1019	解体新書, 複製版		①:杉田玄白	西村書店	2016.04
1020	解剖学: 人体の構造と機能, 新訂版(図解ワンポイント)			サイオ出版	2016.02
1021	解剖学・発生学 (インテグレートッドシリーズ 3)			東京化学同人	2011.06
1022	解剖学アトラス		(翻訳):平田幸男	文光堂	2012.09
1023	解剖学カラーアトラス, 第8版			医学書院	2016.02

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1024	解剖学ワークブック			医歯薬出版	2014.08
1025	解剖学講義, 改訂3版			南山堂	2012.04
1026	解剖実習カラーテキスト			医学書院	2013.03
1027	解剖生理ポイントブック: らくらく学べて、臨床に生かせる, 第2版		(監修):宇城啓至	照林社	2019.02
1028	解剖生理をおもしろく学ぶ, 新訂版		①:増田敦子	サイオ出版	2015.02
1029	解剖生理学: からだの構造と働きがひと目でわかる (初めの一步は絵で学ぶ・DOCTOR'S illustration-)		(監修):林洋	じほう	2014.05
1030	解剖生理学がわかる: 基礎の基礎からやさしく解説してもわかる解剖生理 (ファーストブック)			技術評論社	2012.05
1031	解剖生理学図鑑: ヒトのからだの全てが初心者でもわかる決定版!!			ガイアブックス	2013.02
1032	学生のための解剖・組織・発生学, 第2版			医歯薬出版	2018.02
1033	見て読んで学ぶ人体解剖生理学			真興交易(株)医書出版部	2014.06
1034	人体の構造と機能 (放送大学教材)			放送大学教育振興会	2018.03
1035	人体の構造と機能, 第4版		(翻訳):林正健二	医学書院	2015.03
1036	人体解剖の基本がわかる事典, カラー図解		(監修):竹内修二	西東社	2012.03
1037	図説人体イメージの変遷: 西洋と日本 古代ギリシャから現代まで (岩波現代全書 027)			岩波書店	2014.03
1038	体表からわかる人体解剖学, ポケットチューター			南江堂	2014.04
1039	入門人体解剖学, 改訂第5版			南江堂	2012.01
1040	標準解剖学 (Standard Textbook)		①:坂井建雄	医学書院	2017.03
1041	分冊解剖学アトラス: 1 運動器, 第6版		(翻訳):平田幸男	文光堂	2011.02
1042	分冊解剖学アトラス: 2 内臓, 第6版			文光堂	2011.10
1043	分冊解剖学アトラス: 3 神経系と感覚器, 第6版			文光堂	2011.01
1044	臨床のための解剖学, 第2版			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2016.02
1045	からだの地図帳解剖学用語: Anatomical Terminology: THE ATLAS OF THE HUMAN BODY		(監修):佐藤達夫	講談社	2016.04
1046	図解解剖学事典, 第3版		(翻訳):山田英智	医学書院	2013.10
1047	解剖学イラスト事典, 第3版			中外医学社	2011.03
1048	カラーアトラス人体: 解剖と機能, 第4版			医学書院	2013.12
1049	グラント解剖学図譜, 第7版			医学書院	2016.01
1050	ネッター解剖学アトラス: 電子書籍付, 原書第6版 (ネッター解剖学セット版)		(翻訳):相磯貞和	エルゼビア・ジャパン	2016.09
1051	人体解剖カラーアトラス			エルゼビア・ジャパン	2015.01
1052	ガートナー/ハイアット組織学アトラスとテキスト, 第3版			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2014.10
1053	カラーアトラス機能組織学		(翻訳):河田光博	エルゼビア・ジャパン	2013.01
1054	カラーポケット組織学		(翻訳):樋田一徳	西村書店	2018.03

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1055	カラー図解人体の細胞生物学: HUMAN CELL BIOLOGY: AN INTRODUCTION FOR MEDICAL STUDENTS	坂井建雄/石崎泰樹		日本医事新報社	2018.11
1056	ジュンケイラ組織学. 第5版 (Lange Textbookシリーズ)		(翻訳)坂井建雄	丸善出版	2018.11
1057	科学知と人文知の接点: iPS細胞研究の倫理的課題を考える	京都大学iPS細胞研究所上廣倫理研究部門	(監修)山中伸弥	弘文堂	2017.10
1058	新編カラーアトラス組織・細胞学			医歯薬出版	2017.08
1059	組織学. 改訂20版			南山堂	2019.02
1060	組織細胞生物学			南山堂	2015.11
1061	入門組織学. 改訂第2版			南山堂	2013.03
1062	標準組織学各論. 第5版			医学書院	2017.01
1063	標準組織学総論. 第5版			医学書院	2015.03
1064	プロメテウス解剖学アトラス: 口腔・頭頸部. 第2版	Eric W.Baker	(翻訳)坂井建雄	医学書院	2018.10
1065	新骨の科学: Bone Biology. 第2版			医歯薬出版	2016.05
1066	ぜんぶわかる筋肉の名前としくみ事典: 部位別にわかりやすくビジュアル解説		(監修)肥田岳彦/山田敬喜	成美堂出版	2012.08
1067	筋肉のしくみ図鑑: 筋肉別イラストであつという間にわかる		(監修)石山修監 [絵]かたおか朋子	権出版社	2019.07
1068	ハインズ神経解剖学アトラス. 第4版		(翻訳)佐藤二美	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2013.08
1069	マーティン カラー神経解剖学: テキストとアトラス		(翻訳)野村岨	西村書店	2015.11
1070	ワックスマン脳神経解剖学: 臨床に役立つ		(翻訳)樋田一徳	西村書店	2019.03
1071	神経解剖学: イラストレイテッドカラーテキスト			エルゼビア・ジャパン	2017.11
1072	神経解剖集中講義. 第2版		(翻訳)寺本明	医学書院	2012.03
1073	臨床神経解剖学			エルゼビア・ジャパン	2013.07
1074	脳の発生学: ニューロンの誕生・分化・回路形成 (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 07)	宮田卓樹/山本亘彦		化学同人	2013.06
1075	目でみるからだのメカニズム. 第2版			医学書院	2016.11
1076	ぜんぶわかる心臓・血管の事典: 精密イラストで心血管系をビジュアル解説		(監修)古川哲史	成美堂出版	2018.12
1077	人間発達学. 改訂15版 (コメディカルのための専門基礎分野テキスト)	福田恵美子		中外医学社	2019.03
1078	骨格筋のバイオメカニクス: 筋線維から運動協調性まで			ナッブ	2014.12
1079	これでわかるニューロンの電気現象: 対話形式による講義			共立出版	2013.06
1080	スタンフォード神経生物学		(翻訳)袖崎通介	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2017.08
1081	神経インパルス物語: ガルヴァーニの火花からイオンチャネルの分子構造まで		(翻訳)酒井正樹	共立出版	2014.03
1082	ブレイン・アーキテクチャ: 進化・回路・行動からの理解		(翻訳)石川裕二	東京大学出版会	2010.11
1083	ブレインサイエンス・レビュー: Brain Science Review: 2019	ブレインサイエンス振興財団/廣川信隆		クワプロ	2019.03
1084	記憶の細胞生物学 (シリーズ「生命機能」3)			朝倉書店	2011.02
1085	計算論的神経科学: 脳の運動制御・感覚処理機構の理論的理解へ			森北出版	2019.06

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1086	創造性の脳科学: 複雑系生命システム論を超えて			東京大学出版会	2019.02
1087	日常と非日常からみるこころと脳の科学: Science of Mind and Brain: Perspectives from the Daily and the Extraordinary			コロナ社	2017.10
1088	脳: 「かたち」と「はたらき」			共立出版	2012.05
1089	脳・神経科学の研究ガイド			朝倉書店	2013.02
1090	脳イメージング: ワーキングメモリと視覚的注意からみた脳	宇阪直行		培風館	2010.07
1091	脳とニューロンの生理学: 情報伝達・発生・意識			丸善出版	2014.02
1092	脳と心と身体図鑑: ビジュアル版	ケン・アッシュウェル	(翻訳)松元健二	株風舎	2015.08
1093	脳の再生: 中枢神経系の幹細胞生物学と再生戦略 (脳科学ライブラリー4)			朝倉書店	2014.01
1094	脳はなにげに不公平: パテカルの万脳薬			朝日新聞出版	2016.03
1095	脳神経科学リテラシー: Neuroscience Literacy			勁草書房	2010.10
1096	脳入門のその前に: First Steps in Brain Science			共立出版	2013.08
1097	発達認知神経科学			東京大学出版会	2014.12
1098	分子脳科学: 分子から脳機能と心に迫る (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 20)	三品昌美		化学同人	2015.04
1099	眠気の科学: そのメカニズムと対応	井上雄一/林光緒		朝倉書店	2011.01
1100	ロバートソン自律神経学			エルゼビア・ジャパン	2015.10
1101	聞くと話すの脳科学 (音響サイエンスシリーズ 17)			コロナ社	2017.11
1102	香りと五感: 香りで五感の機能と有用性を増進する			フレグランスジャーナル社	2016.12
1103	味嗅覚の科学: 人の受容体遺伝子から製品設計まで (食と味嗅覚の人間科学)	斉藤幸子/小早川達		朝倉書店	2018.06
1104	生物系薬学: 2 生命をミクロに理解する. 第2版 (スタンダード薬学シリーズ 4)	日本薬学会		東京化学同人	2010.12
1105	生物系薬学: 4 演習編 (スタンダード薬学シリーズ 4)	日本薬学会		東京化学同人	2011.06
1106	イラストレイテッド薬理学 (リッピンコットシリーズ)		(翻訳)柳澤輝行	丸善出版	2016.12
1107	カラーで学べる病理学. 第4版	渡辺照男		ヌーヴェルヒロカワ	2014.12
1108	カラールーピン病理学: 臨床医学への基盤. 改訂版	ルーピン/ストレイヤー		西村書店	2017.11
1109	クイックマスター病理学. 新訂版 第2版			サイオ出版	2018.01
1110	シンフル病理学. 改訂第7版	笹野公伸/岡田保典		南山堂	2015.08
1111	なるほどなっとく病理学: 病態形成の基本的な仕組み. 改訂2版			南山堂	2019.02
1112	はじめの一歩の病理学. 第2版	深山正久		羊土社	2017.12
1113	ルーピン カラー基本病理学	エマニュエル・ルーピン/ハワード・M.ライズナー		西村書店	2015.03
1114	ロピンズ基礎病理学 (Student Consult)			エルゼビア・ジャパン	2018.12
1115	わかりやすい病理学. 改訂第6版	恒吉正彦	(監修)岩田隆子	南山堂	2016.03
1116	解明病理学: 病気のメカニズムを解く. 第3版	青笹克之/加藤光保		医歯薬出版	2017.10

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1117	器官病理学: Organ Pathology, 改訂14版	笠原正典/石倉浩		南山堂	2013.08
1118	疾病論: 人間が病気になるということ, 第2版			医学書院	2011.03
1119	集中講義病理学: カラーイラストで学ぶ, 改訂2版	清水道生/内藤善哉		メジカルビュー社	2016.07
1120	症状を知り、病気を探る: 病理医ヤンデル先生が「わかりやすく」語る			照林社	2017.11
1121	組織病理カラーアトラス, 第2版			医学書院	2015.10
1122	標準病理学, 第6版 (Standard Textbook)	北川昌伸/仁木利郎		医学書院	2019.03
1123	病理学: 疾病の成り立ちと回復の促進, 新訂版 (図解ワンポイント)			サイオ出版	2015.12
1124	病理学概論, 改訂第3版		(監修)全国柔道整復学校協会	医歯薬出版	2012.02
1125	臨床病態学: 総論, 第2版	北村聖		ヌーヴェルヒロカワ	2013.03
1126	ゲノム医学: ゲノム情報を活かす医療のために			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2016.03
1127	コアカリ準拠臨床遺伝学テキストノート: ゲノム医療に必要な考え方を身につける	日本人類遺伝学会		診断と治療社	2018.10
1128	トンプソン&トンプソン遺伝学, 第2版			エルゼビア・ジャパン	2017.03
1129	よくわかるゲノム医学: ヒトゲノムの基本から個別化医療まで, 改訂第2版			羊土社	2016.01
1130	遺伝カウンセリングマニュアル, 改訂第3版	櫻井晃洋	(監修)福岡義光	南江堂	2016.04
1131	遺伝医学への招待: An Introduction to Medical Genetics, 改訂第5版			南江堂	2014.11
1132	遺伝医学やさしい系統講義18講	日本人類遺伝学会第55回大会事務局	(監修)福岡義光	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2013.10
1133	遺伝学の知識と病いの語り: 遺伝性疾患をこえて生きる			ナカニシヤ出版	2018.08
1134	遺伝子診療よくわかるガイドマップ: 初診から検査そして結果報告まで			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2018.11
1135	目でわかる臨床遺伝学, 第2版			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2014.10
1136	免疫系のしくみ: 免疫学入門, 第4版		(翻訳)桑田啓貴	東京化学同人	2015.07
1137	寄生虫なき病		(翻訳)赤根洋子	文藝春秋	2014.03
1138	図説人体寄生虫学, 改訂9版			南山堂	2016.02
1139	画像でみる人体解剖アトラス, 原著第4版			エルゼビア・ジャパン	2013.12
1140	NIRS-基礎と臨床-	岡田英史	(監修)酒谷薫	新興医学出版社	2012.01
1141	脳波解析入門: EEGLABとSPMを使いこなす	関一夫/金山範明		東京大学出版会	2016.09
1142	腰部と骨盤の手法療法: 機能解剖に基づく臨床技法とセルフケア		(翻訳)木戸正雄	緑書房	2017.11
1143	自然セラピーの科学: 予防医学的効果の検証と解明	宮崎良文		朝倉書店	2016.10
1144	M-Test: 経絡と動きでつかむ症候へのアプローチ			医学書院	2012.06
1145	M-Test基本ガイド: 経絡テストからの展開			医歯薬出版	2017.05
1146	わかりやすい臨床中医臓腑学, 第3版			医歯薬出版	2013.01
1147	経穴マップ: カラー版, 第2版			医歯薬出版	2013.03

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1148	経穴臨床解剖マップ			医歯薬出版	2013.09
1149	高齢鍼灸学: 高齢者の保健・福祉と鍼灸医療			医歯薬出版	2013.03
1150	耳穴臨床解剖マップ			医歯薬出版	2014.03
1151	実践小児はり法: 子どもの健やかな成長へのアプローチ	尾崎朋文/山口創		医歯薬出版	2012.06
1152	図解M-Test		(監修)向野義人[0]: 松本美由季	医歯薬出版	2012.03
1153	体表観察学: 日本鍼灸の叢智			緑書房	2012.08
1154	頭鍼臨床解剖マップ			医歯薬出版	2015.02
1155	臨床鍼灸学を拓く: 科学化への道標, 第2版			医歯薬出版	2013.03
1156	臨床鍼灸治療学, 第2版			医歯薬出版	2013.03
1157	生体情報モニタ50年: 軌跡の回顧と進展性			業事日報社	2016.05
1158	抗疲労と香り (香りで美と健康シリーズ・香りの多様な働き・作用で美と健康をサポートする - 6)			フレグランスジャーナル社	2016.10
1159	血液疾患の病態生理 (ハーバード大学テキスト)	H.フランクリン バン/ジョン C.アスター		メディカル・サイエンス・インターナショナル	2012.08
1160	赤い雲: ティオバン臨床研究不正事件			日本医事新報社	2016.09
1161	入門運動器の超音波観察法: 実技編 ブロープ走査を中心に	日本超音波骨軟組織学会		医歯薬出版	2018.01
1162	絵でみる脳と神経: しくみと障害のメカニズム, 第4版			医学書院	2017.12
1163	注意と意欲の神経機構	日本高次脳機能障害学会教育・研修委員会		新興医学出版社	2014.10
1164	不安な脳: 不安障害を効果的に治療するための神経生物学的基礎			日本評論社	2012.10
1165	自閉症の脳を読み解く: どのように考え、感じているのか			NHK出版	2014.03
1166	漢方でできるがんサポーターケア: エビデンスを活かす			南山堂	2019.06
1167	臨床家のための中医学腫瘍学			東洋学術出版社	2016.06
1168	がん疼痛緩和の薬がわかる本, 第3版			医学書院	2019.06
1169	基本的知識と症例から学ぶがん緩和ケアの薬の使い方: アセスメント-処方提案の考え方が身につく	岡本禎晃/荒井幸子		じほう	2019.06
1170	すぐ使える医師・看護師・薬剤師・CRCのための分子標的薬トータルマネジメント: YURCCパッケージ, 第2版	福田善彦		リッチヒルメディカル	2015.12
1171	私の東西医学の融合治療: 慢性腎臓病			今井出版	2018.07
1172	臨床のための腎病理: 標本作製から鑑別診断まで		(監修)湯村和子	日本医事新報社	2010.03
1173	出生前診断受ける受けない誰が決めるの?: 遺伝相談の歴史に学ぶ			生活書院	2017.11
1174	全訳中医学耳鼻咽喉科学 (中医学大学全国共通教材)	王徳鑑	(翻訳)田久和隆徳	たにぐち書店	2016.05
1175	聴覚障害者、ろう・難聴者と関わる医療従事者のための手引	アンナ・ミドルトン	(翻訳)小林洋子	明石書店	2017.01
1176	医療ITと安全: よりよい医療をめざした安全なシステムの構築		(翻訳)飯田修平	日本評論社	2014.08
1177	医療の質国際指標: OECD医療の質指標プロジェクト報告書: 2		(翻訳)児玉知子	明石書店	2011.03
1178	医療系学部のための「医療と社会」入門, 改訂版			ムイスリ出版	2018.09

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1179	医療経済学講義 補訂版	橋本英樹/泉田信行		東京大学出版会	2016.01
1180	医療者のためのExcel入門 超・基礎から医療データ分析まで			医学書院	2013.08
1181	医療情報: Health Informatics: 医学・医療編 第5版	日本医療情報学会医療情報技術師育成部会		極原出版新社	2016.08
1182	衛生学・公衆衛生学 改訂第6版		(監修)全国柔道整復学校協会	南江堂	2015.12
1183	介入と逸脱: インターセックスと薬害HIVの医療社会学			晃洋書房	2019.03
1184	医療システムと情報化: 情報技術の受容過程に着目して			ナカニシヤ出版	2019.03
1185	激動する日本の医療と医薬: 新刊書にみる10年の動き			日本評論社	2012.05
1186	持続可能な医療を創る: グローバルな視点からの提言			岩波書店	2013.06
1187	基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆			医学書院	2013.08
1188	質的研究Step by Step: すぐれた論文作成をめざして 第2版			医学書院	2016.12
1189	なぜエラーが医療事故を減らすのか		(翻訳)入江美美	NTT出版	2015.05
1190	ブリッジブック医事法 第2版(ブリッジブックシリーズ)	甲斐克則		信山社出版	2018.03
1191	よくわかるQ&A再生医療関係法のポイント			ぎょうせい	2014.03
1192	医事法講義			日本評論社	2016.06
1193	医薬・ヘルスケアの法務: 規制・知財・コーポレートのナビゲーション	アンダーソン・毛利・友常法律事務所医薬・ヘルスケア・プラクティスグループ		商事法務	2018.10
1194	医療六法: 平成31年版			中央法規出版	2019.02
1195	臨床研究法令ハンドブック: 臨床研究法、政省令、通知 第2版			薬事日報社	2019.05
1196	医学的研究のデザイン: 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2014.08
1197	医療系のための情報リテラシー: Windows 10・Office 2016対応	佐藤憲一/川上準子		共立出版	2018.04
1198	英語医薬論文の読みかた・訳しかた: 類似表現の比較・検討を中心にした理解と翻訳の考察 新訂版			薬事日報社	2016.01
1199	問題解決型学習ガイドブック: 薬学教育に適したPBLチュートリアルへの進め方	日本薬学会		東京化学同人	2011.01
1200	Rによる健康科学データの統計分析(シリーズ「統計科学のプラクティス」6)			朝倉書店	2013.01
1201	クリニカルクエスチョンにこたえる臨床試験ベシクナビ	臨床試験を適正に行える医師養成のための協議会		医学書院	2012.02
1202	実用SAS生物統計ハンドブック: SAS9.4/R3.2.0対応 新版		(監修)浜田知久馬川臨床評価研究会基礎解析分科会	サイエンティスト社	2017.06
1203	被験者の人権と臨床研究・治験: そして、GCPと新たな倫理指針			薬事日報社	2015.11
1204	臨床研究を正しく評価するには: Dr.ファーバーグが教える26のポイント(ライフサイエンス選書)			ライフサイエンス出版	2013.08
1205	臨床試験デザイン: ベイズ流・頻度流の適応的方法		(翻訳)手良向聡	メディカル・パブリケーションズ	2014.07
1206	透明酸化物機能材料の開発と応用: Developments and Applications of Transparent Oxides as Active Electronic Materials, 普及版(CMGテクニカルライブラリー 383 エレクトロニクスシリーズ)		(監修)細野秀雄/平野正浩	シーエムシー出版	2011.06
1207	医療現場の行動経済学: すれ違う医師と患者			東洋経済新報社	2018.08
1208	医療者のためのコミュニケーション入門 改訂			精神看護出版	2013.03
1209	医療・介護のための死生学入門	清水哲郎/金田薫子		東京大学出版会	2017.08

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1210	医療の本質と変容: 伝統医療と先端医療のはざままで(熊本大学生命倫理論集 4)	高橋隆雄/北村俊則		九州大学出版会	2011.04
1211	なんてやねん/根拠がわかる解剖学・生理学要点50	川畑 龍史		メディカ出版	2018
1212	解剖学 改訂3版(コメディカルのための専門基礎分野テキスト)	五味敏昭/岸清		中外医学社	2018.02
1213	解剖学 第11版(MINOR TEXTBOOK)			金芳堂	2018.01
1214	新解剖学 改訂第7版 フルカラー新装版(Qシリーズ)		(監修)加藤征[0]加藤征	日本医事新報社	2019.02
1215	人体解剖学ノート 改訂8版			金芳堂	2015.04
1216	読んでわかる解剖生理学 —テキスト—	竹内 修二		医学教育出版社	2014
1217	臨床につながる解剖学イラストレイテッド			羊土社	2011.08
1218	伝わる医療の描き方: 患者説明・研究発表がもっとうまくいくメディカルイラストレーションの技術		原木万紀子(監修)内藤宗和	羊土社	2018.03
1219	iPS細胞を用いた難病研究 —臨床病態解明と創薬に向けた研究の最新知見—(遺伝子医学MOOK 27)	中畑 龍俊		メディカルドゥ	2015
1220	細胞の3次元組織化 —その最先端技術と材料技術: 再生医療とその支援分野(細胞研究・創薬研究)への応用と発展のために—(遺伝子医学MOOK 別冊)	田畑 泰彦		メディカルドゥ	2014
1221	神経解剖学講義ノート: カラー図解			金芳堂	2011.12
1222	わかりやすい人体の構造と機能	塩田浩平		中山書店	2013.10
1223	医療・診断・創薬の化学 —医療分野に挑む革新的な化学技術—(OSJ Current Review 24)	日本化学会		化学同人	2017
1224	人体の解剖生理学 = Human anatomy & physiology 第2版	木山 博資		金芳堂	2017
1225	人体の冒険者たち: 解剖図に描ききれないからだの話		(翻訳)鎌田彷徨	みすず書房	2018.07
1226	細胞死研究の今 —疾患との関わり、創薬に向けてのアプローチ—(遺伝子医学MOOK 別冊)	辻本 賢英		メディカルドゥ	2013
1227	はじめての老化学・病理学: 人間科学のためのライフサイエンス入門			コロナ社	2016.04
1228	もっとよくわかる脳神経科学: やっぱ脳はスゴイのだ!			羊土社	2013.09
1229	認知脳科学: Cognitive Neuroscience			コロナ社	2017.03
1230	脳の左右差: 右脳と左脳をつくり上げるしくみ(ブレインサイエンス・レクチャー 5)	市川眞澄		共立出版	2018.02
1231	脳神経ベディア: カラー図解			羊土社	2017.08
1232	脳神経化学: 脳はいま化学の言葉でどこまで語れるか(DOJIN BIOSCIENCE SERIES 28)	森森生/尾藤晴彦		化学同人	2018.03
1233	伊東毒性病理学: Ito's Toxicologic Pathology	高橋道人/福島昭治		丸善出版	2013.07
1234	スタンダード病理学 第4版		原博毅/神山隆一	文光堂	2015.12
1235	図説分子病理学 改訂5版			中外医学社	2014.05
1236	組織病理アトラス 第6版	小田義直/坂元亨字		文光堂	2015.10
1237	病理組織マッピングガイド: The Histopathology Map and Guide	深山正久		文光堂	2014.04
1238	ここが知りたい遺伝子診療はてな?BOOK			中外医学社	2018.01
1239	ヒトは病氣とともに進化した(シリーズ認知と文化 9)			勁草書房	2013.12
1240	遺伝統計学の基礎: Rによる遺伝因子解析・遺伝子機能解析			オーム社	2010.09

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1241	医療応用をめざすゲノム編集:最新動向から技術・倫理的課題まで(DOJIN BIOSCIENCE SERIES 29)	真下知士/金田安史		化学同人	2018.06
1242	診療・研究にダイレクトにつながる遺伝医学			羊土社	2017.05
1243	間違いだらけの緩和薬選び ―世界一簡単な緩和薬の本ver. 2―2版	大津, 秀一		中外医学社	2015
1244	薬剤師のための薬物療法に活かす検査値の読み方教えます! ―検査値から病態を読み解き、実践で活かすためのアプローチ―	野口, 善令		羊土社	2016
1245	オーダーメイド医療をめざした生活習慣病の遺伝子診断ガイド, 第2版			日本医事新報社	2017.08
1246	栄養士と看護師・薬剤師のための生活習慣病ケースファイル	富野, 康日記		中外医学社	2016
1247	Dr.石橋のミラクルキャッチ☆循環器薬 ―楽しく激しくわかりやすい―	石橋, 克彦		メディカ出版	2016
1248	エキスパートが秘訣を語る循環器薬物療法の極意	山下, 武志		南山堂	2018
1249	ここが知りたい循環器の薬と使い方	佐藤, 幸人		中外医学社	2017
1250	抗凝固薬の考え方, 使い方	奥山, 裕司		中外医学社	2016
1251	超実践的抗凝固薬の使いかた ―NOAC・DOACについて知れたかったのはその特徴を踏まえた選択法―(CIRCULATION Up-to-Date Books)	池田 隆徳		メディカ出版	2017
1252	明日から役立つ急性心不全薬物療法のテクニック (Management of Heart Failure)	佐藤, 直樹		文光堂	2017
1253	ACE阻害薬を使う深い理由(わけ)―なぜそこでその薬剤なのか? 胸利き臨床家の治療戦略がみえる9症例―(Circulation up-to-date books 09)	吉村, 道博		メディカ出版	2015
1254	あなたも名医! 吸入薬のすべて ―世は吸入薬戦国時代!― (jmedinook 45)	倉原, 優		日本医事新報社	2016
1255	呼吸器疾患の薬物療法を極める	長瀬, 洋之		文光堂	2018
1256	うまく続ける! 消化器がん薬物療法の基本とコツ ―1stライン、2ndラインのレジメン選択と休薬・減量、副作用対策のポイント―	加藤, 健		羊土社	2016
1257	わかる! つかえる! なおせる! 消化管症候への漢方薬	石毛, 敦		南山堂	2017
1258	日常診療における消化器治療薬の使い方	木下, 芳一		中外医学社	2013
1259	チェックリストでわかる! IBD治療薬の選び方・使い方 ―重症度と患者背景から導く炎症性腸疾患の処方―	小林, 拓		羊土社	2015
1260	分子標的薬時代の関節リウマチ手術	猪狩, 勝則		中外医学社	2018
1261	実臨床に活かす抗リウマチ薬ガイドブック ―だからこれを選ぶ, こう使う―	佐野 統		フジメディカル出版	2019
1262	心原性脳塞栓症と経口抗凝固薬 ―新規抗凝固薬の選び方・使い方―	豊田, 一則		フジメディカル出版	2013
1263	認知症の薬物治療 ―コウメソッド処方テクニック―改訂版(認知症ハンドブック2)	河野, 和彦		フジメディカル出版	2018
1264	認知症治療薬の考え方, 使い方	中島, 健二		中外医学社	2017
1265	抗HIV/エイズ薬の考え方, 使い方, そして飲み方 ver.2	岩田, 健太郎		中外医学社	2019
1266	子どもの気管支喘息 ―ガイドラインと薬剤を使いこなすプロの診療センス―(小児科学レクチャー Vol4, No2, 2014)	小林, 茂俊		総合医学社	2014
1267	60疾患実践的ガイドライン活用術 ―小児コモン―	伊藤, 秀一		中山書店	2019
1268	新生児の薬剤 ―病態・疾患別でまなぶ―(Neonatal care : the Japanese journal of neonatal care 2018年秋季増刊(通巻422号))	河田, 興		メディカ出版	2018
1269	手術室・ICUで使う薬剤ノート 改訂6版	河本, 昌志		メディカ出版	2015
1270	免疫チェックポイント阻害薬の治療・副作用管理	佐藤, 隆美		南山堂	2016
1271	がんの薬物療法マニュアル = Handbook of drug therapy in cancer 第2版	畠, 清彦		中外医学社	2014

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1272	がん薬物療法キードラッグ65	古瀬, 純司		中外医学社	2014
1273	間違いだらけの緩和薬選び Ver.3 ―費用対緩和を考える―	大津, 秀一		中外医学社	2018
1274	頭頸部がん薬物療法ハンドブック 改訂2版	田原, 信		中外医学社	2017
1275	脳神経外科医が知っておきたい薬物治療の考え方と実際(脳神経外科診療プラクティス 8)	清水, 宏明		文光堂	2016
1276	心血管作動薬 (For professional anesthesiologists)	土田, 英昭		克誠堂出版	2013
1277	クリニカルスタッフのためのしびれ・痛み診療と薬物治療	井須, 豊彦		中外医学社	2014
1278	これで治る! 痛症「外用薬」の使い方 ―Furuta Methods―	古田, 勝経		照林社	2017
1279	泌尿器疾患に効く漢方			洋学社	2016.07
1280	CKD患者の薬物治療 ―最初の一手と次の一手―	加藤, 明彦		文光堂	2018
1281	いまさら訊けない透析患者薬剤の考えかた、使いかたQ&A 2版	加藤, 明彦		中外医学社	2018
1282	透析のための漢方薬テキスト ―西洋医学で対応しきれない透析合併症に漢方で挑む!―	和田, 健太郎		アトムス	2018
1283	透析患者の薬剤ポケットブック ―適正投与量&服薬指導のポイントがひとめでわかる! : for Nurse―改訂2版	平田, 純生		メディカ出版	2016
1284	向精神薬と妊娠・授乳 改訂2版	伊藤, 真也		南山堂	2017
1285	妊婦・授乳婦の薬 改訂2版	杉本, 充弘		中外医学社	2018
1286	コ・メディカルのための医事法書概論: Introduction to Medical Law			ミネルヴァ書房	2011.09
1287	医事法入門, 第5版 (有斐閣アルマ Advanced)				2018.09
1288	医療従事者のためのこれだけは知っておきたい61の法律	河野公一		金芳堂	2012.01
1289	ちけ文&ちけ雄 治験に役立つ医学英文事例集: CRC & CRAとして国際共同治験に対応する			金芳堂	2019.05
1290	シュライバー→アトキンス無機化学: 下		(翻訳)田中勝久	東京化学同人	2017.01
1291	シュライバー→アトキンス無機化学: 上		(翻訳)田中勝久	東京化学同人	2016.09
1292	ハウスクロフト無機化学: 下			東京化学同人	2012.08
1293	ハウスクロフト無機化学: 上			東京化学同人	2012.03
1294	ハウス無機化学: 下		(翻訳)山下正廣	東京化学同人	2012.06
1295	ハウス無機化学: 上		(翻訳)山下正廣	東京化学同人	2012.04
1296	わかりやすい大学の無機化学	日本セラミックス協会		培風館	2019.01
1297	演習無機化学: 基本から大学院入試まで, 第2版			東京化学同人	2017.06
1298	基礎無機化学: 構造と結合を理論から学ぶ			化学同人	2013.04
1299	基本無機化学, 第3版			東京化学同人	2016.09
1300	無機化学(ベーシックマスター)	増田秀樹/長嶋雲兵		オーム社	2010.10
1301	無機化学: その現代的アプローチ, 第2版			東京化学同人	2013.09
1302	無機化合物・錯体: 生物無機化学の基礎, 第3版	梶英輔		廣川書店	2016.04

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1303	ペロブスカイト物質の科学: 万能材料の構造と機能		(翻訳) 陸山洋	化学同人	2018.11
1304	オートファジー- 生命をささえる細胞の自己分解システム (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 04)	水島昇/吉森保		化学同人	2012.12
1305	オートファジー- 分子メカニズムの理解から病態の解明まで (The Frontiers in Life Sciences)	吉森保	(監修) 大隅良典	南山堂	2018.01
1306	メンブレントラフィック: 膜・小胞による細胞内輸送ネットワーク (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 24)	福田光則/吉森保		化学同人	2016.07
1307	結末への道筋: アポトーシスとさまざまな細胞死		(翻訳) 長田重一	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2012.06
1308	基礎解剖生理学: Basic Anatomy and Physiology, 第3版			おうふう	2011.03
1309	クイックレビュー-臨床発生学		(翻訳) 谷垣伸治	丸善出版	2013.04
1310	ラングマン人体発生学, 第11版		(翻訳) 安田峯生	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2016.02
1311	発生学, 第6版 (医学要点双書)			金芳堂	2010.11
1312	○×問題でマスター-生理学, 第4版		(監修) 志村まゆら/ 大沢秀雄	医歯薬出版	2018.08
1313	イラストレイテッド生理学 (リッピンコットシリーズ)			丸善出版	2014.12
1314	オックスフォード・生理学			丸善出版	2016.01
1315	ガイドン生理学 (Student Consult)		(翻訳) 石川義弘	エルゼビア・ジャパン	2018.03
1316	からだの発達と加齢の科学		(監修) 高石昌弘	大修館書店	2012.12
1317	ギャング生理学 (Lange Textbookシリーズ)		(監修) 岡田泰伸	丸善出版	2017.11
1318	シンプル生理学, 改訂第7版			南江堂	2016.03
1319	スタンダード生理学, 第3版	二宮石雄/安藤啓司		文光堂	2013.09
1320	パートナー機能形態学: ヒトの成り立ち, 改訂第3版	岩崎克典/原英彰		南江堂	2018.12
1321	はじめての生理学 (史上最強カラー図解)		(監修) 當瀬規嗣	ナツメ社	2014.06
1322	はじめの一步のイラスト生理学, 改訂第2版 (はじめて学ぶ人のための目で見える教科書)	照井直人		羊土社	2012.01
1323	みるよむわかる生理学: ヒトの体はこんなにすごい			医学書院	2015.03
1324	やさしい生理学, 改訂第7版	彼末一之/能勢博		南江堂	2017.12
1325	よくわかる生理学の基礎: カラー図解, 第2版			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2017.08
1326	医療系学生のための図解生理学TEXT&NOTE			診断と治療社	2014.12
1327	機能形態学, 改訂第4版	櫻田忍/櫻田司		南江堂	2018.12
1328	集中講義生理学: カラーイラストで学ぶ, 改訂2版	岡田隆夫		メジカルビュー社	2014.10
1329	症例問題から学ぶ生理学		(翻訳) 鯉淵典之	丸善出版	2018.12
1330	新しい解剖生理学, 改訂第12版			南江堂	2010.07
1331	新しい機能形態学: ヒトの成り立ちとその働き, 第3版	竹鼻真/森山賢治		廣川書店	2015.08
1332	人体生理学の基礎, 改訂第2版			医学出版社	2016.08
1333	図解機能形態学 (みてわかる薬学)			南山堂	2015.02

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1334	生理学 (インテグレートシリーズ 5)		(翻訳) 鯉淵典之	東京化学同人	2010.12
1335	生理学, 3版 (コメディカルのための専門基礎分野テキスト)	黒澤美枝子/長谷川薫		中外医学社	2012.03
1336	生理学, 改訂第18版 新装版			文光堂	2018.03
1337	生理学, 新版 (メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ)			理工図書	2019.02
1338	生理学: 図解ワンポイント, 新訂版			サイオ出版	2015.06
1339	生理学ワークブック			医歯薬出版	2012.03
1340	生理学実習NAVI, 第2版		(監修) 大橋敦子	医歯薬出版	2017.01
1341	生理学実習書, 新訂		(監修) 日本生理学会教育委員会	南江堂	2013.09
1342	生理学問題集: CBT準拠	日本生理学会教育委員会		文光堂	2015.12
1343	標準生理学, 第9版 (Standard Textbook)	大森治紀	(監修) 本間研一	医学書院	2019.03
1344	面白いほど理解できる生理学: 超入門! (TACメディカルサイエンスシリーズ)	メディカルサイエンス研究会	(監修) 岡純	TAC株式会社出版事業部	2013.06
1345	高度物理刺激と生体応答			養賢堂	2017.08
1346	ニューロンの生物物理, 第2版			丸善出版	2013.09
1347	姿勢制御の神経生理機構			杏林書院	2011.09
1348	脳のホルモン: 前頭葉をめぐって, 普及版			朝倉書店	2010.07
1349	脳のホルモンと記憶, 普及版			朝倉書店	2010.07
1350	サーカディアンリズムと睡眠			新興医学出版社	2018.07
1351	睡眠脳波アトラス: 標準用語・手技・判定法, 復刻版	Allan Rechtschaffen/Anthony Kales		医歯薬出版	2010.07
1352	心身自律神経バランス学: 体内1/100まで様現象検出			真興交易(株) 医書出版部	2011.02
1353	視覚の光生物学 (シリーズ《生命機能》 2)			朝倉書店	2010.10
1354	オキシトシン: 私たちのからだがつくる安らぎの物質, 普及版		(翻訳) 瀬尾智子	晶文社	2014.12
1355	カルシウムと骨, 普及版	西井易穂/森井浩世		朝倉書店	2012.08
1356	カラー図解症状の基礎からわかる病態生理, 第2版			メディカル・サイエンス・インターナショナル	2011.09
1357	はじめの一步の病態・疾患学: 病態生理から治療までわかる	林洋		羊土社	2018.01
1358	ハマー&マクフィー疾患の病態生理: 臨床医学入門 (Lange Textbookシリーズ)			丸善出版	2019.06
1359	疾病と病態生理, 改訂第4版	市田公美/辻勉		南江堂	2016.08
1360	症状と薬からひも解く生理学			南山堂	2012.02
1361	超ビジュアル病態生理学		(翻訳) 吉岡俊正	メジカルビュー社	2012.03
1362	臨床家のための基礎からわかる病態生理学		(監修) 垣生園子	医道の日本社	2012.01
1363	演習で学ぶ無機化学基礎の基礎			化学同人	2019.02
1364	パラダイムシフトをもたらすエクソソーム機能研究最前線—シグナル伝達からがん、免疫、神経疾患との関わり、創薬利用まで—	落谷, 孝広		エヌ・ティー・エス	2017

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1365	人体発生学講義ノート: カラー図解, 第2版		金芳堂		2018.01
1366	楽しくわかる生物・化学・物理 —解剖生理や生化学をまなぶ前の一	岡田, 隆夫		羊土社	2017
1367	新生理学, 改訂第6版 フルカラー新装版 (Qシリーズ)			日本医事新報社	2015.09
1368	人間科学の百科事典	日本生理人類学会		丸善出版	2015
1369	人体生理学ノート 改訂8版	岡田, 隆夫		金芳堂	2018
1370	生体のしくみ標準テキスト (カラー版+動画付き) —新しい解剖生理—第2版	高松, 研		医学映像教育センター	2013
1371	生命科学たぐいまる講義中 —人体の成り立ちと働き、さらに健康と病気がよくわかる!—	岡田, 安弘		金芳堂	2016
1372	生理学 第8版 (Minor textbook)	岡田, 隆夫		金芳堂	2012
1373	生理学テキスト 第8版	大地, 隆男		文光堂	2017
1374	体内時計の科学と産業応用: Chronobiology & Industrial Applications (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)柴田重信	シーエムシー出版	2011.05
1375	バイオメカニクス: 機械工学と生物・医学の融合			オーム社	2010.07
1376	睡眠科学: 最新の基礎研究から医療・社会への応用まで (DOJIN BIOSCIENCE SERIES 26)	三島和夫		化学同人	2016.08
1377	NEWパワーブック生物薬理学, 第3版	金尾義治/森本一洋		廣川書店	2015.12
1378	コンパス薬物速度論演習	岩城正宏		南江堂	2012.10
1379	サプリメントと医薬品の相互作用ハンドブック: 機能性食品の適正使用情報	DHC医薬品相談部		医学出版社	2015.08
1380	健康食品・サプリメント 医薬品との相互作用事典: 2017-2018		(監修)日本医師会/日本薬剤師会	同文書院	2017.08
1381	症例から学ぶTDM実践アプローチ			南山堂	2012.07
1382	生物薬理学: BIOPHARMACEUTICS, 改訂第3版	林正弘/谷川原祐介		南江堂	2015.04
1383	薬がみえる. vol.1 神経系の疾患と薬 循環器系の疾患と薬 腎・泌尿器系の疾患と薬	医療情報科学研究所		メディックメディア	2014.10
1384	薬がみえる. vol.2 代謝系の疾患と薬/内分泌系の疾患と薬 産婦人科系の疾患と薬/血液系の疾患と薬 免疫・炎症・アレルギー疾患と薬/眼・耳・皮膚の疾患と薬	医療情報科学研究所		メディックメディア	2015.07
1385	薬がみえる. vol.3 消化器系の疾患と薬 呼吸器系の疾患と薬 感染症と薬/悪性腫瘍と薬	医療情報科学研究所		メディックメディア	2016.11
1386	薬学のための統計教科書			東京図書	2015.02
1387	薬剤師のための臨床思考トレーニング: ケースで学ぶ薬物治療	岩澤真紀子		南山堂	2014.10
1388	図解でよくわかる毒のきほん: 毒の科学から、猛毒生物、毒物劇物の取扱方法まで(すぐわかるすぐわかる)		(監修)五十君静信	誠文堂新光社	2015.08
1389	知らないといけない毒の話: 「新しい毒・意外な毒」から「自分でできる解毒術まで」			アーク出版	2016.04
1390	毒!生と死を感乱: 「薬毒同源」の人類史			さくら舎	2016.08
1391	毒の科学: 毒と人間のかかわり (史上最強カラー図解)			ナツメ社	2013.05
1392	毒性の科学: 分子・細胞から人間集団まで	熊谷嘉人/姫野誠一郎		東京大学出版会	2014.02
1393	毒性試験に用いる統計解析: 2015 手計算・SAS JMP エクセル統計 2008およびフリーソフトウェアによる解析			薬事日報社	2015.03
1394	薬物情報インデックス		(監修)鈴木修/大野曜吉	日本医事新報社	2014.11
1395	薬学生・薬剤師のための知っておきたい病気100, 第2版	日本薬学会		東京化学同人	2013.09

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1396	薬剤師のための症候学, 第2版		(監修)慶應義塾大学薬学部生進学習センター	慶應義塾大学出版会	2012.04
1397	ファーマナビゲーター-COX-2阻害薬編, 改訂版	石黒直樹/川合眞一		メディカルレビュー社	2013.11
1398	ステロイド療法の極意: その患者・その症例にいちばん適切な使い方がわかる	川合眞一		じほう	2017.09
1399	免疫・アレルギー疾患の分子標的と治療薬事典: 生物学的製剤, 低分子化合物のターゲット分子と作用機序, 薬効のすべて	田中良哉		羊土社	2013.04
1400	もう対応に困らない糖尿病療養指導: ステップアップ薬剤師	朝倉俊成		じほう	2013.02
1401	糖尿病治療薬ハンドブック, 改訂版		(監修)河盛隆造/綿田裕孝	羊土社	2012.02
1402	薬剤師による糖尿病対策ガイド	日本薬剤師会/日本くすりと糖尿病学会		じほう	2018.09
1403	薬剤師のための糖尿病療養指導ガイド	日本くすりと糖尿病学会	(監修)門脇孝	じほう	2012.05
1404	トロンボエチン受容体作動薬のすべて	池田康夫		先端医学社	2012.10
1405	ファーマナビゲーター-DIC編	丸山征郎		メディカルレビュー社	2014.11
1406	スタチン/コレステロール低下薬のウソとホント: 《水溶性スタチン》と《脂溶性スタチン》に区別してはじめてわかること。			薬事日報社	2013.10
1407	ファーマナビゲーター-抗凝固療法編	山下武志/是恒之宏		メディカルレビュー社	2015.04
1408	ファーマナビゲーター-β遮断薬編, 改訂版	小室一成/北風政史		メディカルレビュー社	2011.10
1409	実はすごいACE阻害薬: エキスパートからのアドバイス50	伊藤浩		南江堂	2015.07
1410	呼吸器疾患/免疫疾患 (病氣と薬物療法)	伊東明彦	(監修)厚田幸一郎	オーム社	2018.02
1411	薬剤師のための喘息・COPD チームですすめる吸入指導のポイント		(監修)福地義之助/山下直美	呼吸研究	2013.10
1412	ファーマナビゲーター-SERM編	太田博明/杉本利嗣		メディカルレビュー社	2013.10
1413	ファーマナビゲーター-抗RANKL抗体編	松本俊夫/田中栄		メディカルレビュー社	2016.04
1414	ここが知りたかった向精神薬の服薬指導			南江堂	2012.10
1415	精神科薬物治療の支援 (ステップアップ薬剤師)	吉尾隆		じほう	2013.09
1416	精神科薬物療法の管理 (薬剤師の強化書)	日本病院薬剤師会精神科病院委員会	(監修)日本病院薬剤師会	南山堂	2011.03
1417	臨床精神薬学 (薬剤師レジデントライブラリー)	野田幸裕/吉尾隆		南山堂	2013.04
1418	プロナンセリン追跡症例集	村崎光邦		星和書店	2012.03
1419	抗菌薬おさらい帳			じほう	2016.07
1420	抗菌薬パーフェクトガイド: 基礎から臨床まで	渡辺彰		ヴァンメディカル	2016.04
1421	図解微生物学・感染症・化学療法 (みてわかる薬学)	藤井暢弘/山本友子		南山堂	2014.08
1422	薬学生・薬剤師レジデントのための感染症学・抗菌薬治療テキスト, 第2版	石井良和	(監修)二本芳人	じほう	2018.08
1423	薬剤師が知っておきたいチーム医療実践のための感染症検査	岸田直樹	(監修)大曲貴夫	南山堂	2017.11
1424	次世代ワクチンの産業応用技術: Advanced Applications for Vaccine Manufacturing (ファイナケミカルシリーズ)		(監修)神谷齊	シーエムシー出版	2010.09
1425	小児科領域の薬剤業務ハンドブック, 第2版	国立成育医療研究センター薬剤部		じほう	2016.09
1426	新小児薬用量, 改訂第8版	岡明/木津純子		診断と治療社	2018.04

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1427	周術期の薬学管理, 改訂2版		(監修)日本病院薬 剤師会	南山堂	2018.12
1428	ホップ・ステップ・ジャンプで進めるがん治療の薬学連携: 保険薬剤 師・病院薬剤師のための外来抗がん薬の業務ガイド	日本臨床腫瘍薬学会		南江堂	2016.03
1429	外来治療をサポートするがん薬物療法マネジメントブック		(監修)南博信/平井 みどり	じほう	2016.09
1430	緩和医療薬学	日本緩和医療薬学会		南江堂	2013.10
1431	処方せんをヒントにがん患者サポートケア: 薬剤師がおこなう処 方チェックと服薬指導のポイント		(監修)遠藤一司/川 尻尚子	じほう	2015.07
1432	薬学生・薬剤師のためのがんの薬物治療学, 第2版			化学同人	2012.09
1433	薬剤師のためのがん化学療法カルテの読み方トレーニング: チーム 医療でリーダーシップをめざす		(監修)菓子井達彦	メディカ出版	2013.03
1434	臨床腫瘍薬学	日本臨床腫瘍薬学会		じほう	2019.03
1435	ファーマナビゲーターにきび治療薬編	林伸和/宮地良樹		メディカルレ ビュー社	2016.06
1436	軟膏・クリーム配合変化ハンドブック, 第2版		(監修)江藤隆史/大 谷道輝	じほう	2015.11
1437	美肌科学の最前線: Frontier Science of Beautiful Skin (ファインケ ミカルシリーズ)		(監修)前田憲寿	シーエムシー出 版	2014.04
1438	薬剤師・登録販売者のための知っておきたい皮膚症状: OTC医薬品 の適応症と副作用	日本OTC医薬品情報研究会	(監修)久保田由美 子	じほう	2013.05
1439	癌の病態評価と薬物療法: 薬剤師の視点を活かす	古田勝経		じほう	2012.08
1440	腎機能低下患者における薬剤業務マニュアル: CKD患者の薬物療法 適正化のポイントと実例	腎機能低下患者における薬剤業 務マニュアル作成委員会(平成 25年度学術第1小委員会)	(監修)日本病院薬 剤師会	じほう	2014.12
1441	腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト		(監修)平田純生/木 村健	じほう	2013.05
1442	「在宅アセスメント」虎の巻: 薬剤師の視点を連携に生かす(日経DI 薬局虎の巻シリーズ 7)	日経ドラッグインフォメーション	(監修)早川達	日経BP社	2013.06
1443	「自宅で過ごしたい」その思いに薬剤師ができること: 在宅輸液療法 への取り組み方(日経DI薬剤師「心得」帳)	HIP研究会		日経BP社	2014.09
1444	在宅医療のKEY&NOTE: 薬学の知識と臨床が出会う場所(薬ゼミ フォーラムブック)		(絵)日本在宅薬学 会/医学アカデミー 薬学セミナー	薬ゼミ情報教育 センター	2017.02
1445	在宅訪問・かかりつけ薬剤師のための服薬管理はじめての一步コンと わぎ	吉澤明孝		じほう	2016.08
1446	在宅薬剤管理入門: コミュニティ・ファーマシストの真髄を求めて(在 宅医療の技とこころ)		(監修)和田忠志/川 添哲嗣	南山堂	2014.09
1447	訪問薬剤管理指導はじめての一步と次への一步: 長崎P-ネット式在宅 争始め(日経DI薬剤師「心得」帳 3)			日経BP社	2012.04
1448	薬学生のための医療社会学			北樹出版	2012.04
1449	薬局薬剤師における在宅薬務マニュアル: 平成30年度版		(監修)矢後和夫	北海道医薬総合 研究所	2018.07
1450	薬剤師の訪問業務: 基礎・実践・応用: 2016-2017年版(薬ゼミファ ーマブック)		(監修)串田一樹	薬ゼミ情報教育 センター	2016.10
1451	病棟薬剤業務ハンドブック: つまずくポイントと対策がわかる			じほう	2014.06
1452	薬剤部門のマネジメント(病院部門別管理・運営の実践)		(監修)赤瀬朋秀/湯 本哲郎	日本医療企画	2014.04
1453	医薬品安全管理責任者必携: 2011		(監修)日本病院薬 剤師会	薬事日報社	2011.11
1454	健康食品・サプリメント(成分)のすべて: ナチュラルメディスン・データベ ース日本対応版: 2019第6版		(監修)日本医師会/ 日本歯科医師会	同文書院	2019.07
1455	薬剤師・管理栄養士のための今日からはじめる薬局栄養指導	日経メディカル開発		日経メディカル開 発	2017.08
1456	サプリメントを考える(人と食と自然シリーズ 2)		(監修)京都健康 フォーラム	建邦社	2012.07
1457	ドラッグストアQ&A: 薬・健康食品・化粧品・ベビー・生活用品の情報 BOOK: Part2		(監修)尾関孝英/河 野武幸	薬事日報社	2011.05

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1458	「選ばれる薬剤師」の接遇・マナー: 患者さん対応のプロをめざす! (DO BOOKS)	村尾孝子		同文館出版	2017.07
1459	「薬剤経済」わかりません!!	五十嵐中/佐藤麻里		東京図書	2014.12
1460	FDA審査良い結果を出すためのポイント: PIC/Sをはじめグローバル に役立つ, 第2版			じほう	2017.11
1461	MRの「質を測るものさし」あります: 強い営業チームには良質な共通 言語がある			エルゼビア・ジャ パン	2013.11
1462	いま, 薬剤師に求められる視点: Change & Challenge		(監修)日本薬剤師 会	エルゼビア・ジャ パン	2010.08
1463	かかりつけ薬剤師の対人業務入門: 調剤を「個別最適化」する業歴 のポイント	薬剤師業務研究会		じほう	2016.09
1464	ジェネリックvs.ブロッバスター: 研究開発・特許戦略からみた医薬品 産業の真相			講談社	2017.06
1465	ジェネリック医薬品の現場実学マーケティング			メディカルレ ビュー社	2013.07
1466	ジェネリック医薬品業界の国内・海外動向と開発情報: Generic Medicines: their Trends and Information of Domestic & Foreign Market		(監修)橋本光紀	シーエムシー出 版	2011.04
1467	ジェネリック薬: 不安と期待			薬事日報社	2012.05
1468	なぜあの先輩MRIは仕事が早くて楽しそうなの?: MRハックス48手			医薬経済社	2013.04
1469	よくわかる医薬品業界, 最新3版(最新業界の常識)			日本実業出版社	2018.07
1470	悪の製薬: 製薬業界と新薬開発がわたしたちになっていること		(翻訳)忠平美幸	青土社	2015.06
1471	医薬品業界で働く(なるにはBOOKS 補巻21)			ベリかん社	2018.11
1472	医薬品産業の過去・現在・未来: 故きを温ねて新しきを知る			医学評論社	2013.12
1473	医薬品流通フロンティアYears Book: '12~'13 新薬創出加算と流通透 明化 後がない卸経管			エルゼビア・ジャ パン	2012.09
1474	医療安全と薬剤師の役割: 薬剤師生涯研修テキスト	日本薬剤師研修センター		薬事日報社	2010.10
1475	医療過誤事件から学ぶ薬剤師の失敗学			南山堂	2013.07
1476	海外の薬事制度にまなぶ: 時代に寄り添う薬剤師の未来に向けて	小林大高		医薬経済社	2018.08
1477	在宅医療Q&A: 服薬支援と多職種協働・連携のポイント: 平成29年 版	じほう	(監修)日本薬剤師 会	じほう	2017.08
1478	在宅療養の薬学的謎解き	日本在宅薬学会		じほう	2016.07
1479	三輪介護士がわかりやすく教えるこれからの薬剤師業務と法律: 新 時代を拓け, 薬剤師!			じほう	2014.03
1480	諸外国の薬剤給付制度と動向	中村健	〇: 白神誠	薬事日報社	2010.05
1481	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ: 下 調剤業務の基本, 第3版	上村直樹/平井みどり		羊土社	2017.12
1482	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ: 上 薬剤師業務の基本, 第3版	上村直樹/平井みどり		羊土社	2017.12
1483	新薬創製への招待: 開発から市販後の監視まで, 改訂新版			共立出版	2013.09
1484	製薬企業におけるコンプライアンスの実現: 関連法令・自主規範の概 要と検討事例, 改訂版			薬事日報社	2019.03
1485	赤羽根先生に聞いてみよう薬局・薬剤師のためのトラブル相談Q& A47: あなたを悩ますそのトラブル, 法的にはこう考えます!			じほう	2014.04
1486	先輩薬剤師から聞いたこれだけは押さえてほしいルール&マナー			南山堂	2015.12
1487	創薬研究のための薬事と知財の連絡戦略ガイド			南山堂	2015.11
1488	知っておきたい医薬品業界のルール: よりよい薬を生み育てる人のた めに, 第2版	医薬教育研究会		じほう	2010.03

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1489	毒性学的評価による洗浄バリデーション: 健康ベース曝露限界値を用いる洗浄評価			じほう	2019.05
1490	日本におけるDTCマーケティングの歩みと未来			文真堂	2018.01
1491	富山の置き薬: 上			富山市	2019.03
1492	文献にマーカーを引いて持っていったら叱られた。なぜだろう? MRが悩んだときに開く本			SCICUS	2011.03
1493	法律からみる薬剤師の仕事: これからの業務の法解釈			薬事日報社	2016.07
1494	薬学生・薬剤師のためのキャリアデザインブック: 大学のキャリア教育にも使える			薬事日報社	2015.03
1495	薬局・薬剤師のための実践!! 法律講座: Practical Law Lessons for Pharmacist	日経ドラッグインフォメーション	(監修)小林郁夫	日経BP社	2011.12
1496	薬局が変われば地域医療が変わる。医師と薬剤師の協働から始まる在宅医療イノベーション			じほう	2014.07
1497	薬局ですぐ使える接遇・英会話・手話マナーブック 第2版		(監修)総合メディカル薬局事業本部	じほう	2017.05
1498	薬剤師が知っておきたい法律・制度 第2版	白神誠		じほう	2013.03
1499	薬剤師になる人のための生命倫理と社会薬学			法律文化社	2015.03
1500	薬剤師のためのコミュニケーションスキルアップ: 症例問題でコミュニケーションの実践を学ぶ			講談社	2010.09
1501	薬剤師業務の羅針盤: OSCE、実務実習、その先へー「迷った時」に立ち戻るビジュアルマップ (薬ゼミファーマップ)		(監修)薬学共用試験研究会	薬ゼミ情報教育センター	2019.02
1502	薬事ハンドブック: 2019 薬事行政・業界の最新動向と展望			じほう	2019.03
1503	臨床薬剤経済学	上塚芳郎/井上忠夫		篠原出版新社	2013.08
1504	令和時代薬剤師生き残りの処方箋			幻冬舎メディアコミュニケーション	2019.06
1505	ICH改革とICHガイドライン解説: 国際調和の新展開	日本製薬工業協会ICHプロジェクト編集委員会		じほう	2018.04
1506	Q&A・薬事関係通知集: 医薬品編		(監修)薬事行政研究会	薬務公報社	2012.04
1507	Q&Aで学ぶCSV入門: データインテグリティ対応の大前提!			じほう	2019.03
1508	Q&Aで学ぶデータインテグリティ: 適切な査察対応が見えてくる!			じほう	2017.09
1509	Q&A医薬品・医療機器・健康食品等に関する法律と実務: 医薬品該当性・医薬品・健康食品の広告・製造販売・添付文書・薬局・個人輸入・医薬部外品・医療機器・化粧品・指定薬物			日本加除出版	2018.08
1510	カラー図解よくわかる薬機法: 医療機器/体外診断用医薬品編	ドーモ	(監修)薬機法研究会	薬事日報社	2015.10
1511	カラー図解よくわかる薬機法: 再生医療等製品編	ドーモ	(監修)新薬事法研究会	薬事日報社	2015.03
1512	カラー図解よくわかる薬機法: 全体編 第4版	ドーモ		薬事日報社	2016.07
1513	やさしい医薬品医療機器等法: 医薬品・医薬部外品・化粧品編	薬事医療法制研究会		じほう	2015.02
1514	やさしい医薬品医療機器等法: 医療機器・体外診断用医薬品・再生医療等製品編	薬事医療法制研究会		じほう	2015.07
1515	よくわかるQ&A改正薬事法のポイント: 薬事法から医薬品医療機器法へ			ぎょうせい	2014.03
1516	わかりやすい薬事関係法規・制度 第4版	神村英利/木方正		廣川書店	2018.03
1517	安全管理 製造販売後調査の実施のための医薬品の適正使用と安全対策-PMSの歴史			じほう	2011.04
1518	医薬品・医薬部外品製造販売業者等におけるコンピュータ化システム適正管理ガイドライン解説 改訂	日本製薬団体連合会品質委員会		じほう	2012.04
1519	医薬品・医薬部外品製造販売業者等におけるコンピュータ化システム適正管理ガイドライン入門: よくわかるCSVとデータインテグリティ 第3版			じほう	2017.07

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1520	医薬品・医療機器等製造販売後安全対策業務指針: 2010			薬事日報社	2010.04
1521	医薬品の安全性と法: 薬事法学的なすすめ			エイデル研究所	2015.01
1522	医薬品の安全性のための法システム: 情報をめぐる規律の発展			弘文堂	2016.12
1523	医薬品医療機器等法・薬剤師法・毒劇法解説			薬事日報社	2015.03
1524	医薬品医療機器等法とGQP・GMP: 平成27年版	日本製薬団体連合会品質委員会		じほう	2015.04
1525	医薬品医療機器等法薬剤師法関係法令集: 平成30年版		(監修)薬事行政研究会	薬務公報社	2018.06
1526	医薬品承認申請ガイドブック: 2018-19	日本薬剤師研修センター		薬事日報社	2018.12
1527	医療機器の薬事申請入門 第2版	薬事衛生研究会 (医療機器検討会)		薬事日報社	2015.09
1528	医療機器薬事関係通知集: 1 告示+昭和36年~平成20年			薬事日報社	2012.08
1529	医療機器薬事関係通知集: 2 平成21年~平成24年7月			薬事日報社	2012.09
1530	化粧品・医薬部外品製造販売ガイドブック: 2011-12			薬事日報社	2011.02
1531	改正薬事法における医薬品販売制度: インターネット販売等の新しいルール	薬事医療法制研究会		じほう	2014.09
1532	革新的医薬品審査のポイント			日経BP社	2015.12
1533	最悪に備えよ: 医薬品および他の医療関連危機を予測し回避または管理する			じほう	2013.06
1534	新薬の知識: FDAの承認審査プロセス			薬事日報社	2010.01
1535	早わかり改正薬事法のポイント: 医薬品医療機器等法・医薬品ネット販売関連法のすべてがわかる	薬事医療法制研究会		じほう	2014.01
1536	日本における医薬品のリスクマネジメント: 日英対訳 第2版	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団		じほう	2014.10
1537	平成25年薬事法改正案等資料集			薬事日報社	2013.06
1538	薬事衛生六法: 2019			薬事日報社	2019.04
1539	薬事関係データ総覧: 資料統計・医薬品等の承認・資格試験・付表: 2012			薬務公報社	2013.01
1540	薬事関係法規・制度 第2版 (CBT対策と演習)	薬学教育研究会		廣川書店	2012.09
1541	薬事関連法規 改訂第4版			南江堂	2015.03
1542	薬事法の基礎			薬事日報社	2010.02
1543	薬事法規・制度・倫理マニュアル 改訂14版	亀井美和子/恩田光子		南山堂	2019.04
1544	薬事法規・制度及び倫理解説: 2016-17年版	薬事衛生研究会		薬事日報社	2016.04
1545	薬事法令ハンドブック: 医薬品医療機器等法、施行令、施行規則: 令和元年度版			薬事日報社	2019.05
1546	薬事法令ハンドブック承認許可要件省令: 構造設備規則・GQP・GVP・GMP・GLP・GCP・GPSP・QMS 第6版			薬事日報社	2014.06
1547	要指導・一般用医薬品製造販売承認基準・申請実務の手引き: 2017 (医薬品製造販売指針別冊)		(監修)レギュラトリーサイエンス学会	じほう	2017.10
1548	「残る薬剤師」「消える薬剤師」	藤田道男		財界展望新社	2012.12
1549	2025年の薬局・薬剤師: 未来を拓く20の提言	藤田道男		じほう	2015.04
1550	2040年の薬局: 見える風景が変わるか?	川渕孝一		薬事日報社	2016.08

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1551	OTC医薬品販売のエッセンス: 事例で学ぶ、適正な製品選択のヒント、第3版			じほう	2017.12
1552	ここが知りたかったOTC医薬品の選び方と勧め方	坂口真弓		南江堂	2013.10
1553	はじめての調剤薬局研修カリキュラム: 調剤業務から社会人マナーまで	マリールグループ		薬事日報社	2016.12
1554	ファーマシーマネジメント: 3 薬剤部門における階層別人材育成の理論と実践 (薬ゼミファーマブック)	赤瀬朋秀		薬ゼミ情報教育センター	2018.04
1555	プライマリ・ケアに活かす薬局トリアージ: 適切な受診勧奨・OTC販売・生活指導のために		(監修)上出良一	じほう	2013.03
1556	医薬品登録販売者のための薬局・薬店ワークの基礎知識		(監修)医療教育部 会薬業分科会教材 研究委員会	滋慶出版/つちや書店	2017.03
1557	医薬品販売実務コンパクトブック: 薬剤師・登録販売者必携、第2版			TAC株式会社出版事業部	2016.01
1558	健康サポート薬局ポイント解説			薬事日報社	2016.08
1559	検体測定室ハンドブック: 開設から運用まで	岡崎光洋/赤羽根秀宜		じほう	2015.08
1560	現場で使える新人登録販売者便利帖			翔泳社	2016.10
1561	現場で使える新人登録販売者便利帖 症状から選ぶOTC医薬品			翔泳社	2017.11
1562	現場で使える新人登録販売者便利帖 成分と特徴で選ぶOTC医薬品			翔泳社	2019.04
1563	今こそ「かかりつけ薬剤師・薬局機能」を強化しよう! 患者本位の医薬分業の実現	ネグジット総研		じほう	2018.06
1564	最新薬局業界の動向とカラクリがよくわかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載、第2版 (図解入門業界研究-How-manual-)			秀和システム	2019.03
1565	十文字革命: 電子薬歴への提言			薬事日報社	2015.03
1566	病態知識を基礎とした一般用医薬品販売ハンドブック: セルフメディケーション・トリアージ		(監修)望月真弓/武政文彦	じほう	2011.11
1567	保険薬局Q&A: 薬局・薬剤師業務のポイント: 平成30年版	じほう	(監修)日本薬剤師会	じほう	2018.07
1568	保険薬局事務完全マスター: 薬局事務の最新情報: 平成30年版			北海道医薬総合研究所	2018.10
1569	目覚めよ、薬剤師たち! 地域医療を支える薬剤師の使命			IN通信社	2013.11
1570	薬局がはじめる在宅医療ポケットガイド			南江堂	2014.06
1571	薬局マネジメント3.0: 次世代型地域薬局の機能と経営戦略			評言社	2015.07
1572	薬局管理総論			薬事日報社	2014.10
1573	創薬研究のストラテジー: 下 (実験薬理学)	日本薬理学会		金芳堂	2011.03
1574	創薬研究のストラテジー: 上 (実験薬理学)	日本薬理学会		金芳堂	2011.03
1575	放射薬品学			南江堂	2015.12
1576	第十七改正日本薬局方	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団		じほう	2016.04
1577	第十七改正日本薬局方: 条文と注釈: 1~3	日本薬局方解説書編集委員会		廣川書店	2016.05
1578	第十七改正日本薬局方解説書: 1~5	日本薬局方解説書編集委員会		廣川書店	2016.07
1579	第十七改正日本薬局方技術情報: JPTI 2016	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団		じほう	2016.04
1580	第十七改正日本薬局方第一追補	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団		じほう	2018.05
1581	第十七改正日本薬局方第一追補解説書	日本薬局方解説書編集委員会		廣川書店	2018.03

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1582	医薬部外品原料規格: 2006統合版追補			薬事日報社	2017.07
1583	「毒」と「薬」の不思議な関係 (SUPERサイエンス)	齋藤勝裕		シーアンドアール研究所	2017.04
1584	危険ドラッグ大全: 合法ドラッグ、脱法ドラッグ、合法ハーブ、脱法ハーブ…			武蔵野大学出版会	2016.03
1585	大麻大全: 由来からその功罪まで			武蔵野大学出版会	2018.11
1586	毒と薬: ビジュアル版 (大人のための図鑑)		(監修)鈴木勉	新星出版社	2015.05
1587	毒と薬の科学 (B&Tブックス おもしろサイエンス)			日刊工業新聞社	2015.01
1588	脳を恐わず薬物とくすり (SUPERサイエンス)			シーアンドアール研究所	2015.10
1589	THE薬学的管理: 臨床検査値を活かした処方審査と服薬指導	千葉大学医学部附属病院薬剤部/石井伊都子		薬事日報社	2016.10
1590	あるある症例から学ぶ! 薬学的思考トレーニング			南江堂	2016.10
1591	ここが知りたかった在宅ケアのお薬事情: 薬剤師が答える111の疑問	鉄穴口麻里子/曾基治		南江堂	2013.09
1592	パワフル・メディスン: 処方せん薬のベネフィット・リスク・コストから、医療のあるべき姿を考える (松山大学研究叢書 第77巻)		(翻訳)松岡一郎	ふくろう出版	2012.09
1593	今日の処方、改訂第6版	浦部晶夫/島田和幸		南江堂	2019.03
1594	残薬対策ハンドブック: 実際に残薬を減らした16のアプローチ		(監修)秋下雅弘	じほう	2017.09
1595	失敗しない処方のかた: 84ケースから学ぶ有害反応と適正使用			南江堂	2017.02
1596	実践! さよならポリファーマシー: 今日から取り組む			じほう	2016.10
1597	実践処方例とその解説: 処方の読み方と考え方、第2版		(監修)田中一彦/林哲也	じほう	2014.05
1598	処方管理学	太田伸/下枝貞彦		南山堂	2017.04
1599	処方提案につなげる薬物療法ハンドブック	寺町ひとみ	①: 江川孝	南江堂	2015.03
1600	新編プログラム学習による病態と処方解析	井関健/岡野善部		廣川書店	2013.03
1601	独立処方と補助的処方: 英国で広がる医療専門職の役割	モリー・コートニー=マツ・グリフィス		薬事日報社	2015.09
1602	謎ときで学ぶ薬学生・新人薬剤師のための処方解析入門、改訂版 (薬ゼミファーマブック)	根岸健一	(監修)上村直樹	薬ゼミ情報教育センター	2018.02
1603	薬学生・薬剤師のための処方解析トレーニング帳: 充実した実務実習を送るために			化学同人	2010.03
1604	AI創薬・ビッグデータ創薬	田中博		薬事日報社	2017.06
1605	アカデミア創薬の実践ガイド: スタンフォード大学SPARKIによるトランスレーショナルリサーチ	ダリア・モックリー=ローゼン/ケビン・グリムス		東京大学出版会	2017.02
1606	くすりをつくる研究者の仕事: 薬のタネ探しから私たちに届くまで	京都大学大学院薬学研究科		化学同人	2017.03
1607	ゲノム創薬科学: Genomic Medicinal Sciences	田沼靖一		葦葉房	2017.10
1608	トップドラッグから学ぶ創薬化学	有機合成化学協会		東京化学同人	2012.02
1609	ドラッグデザイン: 構造とリガンドに基づいたアプローチ	MERZ/RINGE		東京化学同人	2014.04
1610	ベーシック創薬化学			化学同人	2014.04
1611	ペプチド医薬の最前線: The Front Line of Peptide Drugs. 普及版 (ファンクミカルシリーズ)		(監修)木曾良明/向井秀仁	シーエムシー出版	2019.07
1612	医薬品開発入門、第2版		(監修)古澤康秀	じほう	2017.03

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1613	新薬創製: 日本発の革新的医薬品の源泉を探る			日経BP社	2016.03
1614	生命科学から創薬へのイノベーション (The Frontiers in Life Sciences)	米田悦啓/塚康央		南山堂	2014.10
1615	前臨床/臨床医薬品開発の展望と戦略: 最新の薬理学知見と世界の開発状況をふまえた	日本薬理学会前臨床開発フォーカスグループ/日本薬理学会経口吸収フォーカスグループ		じほう	2018.06
1616	創薬・創剤のための分子科学: 医薬品・タンパク質から量子論まで			廣川書店	2014.08
1617	創薬化学: メディシナルケミストへの道	長野哲雄		東京化学同人	2018.09
1618	創薬科学: 医薬品のdiscoveryとdevelopment			南山堂	2012.08
1619	創薬科学入門: 薬はどのようにつくられる?. 改訂2版			オーム社	2018.05
1620	米国で医薬品の臨床開発を行うということ			メディカル・パブリケーションズ	2016.02
1621	NEW薬品分析化学: 化学的分析法の基礎と薬学への応用. 第2版	小林典裕/藤井洋一		廣川書店	2012.03
1622	コンパス分析化学. 改訂第2版	安井裕之/兎川忠晴		南江堂	2017.01
1623	なるほど分析化学: 数字となかよくする本	楠文代/洪澤庸一		廣川書店	2012.03
1624	よくわかる薬学機器分析. 第2版	藤岡稔大/二村典行		廣川書店	2018.03
1625	わかりやすい機器分析学. 第4版	片岡洋行/四宮一総		廣川書店	2018.03
1626	創薬の分析化学. 開発タイムラインにそった全過程 (試料分析講座)	日本分析化学会		丸善出版	2011.08
1627	薬学機器分析. 第2版	萩中淳/和田昭盛		廣川書店	2017.03
1628	薬学分析化学. 第2版	萩中淳/片岡洋行		廣川書店	2017.03
1629	薬学領域の機器分析学. 第2版	財津潔/鶴田泰人		廣川書店	2013.04
1630	薬学領域の分析化学. 第2版	財津潔/鶴田泰人		廣川書店	2012.12
1631	薬剤師に必要な臨床機器分析	秋澤俊史		廣川書店	2010.08
1632	CRAの教科書	小嶋純		南山堂	2015.07
1633	CRCテキストブック. 第3版	日本臨床薬理学会		医学書院	2013.09
1634	CRCのための臨床試験スキルアップノート	中野重行/中原綾子		医学書院	2010.10
1635	GCPハンディ資料集. 改訂8版			エルゼビア・ジャパン	2013.03
1636	GCPハンドブック: 医薬品の臨床試験の実施の基準. 第5版	渡邊裕司		じほう	2014.02
1637	GLPとは: 信頼性確保の軌跡		(監修)日本QA研究会GLP部会	薬事日報社	2015.03
1638	ICH-GCPナビゲーター: 国際的視点から日本の治験を考える	治験国際化研究会		じほう	2013.03
1639	医師主導治験START BOOK			南山堂	2016.01
1640	医師主導治験の副作用報告: まるわかりかんたん作成			南山堂	2014.12
1641	医薬品・医療機器・再生医療等製品GCP・GPSPガイドブック. 2019	日本薬剤師研修センター		薬事日報社	2019.04
1642	医薬品GCPと治験: 治験実施上の留意点			薬事日報社	2014.11
1643	医薬品GLPと毒性試験の基礎知識. 第2版			薬事日報社	2016.08

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1644	医薬品リスク最小化のための実践的アプローチ: CIOMS Working Group IX報告		(翻訳)くすりの適正使用協議会BR委員会海外情報分科会	レーダー出版センター	2015.05
1645	医薬品非臨床試験ガイドライン解説: 2013	医薬品非臨床試験ガイドライン研究会		薬事日報社	2013.07
1646	化粧品・医薬部外品安全性評価試験法: 動物実験代替法のすべてがわかる			じほう	2014.06
1647	改正GCP治験ハンドブック. 改訂第3版追加	野口隆志		薬事日報社	2013.07
1648	治験薬学: 治験のプロセスとスタッフの役割と責任	亀井淳三		南江堂	2012.04
1649	必携日本薬局方試験法ガイド	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団		じほう	2011.12
1650	薬局方試験法: 概要と演習. 第9版			廣川書店	2011.09
1651	薬毒物試験法と注解: 2017	日本薬学会		東京化学同人	2017.05
1652	臨床研究いろはにほ: 全体像がひと目でわかる! (ライフサイエンス選書)			ライフサイエンス出版	2015.04
1653	臨床試験のためのデータモニタリング委員会実践ガイドブック			サイエンティスト社	2017.06
1654	FDAのGMP査察から学ぶ: 読めばわかる査察官の視点・指摘の意図			じほう	2018.07
1655	GMP逸脱管理: 事例から学ぶ逸脱防止. 第2版			じほう	2014.09
1656	GMP監査チェックリスト: 日英対訳			じほう	2018.09
1657	GMP教育訓練テキスト: Good Manufacturing Practice Education and training textbook			薬事日報社	2016.03
1658	GMP変更管理・技術移転: リスクベース評価と申請の考え方			じほう	2018.05
1659	ICH原薬GMP Q & A集: 現場が求めるグローバル対応の実践知識. 第2版	日本PDA製薬学会原薬GMP委員会		じほう	2015.10
1660	QORA/微生物ラボ管理基準 (WHO-GMPシリーズ 1)		(監修)佐々木次雄/荒見裕	じほう	2012.08
1661	ケミカルハザード/バイオセーフティ (WHO-GMPシリーズ 4)		(監修)佐々木次雄/小松俊彦	じほう	2012.12
1662	ハードからみたGMP: 医薬品ビジネスにかかわる人が知っておきたいこと. 第4版	シーエムプラスGMP Platform	(監修)中尾明夫	じほう	2016.07
1663	パートナー薬品製造学. 改訂第2版	野上靖純/田口武夫		南江堂	2012.04
1664	より進んだ手法での品質管理のキープポイント: ICH品質に関するガイドライン実施作業部会留意事項	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団/日本製薬工業協会ICHプロジェクト委員会		じほう	2013.09
1665	リンクオリフィケーションアプローチ: 医薬品施設の効率的なオリフィケーション手法	シーエムプラスGMP Platform	(監修)中尾明夫	じほう	2015.09
1666	リスクベースによるGMP監査実施ノウハウ			じほう	2016.09
1667	医薬品GMP査察官の2500の質問事例集: 医薬品GMP査察の極意			じほう	2013.06
1668	医薬品工場のための空調設計ナビ			じほう	2013.03
1669	医薬品製造における自動外観検査装置ガイド (月刊画像ラボ別冊 日工の知っておきたい小冊子シリーズ)			月刊画像ラボ編集部	2016.04
1670	医薬品製造工場の施設・設備設計のポイント: 固形製剤・無菌製剤・バイオ原薬に関連して基本から応用まで			じほう	2018.06
1671	医薬品製造販売指針: 2018		(監修)レギュラトリーサイエンス学会	じほう	2018.10
1672	技術移転管理基準/医薬品の物流管理基準(GMP) (WHO-GMPシリーズ 2)		(監修)佐々木次雄/荒見裕	じほう	2012.09
1673	現場で直ぐ役に立つPIC/S GMPガイドラインパート1(2018年: 一部改訂)とその手順書モデル			ハイサム技研PIC S GMP研鑽プロジェクトチーム	2019.01
1674	現場で直ぐ役に立つPIC/S GMPに沿った監査マニュアル			ハイサム技研PIC S GMP研鑽プロジェクトチーム	2018.04

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1675	事例に学ぶ品質リスクマネジメント導入手法: PIC/S GMP対応			じほう	2015.09
1676	実践微生物試験法Q&A: 医薬品・食品品質管理の正しい理解とアプローチ	佐々木次雄/棚元憲一		じほう	2017.04
1677	新GMP微生物試験法: 第十七改正日本薬局方対応, 第3版	佐々木次雄/棚元憲一		じほう	2016.09
1678	図解で学ぶGMP: 原薬GMPガイドライン(Q7)を中心として, 第5版			じほう	2017.01
1679	図解で学ぶGMPのこつ: 1つ上のGMPをめざして, 第2版			じほう	2016.03
1680	図解で学ぶPIC/S GMPガイド: Current PIC/S GMPガイドPart I (医薬品製剤)の解説, 第2版			じほう	2017.08
1681	製造工程別GMPリスク分析・評価事例集: Warning letterに学ぶ査察対応と品質リスク管理			じほう	2017.03
1682	製薬用水の製造管理: GMPの正しい理解のために		(監修)佐々木次雄/岡田敏史	じほう	2014.09
1683	非無菌医薬品の空調システム (WHO-GMPシリーズ 5)		(監修)平原茂人/白木澤治	じほう	2014.09
1684	微生物迅速試験法: バイオ医薬品等の品質管理のための実践ガイド	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	(監修)佐々木次雄	じほう	2016.08
1685	品質年次レビュー・マネジメントレビュー: PIC/S GMPガイドラインへの対応に向けて	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団		じほう	2013.12
1686	無菌医薬品GMP (WHO-GMPシリーズ 3)		(監修)佐々木次雄/荒見裕	じほう	2012.11
1687	無菌製造法に関する製造指針と品質管理: PIC/S GMP対応版, 第2版		(監修)齋藤泉(1)室井正志	じほう	2012.10
1688	薬事法における一変と軽微変更に関する課題	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団		じほう	2012.03
1689	100の事例に学ぶ調剤過誤防止: ヒューマンエラーの7分類	林紘司		日経BP社	2013.05
1690	コンパス調剤学, 改訂第2版	八野芳己/難波弘行		南江堂	2015.03
1691	機能性DDSキャリアの製剤設計: Drug delivery using functional DDS carriers, 普及版 (ファインケミカルシリーズ)		(監修)岡田弘晃	シーエムシー出版	2014.06
1692	検査値×処方箋の読み方: よくあるケースに自信をもって疑義照会する!	増田智先/渡邊裕之		じほう	2016.09
1693	現場ですぐに役立つ処方箋の読み方: 医療事故の当事者にならないために...	中村均	(監修)伊賀立二	じほう	2016.01
1694	抗がん薬調製マニュアル: 抗悪性腫瘍剤の院内取扱い指針, 第3版		(監修)日本病院薬剤師会	じほう	2014.06
1695	処方せんチェック・ヒヤリハット事例解析: 第2集 調剤事故防止のためのヒント90		(監修)澤田康文	じほう	2012.01
1696	錠剤・カプセル剤粉砕ハンドブック, 第7版		(監修)佐川賢一/木村利美	じほう	2015.11
1697	診療科別処方チェック・疑義照会ケーススタディ	山内泰一/小田慎		じほう	2011.12
1698	図解臨床調剤学: みてわかる薬学	一川暢宏/中嶋幹郎		南山堂	2011.11
1699	注射薬調剤監査マニュアル: 2018	注射薬調剤監査マニュアル編集委員会	(監修)石井伊都子	エルゼビア・ジャパン	2018.12
1700	調剤指針, 第14改訂	日本薬剤師会		薬事日報社	2018.08
1701	保険薬局業務指針: 2018年版	日本薬剤師会		薬事日報社	2018.07
1702	薬局・薬剤師のための調剤事故防止マニュアル, 第2版	日本薬剤師会		薬事日報社	2011.05
1703	薬局ブレアロイド: 見逃さない薬剤師の事例103			南山堂	2014.04
1704	知っておきたい薬害の教訓: 再発防止を願う被害者からの声	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団		薬事日報社	2012.07
1705	日本の薬害事件: 薬事規制と社会的要因からの考察	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団		薬事日報社	2013.09

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日	
1706	cosmetics in japan: 日本の化粧品総覧: 2019			週刊粧業出版局	2018.10	
1707	コスメティックサイエンス: 化粧品の世界を知る			共立出版	2014.06	
1708	化粧品の安全性評価に関する指針: Guidance for the Safety Evaluation of Cosmetics: 2015			日本化粧品工業連合会	薬事日報社	2015.11
1709	化粧品の基礎知識: 皮膚生理からブランド戦略まで				アイ・ケイ・コーポレーション	2019.03
1710	化粧品の使用感評価法と製品展開: Sensory and Instrumental Evaluation of Cosmetics for Development of New Products, 普及版 (ファインケミカルシリーズ)		(監修)秋山庸子/西嶋茂宏		シーエムシー出版	2014.07
1711	化粧品の成り立ちと機能 (『化粧品科学へのいざない』シリーズ 第4巻)	坂本一民/山下裕司			薬事日報社	2019.05
1712	化粧品の乳化処方と製造上のトラブル解決				フレグランスジャーナル社	2010.08
1713	化粧品の微生物試験ガイドブック: Q&A181				薬事日報社	2019.05
1714	化粧品ハンドブック: 基礎から応用までよくわかる!, 第2版		(監修)高橋守		薬事日報社	2018.05
1715	化粧品技術者のための処方開発ハンドブック: Formulas, Ingredients and Productions of Cosmetics (CMC Books)				シーエムシー出版	2014.04
1716	確かな製品づくりのための化粧品品質保証の実践: トラブル0をめざすクレーム分析方法、人材育成とその活用				フレグランスジャーナル社	2012.10
1717	機能性化粧品の開発: Development of Advanced Cosmetics: 4, 普及版 (CMCテクニカルライブラリー 420 ファインケミカルシリーズ)		(監修)正木仁		シーエムシー出版	2012.04
1718	図解で学ぶ化粧品GMP: 「ISO化粧品GMPガイドライン」をベースにして, 第3版				じほう	2019.06
1719	毒物ずかん: キュートであぶない毒キャラの世界へ		(監修)くられ(絵)姫川たけお		化学同人	2018.06
1720	ステロイドの選び方・使い方ハンドブック, 改訂第3版	山本一彦			羊土社	2018.03
1721	ハームリダクションとは何か —薬物問題に対するあるひとつの社会的選択—	松本 俊彦			中外医学社	2017
1722	薬物依存とアディクション精神医学	松本 俊彦			金剛出版	2012
1723	ジェネラリストのための“メンタル漢方”入門 —抗うつ薬・抗不安薬を使うその前に—	宮内 倫也			日本医事新報社	2014
1724	メンタルクリニックでの薬物療法・身体療法の進め方 (外来精神科診療シリーズ Part I 精神科臨床の知と技の新展開)	石井 一平			中山書店	2015
1725	よくわかる精神科治療薬の考え方, 使い方 3版	大森 哲郎			中外医学社	2015
1726	抗精神病薬プラクティカルガイド —どう選んでどう使う?—	吉村 玲児			中外医学社	2013
1727	精神・神経の治療薬事典 2014~15 —専門医からのアドバイス—	樋口 輝彦			総合医学社	2013
1728	精神科治療薬ハンドブック 改訂7版	上島 国利			中外医学社	2017
1729	精神科薬物療法マニュアル	日本病院薬剤師会精神科専門薬剤師部門試験委員会			南山堂	2018
1730	本当にわかる精神科の薬はしめの一步 —具体的な処方例で経過に応じた薬物療法の考え方が身につく!—改訂版	稲田 健			羊土社	2018
1731	抗うつ薬プラクティカルガイド —上手に選んで使いこなす!—	中村 純			中外医学社	2012
1732	術前術後のハイリスク薬—常用薬・持参薬・術前術後使用薬—はや調べノート: これだけは押さえておきたい				メディカ出版	2016.02
1733	はじめるとりくむ災害薬学	名倉 弘哲			南山堂	2019
1734	ファルマゲデン —背信の医薬—	デイヴィッド・ヒーラー			みすず書房	2015
1735	こうすればうまくいく!薬剤師による処方提案	青島 周一			中外医学社	2017
1736	薬剤師が解決するポリファーマシー —ここからはじめる!: 症例から学ぶ、処方適正化のための介入のABC—	平井 みどり			羊土社	2016

内国書

NO	書名詳細	著者	著編者	出版社	発行日
1737	頼れる「かかりつけ薬剤師」になる! —処方箋を手にしたら即チェック—	豊田, 雅夫		金芳堂	2019
1738	アジュバント開発研究の新展開 (ファインケミカルシリーズ)	石井, 健		シーエムシー出版	2011
1739	ゲノム創薬のためのバイオ統計 —遺伝子情報解析の基礎と臨床応用—(バイオ統計シリーズ 6)	館田, 英典		近代科学社	2010
1740	バイオマーカーのモニタリング (発明導出ガイドブック, バイオシリーズ)			ネオテクノロジー	2016
1741	バイオマーカーの全体俯瞰 (発明導出ガイドブック, バイオシリーズ)			ネオテクノロジー	2016
1742	バイオ医薬品開発における糖鎖技術: Glycotechnology for Development of Biotechnology Protein Products (バイオテクノロジーシリーズ)		(監修)早川堯夫/掛繩一晃	シーエムシー出版	2011.11
1743	医薬品開発における結晶多形の制御と評価: Control and Assessment of Pharmaceutical Solid Polymorphism (ファインケミカルシリーズ)		(監修)川上亘作	シーエムシー出版	2011.11
1744	次世代バイオ医薬品の製剤設計と開発戦略: Next-Generation Biologics: Formulation Design and Development Strategy (ファインケミカルシリーズ)		(監修)森下真莉子	シーエムシー出版	2011.11
1745	先端バイオ医薬品の評価技術 (ファインケミカルシリーズ)	山口, 照英		シーエムシー出版	2010
1746	医薬品の合成戦略 —医薬中間体から原薬まで—	有機合成化学協会		化学同人	2015
1747	臨床試験のデザインと解析: 薬剤開発のためのバイオ統計 (バイオ統計シリーズ 2)			近代科学社	2012.09
1748	バイオ医薬品と再生医療 (臨床薬学テキストシリーズ) (※)	乾 賢一		中山書店	2016
1749	バイオ医薬品に適用できる精製技術 (発明導出ガイドブック, バイオシリーズ)			ネオテクノロジー	2016
1750	日本化粧品成分表示名称事典, 第3版			薬事日報社	2013.04
					合計

外国書

NO	書名詳細	著者	編者	出版社	発行日
1	A Pharmacology Primer, 5th ed.	Kenakin, Terry		Academic Pr.	2018/11/19
2	A Practical Guide to Pharmacological Biotechnology (Learning Materials in Biosciences)	Patra, Jayanta Kumar/Das, Swagat Kumar/Das, Gtishree/Thatoi, Hrudayanath		Springer Singapore	2019/04/04
3	A Practical Guide to Toxicology and Human Health Risk Assessment	Robinson, Laura		Wiley-Blackwell	2018/12/28
4	Analysis of Drugs of Abuse (Methods in Molecular Biology, Vol.1810)			Musah, Rabi A. Humana Pr.	2018/07/05
5	Casarett & Doull's Toxicology: The Basic Science of Poisons, 9th ed.	Klaassen, Curtis		McGraw-Hill	2018/11/19
6	Clinical Pharmacology, 12th ed.	Brown, Morris J./Sharma, Parikaj/Mir, Fraz A./Bennett, Peter N.		Elsevier	2018/05/15
7	Communication Skills in Pharmacy Practice, 7th ed.	Beardsley, Robert		Lippincott Williams & Wilkins	2019/03/21
8	Crash Course Pharmacology, 5th ed. (Crash Course)	Page, Catrin	Page, Clive P.	Bailliere-Tindall	2019/01/02
9	Drugs: Mind, Body, and Society	Rosenthal, Martha		Oxford U.P., New York	2018/06/15
10	Drugs: Synonyms and Properties	Milne, G. W. A.		Routledge	2018/12/31
11	Encyclopedia of Biopharmaceutical Statistics, 4th ed.		Chow, Shein-Chung	Chapman & Hall/CRC	2018/09/24
12	Encyclopedia of Pharmacy Practice and Clinical Pharmacy		Babar, Zaheer-Ud-Din	Academic Pr.	2019/07/04
13	Fundamentals of Pharmacognosy and Phytotherapy, 3rd ed.	Herrero, Wilson/García, Joane/Prieto-García, Jose/Gibbons, Simon/Williamson, Elizabeth M.		Elsevier	2018/01/16
14	Handbook of Drug Metabolism, 3rd ed. (Drugs and the Pharmaceutical Sciences)		Pearson, Paul G./Wienkers, Larry C.	CRP Pr.	2019/06/07
15	Illustrated Toxicology	Gupta, PK		Academic Pr.	2018/04/20
16	Introduction to Biologic and Biosimilar Product Development and Analysis (AAPS Introductions in the Pharmaceutical Sciences)	Nagel, Karen M.		Springer International Pub.	2018/10/10
17	Martindale: The Complete Drug Reference, 39th ed. (Martindale: The Complete Drug Reference)		Brayfield, Alison	Pharmaceutica Press	2017/06/16
18	Medicinal Plants: Chemistry, Pharmacology, and Therapeutic Applications		Mallappa Kumara/Patra, Swamy	CRP Pr.	2019/05/23
19	New Psychoactive Substances: Pharmacology, Clinical, Forensic and Analytical Toxicology: Vol. 252 (Handbook of Experimental Pharmacology, Vol.252)		Maurer, Hans H./Brandt, Simon D.	Springer International Pub.	2019/03/06
20	Pharmaceutical Biotechnology: Fundamentals and Applications, 5th ed.		Daan J. A./Sindelar, Robert	Springer International Pub.	2019/04/30
21	Pharmacogenomics, 2nd ed.		Lam, Yui-Wing Francis/Scott, Stuart R.	Academic Pr.	2018/12/20
22	Pharmacology, 7th ed./IE. (Lippincott's Illustrated Reviews)	Whalen, Karen		Lippincott Williams & Wilkins	2018/10/01
23	Pharma-Ecology: The Occurrence and Fate of Pharmaceuticals and Personal Care Products in the Environment, 2nd ed.	Jjemba, Patrick K.		Wiley-Blackwell	2018/12/14
24	Principles and Practice of Botanicals as an Integrative Therapy (Clinical Pharmacognosy Series)		Hume, Anne/Orr, Katherine Kelly	CRP Pr.	2019/03/15
25	Rang & Dale's Pharmacology, 9th ed.	Robert, James M./Hosker, Hugh J./Henderson, Graeme/Loke, Yoon Kong/MacEwan, David/Rane, Manoharan P.		Bailliere-Tindall	2019/01/25
26	Regulatory Toxicology, 3rd ed.		Gad, Shayne C.	CRP Pr.	2018/08/10
27	A Practical Guide to Gas Analysis by Gas Chromatography	Swinley, John/de Coning, Piet		Elsevier Science	2019/05/25
28	Analytical Chemistry from Laboratory to Process Line		Zakov, Gennady E./Haghi, A. K.	Apple Academic Pr.	2018/06/13
29	Analytical Chemistry: A Practical Approach	Evans, E. Hywel/Foulkes, Mike E.		Oxford U.P.	2019/01/31

外国書

NO	書名詳細	著者	編者	出版社	発行日
30	Biomolecular and Bioanalytical Techniques: Theory, Methodology and Applications		Ramesh, Vasudevan	Wiley-Blackwell	2019/04/26
31	Eco-pharmacovigilance: Multidisciplinary Approaches to Environmental Safety of Medicines (The Handbook of Environmental Chemistry, Vol. 66)		Gómez-Oliván Leobardo Manuel	Springer International Pub.	2018/07/12
32	Encyclopedia of Analytical Science, 3rd ed.		Wojciszewski, Paul/Townshend, Alan/Poolo, Colin F./Moff...	Elsevier Science	2019/03/01
33	Essential NMR: For Scientists and Engineers, 2nd ed.	Blümich, Bernhard		Springer International Pub.	2019/04/04
34	Green Analytical Chemistry, 2nd ed.		Koel, Mihkel/Kajurand, Mihkel	Royal Society of Chemistry	2019/03/13
35	Handbook of Natural Gas Analysis	Speight, James G.		Wiley-Blackwell	2018/10/02
36	Handbook of Thermal Analysis and Calorimetry, 2nd ed. (Handbook of Thermal Analysis and Calorimetry, Vol.6)		Vysotskii, Sergey/Koga, Nobuyoshi/Sch...	Elsevier Science	2018/03/28
37	Introduction to Pharmaceutical Analytical Chemistry, 2nd ed.		Pedersen-Bjergaard, Stig/Gammelgaard, Bente/Halvorsen, Trine G.	Wiley-Blackwell	2019/04/19
38	Quality Assurance and Quality Control in the Analytical Chemical Laboratory: A Practical Approach, Second Edition, 2nd ed. (Analytical Chemistry)		Konicieczka, Piotr/Namiesnik, Jack	CRP Pr.	2018/04/06
39	Smart Biosensor Technology, 2nd ed.		Knopf, George K./Bassi, Amarjeet S.	CRP Pr.	2018/11/29
40	Statistics and Chemometrics for Analytical Chemistry, 7th ed.	Miller, James/Miller, Jane C		Pearson Education	2018/04/16
41	Wilson and Walker's Principles and Techniques of Biochemistry and Molecular Biology, 8th ed.		Hofmann, Andreas/Cloke, Samuel	Cambridge U.P.	2018/04/19
42	Anticancer Therapeutics: From Drug Discovery to Clinical Applications	Todd, Adam/Groundwater, Paul W./Gill, Jason H.		Wiley-Blackwell	2018/02/09
43	Bioinspired Chemistry: From Enzymes To Synthetic Models (Series on Chemistry, Energy and the Environment, Vol. 5)		Regier, Marius/Balaba, Teodor Silviu	World Scientific	2019/03/12
44	Biotransformations in Organic Chemistry: A Textbook, 7th ed.	Faber, Kurt		Springer International Pub.	2019/06/06
45	Chemistry of Thioamides		Murai, Toshiaki	Springer Singapore	2019/05/24
46	Comprehensive Organic Transformations: A Guide to Functional Group Preparations, 3rd ed.		Dobrovolsky, Artyom V./Kesharwani, Tanay/Markina, Nataliya A./Pletnev, Alexandre A./Damenelli, Cristiano/De...	Wiley-Blackwell	2018/03/02
47	Ellipsometry of Functional Organic Surfaces and Films, 2nd ed. (Springer Series in Surface Sciences, Vol.52)		Karsten, Eichhorn, Klaus-	Springer International Pub.	2018/05/23
48	Encyclopedia of Physical Organic Chemistry		Zerong/Wille, Uta/Juaristi, Eloy	Wiley-Blackwell	2017/01/31
49	Ethanol		Angelo/Iulianelli, Adolfo/Dalena,	Elsevier Science	2018/09/17
50	Introduction to Strategies for Organic Synthesis, 2nd ed.	Starkey, Laurie S.		Wiley-Blackwell	2018/06/08
51	Klein's Organic Chemistry, 3rd ed./Global ed.			Wiley	2018/05/31
52	Materials Chemistry, 3rd ed.	Fahlman, Bradley D.		Springer Netherlands	2018/09/14
53	Medicinal Chemistry	Dunlap, Norma K/Hurny, Donna M		Garland	2018/06/04
54	Medicinal Chemistry: Fundamentals	Barret, Roland		Elsevier Science	2018/07/17
55	New Insights on Antiviral Probiotics: From Research to Applications, Softcover reprint of the original 1st ed. 2017	Al Kassaa, Imad		Springer International Pub.	2018/07/13
56	Organic Chemistry: Principles and Mechanisms, 2nd ed.	Karty, Joel		W.W. Norton & Co.	2018/07/01
57	Organic Chemistry: Structure and Function, 8th ed. International ed.	Vollhardt, Peter/Schore, Neil		W.H. Freeman and co.	2018/03/15
58	Organic Sonochemistry: Challenges and Perspectives for the 21st Century (SpringerBriefs in Molecular Science)	Lévêque, Jean-Marco/Cravotto, Giancarlo/Delatre, François/Cintas, Pedro		Springer International Pub.	2018/10/20

外国書

NO	書名詳細	著者	編者	出版社	発行日
59	Palladacycles		Kapdi, Anant/Maiti, Debabrata	Elsevier Science	2019/06/29
60	Pericyclic Chemistry	Mandal, Dipak Kumar		Elsevier Science	2018/04/10
61	Rhodium Catalysis in Organic Synthesis: Methods and Reactions	Tanaka, Ken		Wiley-VCH	2019/03/13
62	Spectroscopic Identification Of Organic Molecules	Sadek, Kamal Usef/Elnagdi, Mohamed Hilmy/Mekheimer, Ramadan Ahmed H		World Scientific	2018/10/26
63	Vaccinations		Poland, Gregory	Elsevier	2018/11/21
64	Chemistry, 5th ed. (Macmillan Foundations Series)	Lewis, Robert/Evans, Wynne		Palgrave Macmillan	2018/04/04
65	Modern Physical Chemistry: Engineering Models, Materials, and Methods with Applications (Innovations in Physical Chemistry)		Haghi, Reza K./Besalu, Emilia/Jaroszew	Apple Academic Pr.	2018/11/29
66	Physical Chemistry Essentials	Hofmann, Andreas		Springer International Pub.	2018/05/30
67	Physical Chemistry for Chemists and Chemical Engineers: Multidisciplinary Research Perspectives (Innovations in Physical Chemistry)		Haghi, Reza K./de Julian-Ortiz, J.V.	Apple Academic Pr.	2018/11/08
68	Physical Chemistry for Engineering and Applied Sciences: Theoretical and Methodological Implications (Innovations in Physical Chemistry)		Haghi, Reza K./Nose Aguilar Gonzalez,	Apple Academic Pr.	2018/09/14
69	Theoretical Models and Experimental Approaches in Physical Chemistry: Research Methodology and Practical Methods (Innovations in Physical Chemistry)		Haghi, Reza K./Thomas, Sabu/K.M.	Apple Academic Pr.	2018/12/10
70	Thermal Physics and Thermal Analysis: From Macro to Micro, Highlighting Thermodynamics, Kinetics and Nanomaterials (Hot Topics in Thermal Analysis and Calorimetry, Vol. 11)		Jaroslav/Hubík, Pavel/Mareš,	Springer International Pub.	2018/09/09
71	Atlas of Human Anatomy, 7th ed. (Netter Basic Science)	Netter, Frank H.		Elsevier	2018/02/27
72	Basic Concepts in Clinical Biochemistry: A Practical Guide, 1st ed. 2018	Kumar, Vijay/Gill, Kiran Dip		Springer Singapore	2018/04/11
73	Biochemistry and Molecular Biology, 6th ed.	Papachristodoulou, Despo/Snape, Alison/Elliott, William H./Elliott, Daphne C.		Oxford U.P.	2018/07/06
74	Biochemistry, 9th ed.	Berg, Jeremy M./Stryer, Lubert/Tymoczko, John/Gatto, Gregory		W.H. Freeman and co.	2019/03/12
75	Biochemistry, Molecular Biology, and Genetics, 7th ed. (Board Review Series)	Ricer, Rick/Lieberman, Michael A.		Lippincott Williams & Wilkins	2019/02/22
76	Biochemistry: A Short Course, 4th ed.	Tymoczko, John L./Berg, Jeremy M./Stryer, Lubert/Gatto, Gregory		Worth Pub.	2019/02/01
77	Biochemistry: The Molecular Basis of Life, 7th ed.	McKee, Trudy/McKee, James R.		Oxford U.P. New York	2019/07/01
78	Bone: A Regulator of Physiology (Cold Spring Harbor Perspectives in Medicine)	Scadden, David	Karsenty, Gerard	Cold Spring Harbor Laboratory Press	2018/05/31
79	Cardiovascular Physiology, 11th ed. (Mosby Physiology Monograph)	Pappano, Achilles J./Wier, W. Keith		Elsevier	2018/10/29
80	Clinical Biochemistry, 6th ed. (Illustrated Colour Text)	Murphy, Michael/Srivastava, Rajeev/Deans, Kevin		Elsevier	2018/05/18
81	Crash Course Anatomy and Physiology, 5th ed. (Crash Course)	Hall, Samuel/Stephens, Jonny	Smith, Claire France	Elsevier	2019/02/07
82	Diabetes and Exercise: From Pathophysiology to Clinical Implementation, 2nd ed. (Contemporary Diabetes)		Reusch, MD, Jane E. B./Regensteine, PhD, MA, BA	Humana Pr.	2018/08/18
83	ENZYMES: Catalysis, Kinetics and Mechanisms	Punekar, N.S.		Springer Singapore	2018/11/23
84	Essential Clinical Anatomy, 6th ed./IE.	Agur, Anne M. R./Dalley, Arthur F.		Lippincott Williams & Wilkins	2019/03/01
85	Ganong's Review of Medical Physiology, 26th ed.	Yuan, Jason/Barman, Susan M./Barrett, Kim E.		McGraw-Hill	2019/01/29
86	Gastrointestinal Physiology: Development, Principles and Mechanisms of Regulation	Welcome, Menzibeya Osain		Springer International Pub.	2018/07/09
87	Gray's Anatomy for Students, 4th ed. (Gray's Anatomy)	Drake, Richard/Vogl, A. Wayne/Mitchell, Adam W. M.		Elsevier	2019/02/22

外国書

NO	書名詳細	著者	編者	出版社	発行日
88	Handbook of Biochemistry and Molecular Biology, 5th ed.		Wong, Roger L./Macdonald,	CRC Pr.	2018/06/15
89	Harper's Illustrated Biochemistry, 31st ed.	Rodwell, Victor W./Botham, Kathleen M./Bender, David		McGraw-Hill	2018/05/28
90	Human Biology, 18th ed./IE.	Mader, Sylvia/Windespecht, Michael		McGraw-Hill Companies	2019/03/29
91	Human Biology, 9th ed.	Chiras, Daniel D.		Jones & Bartlett Publishers Inc.	2018/02/01
92	Introduction to Proteins: Structure, Function, and Motion, Second Edition, 2nd ed. (Chapman & Hall/CRC Mathematical and Computational Biology)	Kessel, Amit/Ben-Tal, Nir		Chapman & Hall/CRC	2018/05/17
93	Lippincott Illustrated Reviews: Physiology, 2nd ed./IE. (Lippincott Illustrated Reviews)	Preston, Robin R./Wilson, Thad E.		Lippincott Williams & Wilkins	2019/02/01
94	McMin and Abrahams' Clinical Atlas of Human Anatomy, 8th ed.	Abrahams, Peter H./Spratt, Jonathan D./Loukas, Marios/van Schoor, Albert-Neels		Elsevier	2019/03/06
95	Medical Biochemistry, 5th ed.	Baynes, John W/Dominiczak, Marek H.		Elsevier	2018/02/16
96	Muscle and Exercise Physiology		Zoladz, Jerzy A.	Academic Pr.	2018/11/22
97	Netter's Clinical Anatomy, 4th ed. (Netter Basic Science)	Hansen, John T.		Elsevier	2018/01/25
98	Pratt's Essential Biochemistry, 4th ed./Global ed.	Pratt, Charlotte W./Cornely, Kathleen		Wiley	2018/03/27
99	Protein Structure and Modeling	Kurochkina, Natalya		Springer Singapore	2019/06/18
100	Proteomics for Biological Discovery, 2nd ed.		Veenstra, Timothy D./III, Yates, John R.	Wiley-Blackwell	2019/07/05
101	Pulmonary Physiology, 9th ed.	Levitzky, Michael G.		McGraw-Hill	2018/01/08
102	RNA Worlds: New Tools for Deep Exploration	Atkins, John F./Steitz, Joan A./Cech, Thomas R.		Cold Spring Harbor Laboratory	2018/12/01
103	The Human Body	Carlson, Bruce M.		Academic Pr.	2018/11/09
104	Vander's Renal Physiology, 9th ed.	Eaton, Douglas C./Pooler, John		McGraw-Hill	2018/04/03
105	Voet's Principles of Biochemistry, 5th ed./Global ed.	Voet, Donald/Pratt, Charlotte W./Voet, Judith G.		Wiley	2018/01/23
106	Clinical Pharmacy and Therapeutics, 6th ed.		Whittlesea, Cate/Hodson, Karen	Elsevier	2018/08/17
107	Critical Issues in Alcohol and Drugs of Abuse Testing, 2nd ed.		Dasgupta, Amitava	Academic Pr.	2019/01/30
108	Immunopharmacology and Inflammation		DeCarli, Carlo/Levi-Schaffer,	Springer International Pub.	2018/06/25
109	Integrin Targeting Systems for Tumor Diagnosis and Therapy (Methods in Pharmacology and Toxicology)		Patsenker, Eleonora	Humana Pr.	2018/05/03
110	Molecular Medicines for Cancer: Concepts and Applications of Nanotechnology		Chowdhury, Deepak/Mittal, Anusuma/Mahapatra, Samir	CRC Pr.	2018/10/12
111	Nervous System Drug Delivery		Conner, Russel R./Sant'annarone, Melissa/Rosklyn,	Academic Pr.	2019/07/09
112	Neurocritical Care Pharmacotherapy: A Clinician's Manual	Wijdicks, Eelco F.M./Clark, Sarah L.		Oxford U.P. New York	2018/05/01
113	Pharmacoeconomics and Pharmacovigilance	Nour, Sabrina/Plourde, Gilles		Academic Pr.	2018/11/01
114	Pharmacy: What It Is and How It Works, 4th ed. (Pharmacy Education Series)	Kelly, William N.		Routledge	2018/03/01
115	Post-Authorization Safety Studies of Medicinal Products		Alli, Ayad K./Hartzema, Abraham G.	Academic Pr.	2018/07/03
116	Pregnancy and the Pharmaceutical Industry	Shields, Kristine E.		Academic Pr.	2019/06/07

外国書

NO	書名詳細	著者	編者	出版社	発行日
117	Research Methods in Pharmacy Practice	Austin, Zubin/Sutton, Jane		Elsevier	2018/04/23
118	Advances in Diagnosis and Management of Cutaneous Adverse Drug Reactions: Current and Future Trends		Shear, Neil H./Dodiuk-Gad, Roni P.	Springer Singapore	2018/10/25
119	Atropisomerism And Axial Chirality		Jose M. Fernandez	World Scientific	2019/05/27
120	Cobert's Manual Of Drug Safety And Pharmacovigilance (Third Edition), 3rd ed.	Cobert, Barton/Gregory, William/Thomas, Jean-Loup		World Scientific	2019/04/10
121	Drug Policy and the Public Good, 2nd ed.	Benedikt/Foxcroft, Jonathan/Fischer, David/Humbrecht		Oxford U.P.	2018/07/12
122	Handbook of Smart Materials in Analytical Chemistry		Miguel/Estevé-Turrillas,	Wiley-Blackwell	2019/04/12
123	Introduction to Fluorescence Correlation Spectroscopy	Elson, Elliot L./Qian, Hong		Taylor & Francis	2019/05/06
124	The SAGE Encyclopedia of Pharmacology and Society		Boslaugh, Sarah E.	Sage Pub.	2016/02/12
125	Basic and Clinical Pharmacology, 14th ed.	Trevor, Anthony J./Katzung, Bertram G.		McGraw-Hill	2017/11/30
126	Brenner and Stevens' Pharmacology, 5th ed.	Stevens, Craig/Brenner, George M.		Elsevier	2017/11/22
127	Color Atlas of Pharmacology, 5th ed.	Lullmann, Heinz/Mohr, Klaus/Hein, Lutz		Georg Thieme Verlag	2017/11/15
128	Goodman and Gilman's the Pharmacological Basis of Therapeutics, 13th ed.	Brunton, Laurence/Hilal-Dandan, Randa/Knollman, Bjorn		McGraw-Hill	2017/12/05
129	Handbook of Pharmaceutical Excipients, 8th ed.			Pharmaceutica Press	2017/08/11
130	Lu's Basic Toxicology: Fundamentals, Target Organs, and Risk Assessment, Seventh Edition, 7th ed.	Lee, Byung-Mu/Kacew, Sam/Kim, Hyung Sik		CRC Pr.	2017/09/12
131	Roach's Introductory Clinical Pharmacology, 11th ed.	Ford, Susan		Lippincott Williams & Wilkins	2017/11/25
132	Automation Solutions for Analytical Measurements: Concepts and Applications	Fleischer, Heidi/Thurov, Kerstin		Wiley-VCH	2017/09/13
133	Antibiotics Manual: A Guide to commonly used antimicrobials, 2nd ed.	Schlossberg, David L./Samuel, Rafik		Wiley-Blackwell	2017/10/13
134	Experimental Organic Chemistry, 3rd ed.	Cranwell, Philippa B./Harwood, Laurence M./Moody, Christopher J.		Wiley-Blackwell	2017/08/18
135	Handbook of Research on Medicinal Chemistry: Innovations and Methodologies		Debarshi Kar/Bharti, Ranjiv Kumar Wang, Hongda/Li, Guohui	Apple Academic Pr.	2017/12/20
136	Membrane Biophysics: New Insights and Methods		Rigoard, Philippe	Springer International Pub.	2017/12/01
137	Atlas of Anatomy of the Peripheral Nerves: The Nerves of the Limbs - Student Edition				2017/10/02
138	DNA Nanoscience: From Prebiotic Origins to Emerging Nanotechnology	Douglas, Kenneth		CRC Pr.	2017/08/11
139	Essentials of Glycobiology, 3rd ed.		Varki, Ajit	Cowi Spring Harbor Laboratory Books	2017/08/31
140	Human Biochemistry	Litwack, Gerald		Academic Pr.	2017/11/22
141	Human Dna Polymerases: Biology, Medicine And Biotechnology	Maga, Giovanni/Spadari, Silvio/Villani, Giuseppe		World Scientific	2017/11/13
142	Human Physiology, 5th ed.	Pocock, Gillian/Richards, Christopher D./Richards, David A.		Oxford U.P.	2017/12/07
143	Musculoskeletal Ultrasound Cross-Sectional Anatomy	Cianca, John C./Patel, Shounuck I.		Demos Medical Publishing	2017/10/19
144	RNA Methodologies: Laboratory Guide for Isolation and Characterization, 5th ed.	Farrell, Jr., Robert E.		Academic Pr.	2017/09/08
145	A Practical Guide to Contemporary Pharmacy Practice and Compounding, 4th ed.	Lester Elder, Deborah		Lippincott Williams & Wilkins	2017/10/24

外国書

NO	書名詳細	著者	編者	出版社	発行日
146	A Treatise on Topical Corticosteroids in Dermatology: Use, Misuse and Abuse		Lahiri, Koushik	Springer Singapore	2017/08/29
147	Applied Biophysics for Drug Discovery		Huddler, Donald/Zartler, Edward R.	Wiley-Blackwell	2017/10/06
148	Protein Therapeutics (Methods and Principles in Medicinal Chemistry)		Vaughan, Tristan/Osbourne, Jane/Jallat, Rabih	Wiley-VCH	2017/09/20
149	Nonclinical Drug Administration: Formulations, Routes and Regimens for Solving Drug Delivery Problems in Animal Model Systems	Gad, Shayne C./Spainhour, Charles B.		CRC Pr.	2017/08/10
150	Social and Administrative Aspects of Pharmacy in Low- and Middle-Income Countries		Mohamed Ltham Mohamed/Mustafa	Academic Pr.	2017/11/07

DVD

NO	形式	タイトル	発売元	発行年	本数
1	DVD	初歩からの化学'18 【全18巻】	(一財) 放送大学教育振興会	2018	15
2	DVD	現代の生物学—世界を救うサイエンス【全13巻】	新宿スタジオ	2015	13
3	DVD	和漢医薬学の基礎知識【全3巻】	医学映像センター	2007	3
4	DVD	薬物治療に貢献する～病院薬剤師の役割～	(一財) 放送大学教育振興会	2011	1
				合計	32

電子ジャーナル

No.	タイトル	出版社名
0	Biochemical Pharmacology	Elsevier
1	Chemico-Biological Interactions	Elsevier
2	Environmental Research	Elsevier
3	Environmental Toxicology and Pharmacology	Elsevier
4	European Journal of Pharmaceutical Sciences	Elsevier
5	Journal of Pharmacological and Toxicological Methods	Elsevier
6	Reproductive Toxicology	Elsevier
7	Tetrahedron	Elsevier
8	Tetrahedron Letters	Elsevier
9	Toxicology	Elsevier
10	Toxicology & Applied Pharmacology	Elsevier
11	Toxicology Letters	Elsevier
12	Food & Chemical Toxicology	Elsevier
13	International Journal of Pharmaceutics	Elsevier
14	Journal of Controlled Release	Elsevier
15	Pharmacology & Therapeutics	Elsevier
16	Journal of pharmaceutical and biomedical analysis	Elsevier
17	Nature Reviews Drug Discovery	Springer Nature
18	Nature Chemical Biology	Springer Nature
19	Nature Chemistry	Springer Nature
20	Clinical Drug Investigation	Springer Nature
21	Clinical Pharmacokinetics	Springer Nature
22	CNS Drugs (ADIS)	Springer Nature
23	Drugs(incl.Suppl) (ADIS)	Springer Nature
24	Drugs and Aging (ADIS)	Springer Nature
25	PharmacoEconomics(ADIS)	Springer Nature
26	Journal of Antibiotics	Springer Nature
27	Angewandte Chemie International Ed.	Wiley
28	Chemistry - A European Journal	Wiley
29	Chemistry - An asian Journal	Wiley
30	ChemBioChem	Wiley
31	Journal of Asian Natural Products Research	Taylor & Francis
32	Journal of Environmental Science and Health Pt.B	Taylor & Francis
33	Journal of Environmental Science and Health Pt.C	Taylor & Francis
34	Journal of Toxicology and Environmental Health : Pt.A	Taylor & Francis
35	Journal of Toxicology and Environmental Health : Pt.B	Taylor & Francis
36	Synthetic communications	Taylor & Francis
37	Journal of Biopharmaceutical Statistics	Taylor & Francis
38	Drug metabolism and disposition	American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics (ASPET)
39	The journal of pharmacology and experimental therapeutics	American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics (ASPET)
40	Biochemistry and cell biology	Nuclear Regulatory Commission (NRC)
41	Canadian journal of chemistry	Nuclear Regulatory Commission (NRC)
42	Pharmacology	Karger
43	Journal of Child and adolescent Psychopharmacology	Mary Ann Liebert
44	Adverse Drug Reaction Bulletin	Wolters Kluwer
45	Anti-Cancer Drugs	Wolters Kluwer
46	Behavioural Pharmacology	Wolters Kluwer
47	Biologica Chemistry	Wolters Kluwer
48	Clinical Neuropharmacology	Wolters Kluwer
49	International Clinical Psychopharmacology	Wolters Kluwer

電子ジャーナル

No.	タイトル	出版社名
50	Journal of Addiction Medicine	Wolters Kluwer
51	Journal of Cardiovascular Pharmacology	Wolters Kluwer
52	Journal of Clinical Psychopharmacology	Wolters Kluwer
53	Pharmacogenetics and Genomics	Wolters Kluwer
54	Therapeutic Drug Monitoring	Wolters Kluwer
55	Clin-Alert	Sage
56	Human and Experimental Toxicology	Sage
57	Innate Immunity	Sage
58	International Journal of Toxicology	Sage
59	Journal of Bioactive and Compatible Polymers	Sage
60	Journal of Cardiovascular Pharmacology and Therapeutics	Sage
61	Journal of Oncology Pharmacy Practice	Sage
62	Journal of Pharmacy Practice	Sage
63	Journal of Psychopharmacology	Sage
64	Accounts of Chemical Research	American Chemical Society ※1
65	ACS Applied Bio Materials(New mid-2018)	American Chemical Society ※1
66	ACS Applied Electronic Materials(New in 2019)	American Chemical Society ※1
67	ACS Applied Energy Materials	American Chemical Society ※1
68	ACS Applied Materials & Interfaces	American Chemical Society ※1
69	ACS Applied Nano Materials	American Chemical Society ※1
70	ACS Applied Polymer Materials(New in 2019)	American Chemical Society ※1
71	ACS Biomaterials Science & Engineering	American Chemical Society ※1
72	ACS Catalysis	American Chemical Society ※1
73	ACS Central Science	American Chemical Society ※1
74	ACS Chemical Biology	American Chemical Society ※1
75	ACS Chemical Neuroscience	American Chemical Society ※1
76	ACS Combinatorial Science	American Chemical Society ※1
77	ACS Earth and Space Chemistry	American Chemical Society ※1
78	ACS Energy Letters	American Chemical Society ※1
79	ACS Infectious Diseases	American Chemical Society ※1
80	ACS Macro Letters	American Chemical Society ※1
81	ACS Medicinal Chemistry Letters	American Chemical Society ※1
82	ACS Nano	American Chemical Society ※1
83	ACS Omega	American Chemical Society ※1
84	ACS Pharmacology & Translational Science(New mid-2018)	American Chemical Society ※1
85	ACS Photonics	American Chemical Society ※1
86	ACS Sensors	American Chemical Society ※1
87	ACS Sustainable Chemistry & Engineering	American Chemical Society ※1
88	ACS Synthetic Biology	American Chemical Society ※1
89	Analytical Chemistry	American Chemical Society ※1
90	Biochemistry	American Chemical Society ※1
91	Bioconjugate Chemistry	American Chemical Society ※1
92	Biomacromolecules	American Chemical Society ※1
93	C&EN Global Enterprise	American Chemical Society ※1
94	Chemical Research in Toxicology	American Chemical Society ※1
95	Chemical Reviews	American Chemical Society ※1
96	Chemistry of Materials	American Chemical Society ※1
97	Crystal Growth & Design	American Chemical Society ※1
98	Energy & Fuels	American Chemical Society ※1
99	Environmental Science & Technology	American Chemical Society ※1

電子ジャーナル

No.	タイトル	出版社名	
100	Environmental Science & Technology Letters	American Chemical Society	※1
101	Industrial & Engineering Chemistry Research	American Chemical Society	※1
102	Inorganic Chemistry	American Chemical Society	※1
103	Journal of Agricultural and Food Chemistry	American Chemical Society	※1
104	Journal of Chemical & Engineering Data	American Chemical Society	※1
105	Journal of Chemical Education	American Chemical Society	※1
106	Journal of Chemical Information and Modeling	American Chemical Society	※1
107	Journal of Chemical Theory and Computation	American Chemical Society	※1
108	Journal of Medical Chemistry	American Chemical Society	※1
109	Journal of Natural Products	American Chemical Society	※1
110	Journal of Proteome Research	American Chemical Society	※1
111	Journal of the American Chemical Society	American Chemical Society	※1
112	Langmuir	American Chemical Society	※1
113	Macromolecules	American Chemical Society	※1
114	Molecular Pharmaceutics	American Chemical Society	※1
115	Nano Letters	American Chemical Society	※1
116	Organic Letters	American Chemical Society	※1
117	Organic Process Research & Development	American Chemical Society	※1
118	Organometallics	American Chemical Society	※1
119	The Journal of Organic Chemistry	American Chemical Society	※1
120	The Journal of Physical Chemistry A	American Chemical Society	※1
121	The Journal of Physical Chemistry B	American Chemical Society	※1
122	The Journal of Physical Chemistry C	American Chemical Society	※1
123	The Journal of Physical Chemistry Letters	American Chemical Society	※1
124	Synlett	Thieme	※2
125	Synthesis	Thieme	※2
126	Synfacts	Thieme	※2
127	Analyst	Royal Society Chemistry	※3
128	Analytical Methods	Royal Society Chemistry	※3
129	Biomaterials Science	Royal Society Chemistry	※3
130	Catalysis Science & Technology	Royal Society Chemistry	※3
131	Chemical Communications	Royal Society Chemistry	※3
132	Chemical Society Reviews	Royal Society Chemistry	※3
133	CrystEngComm	Royal Society Chemistry	※3
134	Dalton Transactions	Royal Society Chemistry	※3
135	Energy & Environmental Science	Royal Society Chemistry	※3
136	Environmental Science:Nano	Royal Society Chemistry	※3
137	Environmental Science,Process & Impacts	Royal Society Chemistry	※3
138	Environmental Science,Water Research & Technology	Royal Society Chemistry	※3
139	Faraday Discussions	Royal Society Chemistry	※3
140	Food & Function	Royal Society Chemistry	※3
141	Green Chemistry	Royal Society Chemistry	※3
142	Inorganic Chemistry Frontiers	Royal Society Chemistry	※3
143	Journal of Analytical Atomic Spectrometry	Royal Society Chemistry	※3
144	Journal of Materials Chemistry A	Royal Society Chemistry	※3
145	Journal of Materials Chemistry B	Royal Society Chemistry	※3
146	Journal of Materials Chemistry C	Royal Society Chemistry	※3
147	Lab on a Chip	Royal Society Chemistry	※3
148	Materials Chemistry Fronties	Royal Society Chemistry	※3
149	Materials Horizons	Royal Society Chemistry	※3

電子ジャーナル

No.	タイトル	出版社名	
150	RSC Medical Chemistry	Royal Society Chemistry	※3
151	Metallomics	Royal Society Chemistry	※3
152	Molecular Omics	Royal Society Chemistry	※3
153	Molecular Systems Design & Engineering	Royal Society Chemistry	※3
154	Nanoscale	Royal Society Chemistry	※3
155	Nanoscale Horizons	Royal Society Chemistry	※3
156	Natural Product Reports	Royal Society Chemistry	※3
157	New Journal of Chemistry	Royal Society Chemistry	※3
158	Organic & Biomolecular Chemistry	Royal Society Chemistry	※3
159	Organic Chemistry Frontiers	Royal Society Chemistry	※3
160	Photochemical & Photobiological Sciences	Royal Society Chemistry	※3
161	Physical Chemistry Chemical Physics	Royal Society Chemistry	※3
162	Polymer Chemistry	Royal Society Chemistry	※3
163	Reaction Chemistry & Engineering	Royal Society Chemistry	※3
164	Soft Matter	Royal Society Chemistry	※3
165	Sustainable Energy & Fuels	Royal Society Chemistry	※3
166	Annual Reports on the Progress of Chemistry,Sect.A	Royal Society Chemistry	※3
167	Annual Reports on the Progress of Chemistry,Sect.B	Royal Society Chemistry	※3
168	Annual Reports on the Progress of Chemistry,Sect.C	Royal Society Chemistry	※3
169	Analytical Abstracts	Royal Society Chemistry	※3
170	Chemical Hazards in Industry	Royal Society Chemistry	※3
171	Laboratory Hazards Bulletin	Royal Society Chemistry	※3
172	Natural Product Updates	Royal Society Chemistry	※3
173	Synthetic Reaction Updates	Royal Society Chemistry	※3
174	Issues in Environmental Science & Technology	Royal Society Chemistry	※3
175	JDreamIII	JST	
176	SciFinder	化学情報協会	
177	Scopus	Elsevier	

※1…American Chemical Society Packageに収録
 ※2…Thieme Packageに収録
 ※3…Royal Society Chemistry Packageに収録

和歌山県立医科大学薬学部一般選抜について

学力検査等の 区分・日程	大学入学共通テスト 利用教科・科目		個別試験 教科・科目	
	教科	科目	教科	科目
前期日程	国語	『国語』	—	—
	数学	『数学Ⅰ・A』の1科目と『数学Ⅱ・B』、『簿記・会計』、『情報関係基礎』から1科目の計2科目。ただし、『簿記・会計』、『情報関係基礎』を選択できる者は、高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）でこれらの課程を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）者に限ります。	数学	「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」 「数学Ⅲ」、「数学A」 「数学B」
	理科	「物理」「化学」「生物」から2科目選択	理科	「物理基礎・物理」 「化学基礎・化学」 「生物基礎・生物」 （2科目選択）
	外国語	『英語』 （リスニングテストを含む）	外国語	「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅰ」 「英語表現Ⅱ」
	地歴・公民	地理歴史（「世界史B」「日本史B」「地理B」）と公民（『倫理、政治・経済』）から1科目選択	—	—
	—	—	面接	—

薬学実務実習施設の調整実施承諾書

和歌山県立医科大学薬学部薬学科の薬学実務実習に必要な施設の確保については、病院・薬局実務実習近畿地区調整機構が、貴大学における長期実務実習の開始前年までに、貴大学学生100人（入学定員100人）の受入れが可能となるよう、調整を行うことを承諾します。

令和元年11月1日

一般社団法人 薬学教育協議会
病院・薬局実務実習近畿地区調整機構
委員長 濱口 常男



公立大学法人和歌山県立医科大学
理事長 宮下 和久 殿

令和2年3月11日

本書は原本と相違ないことを証明する

公立大学法人和歌山県立医科大学

理事長 宮下 和久



〈 第七次和歌山県保健医療計画（平成30年3月策定）より一部抜粋 〉

3. 薬剤師

現状と課題

- 平成28年末に県内届出の薬剤師数は、2,288人であり、人口10万人あたりでは239.8人で、全国平均の237.4人を若干上回っています。圏域別にみると、特に和歌山圏域では多くなっていますが、それ以外の圏域では全国平均を下回っており、薬剤師の地域的な偏在が見られます。
- 業務の種類別にみると、薬局・医療施設の従事者は、1,735人で全体の75.8%を占め、その内訳は薬局の勤務者が969人で最も多く、次いで病院・診療所の従事者が562人、薬局の開設者204人となっています。人口10万人あたりの薬局・医療施設従事薬剤師数は、181.9人で、全国平均の181.3人を若干上回っていますが、薬局の従事者は、123.0人と全国平均の135.6人を下回っています。
- 薬剤師の平均年齢は、50.1歳で、全国で最も平均年齢が高くなっています。業務の種類別にみると、薬局の従事者が50.2歳と高く、次いで病院・診療所の従事者が45.0歳となっており、各業種とも全国平均に比べ高くなっています。
- 薬剤師の業務として、薬局では、調剤及び医薬品の供給等を行う際の薬剤服用歴の管理や、残薬管理、在宅医療への取組み等が求められ、また、病院では、病棟服薬指導の充実など業務が多様化し、薬剤師の需要が高まっています。
このように、薬剤師の確保が重要な課題となっています。
- かかりつけ薬剤師及びかかりつけ薬局（以下、「かかりつけ薬剤師・薬局^{*1}」という。）の定着促進を図るためには、患者の薬剤管理や服薬指導を徹底する必要があり、薬剤師に対する卒後教育研修の充実が必要です。

〔人口10万対 薬剤師総数及び薬局・医療施設に従事する薬剤師の年次推移〕

	年次	薬剤師数 (人)	人口 10万 対	薬局の従事者		病院・ 診療所 (人)	計	人口 10万 対
				薬局開設者 (人)	薬局勤務者 (人)			
和歌山 県	H22	2,135	213.0	225	726	520	1,471	146.8
	H24	2,192	221.9	221	802	525	1,548	156.6
	H26	2,163	222.8	206	847	542	1,595	164.2
	H28	2,288	239.8	204	969	562	1,735	181.9
全 国	H22	276,517	215.9	18,884	126,719	52,013	197,616	154.3
	H24	280,052	219.6	18,358	134,654	52,704	205,716	161.3
	H26	288,151	226.7	17,859	143,339	54,879	216,077	170.0
	H28	301,323	237.4	17,201	154,941	58,044	230,186	181.3

厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

〔人口10万対 平成28年末の各圏域別薬局・医療施設に従事する薬剤師数〕

圏域名	総数	薬局の 従事者	病院・診療 所の従事者	計
和歌山	314.5	159.5	71.3	230.8
那 賀	177.4	95.7	39.1	134.8
橋 本	213.8	129.9	46.0	175.9
有 田	180.8	69.9	53.4	123.3
御 坊	215.9	93.7	79.4	173.0
田 辺	145.7	81.1	47.2	128.3
新 宮	176.1	95.5	40.3	135.8
全 県	239.8	123.0	58.9	181.9
全 国	237.4	135.6	45.7	181.3

厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

〔平成28年末の薬局・医療施設に従事する薬剤師の平均年齢 業務の種別〕

	総 数 平均年齢 (歳)	薬局の従事者 平均年齢 (歳)	病院・診療所の 従事者平均年齢 (歳)	計
和歌山県	50.1	50.2	45.0	48.5
全国	46.0	46.5	42.3	45.5

厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

【課題項目】

- ① 薬剤師の確保
- ② 薬剤師に対する卒後教育研修の充実

施策の方向

(1) 薬剤師の確保

- 一般社団法人和歌山県薬剤師会と連携しながら、薬剤師バンク^{※2}の活用や、薬剤師の少ない地域における未就業薬剤師の就労支援、県内出身の薬学生へのUターン就職の働きかけを強化します。
- 病院や薬局における薬学生長期実務実習を円滑に受け入れられるよう、一般社団法人和歌山県薬剤師会、一般社団法人和歌山県病院薬剤師会など関係団体と連携し体制整備を図ります。
- 2021(平成33)年4月から県立医科大学薬学部の開学が予定されており、第1期生が卒業する2027(平成39)年に向けて、一般社団法人和歌山県薬剤師会や一般社団法人和歌山県病院薬剤師会と連携し、県内に就職、定着するための仕組みを構築します。

(2) 薬剤師に対する卒後教育研修の充実

- 薬剤師の研修については、一般社団法人和歌山県薬剤師会等が実施する、質の向上等に資する研修会に加え、薬剤師がチーム医療の一員としての役割を果たせるよう県主催の研修会等を充実します。

数値目標

(1) 薬剤師の確保

項目	現状	目標(2023年度)	設定の考え方
薬局・医療施設に従事する人口10万対薬剤師数	181.9人 (2016年度)	全国平均薬局・医療施設に従事する人口10万人対薬剤師数	全国平均以上を維持する

(2) 薬剤師に対する卒後教育研修の充実

項目	現状	目標(2023年度)	設定の考え方
薬剤師研修会の実施回数	年間1回 (2016年度)	年間3回	紀北、紀中、紀南で実施

■ 用語の説明

※1 かかりつけ薬剤師・薬局

患者が信頼のできる薬剤師または薬局を決め、複数の医療機関から発行された処方せんをその薬局で調剤してもらうことで、薬剤師が服薬の状況を記録したり服薬指導を行うことにより、薬物療法の有効性と安全性を高めることが可能となるほか、医師・歯科医師と薬剤師が相互に確認し合うことにより、薬の相互作用や重複投薬などを防止することができる。

※2 薬剤師バンク

一般社団法人和歌山県薬剤師会が運営し、薬剤師の就業の斡旋を行っている。

「実務実習実施計画書」の記載事項について（例示）

平成28年11月30日

薬学実務実習に関する連絡会議

「薬学実務実習に関するガイドライン」では、大学が主導的な役割を果たし、病院・薬局と連携して、実習を効果的に実施することを求め、その連携の基本となるものとして、実習開始前に、実習生毎に「実務実習実施計画書」（以下、実施計画書）を作成することとしている。実施計画書の記載事項が大学によって大きく異なると、複数大学の実習生を受け入れる施設等では対応が煩雑になることを考慮し、実施計画書の具体的な記載事項を例示する。本例示を参考に、各大学の主体的な関与の下で、実施計画書を作成し、各実習施設は、大学から提供される実習生や連携する実習施設の情報・状況を考慮して、個々の実習生の具体的な実習計画を立て、大学と実習施設の協議により実施計画書を完成させる。

＜大学が実習施設に提示する事項＞

○実習生に関する情報

学生名、所属、連絡先、実習期間、大学担当教員、大学連絡先、
実習に当たり特に伝達が必要な特記事項

○大学での学習状況

大学での教育内容（特に臨床準備教育）の概略、
大学での学習で気づいた実習に当たり特に伝達が必要な特記事項

○実習の概要

薬局実習施設情報：施設名、連絡先、指導薬剤師名、実習期間
病院実習施設情報：施設名、連絡先、指導薬剤師名、実習期間
薬局と病院でのモデル・コアカリキュラムに準拠した実習内容（「代表的な疾患」
の体験を含む）の分担案
大学、実習施設間での連携事項とその伝達（情報共有）方法

○実習生評価方法

○大学、実習生から実習施設への要望

○その他

＜実習施設が大学に提示する事項＞

○実習施設での具体的な実習内容（「代表的な疾患」の体験を含む）とスケジュール案

○実習指導体制

○実習施設独自の実習内容やその評価方法

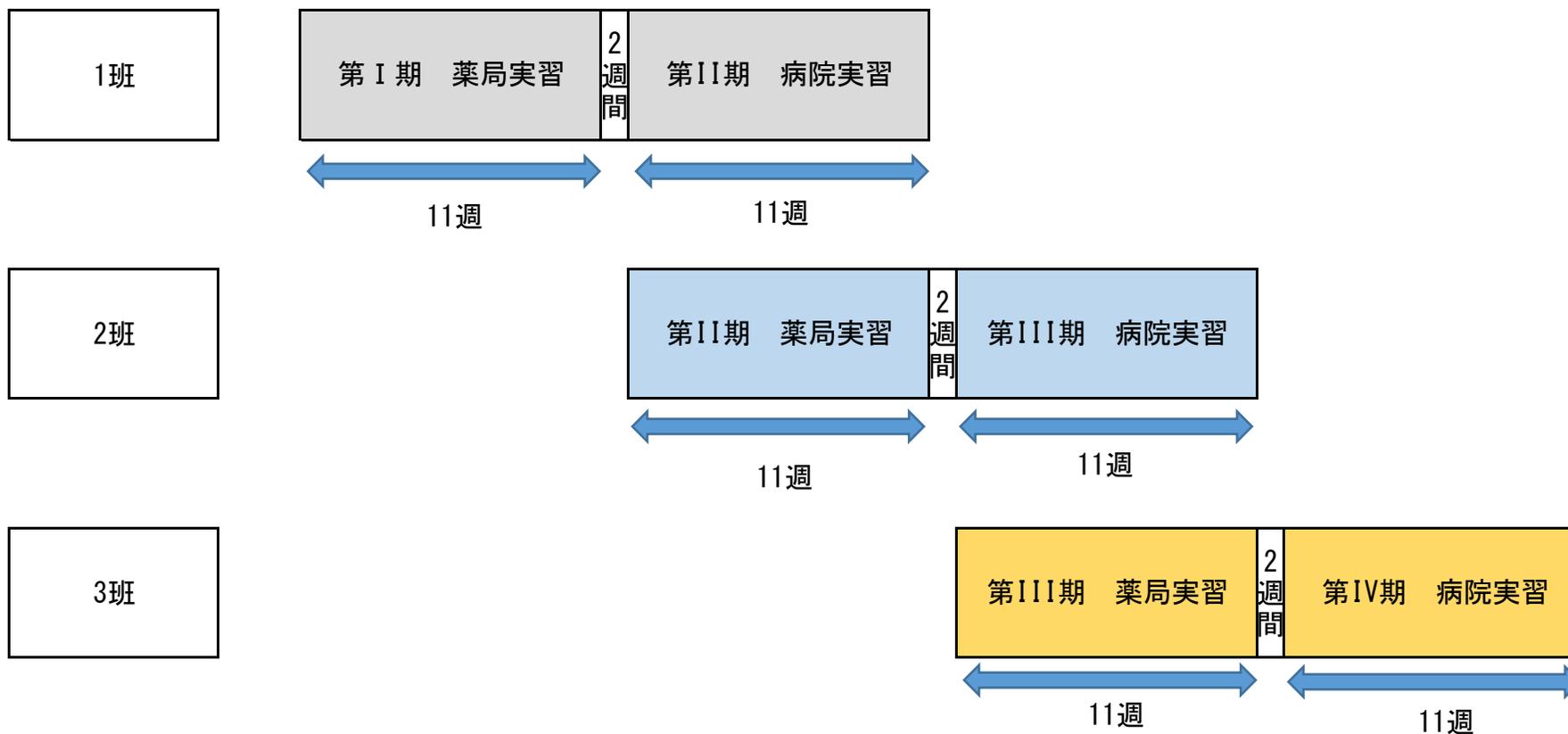
○実習施設から大学、実習生への要望

○その他

実務実習スケジュール

4年次			5年次									
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月

共用試験本試験終了の4年次2月から実務実習開始



薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）「F 薬学臨床」における一般目標(GIO)を達成するための到達目標(SBOs)と本学部実習科目との対応表

F 薬学臨床

GIO

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

※「F 薬学臨床」における代表的な疾患は、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症とする。病院・薬局の実務実習においては、これら疾患を持つ患者の薬物治療に継続的に広く関わること。

前)：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項

(1) 薬学臨床の基礎

GIO

医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

【①早期臨床体験】 ※原則として 2年次修了までに学習する事項

SBOs	開設する実習科目
1. 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞き、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	薬学入門Ⅰ (早期体験学習Ⅰ) 薬学入門Ⅱ (早期体験学習Ⅱ)
2. 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	薬学入門Ⅰ (早期体験学習Ⅰ) 薬学入門Ⅱ (早期体験学習Ⅱ)
3. 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)	薬学入門Ⅰ (早期体験学習Ⅰ) 薬学入門Ⅱ (早期体験学習Ⅱ) 病態生理学Ⅰ

【②臨床における心構え】〔A (1)、(2) 参照〕

SB0s	開設する実習科目
1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)	薬学入門 II 薬学入門 I (早期体験学習 I) 薬学入門 II (早期体験学習 II)
2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)	薬学入門 I (早期体験学習 I) 薬学入門 II (早期体験学習 II)
3. 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)	薬学入門 I (早期体験学習 I) 薬学入門 II (早期体験学習 II)
4. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)	病院・薬局実習
5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)	病院・薬局実習
6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)	病院・薬局実習
7. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)	病院・薬局実習

【③臨床実習の基礎】

SB0s	開設する実習科目
1. 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。	事前学習 I
2. 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	事前学習 I
3. 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。	事前学習 I
4. 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	事前学習 I
5. 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。〔B (3) ①参照〕	事前学習 I

6. 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。	病院・薬局実習
7. 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。	病院・薬局実習
8. 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)	病院・薬局実習
9. 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。	病院・薬局実習
10. 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。	病院・薬局実習
11. 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。	病院・薬局実習
12. 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。	病院・薬局実習
13. 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。	病院・薬局実習
14. 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。	病院・薬局実習
15. 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)	病院・薬局実習

(2) 処方せんに基づく調剤

<p>G10 処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。</p>
--

【①法令・規則等の理解と遵守】 [B (2), (3) 参照]

SBOs	開設する実習科目
1. 前) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。	事前学習 II
2. 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)	事前学習 II
3. 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)	事前学習 II
4. 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。	事前学習 II

【②処方せんと疑義照会】

SB0s	開設する実習科目
1. 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。	事前学習 II
2. 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。	事前学習 II
3. 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。	事前学習 II
4. 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。	事前学習 II
5. 前) 処方せんに監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。	事前学習 II
6. 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。 (技能・態度)	事前学習 II
7. 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)	病院・薬局実習
8. 注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。 (知識・技能)	病院・薬局実習
9. 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)	病院・薬局実習
10. 薬歴、診療録、患者の状態から処方方が妥当であるか判断できる。(知識・技能)	病院・薬局実習
11. 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)	病院・薬局実習

【③処方せんに基づく医薬品の調製】

SB0s	開設する実習科目
1. 前) 薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)	事前学習 II
2. 前) 主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。	事前学習 II
3. 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。 (技能)	事前学習 II
4. 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。	事前学習 II

5. 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。	事前学習 II
6. 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)	事前学習 II
7. 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)	事前学習 II
8. 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)	事前学習 II
9. 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)	病院・薬局実習
10. 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)	病院・薬局実習
11. 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)	病院・薬局実習
12. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)	病院・薬局実習
13. 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)	病院・薬局実習
14. 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)	病院・薬局実習
15. 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。	病院・薬局実習
16. 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)	病院・薬局実習
17. 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)	病院・薬局実習
18. 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)	病院・薬局実習
19. 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)	病院・薬局実習

【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】

SBOs	開設する実習科目
1. 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。(態度)	事前学習 II
2. 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。	事前学習 II
3. 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、	事前学習 II

既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)	
4. 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)	事前学習 II
5. 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。	事前学習 II
6. 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)	事前学習 II
7. 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。	事前学習 II
8. 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)	事前学習 II
9. 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)	病院・薬局実習
10. 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)	病院・薬局実習
11. 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)	病院・薬局実習
12. 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)	病院・薬局実習
13. 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)	病院・薬局実習
14. お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)	病院・薬局実習
15. 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)	病院・薬局実習

【⑤医薬品の供給と管理】

SB0s	開設する実習科目
1. 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	病院・薬局実習
2. 前) 医薬品管理の流れを概説できる。	事前学習 I

3. 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。	事前学習Ⅰ
4. 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。	事前学習Ⅰ
5. 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。	事前学習Ⅰ
6. 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	事前学習Ⅰ
7. 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。	事前学習Ⅰ
8. 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。	事前学習Ⅰ
9. 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。 (知識・技能)	病院・薬局実習
10. 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)	病院・薬局実習
11. 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。	病院・薬局実習
12. 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)	病院・薬局実習
13. 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)	病院・薬局実習

【⑥安全管理】

SBOs	開設する実習科目
1. 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。	事前学習Ⅱ
2. 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。	事前学習Ⅱ
3. 前) 代表的なインシデント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。 (知識・態度)	事前学習Ⅱ
4. 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。	事前学習Ⅱ
5. 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)	事前学習Ⅱ

6. 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。	事前学習 II
7. 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。	事前学習 II
8. 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）	病院・薬局実習
9. 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。	病院・薬局実習
10. 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）	病院・薬局実習
11. 施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）	病院・薬局実習
12. 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）	病院・薬局実習
13. 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）	病院・薬局実習
14. 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）	病院・薬局実習

(3) 薬物療法の実践

<p>G10</p> <p>患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。</p>
--

【① 患者情報の把握】

SBOs	開設する実習科目
1. 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	事前学習 II
2. 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。 （技能・態度）〔E3 (2) ①参照〕	事前学習 II
3. 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。	事前学習 II

4. 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。 (知識・技能)	事前学習 II
5. 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。 (知識・態度)	病院・薬局実習
6. 患者・来局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)	病院・薬局実習
7. 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。 (技能・態度)	病院・薬局実習

【②医薬品情報の収集と活用】〔E3(1)参照〕

SBOs	開設する実習科目
1. 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)	事前学習 II
2. 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)	病院・薬局実習
3. 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)	病院・薬局実習
4. 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)	病院・薬局実習
5. 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)	病院・薬局実習
6. 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。 (知識・態度)	病院・薬局実習

【③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】

SBOs	開設する実習科目
1. 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。	事前学習 II
2. 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。	事前学習 II
3. 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。	事前学習 II

4. 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。	事前学習 II
5. 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。	事前学習 II
6. 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。	事前学習 II
7. 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。	病院・薬局実習
8. 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方方を立案できる。	病院・薬局実習
9. 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方方を提案できる。（知識・態度）	病院・薬局実習
10. 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコールやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）	病院・薬局実習
11. 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）	病院・薬局実習
12. アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）	病院・薬局実習
13. 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。	病院・薬局実習
14. 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）	病院・薬局実習

【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】

SBOs	開設する実習科目
1. 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。	事前学習 II
2. 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。（知識・技能）	事前学習 II
3. 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。（知識・技能）	事前学習 II
4. 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。（知識・態度）	病院・薬局実習

5. 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定のプロセスを提案できる。 (知識・態度)	病院・薬局実習
6. 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)	病院・薬局実習
7. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。	病院・薬局実習
8. 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	病院・薬局実習
9. 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	病院・薬局実習
10. 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)	病院・薬局実習
11. 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)	病院・薬局実習
12. 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)	病院・薬局実習
13. 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)	病院・薬局実習

(4) チーム医療への参画 [A(4)参照]

<p>G10 医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。</p>

【①医療機関におけるチーム医療】

SBOs	開設する実習科目
1. 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	事前学習 I
2. 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	事前学習 I
3. 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。	事前学習 I

4. 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。 (態度)	病院・薬局実習
5. 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)	病院・薬局実習
6. 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。(知識・態度)	病院・薬局実習
7. 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)	病院・薬局実習
8. 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)	病院・薬局実習
9. 病院内の多様な医療チーム(ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)	病院・薬局実習

【②地域におけるチーム医療】

SBOs	開設する実習科目
1. 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。	事前学習 I
2. 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)	事前学習 II
3. 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)	病院・薬局実習
4. 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)	病院・薬局実習

(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B(4)参照]

<p>G10</p> <p>地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。</p>
--

【①在宅（訪問）医療・介護への参画】

SBOs	開設する実習科目
1. 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。	事前学習 I
2. 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。	事前学習 I
3. 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。	事前学習 I
4. 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）	病院・薬局実習
5. 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）	病院・薬局実習
6. 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）	病院・薬局実習

【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】

SBOs	開設する実習科目
1. 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。	事前学習 I
2. 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。	事前学習 I
3. 学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）	病院・薬局実習
4. 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）	病院・薬局実習

【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 [E2(9)参照]

SBOs	開設する実習科目
1. 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。（態度）	事前学習 II
2. 前) 代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。（知識・態度）	事前学習 II

3. 前) 代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。（技能・態度）	事前学習 II
4. 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。（知識・態度）	事前学習 II
5. 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。（技能・態度）	病院・薬局実習
6. 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。（知識・態度）	病院・薬局実習
7. 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。（知識・態度）	病院・薬局実習
8. 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。（知識・態度）	病院・薬局実習
9. 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。（知識・態度）	病院・薬局実習

【④災害時医療と薬剤師】

SBOs	開設する実習科目
1. 前) 災害時医療について概説できる。	地域医療薬学 II 災害薬学 事前学習 I
2. 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。	病院・薬局実習
3. 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）	病院・薬局実習

教育課程と指定規則等の対応表

A 基本事項

一般目標 (G10)	開設する科目
<p>(1) 薬剤師の使命</p> <p>医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。</p>	<p>薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅰ (早期体験学習Ⅰ) 薬学入門Ⅱ (早期体験学習Ⅱ) ケア・マインド教育Ⅰ ケア・マインド教育Ⅱ 社会薬学Ⅰ 社会薬学Ⅱ 医療倫理 社会薬学Ⅲ 社会薬学Ⅳ 社会薬学Ⅴ 社会薬学演習Ⅰ</p>
<p>(2) 薬剤師に求められる倫理観</p> <p>倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。</p>	<p>薬学入門Ⅱ 薬学入門Ⅰ (早期体験学習Ⅰ) 薬学入門Ⅱ (早期体験学習Ⅱ) 社会薬学Ⅱ 医療倫理 社会薬学Ⅳ 社会薬学Ⅴ 社会薬学演習Ⅰ</p>
<p>(3) 信頼関係の構築</p> <p>患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。</p>	<p>薬学入門Ⅰ ケア・マインド教育Ⅰ ケア・マインド教育Ⅱ 社会薬学演習Ⅰ 地域医療薬学Ⅰ 地域医療薬学Ⅱ</p>
<p>(4) 多職種連携協働とチーム医療</p> <p>医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。</p>	<p>薬学入門Ⅰ ケア・マインド教育Ⅰ ケア・マインド教育Ⅱ 地域医療薬学Ⅰ</p>

	地域医療薬学 II 医療安全学 I 事前学習 I 臨床医学 医療安全学 II
(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成 生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、 修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲 と行動力を身につける。	薬学入門 II 薬学入門 I (早期体験学習 I) 薬学入門 II (早期体験学習 II)

B 薬学と社会

一般目標 (GIO)	開設する科目
人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、 保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域 における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵 守する態度を身につける。	
(1) 人と社会に関わる薬剤師 人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤 師の関わりを認識する。	薬学入門 I 薬学入門 I (早期体験学習 I) 薬学入門 II 薬学入門 II (早期体験学習 II) 社会薬学 III 事前学習 I 事前学習 II
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範 調剤、医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、 再生医療等製品）の供給、その他薬事衛生に係る任務を薬 剤師として適正に遂行するために必要な法規範とその意義 を理解する。	社会薬学 III 医療倫理 医薬品情報学 医薬品情報学演習
(3) 社会保障制度と医療経済 社会保障制度のもとで提供される医療と福祉について、現 状と課題を認識するとともに、薬剤師が担う役割とその意 義を理解する。	薬学入門 I 薬学入門 II 薬学入門 I (早期体験学習 I) 薬学入門 II (早期体験学習 II)

	医薬品情報学 事前学習Ⅰ 事前学習Ⅱ
(4) 地域における薬局と薬剤師 地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ 薬学入門Ⅰ (早期体験学習Ⅰ) 薬学入門Ⅱ (早期体験学習Ⅱ) 地域医療薬学Ⅰ 地域医療薬学Ⅱ 事前学習Ⅰ 事前学習Ⅱ

C 薬学基礎

一般目標 (GIO)	開設する科目
C1 物質の物理的性質 物質の物理的性質を理解するために、原子・分子の構造、熱力学、反応速度論などに関する基本的事項を身につける。	
(1) 物質の構造 物質を構成する原子・分子の構造、および化学結合に関する基本的事項を修得する。	有機化学 有機化学演習 物理化学Ⅱ 放射化学
(2) 物質のエネルギーと平衡 物質の状態を理解するために、熱力学に関する基本的事項を修得する。	基礎物理学
(3) 物質の変化 物質の変換過程を理解するために、反応速度論に関する基本的事項を修得する。	物理化学Ⅰ 物理化学演習Ⅰ
C2 化学物質の分析 化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、物質の定性、定量に関する基本的事項を修得する。	
(1) 分析の基礎 化学物質の分析に用いる器具の使用法と得られる測定値の取り扱いに関する基本的事項を修得する。	薬学基礎実習Ⅰ
(2) 溶液中の化学平衡 溶液中の化学平衡に関する基本的事項を修得する。	無機化学

<p>(3) 化学物質の定性分析・定量分析 化学物質の定性分析および定量分析に関する基本的事項を修得する。</p>	無機化学
<p>(4) 機器を用いる分析法 機器を用いる分析法の原理とその応用に関する基本的事項を修得する。</p>	物理化学 II 物理化学演習 II
<p>(5) 分離分析法 分離分析法に関する基本的事項を修得する。</p>	物理化学 II 物理化学演習 II
<p>(6) 臨床現場で用いる分析技術 臨床現場で用いる代表的な分析技術に関する基本的事項を修得する。</p>	専門実習 (物理・化学系) 薬物治療学 III
<p>C3 化学物質の性質と反応 化学物質を理解できるようになるために、代表的な有機化合物の構造、性質、反応、分離法、構造決定法、および無機化合物の構造と性質に関する基本的事項を修得する。</p>	
<p>(1) 化学物質の基本的性質 基本的な有機化合物の命名法、電子配置、反応、立体構造などに関する基本的事項を修得する。</p>	有機薬化学 I 有機薬化学演習
<p>(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応 有機化合物の基本骨格となる脂肪族および芳香族化合物の構造、性質、反応性などに関する基本的事項を修得する。</p>	有機薬化学 II
<p>(3) 官能基の性質と反応 官能基を有する有機化合物の性質、反応性に関する基本的事項を修得する。</p>	有機薬化学 III
<p>(4) 化学物質の構造決定 代表的な機器分析としての核磁気共鳴 (NMR) 、赤外吸収 (IR) 、質量分析による構造決定法の基本的事項を修得する。</p>	機器分析化学
<p>(5) 無機化合物・錯体の構造と性質 代表的な無機化合物・錯体 (医薬品を含む) の構造、性質に関する基本的事項を修得する。</p>	無機化学
<p>C4 生体分子・医薬品の化学による理解 医薬品の生体内での作用を化学的に理解できるようになるために、医薬品標的および医薬品の構造と性質、生体反応の化学に関する基本的事項を修得する。</p>	
<p>(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質 医薬品の標的となる生体分子の基本構造と、その化学的な性質に関する基本的事項を修得する。</p>	医薬品化学 I

<p>(2) 生体反応の化学による理解 医薬品の作用の基礎となる生体反応の化学的理解に関する基本的事項を修得する。</p>	医薬品化学 I
<p>(3) 医薬品の化学構造と性質、作用 医薬品に含まれる代表的な構造およびその性質を医薬品の作用と関連づける基本的事項を修得する。</p>	医薬品化学 II
<p>C5 自然が生み出す薬物 自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようになるために、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用および天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用などに関する基本的事項を修得する。</p>	
<p>(1) 薬になる動植物 基原、性状、含有成分、品質評価などに関する基本的事項を修得する。</p>	天然物化学・生薬学 I
<p>(2) 薬の宝庫としての天然物 医薬品資源としての天然生物活性物質を構造によって分類・整理するとともに、天然生物活性物質の利用に関する基本的事項を修得する。</p>	天然物化学・生薬学 II
<p>C6 生命現象の基礎 生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項を修得する。</p>	
<p>(1) 細胞の構造と機能 細胞膜、細胞小器官、細胞骨格などの構造と機能に関する基本的事項を修得する。</p>	生物学
<p>(2) 生命現象を担う分子 生命現象を担う分子の構造、性質、役割に関する基本的事項を修得する。</p>	生物学 生命科学 I
<p>(3) 生命活動を担うタンパク質 生命活動を担うタンパク質の構造、性質、機能、代謝に関する基本的事項を修得する。</p>	生命科学 I 生命科学演習
<p>(4) 生命情報を担う遺伝子 生命情報を担う遺伝子の複製、発現と、それらの制御に関する基本的事項を修得する。</p>	生命科学 II 生命科学演習
<p>(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系 生体エネルギーの産生、貯蔵、利用、およびこれらを担う糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝に関する基本的事項を修得する。</p>	生命科学 I 生命科学演習

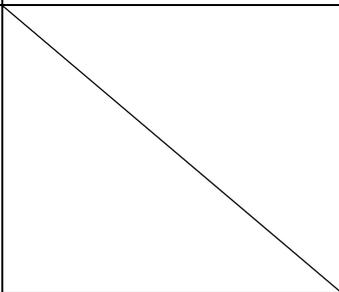
<p>(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達 細胞間コミュニケーション及び細胞内情報伝達の方法と役割に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>生命科学 III 生命科学演習</p>
<p>(7) 細胞の分裂と死 細胞周期と分裂、細胞死に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>分子生物学</p>
<p>C7 人体の成り立ちと生体機能の調節 人体の成り立ちを個体、器官、細胞の各レベルで理解できるようになるために、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項を修得する。</p>	/
<p>(1) 人体の成り立ち 遺伝、発生、および各器官の構造と機能に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>分子生物学 機能形態学 I 機能形態学 II</p>
<p>(2) 生体機能の調節 生体の維持に関わる情報ネットワークを担う代表的な情報伝達物質の種類、作用発現機構に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>生理学 I 生理学 II</p>
<p>C8 生体防御と微生物 生体の恒常性が崩れたときに生ずる変化を理解できるようになるために、免疫反応による生体防御機構とその破綻、および代表的な病原微生物に関する基本的事項を修得する。</p>	/
<p>(1) 身体をまもる ヒトの主な生体防御反応としての免疫応答に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>免疫学 I</p>
<p>(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用 免疫応答の制御とその破綻、および免疫反応の臨床応用に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>免疫学 II</p>
<p>(3) 微生物の基本 微生物の分類、構造、生活環などに関する基本的事項を修得する。</p>	<p>感染防御学 I</p>
<p>(4) 病原体としての微生物 ヒトと微生物の関わりおよび病原微生物に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>感染防御学 II 感染防御学 III</p>

D 衛生薬学

一般目標 (G10)	開設する科目
<p>D1 健康 人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、現代社会における疾病とその予防、栄養と健康に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p>	
<p>(1) 社会・集団と健康 人々（集団）の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するために、保健統計と疫学に関する基本的事項を修得する。</p>	衛生化学 II
<p>(2) 疾病の予防 健康を理解し疾病の予防に貢献できるようになるために、感染症、生活習慣病、職業病などについての現状とその予防に関する基本的事項を修得する。</p>	衛生化学 II
<p>(3) 栄養と健康 食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的事項を修得する。</p>	衛生化学 I
<p>D2 環境 人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、化学物質などのヒトへの影響、適正な使用、および地球生態系や生活環境と健康との関わりにおける基本的知識、技能、態度を修得する。</p>	
<p>(1) 化学物質・放射線の生体への影響 化学物質などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるために、化学物質の毒性などに関する基本的事項を修得する。</p>	分子生物学 毒性学 衛生化学 III 衛生化学演習
<p>(2) 生活環境と健康 地球生態系や生活環境を保全、維持できるようになるために、環境汚染物質などの成因、測定法、生体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的事項を修得する。</p>	衛生化学 III 衛生化学演習

E 医療薬学

一般目標 (G10)	開設する科目
<p>E1 薬の作用と体の変化 疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を理解する。</p>	
<p>(1) 薬の作用</p>	薬理学 I

<p>医薬品を薬効に基づいて適正に使用できるようになるために、薬物の生体内における作用に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>薬理学演習Ⅰ 医薬品安全性学</p>
<p>(2) 身体の病的変化を知る 身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・臨床検査に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>病態生理学Ⅰ</p>
<p>(3) 薬物治療の位置づけ 医療チームの一員として薬物治療に参画できるようになるために、代表的な疾患における治療と薬物療法に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>薬物治療学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ 臨床薬学概論</p>
<p>(4) 医薬品の安全性 医療における医薬品のリスクを回避できるようになるために、有害事象（副作用、相互作用）、薬害、薬物乱用に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>薬物治療学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ 臨床薬学概論 医薬品安全性学 医薬品情報学 医薬品情報学演習 医療統計解析学</p>
<p>E2 薬理・病態・薬物治療 患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。</p>	
<p>(1) 神経系の疾患と薬 神経系・筋に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>薬理学Ⅰ 薬理学演習Ⅰ</p>
<p>(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>薬理学Ⅱ 薬理学演習Ⅱ 免疫学Ⅰ 免疫学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ</p>
<p>(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬</p>	<p>薬物治療学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ</p>

<p>循環器系・血液・造血器系・泌尿器系・生殖器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>薬物治療学 III 薬理学 II</p>
<p>(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬 呼吸器系・消化器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>薬物治療学 II 薬理学 II</p>
<p>(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬 代謝系・内分泌系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>薬物治療学 II 薬物治療学 III 薬理学 II</p>
<p>(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬 感覚器・皮膚の疾患と薬の薬理作用・機序および副作用に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>薬物治療学 III 薬理学 III 薬理学演習 III</p>
<p>(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬 病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫）、および悪性新生物に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>臨床感染制御学 がん・化学療法学 医薬品化学 II 感染防御学 I 感染防御学 II 感染防御学 III</p>
<p>(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報 医薬品としてのタンパク質、遺伝子、細胞を適正に利用するために、それらを用いる治療に関する基本的知識を修得し、倫理的態度を身につける。併せて、ゲノム情報の利用に関する基本的事項を修得する。</p>	<p>医薬品開発学</p>
<p>(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション 適切な薬物治療および地域の保健・医療に貢献できるようになるために、要指導 医薬品・一般用医薬品およびセルフメディケーションに関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的事項を修得する。</p>	<p>地域医療薬学 I 地域医療薬学 II</p>
<p>(10) 医療の中の漢方薬 漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方薬の適応、副作用や</p>	<p>天然物化学・生薬学 I</p>

注意事項などに関する基本的事項を修得する。	
(11) 薬物治療の最適化 最適な薬物治療の実現に貢献できるようになるために、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。	薬物治療学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ 薬物治療学演習
E3 薬物治療に役立つ情報 薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上的問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。	
(1) 医薬品情報 医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理・評価、EBMの実践、生物統計ならびに臨床研究デザイン・解析に関する基本的事項を修得する。	医薬品情報学 医薬品安全性学 医療統計解析学
(2) 患者情報 患者からの情報の収集、評価に必要な基本的事項を修得する。	臨床薬剤学Ⅱ
(3) 個別化医療 薬物治療の個別化に関する基本的事項を修得する。	臨床薬剤学Ⅱ
E4 薬の生体内運命 薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらを応用する基本的技能を身につける。	
(1) 薬物の体内動態 吸収、分布、代謝、排泄の各過程および薬物動態学的相互作用に関する基本的事項を修得する。	薬物動態学Ⅰ 薬物動態学Ⅱ
(2) 薬物動態の解析 薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する。	臨床薬剤学Ⅰ
E5 製剤化のサイエンス 製剤化の意義と製剤の性質を理解するために、薬物と製剤材料の物性、製剤設計、および薬物送達システムに関する基本的事項を修得する。	
(1) 製剤の性質 薬物と製剤材料の物性に関する基本的事項を修得する。	製剤学Ⅰ

(2) 製剤設計 製剤の種類、製造、品質などに関する基本的事項を修得する。	製剤学 II
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム) 薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫した DDS に関する基本的事項を修得する。	製剤学 I 製剤学 II

F 薬学臨床

一般目標 (GIO)	開設する科目
患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。	
(1) 薬学臨床の基礎 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。	薬学入門 I (早期体験学習 I) 薬学入門 II (早期体験学習 II) 病態生理学 I 事前学習 I 病院・薬局実習
(2) 処方せんに基づく調剤 処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。	事前学習 II 病院・薬局実習
(3) 薬物療法の実践 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。	事前学習 II 病院・薬局実習
(4) チーム医療への参画 〔A 基本事項(4) 多職種連携協働とチーム医療〕参照 医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。	事前学習 I 事前学習 II 病院・薬局実習
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 〔B 薬学と社会(4) 地域における薬局と薬剤師〕参照 地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようにな	事前学習 I 事前学習 II 病院・薬局実習

<p>るために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。</p>	
---	--

G 薬学研究

一般目標 (G10)	開設する科目
<p>薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。</p>	
<p>(1) 薬学における研究の位置づけ 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。</p>	<p>特別実習 (入門) 特別実習 I 特別実習 II</p>
<p>(2) 研究に必要な法規範と倫理 自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。</p>	<p>特別実習 (入門) 特別実習 I 特別実習 II</p>
<p>(3) 研究の実践 研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。</p>	<p>特別実習 (入門) 特別実習 I 特別実習 II</p>